

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第100集

介良野遺跡

県道高知東インター線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2007.12

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

介良野遺跡

県道高知東インター線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2007.12

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

序

今回報告いたします介良野遺跡は、高知市介良に所在する遺跡です。介良の地名は古くから史料にみられ、豊かな自然環境のもと人々の生活の舞台となってきたことを窺い知ることができます。

発掘調査では、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭を中心とする遺構、遺物を検出することができました。当該期は高知平野では遺跡数が増加する時期にあたり、当遺跡もそのような状況のなか営まれたものと考えられます。今回の調査では竪穴住居跡が30棟弱見つかри、この周辺域の中では拠点的な役割を果たしたムラの跡と考えられます。

最後になりましたが、発掘調査に際しましては高知市介良地区の皆様をはじめ、高知県高知土木事務所、高知市教育委員会の埋蔵文化財保護に対する深いご理解とご協力に心から謝意を表するとともに、調査報告書作成においても関係各位の皆様に多大なご指導並びにご教示を頂いたことを厚くお礼申し上げます。この報告書により一人でも多くの方が地域の埋蔵文化財に対して興味・関心を持っていただければ幸いです。

平成19年12月

財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター
所長 汲田幸一

例 言

1. 本書は、県道高知東インター線道路改築工事に伴う介良野遺跡の発掘調査報告書である。
2. 介良野遺跡は高知市介良に所在する。
3. 調査は高知県高知土木事務所の委託を受け、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターが実施した。

4. 調査期間 (現地調査)

試掘確認調査 平成 17 年 8 月 5 日～平成 17 年 10 月 3 日

本調査 平成 18 年 4 月 17 日～平成 18 年 10 月 31 日

5. 調査面積

試掘確認調査 405 m²

本調査 3,657 m²

6. 調査体制

- (1) 調査担当

平成 17 年度 (試掘確認調査)

調査課長 森田尚宏

平成 18 年度 (本調査)

調査課長 廣田佳久

第一班長 山本哲也

主任調査員 坂本幸繁

主任調査員 久家隆芳

測量補助員 岩原明美

平成 19 年度 (整理作業)

調査課長 廣田佳久

第一班長 山本哲也

主任調査員 久家隆芳

- (2) 総務担当

平成 17 年度

次長兼総務課長 湯浅文彦

主任 池野かおり

主幹 長谷川明生

平成 18 年度

次長 森田尚宏

総務課長 戸梶友昭

主任 池野かおり

平成 19 年度

次 長	森田尚宏
総務課長	戸梶友昭
主 任	谷 真理子

7. 本書の執筆は第三章の遺構については坂本が、それ以外は久家が執筆した。遺物写真撮影・編集は久家が行った。
8. 現地調査及び本報告書を作成するにあたり、高知市介良地区の皆様、白石純氏（岡山理科大学）植地岳彦氏（財団法人徳島県埋蔵文化財センター）にご教示を賜った。記して感謝する次第である。
9. 発掘・整理作業員
 - (1) 発掘作業員
岡上富子、岡上 優、岡村隆治、岡村好子、加治正一、加治宣子、加治正敏、門田 勉、門田伸子、公文朱美、黒岩幸子、窪田泰詔、澤本昌明、島村雄二、竹村君子、田中 穰、田内裕子、徳久道子、富永百合子、西村多加、久竹 孝、福田修身、和田宣郎
 - (2) 整理作業員
松山真澄、井澤久未、五百蔵有加、岩原明美、大谷亜紀子、川崎英子、公文美和、佐藤浩美、中澤貴子、藤原ゆみ、西田由紀
10. 出土遺物については「05-13KIK」（試掘確認調査時出土遺物）、「06-3KIK」（本調査時出土遺物）と注記し、関連図面・写真等とともに高知県立埋蔵文化財センターで保管している。
11. 報告書抄録の緯度・経度は世界測地系で記してある。

凡 例

1. 遺物観察表の胎土については、最大粒径と含有量を明記した。
2. 遺構計測表の出土遺物については、実測図を掲載したもの以外で1 cm²以上の破片についてカウントした。

本文目次

第Ⅰ章	調査に至る経過と調査の方法	
第1節	調査に至る経過.....	1
第2節	試掘確認調査.....	1
第3節	調査の方法.....	3
第Ⅱ章	遺跡周辺の地理的・歴史的環境	
第1節	地理的環境.....	5
第2節	歴史的環境.....	5
第Ⅲ章	調査成果	
第1節	基本層序.....	9
第2節	検出遺構と出土遺物.....	12
第Ⅳ章	まとめ	
第1節	概要.....	133
第2節	弥生時代前期.....	133
第3節	弥生時代後期～古墳時代前期初頭.....	133
第4節	古墳時代中期.....	134
付編		
	1. 介良野遺跡の自然科学分析.....	163
	2. 介良野遺跡出土土器の胎土分析.....	195

挿図目次

第1図	試掘トレンチ位置図.....	2
第2図	試掘調査出土遺物実測図.....	3
第3図	調査区位置図.....	4
第4図	介良野遺跡位置図.....	5
第5図	介良野遺跡周辺の遺跡地図.....	6
第6図	I区基本層序.....	9
第7図	II区基本層序.....	10
第8図	III区基本層序.....	11
第9図	IV・V区基本層序.....	13・14
第10図	遺構配置図.....	17・18
第11図	ST1平面図・セクション図.....	19
第12図	ST1出土遺物実測図1.....	20
第13図	ST1出土遺物実測図2.....	21
第14図	ST1出土遺物実測図3.....	22
第15図	ST1出土遺物実測図4.....	23
第16図	ST2平面図・セクション図.....	24
第17図	ST2出土遺物実測図1.....	27
第18図	ST2出土遺物実測図2.....	28
第19図	ST3・11平面図・セクション図.....	29
第20図	ST3平面図.....	30
第21図	ST3出土遺物実測図1.....	31
第22図	ST3出土遺物実測図2.....	33
第23図	ST3出土遺物実測図3.....	34
第24図	ST3・11遺物出土状況図・遺物実測図1.....	35
第25図	ST3・11遺物実測図2.....	36

第26図	ST4平面図・セクション図	37
第27図	ST5平面図・セクション図	39
第28図	ST5出土遺物実測図	40
第29図	ST6平面図・セクション図	42
第30図	ST6出土遺物実測図	43
第31図	ST7平面図・セクション図・出土遺物実測図	44
第32図	ST8平面図・セクション図・出土遺物実測図	45
第33図	ST9平面図・セクション図・出土遺物実測図	46
第34図	ST10平面図・セクション図	47
第35図	ST10出土遺物実測図	49
第36図	ST11平面図・出土遺物実測図	50
第37図	ST12・14・17平面図・セクション図	52
第38図	ST12平面図	53
第39図	ST12出土遺物実測図1	54
第40図	ST12出土遺物実測図2	55
第41図	ST13平面図・セクション図	57
第42図	ST13出土遺物実測図1	58
第43図	ST13出土遺物実測図2	59
第44図	ST14平面図	60
第45図	ST14出土遺物実測図	61
第46図	ST15平面図・セクション図	63
第47図	ST15出土遺物実測図	64
第48図	ST16平面図・セクション図	65
第49図	ST16出土遺物実測図1	66
第50図	ST16出土遺物実測図2	67
第51図	ST16出土遺物実測図3	68
第52図	ST17平面図	69
第53図	ST18平面図・セクション図・出土遺物実測図	71
第54図	ST19平面図・セクション図	72
第55図	ST19出土遺物実測図	73
第56図	ST20平面図・セクション図・出土遺物実測図	74
第57図	ST21平面図・エレベーション図・出土遺物実測図	75
第58図	ST22平面図・エレベーション図・出土遺物実測図	76
第59図	ST23平面図・セクション図	77
第60図	ST23出土遺物実測図1	79
第61図	ST23出土遺物実測図2	80
第62図	ST24平面図・セクション図	81
第63図	ST24出土遺物実測図	82
第64図	ST25平面図・セクション図・出土遺物実測図	83
第65図	ST26平面図・セクション図・出土遺物実測図1	84
第66図	ST26出土遺物実測図2	86
第67図	ST26出土遺物実測図3	87
第68図	SK74平面図・セクション図	88
第69図	SK74出土遺物実測図	89
第70図	SK75平面図・エレベーション図	91
第71図	SK75出土遺物実測図1	92

第72図	SK75出土遺物実測図2	93
第73図	SK1・2平面図・セクション図・遺物出土状況図・遺物実測図	94
第74図	SK4・5平面図・セクション図・遺物出土状況図・遺物実測図	96
第75図	SK6～10平面図・セクション図・出土遺物実測図	97
第76図	SK11・13～16・18・28・30・32平面図・セクション図	100
第77図	SK11実測図	101
第78図	SK36平面図・セクション図・出土遺物実測図	102
第79図	SK37平面図・セクション図	104
第80図	SK37遺物出土状況図	105
第81図	SK37出土遺物実測図1	107
第82図	SK37出土遺物実測図2	108
第83図	SK37出土遺物実測図3	109
第84図	SK37出土遺物実測図4	110
第85図	SK38～41平面図・セクション図	112
第86図	SK39出土遺物実測図	113
第87図	SK46平面図・セクション図・出土遺物実測図1	114
第88図	SK46出土遺物実測図2	115
第89図	SK47平面図・セクション図・出土遺物実測図	117
第90図	SK49平面図・セクション図・出土遺物実測図・遺物実測図	118
第91図	SK48・55・56・77平面図・セクション図	119
第92図	SK72平面図・セクション図・出土遺物実測図	120
第93図	SK62・64・78・86平面図・セクション図・出土遺物実測図	121
第94図	SD1・2・20・35・47平面図・セクション図・出土遺物実測図	123
第95図	SD13・14・24・27平面図・セクション図・出土遺物実測図	124
第96図	SD16・18出土遺物実測図	125
第97図	SD49平面図・セクション図・出土遺物実測図	126
第98図	SD49出土遺物実測図1	127
第99図	SD49出土遺物実測図2	128
第100図	SD49出土遺物実測図3	129
第101図	SD49出土遺物実測図4	130
第102図	SD52出土遺物実測図	130
第103図	V区出土遺物実測図	131
第104図	攪乱出土遺物実測図	131
付編1		
図1	調査地点位置図	164
図2	介良野遺跡周辺の地形	165
図3	分析試料採取層準位置図	166
図4	V区のV-4地点の花粉化石群集の層位分布	170
図5	V区のV-4地点の植物珪酸体含量の層位分布	172
図6	Ⅲ区の深掘トレンチ柱状断面図	176
図7	V区の深掘トレンチ柱状断面図	179
図8	Ⅲ区およびV区の層序対比図	184
図9	介良野遺跡周辺の地形分類図	185
付編2		
第1図	介良野・ミトロ遺跡出土のヒビノキ式土器の比較(K ₂ O-Ca散布図)	198
第2図	介良野・ミトロ遺跡出土のヒビノキ式土器の比較(K ₂ O-TiO ₂ 散布図)	198

第3図	各遺跡出土土器の比較(K ₂ O-Ca散布図)	199
第4図	各遺跡出土土器の比較(K ₂ O-TiO ₂ 散布図)	199
第5図	ヒビノキ式土器の実体顕微鏡写真(介良野遺跡、ミトロ遺跡、芝遺跡).....	200

表目次

第1表	遺構計測表(ST/SK/SD)	135
第2表	遺物観察表(土器・土製品/石器/木製品/金属製品).....	145
付編1		
表1	放射性炭素年代測定結果.....	168
表2	暦年較正結果.....	168
表3	V区のV-4地点の花粉分析結果.....	169
表4	V区のV-4地点の植物珪酸体含量.....	172
表5	微細植物片分析結果.....	173
表6	樹種同定結果.....	174

写真図版目次

図版1	空中写真(北西方向から)
図版2	空中写真(IV区東方向から)
図版3	空中写真(V区西方向から)
図版4	空中写真(北東方向から/I区西方向から)
図版5	空中写真(II区南方向から/IV区)
図版6	調査前(I~III区)
図版7	調査前(IV・V区)
図版8	I区北東部完掘状況/I区南西部深掘トレンチ
図版9	I区ST1完掘状況/I区ST5完掘状況
図版10	I区ST3-11遺物出土状況/I区ST3完掘状況
図版11	I区ST7セクション東壁
図版12	I区ST1遺物出土状況/I区ST1中央P遺物出土状況/I区ST1床直遺物出土状況炭化物/ I区ST1床直遺物・炭化物出土状況/I区ST2東西セクション東半/I区ST10遺物出土状況/ I区ST3-11南北セクション南半
図版13	I区ST6遺物出土状況/I区ST6床直遺物出土状況/I区ST11ベッド床直上遺物出土状況/ I区SK11セクション/I区SK5遺物出土状況/I区SK5セクション/I区SD13遺物出土状況/ I区SD14セクション
図版14	II区完掘状況
図版15	II区完掘状況
図版16	I・II区SD2完掘状況/II区ST15完掘状況
図版17	II区SK37遺物出土状況
図版18	ST16完掘状況/II区南壁深掘トレンチ/II区ST12・14・17完掘状況/II区ST12南東部遺物出土状況/ II区ST12北東部遺物出土状況/II区ST12東西セクション東半/II区ST12南北セクション/ II区ST14南東部遺物出土状況
図版19	II区ST17床直遺物出土状況/II区ST17-SK1床直遺物出土状況/II区ST13南東部小丸出土状況/ II区ST13北東部焼石出土状況/II区ST13北西部遺物出土状況/II区ST13南北セクション南半 /II区ST13完掘状況/II区SK47遺物出土状況
図版20	II区SK37南北セクション南遺物出土状況/II区SK37南北セクション南半遺物出土状況/ II区SK37東西セクション東半遺物出土状況/II区SK37南北セクション南半/ II区SK46床直遺物出土状況/II区SK46セクション/II区SD20完掘状況/II区SD27セクション

- 図版 21 Ⅲ E 区SK75 炭化物出土状況 / Ⅲ M 区東壁
- 図版 22 Ⅲ W 区ST19 完掘状況 / Ⅲ W 区ST20 完掘状況
- 図版 23 Ⅲ N 区完掘状況 / Ⅲ W 区ST18 南北セクション北半 / Ⅲ W 区ST18-SP1 セクション /
Ⅲ W 区ST18 完掘状況 / Ⅲ W 区ST19 内中央P セクション / Ⅲ W 区ST19 朱付き石出土状況 /
Ⅲ W 区ST20 南北セクション南半 / Ⅲ E 区ST22 遺物出土状況
- 図版 24 Ⅲ E 区SK74 東西セクション / Ⅲ E 区SK74 完掘状況 / Ⅲ E 区SK74 南半遺物出土状況 /
Ⅲ E 区SK74 遺物出土状況 / Ⅲ E 区SK74 内中央P セクション / Ⅲ W 区SK72 遺物出土状況 /
Ⅲ E 区SK75 完掘状況 / Ⅲ W 区SK77・SD39 セクション
- 図版 25 V 区西壁 / IV 区南東完掘状況
- 図版 26 IV 区西完掘状況 / IV 区ST23・24 完掘状況
- 図版 27 IV 区ST25・26 完掘状況 / IV 区ST23 東西セクション西半遺物出土状況
- 図版 28 IV 区SD49 遺物出土状況
- 図版 29 調査風景 / IV 区西壁深掘
- 図版 30 IV 区ST23 北西部ベッド内鉄製品出土状況 / IV 区ST23 南東部遺物出土状況 / IV 区ST23 遺物出土状況 /
IV 区ST23 東西セクション東半 / IV 区ST26 遺物出土状況 / IV 区ST26 床直遺物出土状況 /
IV 区ST26 内SK1 遺物出土状況
- 図版 31 IV 区ST25 南北セクション / IV 区SD47 セクション / IV 区SD49 サブトレ底遺物出土状況 /
IV 区SD49 磨製石鏃出土状況 / IV 区SD52 近辺完掘状況 / IV 区SD52 遺物出土状況 / IV 区西壁深掘
- 図版 32 出土遺物 (2・8・16・45・47)
- 図版 33 出土遺物 (46・48・61・64・65)
- 図版 34 出土遺物 (66・78・99・100・102)
- 図版 35 出土遺物 (108・116・147)
- 図版 36 出土遺物 (103・136・157・161・162)
- 図版 37 出土遺物 (179・180・182・186)
- 図版 38 出土遺物 (187・197・198・202・207・213)
- 図版 39 出土遺物 (218・219・221・222・223・226)
- 図版 40 出土遺物 (236・239・240・242・249)
- 図版 41 出土遺物 (253・257・261・262・263・264)
- 図版 42 出土遺物 (265・266・275・276・281)
- 図版 43 出土遺物 (283・284・290・291)
- 図版 44 出土遺物 (294・300・301・302・305)
- 図版 45 出土遺物 (306・310・311・312・313・320)
- 図版 46 出土遺物 (338・339・341・343・344・346)
- 図版 47 出土遺物 (348・349・355・359・365)
- 図版 48 出土遺物 (366・369・370・371・373・375)
- 図版 49 出土遺物 (376・377・378・380・朱付き土器)
- 図版 50 出土遺物 (5・13・14・44・77・94・104・106)
- 図版 51 出土遺物 (105・107・112・115・131・142・156)
- 図版 52 出土遺物 (159・160・168・177・178・204・208)
- 図版 53 出土遺物 (210・212・215・225・250・274)
- 図版 54 出土遺物 (280・282・289・296・309・319・318・336)
- 図版 55 出土遺物 (340・342・345・356・379・388・389)
- 図版 56 出土遺物 (9・19・20・23・27・28・53・81・82・84)
- 図版 57 出土遺物 (85・87・88・90・93・110・113・120・127・128)
- 図版 58 出土遺物 (140・143・144・145・151・152・153・154・155・172)
- 図版 59 出土遺物 (173・174・184・188・189・190・193・195・196・205)

- 図版60 出土遺物(216・220・233・243・246・248・258・268・269・270)
- 図版61 出土遺物(272・278・285・286・287・293・295・297・298・317)
- 図版62 出土遺物(326・327・337・347・350・351・352・353・360・361)
- 図版63 出土遺物(146・191・192・230/362・363)
- 図版64 出土遺物(367・368・372・374/381・382・383・384・385・386・387)
- 付編1
- 図版1 Ⅲ区深掘断面堆積状況/Ⅲ区Ⅲ-1地点の礫層堆積状況/Ⅲ区Ⅲ-5の礫層堆積状況/
Ⅲ区Ⅲ-2～3地点の堆積状況
- 図版2 Ⅲ区Ⅲ-1地点のレンズ状の砂礫層の堆積状況/Ⅲ区Ⅲ-1地点のレンズ状の砂礫層の覆瓦構造/
Ⅲ区Ⅲ-1地点の堆積ユニット1堆積状況/Ⅲ区の堆積ユニット1堆積状況/
Ⅴ区が位置する流路状の低地/Ⅴ区が位置する流路状の低地の段差
- 図版3 Ⅴ区の堆積状況/Ⅴ区Ⅴ-3地点の堆積状況/Ⅴ区Ⅴ-1地点の堆積状況/
Ⅴ区Ⅴ-4地点の堆積ユニット3最下部の泥炭質泥とその上部の腐植質泥の堆積状況/
Ⅴ区Ⅴ-4地点の堆積ユニット3の堆積状況/Ⅴ区Ⅴ-4地点の堆積ユニット2の堆積状況

第 I 章 調査に至る経過と調査の方法

第 1 節 調査に至る経過

国道 55 号線は高知県中央部と東部とを結ぶ重要な路線であり、只一の幹線道路である。県道高知東インター線は高知東部自動車道(高知南国道路)の高知東インターチェンジへのアクセス道路である。広域的には「四国 8 の字ネットワーク」計画の一部を形成することになり、より充実した広域交通ネットワークが形成される。このような交通網の整備は高知県東部域の産業・経済・文化の発展にとっては不可欠である。後免奈半利線とともに高知県の東西を結ぶ交流軸としての役割を果たすとともに周辺住民に安心感を与え、活力を生み、魅力を備えた地域を形づくる礎となるだろう。

今回、県道高知東インター線が計画されている地域には介良野遺跡の一部が含まれており、高知県教育委員会では文化財保護の立場から高知土木事務所と協議を重ねてきた。計画地が遺跡範囲内及び遺跡に近接する場合には、記録保存のための調査あるいは埋蔵文化財の有無を確認する試掘確認調査が必要であることを訴え、埋蔵文化財に対する理解と協力を求めてきており、まず予定地内における遺構・遺物の分布範囲及びその密度を確認するために、試掘確認調査を実施することとなった。その結果をもとに協議を行い、遺構・遺物が確認された範囲について記録保存を目的とした本格的な発掘調査を行うことになった。

第 2 節 試掘確認調査

介良野遺跡を含む調査対象地に 4 × 4m を基本とするテストピットを 29 ヶ所設定して調査を実施した。掘削には重機と人力を併用し、遺構及び遺物の有無、その分布範囲、深度を確認し、写真及び図面を作成して記録を行った。また、調査終了後は埋め戻しを行った。

調査の結果、遺構・遺物が確認されたのは TP1～18 であり、竪穴住居跡、溝跡、土坑等が検出されている。遺物は弥生時代後期後半～終末の土器を中心に出土している。TP17・18からは須恵器・土師器が出土している。遺構・遺物が確認されなかった TP19～29 は伊達野川より南に位置している。TP19～24 は、耕作土下に地山である黄色系のシルト層、砂礫層が堆積している。TP25～29 では、耕作土下に層厚 10cm 程の黒色土、その下には茶褐色～黄色シルト、砂礫層が堆積している。

TP1～3 は本調査の I 区に、TP4～7 は II 区に、TP8～13 は III 区に、TP14～16 は IV 区に、TP17・18 は V 区にそれぞれ含まれる。

試掘確認調査で出土した遺物のうち、8 点の遺物を図示した。1・2 は弥生土器の甕、3～5 は弥生土器の鉢、6・7 は土師質土器、8 は勾玉である。5 はほぼ完形に復原できる。丸底で半球形の体部を持ち、口唇部にはルーズな面取りを施す。6 は鍋であり、口縁部をやや肥厚させる。口縁部からやや下がった位置に退化した鏝が付く。7 は杯の底部であり、内面にはロクロナデの痕跡、外面には糸切り痕跡が認められる。8 は滑石製である。扁平であり、頭部に穿孔がある。両面に三日月形の線刻がある。本調査との対応は、1・2・5 は ST22 からの出土であり、3・4 は ST20 か ST21 からの出土と考えられる。6・7 が出土した周辺からは中世に時期比定できる遺構は検出していない。他の地点からも中世の遺構は確認されなかった。

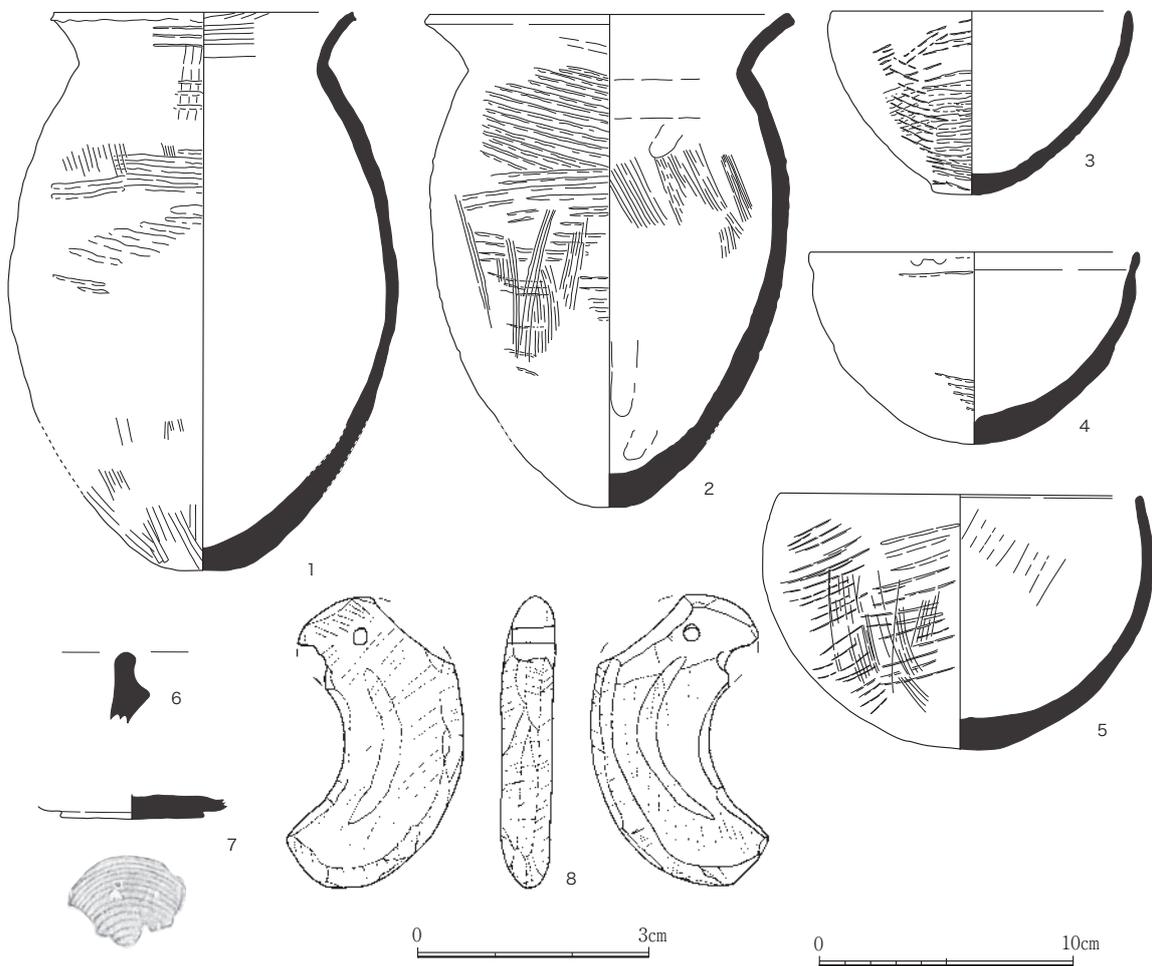


■ 本調査対象範囲

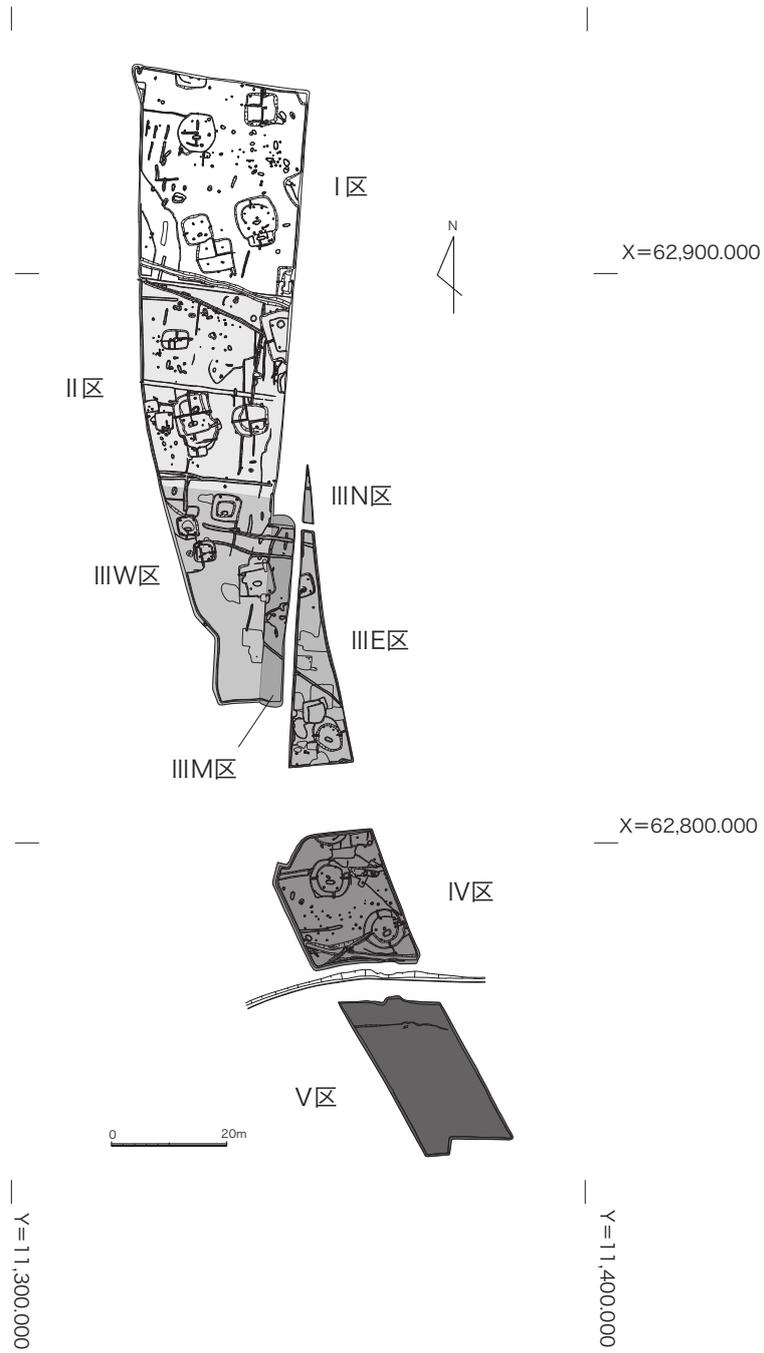
第1図 試掘調査トレンチ位置図

第3節 調査の方法

現地調査は平成18年4月18日～平成18年10月31日まで行った。調査地を便宜上、北側からI～V区にわけ調査を実施した。Ⅲ区は生活道等を考慮に入れ4分割した。試掘確認調査結果をもとに無遺物層を重機で掘削し、遺物包含層は人力により掘削した。遺構検出、遺構掘削は人力で行った。世界測地系に基づく公共座標により4mメッシュを設定して、遺物を取り上げ、検出遺構を実測した。東西方向はアルファベットで、南北方向はアラビア数字を用いて表した。このグリッドにより包含層、遺構内出土遺物を取り上げた。また、遺構内の遺物については遺構の状況等を考慮に入れて層位を併記して取り上げた。必要に応じて写真撮影、遺物出土状況図、断面図等の記録類を作成した。調査終了後、ラジコンヘリにより空中写真を撮影し、あわせて図化作業を行った。



第2図 試掘調査出土遺物実測図



第3図 調査区位置図

第Ⅱ章 遺跡周辺の地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

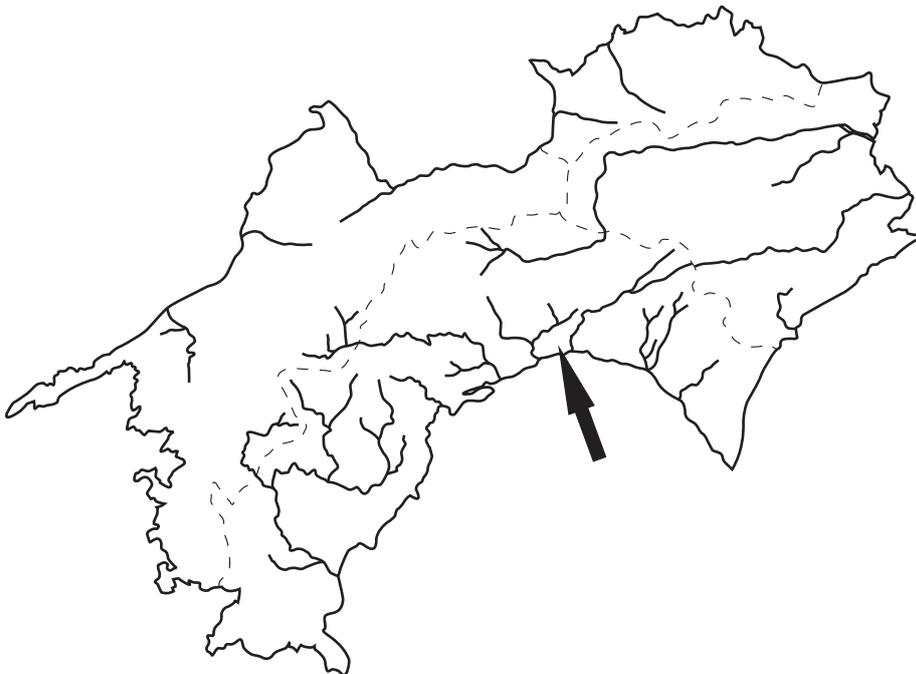
高知市は高知県のほぼ中央に位置しており、面積264.28km、県下最大規模の人口約326,000人の規模を有し、行政・経済の中心地である。介良野遺跡の所在する介良は高知市の西端部に位置し、昭和47年に高知市と合併した。農村地域であったが、近年大規模な宅地開発が行われ、高知市のベッドタウンとなっており急速に都市化が進んでいる。

地形的に見れば、高知市は北部と南部には山地及び丘陵があり、中央部には低地がひろがっている。また、南には浦戸湾、太平洋がひろがっている。介良は中央低地にあたり、南には鉢伏山、北には高天ヶ原山、東には吾岡山等の丘陵があり、それらの間を北東(東)から南西(西)に河川が流れ、浦戸湾に注いでいる。これらの河川による沖積作用により、生活面が形成されたと考えられる。浦戸湾は深く入り込み、西部は干潟状を呈していたと推定される。当遺跡の地形発達については、付編1に詳しい。介良野のように「野」が付く地名が周辺に散見され、同様の地形を呈していたものと考えられる。

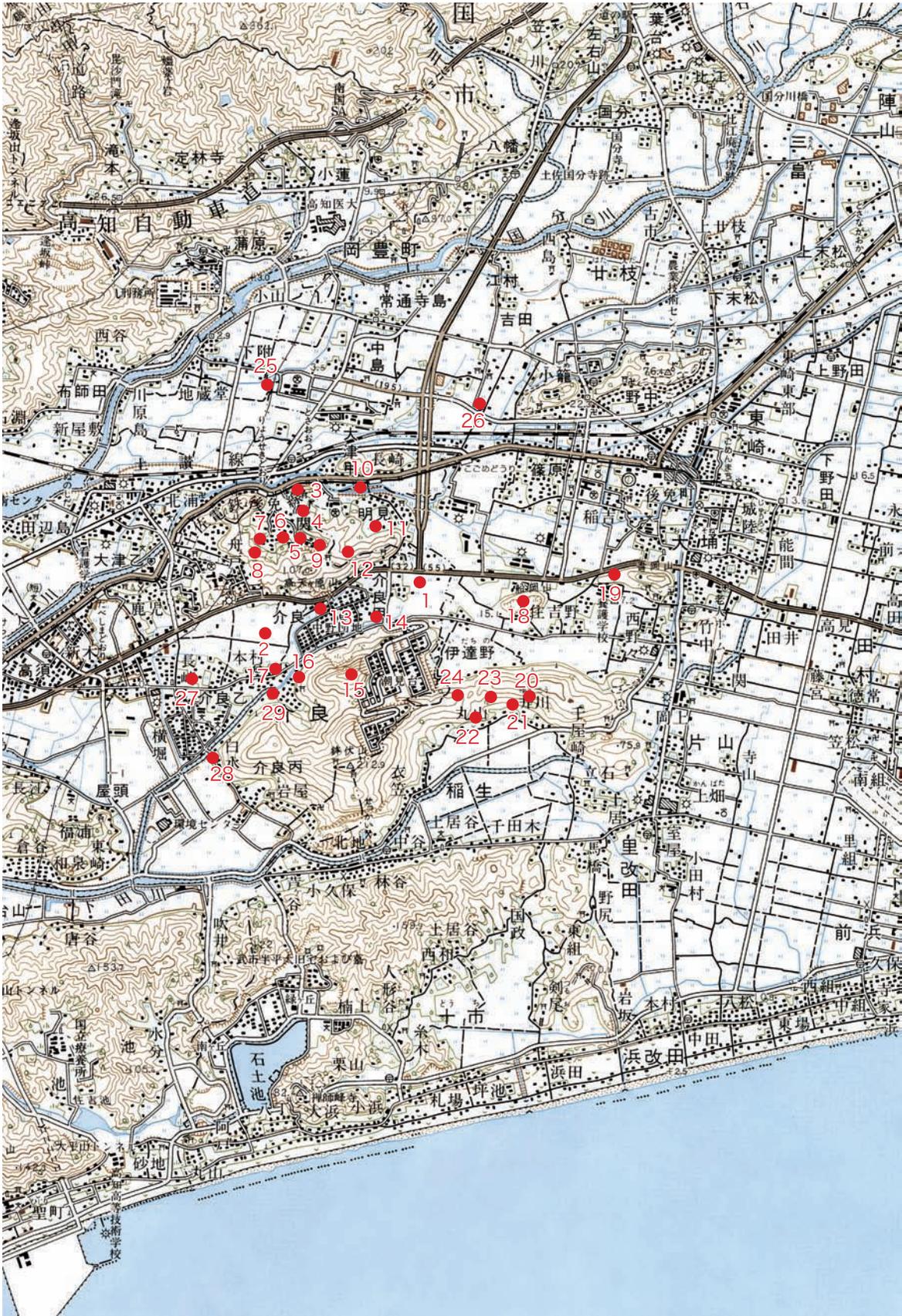
第2節 歴史的環境

(1) 旧石器時代・縄文時代

高天ヶ原1号墳の石室内から細石核が出土している。城山宮ノ谷からは縄文時代のものである可能性が高い打製石斧が発見されている。



第4図 介良野遺跡位置図



第5図 介良野遺跡周辺の遺跡地図

No.	遺跡名	種別	時代	No.	遺跡名	種別	時代	No.	遺跡名	種別	時代
1	介良野遺跡	散布地	古代～中世	11	明見彦山古墳群	古墳	古墳	21	馬背古墳	古墳	古墳
2	介良遺跡	散布地	弥生～中世	12	狸岩古墳群	古墳	古墳	22	丸山古墳	古墳	古墳
3	大津遺跡	城館跡	中世	13	若宮窯跡	窯跡	古代	23	馬背古墳群	古墳	古墳
4	大津金子遺跡	散布地	古代	14	介良中野遺跡	散布地	弥生～中世	24	坂ノ松古墳	古墳	古墳
5	高間原弥生遺跡	散布地	弥生	15	介良城跡	城館跡	中世	25	ミトロ遺跡	散布地	弥生
6	小奈路古墳	古墳	古墳	16	朝峯神社前遺跡	散布地	古墳	26	小籠遺跡	散布地	弥生～近世
7	六郎山古墳	古墳	古墳	17	朝峯橋北西遺跡	散布地	古代	27	介良下組遺跡	散布地	古代～中世
8	高間原古墳群	古墳	古墳	18	住吉山古墳群	古墳	古墳	28	介良白水遺跡	散布地	古代～中世
9	三塚古墳群	古墳	古墳	19	吾岡山古墳	古墳	古墳	29	花熊城跡・西養寺跡・ 宮の谷遺跡	城館跡・社 寺跡・散布地	中世・古代
10	竹ノ後遺跡	散布地	弥生・古墳	20	井川山古墳群	古墳	古墳				

(2) 弥生時代

高天ヶ原小奈路から弥生中期中葉の竪穴住居跡が検出され、土器・石斧・石包丁・石鏃が出土している。介良遺跡からは断続的ではあるが前期前葉～後期末までの遺物が出土しており、存続期間の長い遺跡の一つである。流路堆積からの出土であるためと考えられ、周辺に多くの集落跡の存在を示唆している。土器類をはじめ、木製品、内行花文鏡片が報告されている。木製品の出土は豊富である。

(3) 古墳時代

周辺の丘陵を中心に、本村古墳・茶園山古墳・高間原古墳群・宮ノ谷古墳・明見古墳群・狸岩古墳群・船岡山古墳群等の後期古墳が数多く築造されている。これらのなかでも、明見彦山1号墳は土佐三大古墳の一つに数えられており、当地域一帯を代表する地域首長の墳墓として位置づけされている。一方、これらの古墳に対応する集落については明らかとはなっていないものの、介良遺跡からは古墳時代後期の遺物が報告されており近隣に集落跡が展開するものと推定される。

(4) 古代・中世

『和名類聚抄』には長岡郡九郷の一つとして氣良の名前がみえ、式内社である朝峯神社が介良山の西麓に鎮座している。古代においてはこの朝峯神社を中心に集落が展開していたようであるが、実態については不明瞭な点が多い。

1159年の平治の乱で源義朝は敗れ、源希義が源氏とのつながりのある土佐国介良荘に流されている。その後、源頼朝の挙兵に呼応し、治承4年(1180年)に希義は挙兵するが、平家方の蓮池権守家綱と平田太郎俊遠に長岡郡年越山で倒される。希義の師である琳猷上人により葬られ、このことにより琳猷上人は土地の寄進を受け、後の西養寺を建てた。

また、先の朝峯神社には15世紀後半の常滑焼の甕が保管されており、雨乞いの儀式に使用された話が伝わっている。

参考引用文献

『高知県の地名』1983 平凡社

『角川日本地名大辞典39高知県』1986 角川書店

『高知県の歴史』2001 山川出版社

岡本健児「介良の考古学」『介良』1989 高知市文化財調査報告書第9集

前田和男「史料にみえる介良」『介良』1989 高知市文化財調査報告書第9集

『介良遺跡』1997 高知県文化財団埋蔵文化財センター

『介良遺跡Ⅱ』1998 高知市教育委員会

『介良遺跡Ⅲ』1999 高知市教育委員会

『南国市における大型後期古墳の調査』2006 高知大学人文学部考古学研究室

第Ⅲ章 調査成果

第1節 基本層序

I・Ⅲ～V区では西壁、Ⅱ区は南壁で基本層序を観察した。

I区

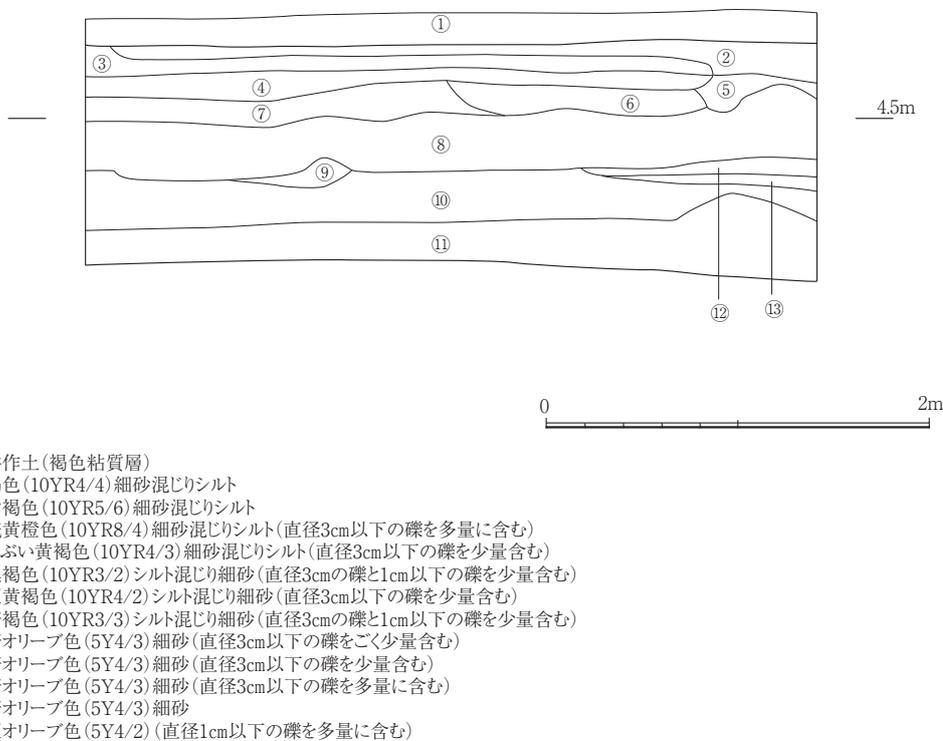
①層耕作土を掘削すると遺構を検出することができ、遺構検出面は②層上面であり部分的に③層上面である。②・③層は細砂混じりシルトであり、以下⑧層までは同様の状況を呈する。さらに下層は直径3cm大以下の礫を含む砂層であり、一部に砂礫層を挟む。この断面以外にも、ST7～9の断面図作成時に下層まで確認したが、それらでも概ね同じであった。

Ⅱ区

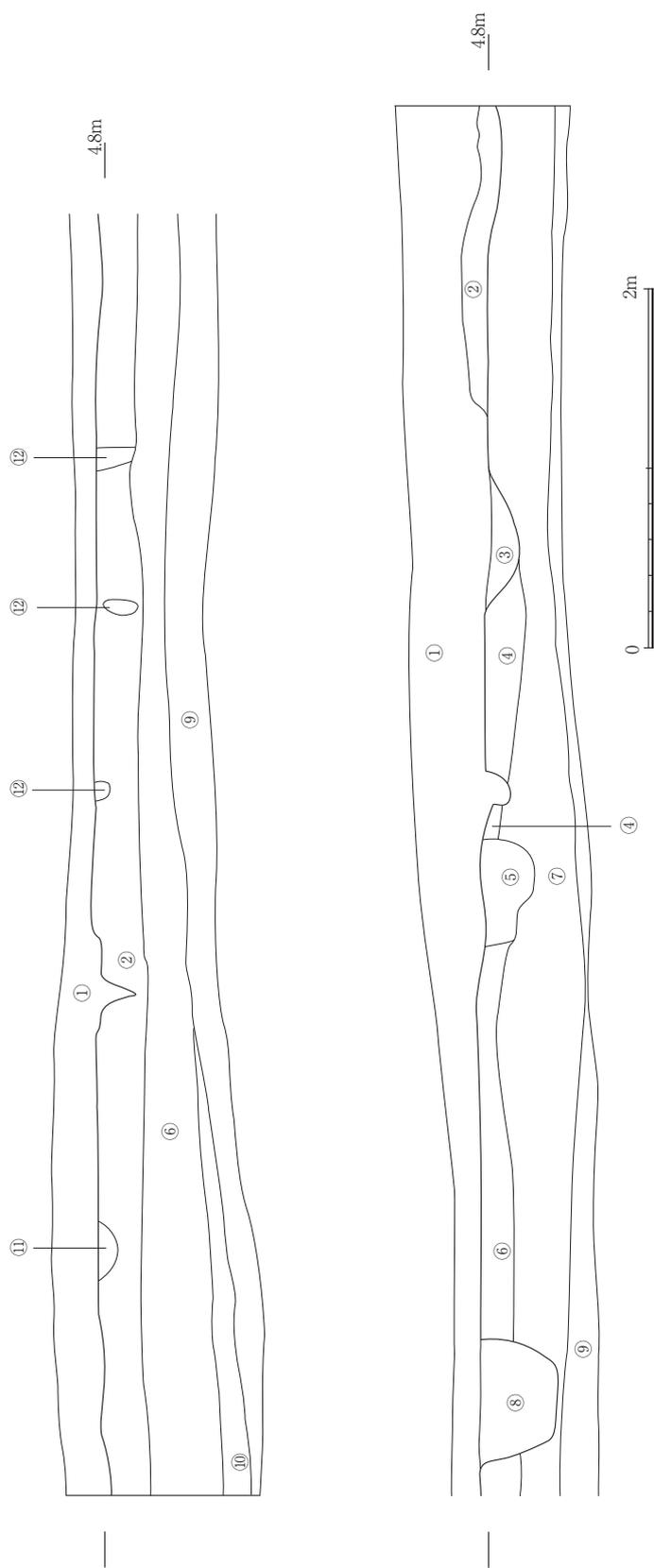
①層は耕作土であり、この層を除去すると遺構検出面(④・⑥・⑦層上面)である。西端部付近には④・⑥層は存在せず、⑦層上面が遺構検出面となる。④層は暗灰黄色の中砂～細砂、⑥層は灰黄色のシルト、⑦層はにぶい黄色の細砂～中砂、⑨層はオリーブ黄色の細砂混じりシルトの順で概ね堆積しており、東部では⑦層と⑨層の間に砂礫層(⑩層)が存在する。

Ⅲ区

①層の耕作土は盛土によるため周囲よりも現地表面の標高は高かった。②～④層は黒色系を呈する層であり、調査区を北西から南東方向に帯状に分布が認められた。限定された場所から遺物

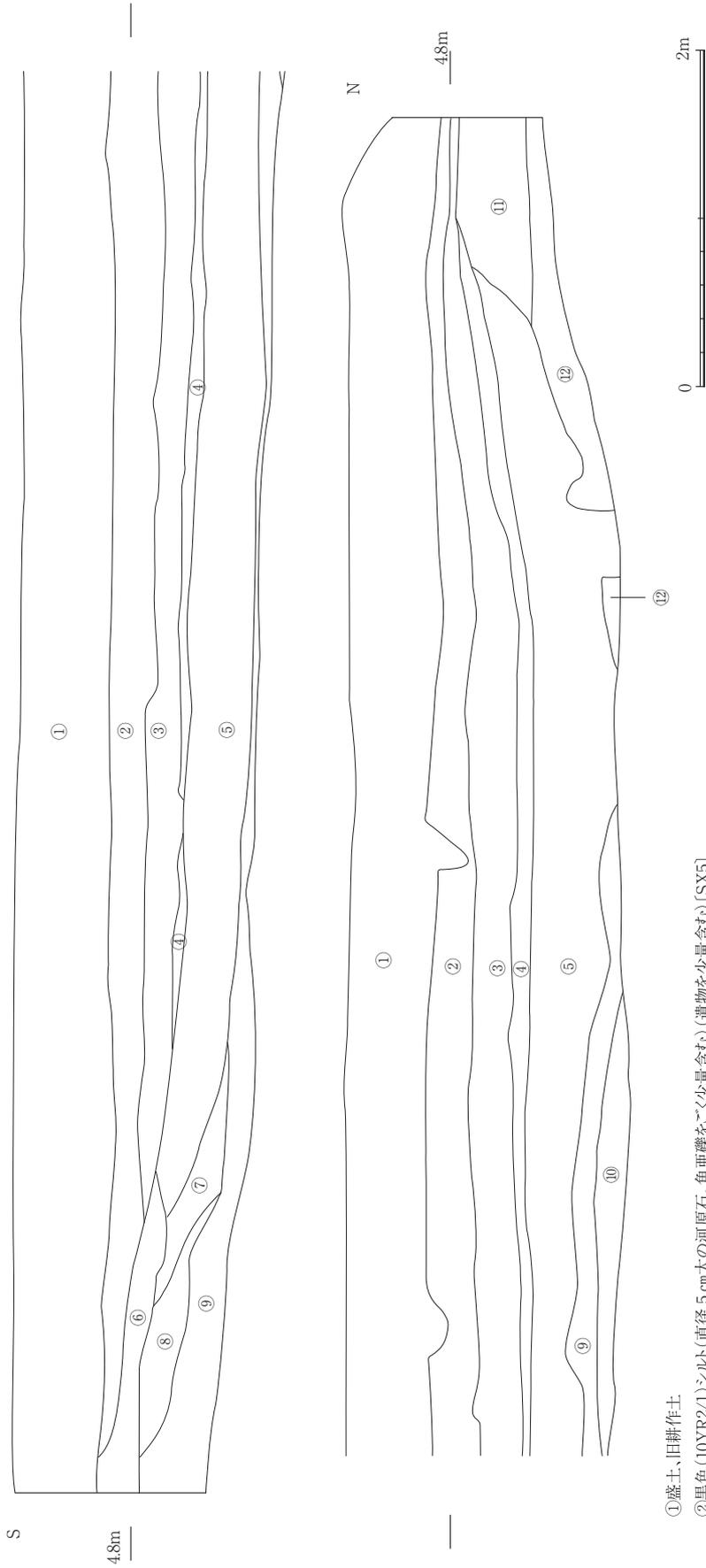


第6図 I区基本層序



- ①表土
- ②黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト〔遺物含む〕〔包含層か、遺構埋土か〕
- ③黒褐色 (10YR3/1)シルト混じり細砂〔SD埋土〕
- ④暗灰黄色 (2.5Y5/2~3) 中～細砂〔ベース〕
- ⑤褐灰色 (10YR4/1) 細砂混じりシルト〔SD埋土〕
- ⑥灰黄色 (2.5Y7/4~6)シルト〔ベース〕
- ⑦こぶい黄色 (2.5Y6/4) 細～中砂〔ベース〕
- ⑧黄褐色 (2.5Y5/3) 細～中砂混じりシルト〔遺構埋土〕
- ⑨オリーブ黄色 (5Y6/3) 細砂混じりシルト〔ベース〕
- ⑩灰色 (5Y5/1) 細～中砂～砂礫層〔ベース〕
- ⑪黄灰色 (2.5Y4/1) 細砂混じりシルト⑥がブロック状に入る〔遺構埋土か〕
- ⑫植物根

第7図 II区基本層序



第8図 Ⅲ区基本層序

が出土しており、遺構の存在を想定しながら精査したが明確な遺構の検出は難しくSX5として掘削した。その結果、下層の浅黄色シルト層上面で竪穴住居跡等の遺構を検出した。また、この黒色土帯より南は、①層を除去すると砂層～砂礫層(⑥・⑨層)が分布しており、遺構はこの砂層～砂礫層上面で検出できる。したがって、Ⅲ区内において砂礫層上面の標高が南にいくにつれ急に高くなる。

Ⅳ区

①層の耕作土を除去すると遺構を検出することができる(②・⑥層上面)。②層はオリーブ褐色の細砂混じりシルトであり、層厚は薄く調査区の北端付近には存在しない。⑥層は黄褐色細砂混じりシルトであり、調査区全域で認められ調査区北端付近では遺構検出面となっている。⑦層は黒褐色細砂層で上面の標高は北から南にいくにしたがい低くなっている。

Ⅴ区

I～Ⅳ区と大きく様相が異なる。現在の地形も相対的に低くⅣ区との比高差は約1m測る。①層は耕作土、②～④層は細砂混じりシルト、⑤・⑥層は粘土層、⑦層は細砂混じり粘土である。⑥層は南にいくにしたがい標高が下がる。

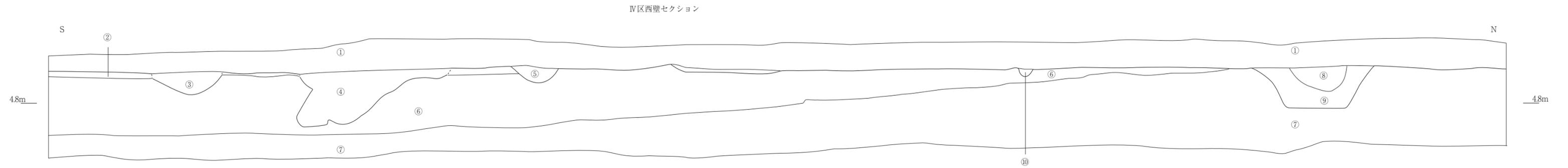
以上、I～Ⅳ区は河川の堆積物、氾濫物により形成された自然堤防上に遺構が構築されている。耕作土を掘削すれば遺構検出面であり、基本的には遺物包含層は存在しない。遺構検出面はI～Ⅲ区北半部では細砂混じりシルト層であり、Ⅲ区南半部及びⅣ区では細砂混じりシルト～砂礫層となる。このような遺構面を形成している土層、遺構の残存している深さが深いこと等から後世にあまり削平を受けていないものと推測される。なお、下層確認の状況等の詳細については付編1を参照。

第2節 検出遺構と出土遺物

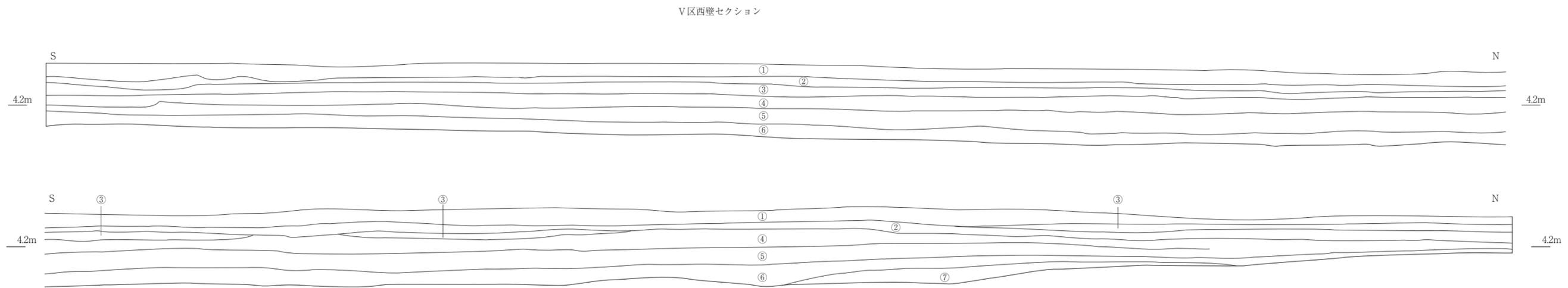
(1) 概要

竪穴住居跡28棟、土坑約80基、溝跡約50条、ピット約150基を検出した。遺構が検出されたI～Ⅳ区では、各遺構の残存状況がよく、あまり後世の削平はを受けていないものと判断できる。検出面はI～Ⅲ区北半部は黄褐色系の細砂混じりシルトである。Ⅲ区中央付近を北西方向から南東方向にかけて黒褐色土が幅約4～6mの帯状に認められた。この黒褐色土帯の南には褐色～黄褐色の細砂混じりシルト、さらに南には砂礫層が検出面となる。Ⅳ区では北端付近は黄褐色系の細砂混じりシルトであり、南は砂礫層がそれぞれ検出面である。以上のように微地形的には起伏が存在するが、居住域が営まれる弥生時代後期末～古墳時代初頭には、ほぼ平坦であったと推測される。各遺構の重複は一部を除いて少ない。Ⅱ区のST12・14・17では3～4棟の竪穴住居跡が重複していたことから、最大で4小期に区分されるが出土遺物から検出遺構を各小期に峻別することは難しい。

竪穴住居跡の平面プランは、円形、隅丸方形のものが多くを占め、多角形を呈する可能性があるものが若干存在する。円形プランの竪穴住居跡はⅢE区の南部からⅣ区にかけて検出されており、今回の調査範囲の南部に集中している。小形の竪穴住居跡(ST14・15)は構造が類似しており、工房的な性格を有していた可能性がある。



- | | |
|-----------------------------|--|
| ①耕作土 | ⑥黄褐色 (2.5Y5/6) 細砂混じりシルト |
| ②オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂混じりシルト | ⑦黒褐色 (2.5Y3/1) 細砂 (直径5cm程度の礫を多量に含む) |
| ③黄褐色 (2.5Y5/3) 細砂混じりシルト | ⑧黒褐色 (10YR3/2) 細砂混じりシルト (直径5cmの礫を多量に、土器片を少量含む) |
| ④暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂混じりシルト | ⑨にぶい黄褐色 (10YR4/3) 細砂混じりシルト (直径5cm以下の礫を少量含む) |
| ⑤黄褐色 (2.5Y4/4) 細砂混じりシルト | ⑩黄褐色 (2.5Y5/3) 細砂混じりシルト |



- | | |
|-------------------------|---------------------|
| ①耕作土 | ⑤黄灰色 (2.5Y6/1) 粘土 |
| ②灰色 (N5/0) 細砂混じりシルト | ⑥黄灰色 (2.5Y5/1) 粘土 |
| ③黄灰色 (2.5Y5/1) 細砂混じりシルト | ⑦暗灰色 (N3/0) 細砂混じり粘土 |
| ④黄灰色 (2.5Y4/1) 細砂混じりシルト | |

第9図 IV・V区基本層序

I区北東部では、同規模・同形態の土坑(SK2・5・6・8)を数基検出した。軸方向・遺物の出土状況が類似しており、これらの土坑には有機的な関連が窺える。II区では土器焼成に伴う残滓を廃棄していた土坑(SK37)を検出した。隣接して同形態・同規模の土坑跡を検出しており、両者の関連が想定できる。III W区では土器棺墓(SK72)を検出した。遺構密度が疎らな地区に該当している。

溝跡ではI区の南部からII区北部で検出したSD2は東西方向に直線的に掘削されており、両端とも調査区外へと伸びる。掘り方もしっかりしている。SD20はSD2の南に並走するが、規模はSD2よりも小さい。両溝跡は有機的な関連を有していたものと推測される。また、III区で検出されたSD38と39も並走するが規模は小さい。これらの溝の他にもST1・13を切るかたちで小溝が掘削されており居住域から生産域への変化が窺われる。小規模な溝跡は、基本的に南北方向に走っており、I～III区のほぼ全域で認められる。IV区では弥生時代前期の溝跡(SD52)が検出されている。東西方向に直線的に伸びる。また、IV区の南端部では古墳時代かと考えられる溝跡(SD47)が検出されている。

(2) 竪穴住居跡

ST 1

I区の北西部に位置し、SD1・SD3が切られる。長軸約6.8m、短軸約6.6mの多角形を呈する竪穴住居跡である。北辺、北西辺、北東辺は比較的直線的であり、それぞれは鈍角を成す。また、南東部には隅丸長方形の突出部を有するが、この住居跡に伴うものか判然としない。検出面からの深さは約0.5mを測る。中央ピットは住居跡のやや南寄りに位置する。弱い焼土と炭化物が認められた。長軸約90cm、短軸約70cmの長楕円形を呈し、深さは約24cmを測る。断面形は舟底状を呈す。中央ピットの北側にP2があり、埋土に炭化物を含むことから中央ピットと関連があるものと推測される。また、断面観察からベッド状遺構が巡る可能性もあるが平面的には判然としなかった。埋土は、①層：黒褐色細砂混じりシルト、②層：黒褐色細砂混じりシルト、③層：黄褐色細砂混じりシルトに大きく分けることができる。また、床面からピットが8基、溝跡が1条検出された。内、SP3～8が主柱穴と考えられ、長軸25～55cm、短軸25～60cm、深さ16～27cmの円形である。SD1は周溝の一部と考えられる。

遺物は、住居跡北東部で壁際から甕(13・15)と底部(41)が出土しており、検出面からの深さは約15cmである。床面直上遺物は11・17・23・27・30・31・35・39である。28・44は中央ピットからの出土である。

図示した出土遺物は、広口壺(9)、複合口縁壺(10・11)、小形甕(13～15)、中形甕(16・17)、大形甕(18)、中形鉢(19～28)、大形鉢(29・30)、紡錘車(43)、鉄鎌(44)、砥石(45・47・48)、擦り石(46)である。9は口唇部を上方にわずかに拡張させ、櫛描波状文を施す。10は二次口縁部を一次口縁部の上縁端に貼付け、成形する。口唇部は平坦面を成し、外面は無文である。ナデの痕跡がやや雑な印象を与える。11の口唇部は平坦面を成し、外面には鋭い工具により鋸歯文を施文する。10とは対照的に丁寧な作りである。13～15は小形甕であり、口縁部の外反度合いは弱い。外面は叩き調整、内面はナデあるいはハケ調整である。13の底部は丸底で器壁は厚い。外面下半の叩き目は右下がりの方向である。14の底部径は大きく安定感があるが、外底面は凹凸がある。15は「口縁叩き出し技法」で成形される。また、叩き目の方向は全体的に右下がりである。16の口縁部は「叩き出し技法」で成形される。上半部の

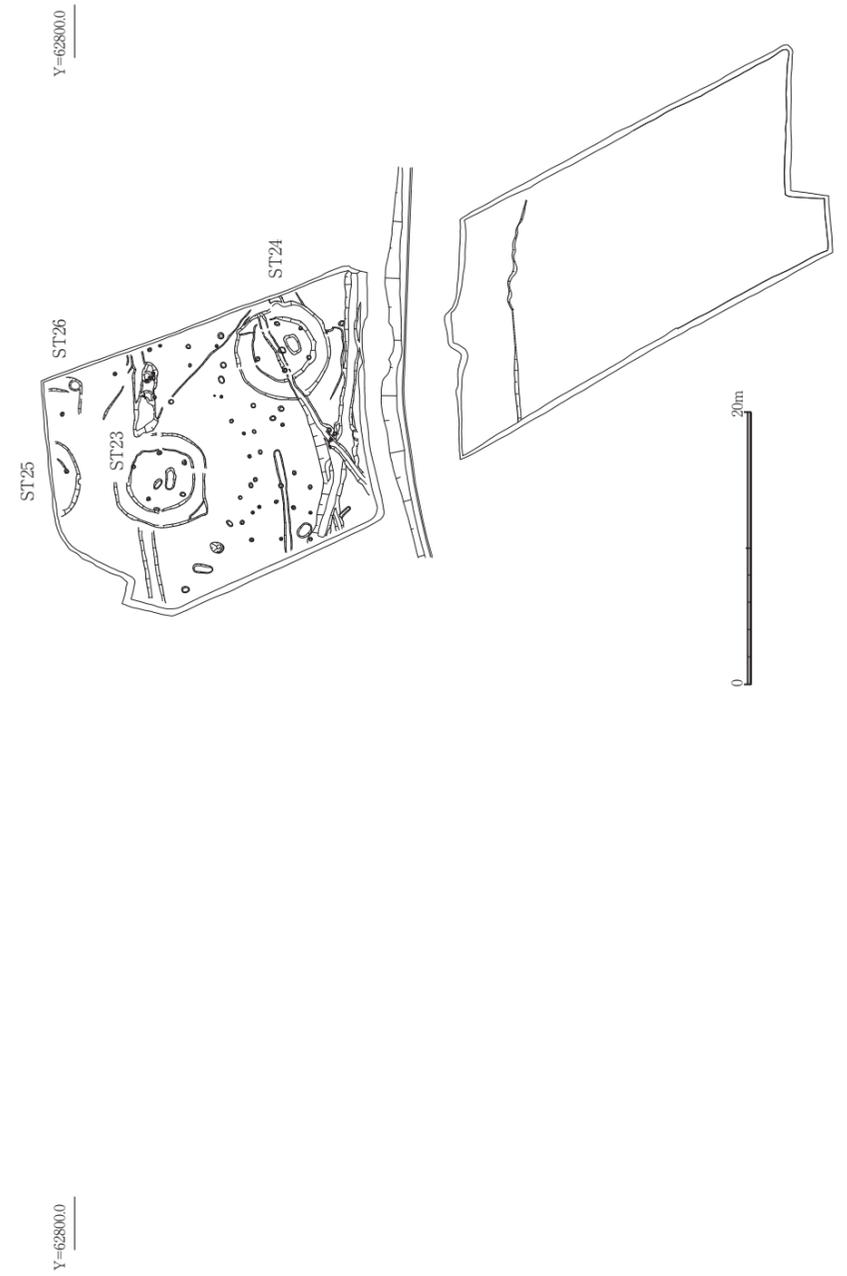
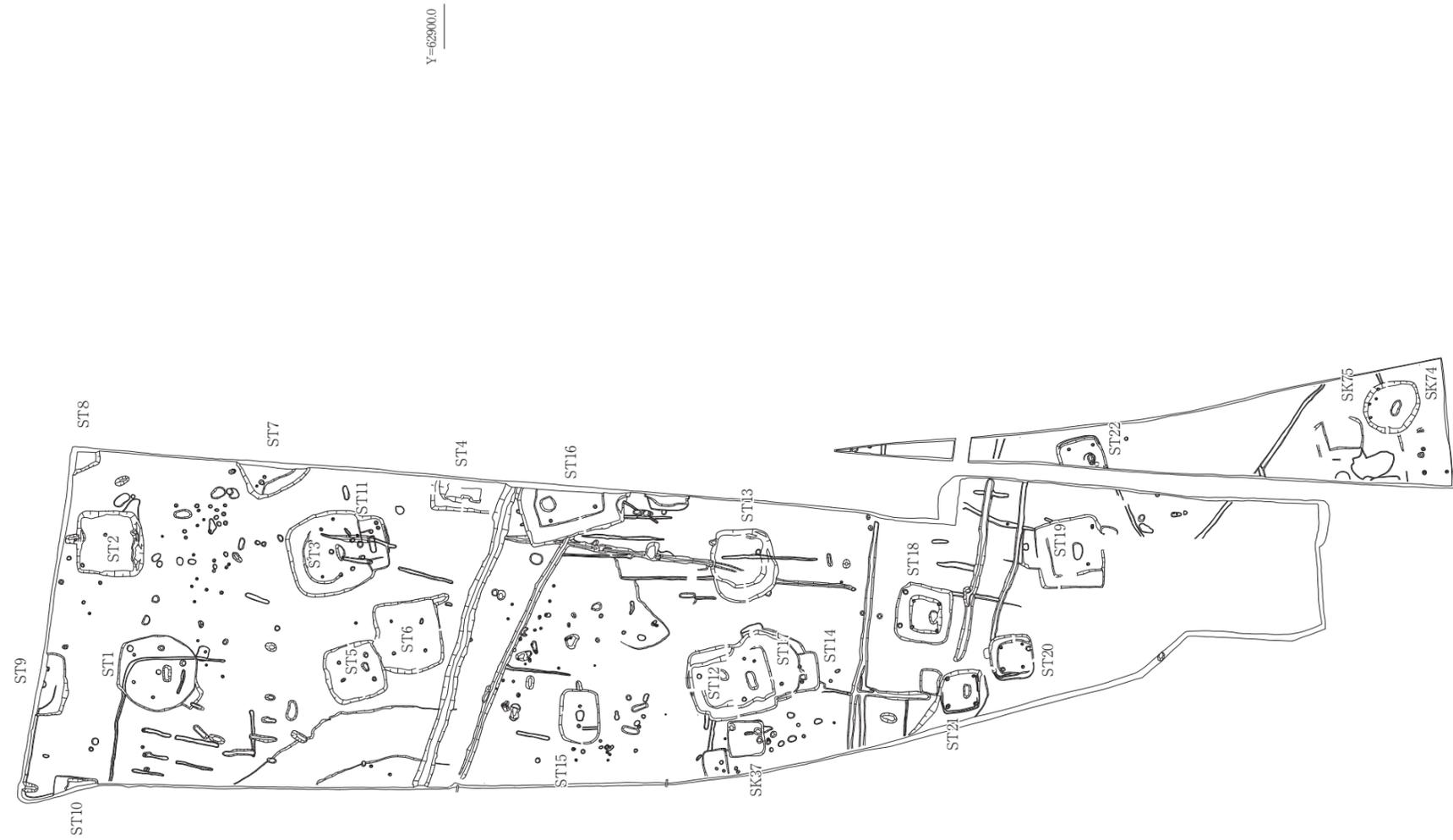
叩き目は右上がりであり、下半部は右下がりである。18は大形甕であり、口縁部の屈曲度合いは弱い。口縁部は内外面ともハケ調整であり、口唇部もハケ状原体により面取りを行う。19～30は鉢である。形態、法量、底部形状は様々である。基本的に外面は叩き調整後、ハケあるいはナデ調整である。内面はハケ調整を施すものが主体を占める。また、外面に亀裂が認められるものが小形のものを中心に見られる。26～28は口径が大きく器高が低く安定感がある。28は器壁が厚く重量感がある。29は大形である。内面はミガキ調整であり、作りは丁寧である。30は大形で口縁部が外反するタイプである。口縁部はハケ調整であり、口唇部もハケ状原体で面取りを施す。44は紡錘車である。半分以上が欠損しているが、中央付近に円孔の一部が認められる。端部は丸みをおび、中央部に向かい器厚を増す。44は鉄鏝の茎部から基部にかけてである。45・47・48は砥石である。45は小形のものであり、四面ともに使用痕跡が認められる。47は大形であり、設置された状態で使用されたものと考えられる。深い線状の使用痕跡が認められる。46は擦り石であり、棒状の自然石を使用している。両端は使用により摩滅し平坦面を成している。また、ベンガラが付着している。

ST2

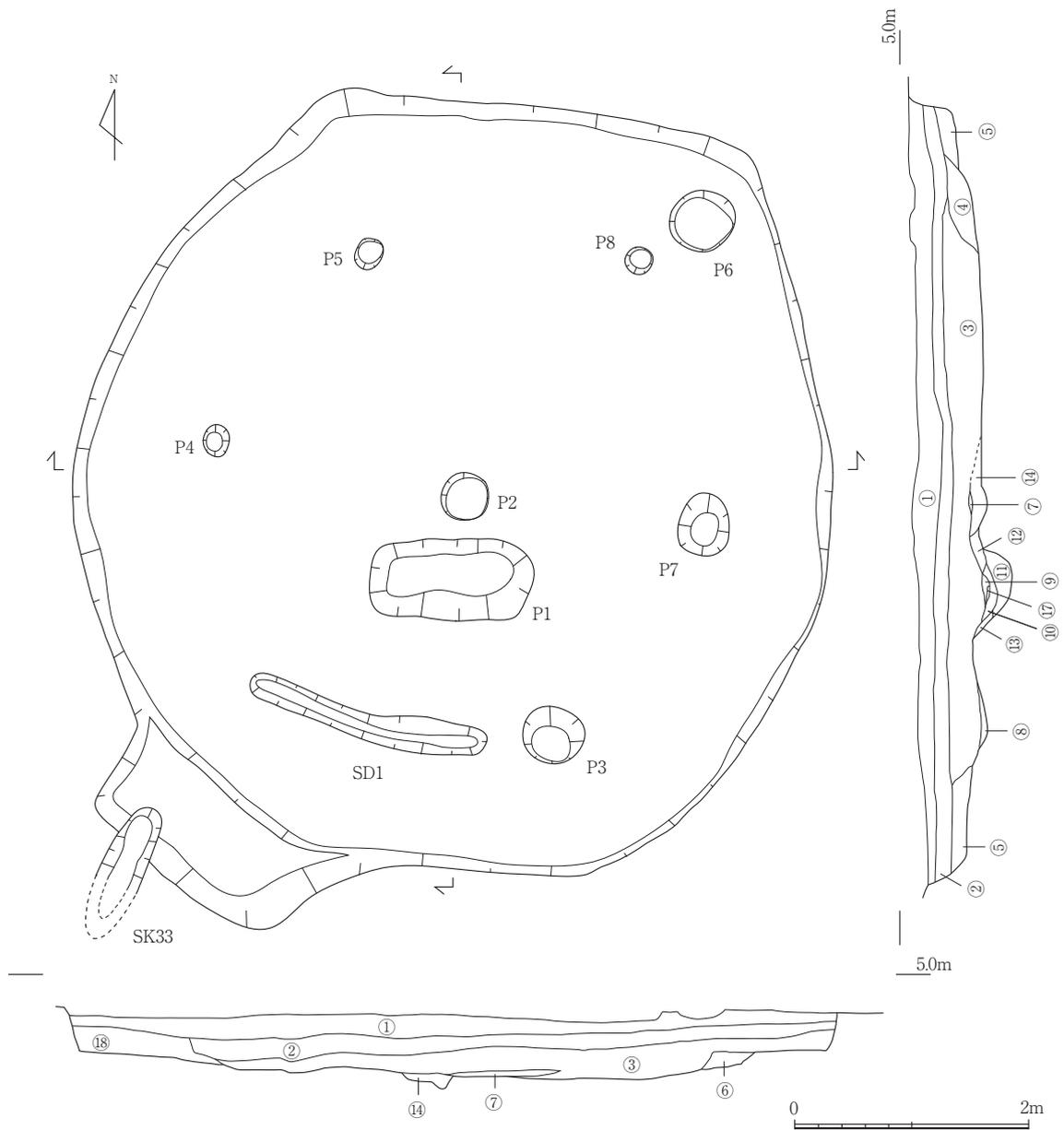
I区の北東部に位置し、SK90を切っている。長軸約5.8m、短軸約5.7mの隅丸方形を呈しており、検出面からの深さは約0.7mを測る。床面ではピットが2基検出されたのみである。床面は砂であることから、柱穴跡が埋没してしまっている可能性も考えられる。P1は規模や配置から支柱穴と考えられ、直径約30cmの円形を呈し、床面からの深さは約20cmを測る。中央ピットは検出されなかったが、住居跡の中央付近で半径約50cmの範囲に炭化物の分布を確認した(⑤・⑱・⑲・⑳～㉑層)。埋土の層序はきわめて複雑であった。方向の異なったL字状のセクションベルトを2本設定する方法で断面観察を行ったが、それぞれのセクションベルトでの層序を対応させることができなかった。特に下層が複雑であった。そのためやむを得ず、4本の断面図で図示した。南壁は他の壁のように立ち上がりせず、凹凸が激しかった。断面でも、地山と推定される層の間に不自然な形で竈穴住居跡の埋土と考えられる土層(㉑層)が入り込んでいた。

遺物は住居跡南東部の壁際に沿って、ほぼ完形の鉢(53)が出土した。検出面からの深さは30cmであり、同レベルで焼土も検出した。

図示した出土遺物は複合口縁壺(49)、甕(50)、鉢(51～55)、高杯(59)、器台(60)、擦り石(61)である。49の二次口縁部は一次口縁部の外上端に貼り付けることで成形し、外面に櫛描波状文を施す。50の口縁部は「く」の字状を呈し、体部の中位に最大径を有する。体部外面は叩き調整であり、最大径部を挟んで叩き目の方向が若干異なる。また、下半部には叩き調整後粗いハケ調整をごくわずかに施す。口縁部外面は丁寧なハケ調整である。二次焼成を受け、器壁は荒れている。鉢はバリエーションが豊富である。口径に対して器高が高く深い印象を与えるもの(51)、ミニチュア土器の可能性のあるもの(53)、口縁部が大きく外反し端部をさらに屈曲させるもの(54)がある。55は片口鉢である。体部は丸底で金魚鉢状を呈し、やや長めの口縁部が付き、口縁部の一部が注口となる。外面は右下がりの叩き後、上半部にはハケ調整を施し比較的丁寧に叩き目を消す。内面はハケ調整であり、口縁部の一部はミガキ調整を施したような平滑さである。59は高杯の脚裾部である。円孔を推定で4ヶ所穿つ。60は口唇部を上方にわずかに拡張させ、ドーナツ状浮文と鋸歯文を交互に配置する。内外面とも粗い

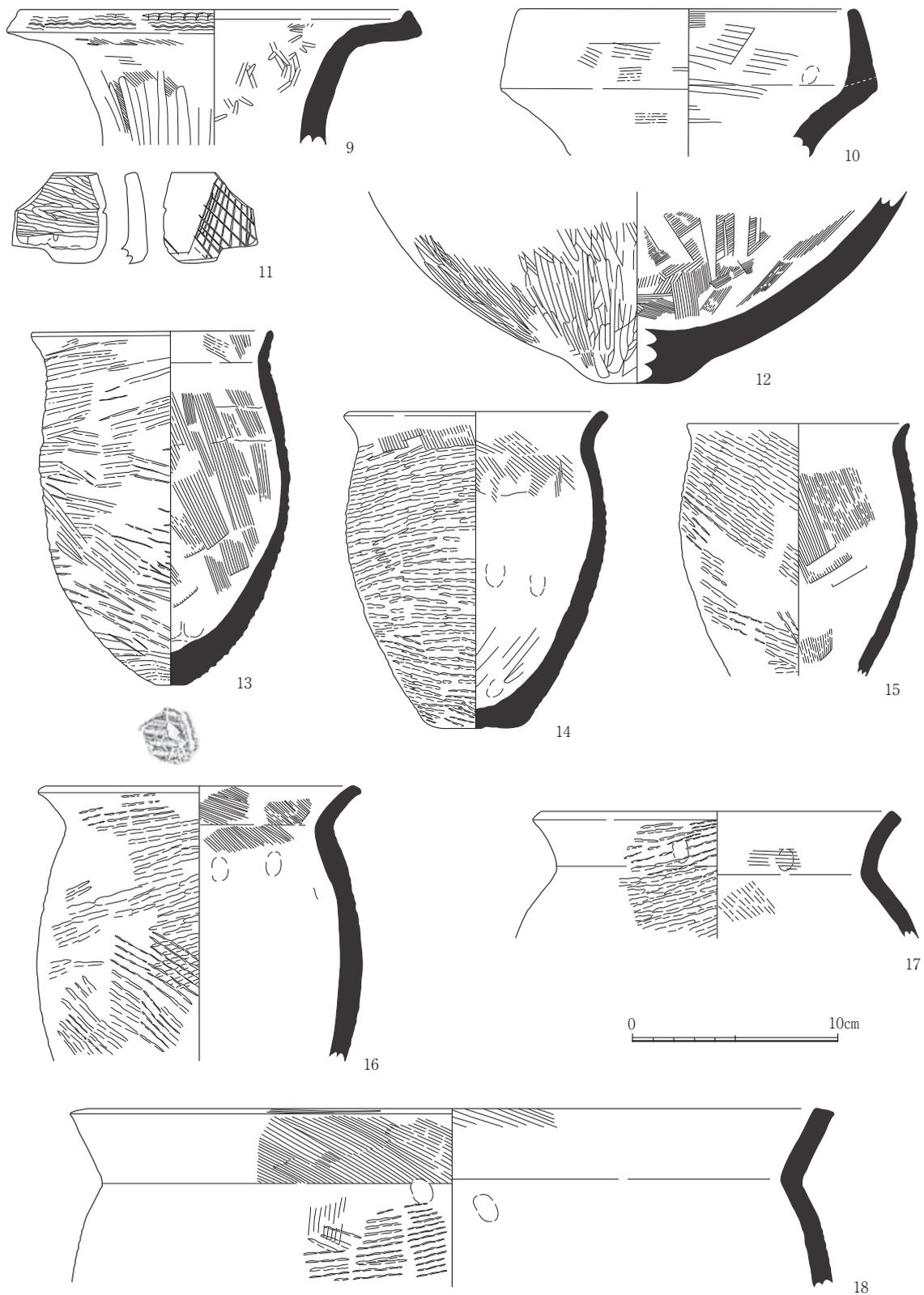


第10図 遺構配置図

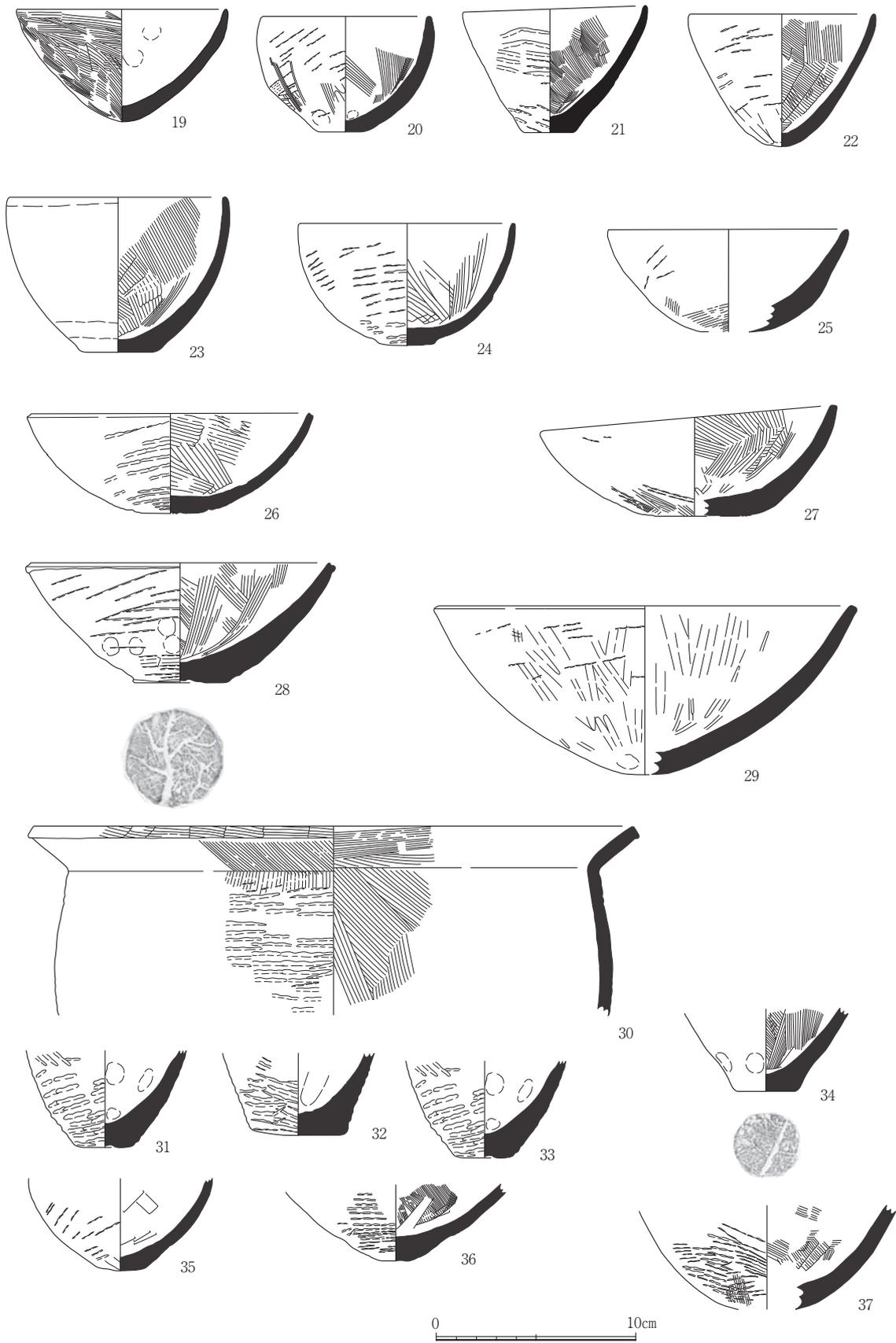


- ① 黒褐色 (2.5Y3/1) 細砂混じりシルト (直径 2cm 大以下の河原石を少量含む) [ST1 埋土]
- ② 黒褐色 (2.5Y3/1) 細砂混じりシルト (①より明るい色調) (直径 2cm 大以下の河原石を少量含む) [ST1 埋土]
- ③ 黄褐色 (2.5Y5/3) 細砂混じりシルト (直径 2cm 大以下の河原石を少量含む) [ST1 埋土]
- ④ 浅黄色 (2.5Y7/4) 細砂、黒褐色 (10YR3/1) 細砂、灰色 (5Y4/1) 細砂が混じる[ベッド] (直径 1cm 大以下の河原石をごく少量含む)
- ⑤ 灰色 (5Y4/1) 中砂 (直径 1cm 大以下の河原石をごく少量含む) [ベッド]
- ⑥ 灰色 (5Y4/1) 中砂に明黄褐色 (2.5Y7/4) シルトブロックが混じる
- ⑦ 黄灰色 (2.5Y5/1) 細砂 (やや粘性有り、炭層厚さ 5mm がある)
- ⑧ 灰色 (5Y6/1) 中砂 [地山] に明黄褐色 (2.5Y7/6) シルトがごく少量混じる
- ⑨ 灰黄色 (2.5Y6/2) 細砂
- ⑩ 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 細砂 (焼土ブロック、炭化物を含む)
- ⑪ 暗灰色 (N3/0) 中砂 (炭化物の影響でこの色調になっている)
- ⑫ 灰色 (5Y6/1) 中砂
- ⑬ 灰色 (5Y5/1) 細砂
- ⑭ 灰色 (5Y4/1) 細砂混じりシルト (やや粘性有り、炭化物粒を少量含む)
- ⑮ 浅黄色 (2.5Y7/4) シルト [ベース]
- ⑯ 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 中砂層 [ベース]
- ⑰ 黄色 (5Y7/6) 焼土層有り、炭化物層というよりブロックか
- ⑱ 灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂混じりシルトと浅黄色 (2.5Y7/4) 細砂混じりシルト

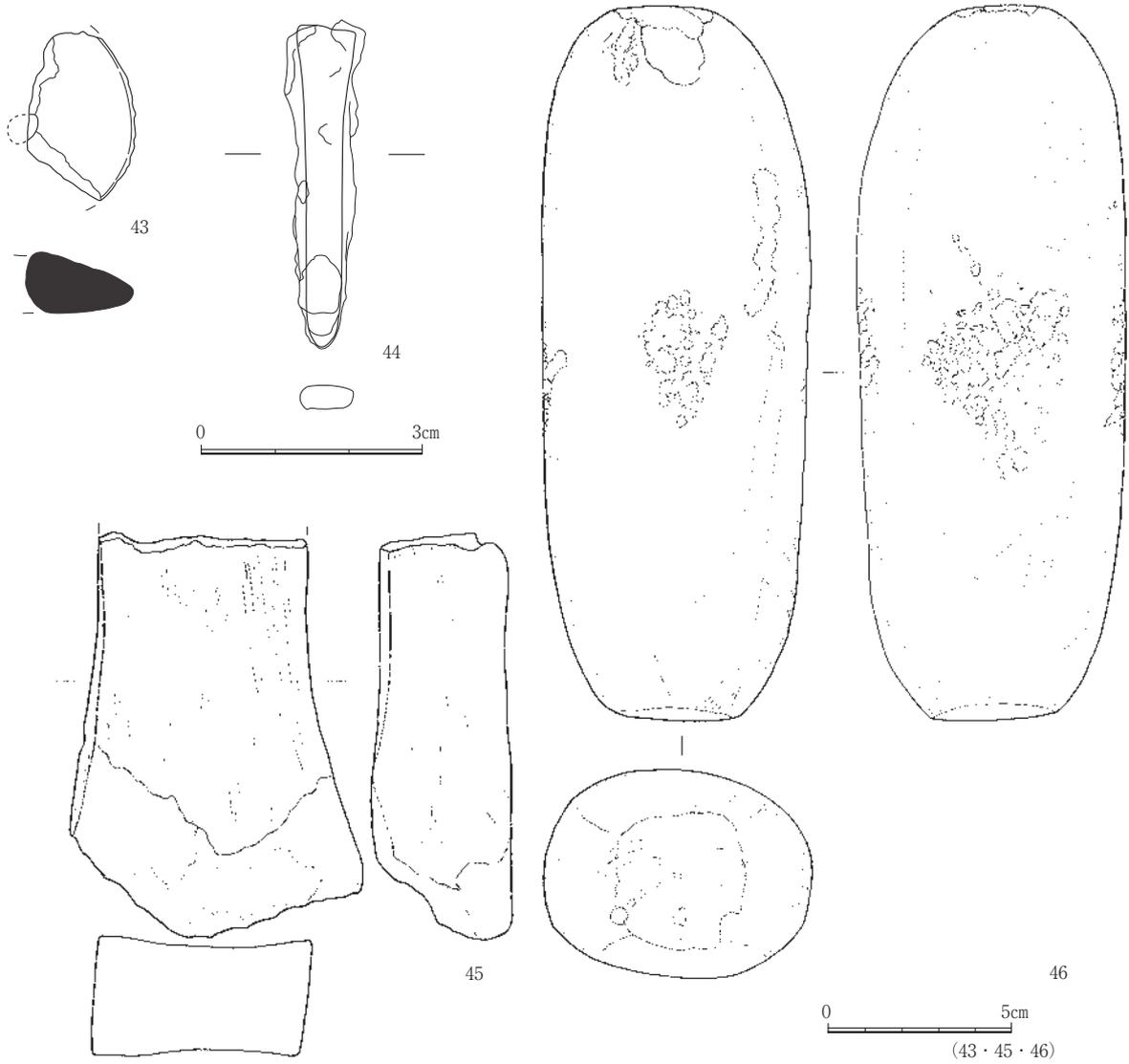
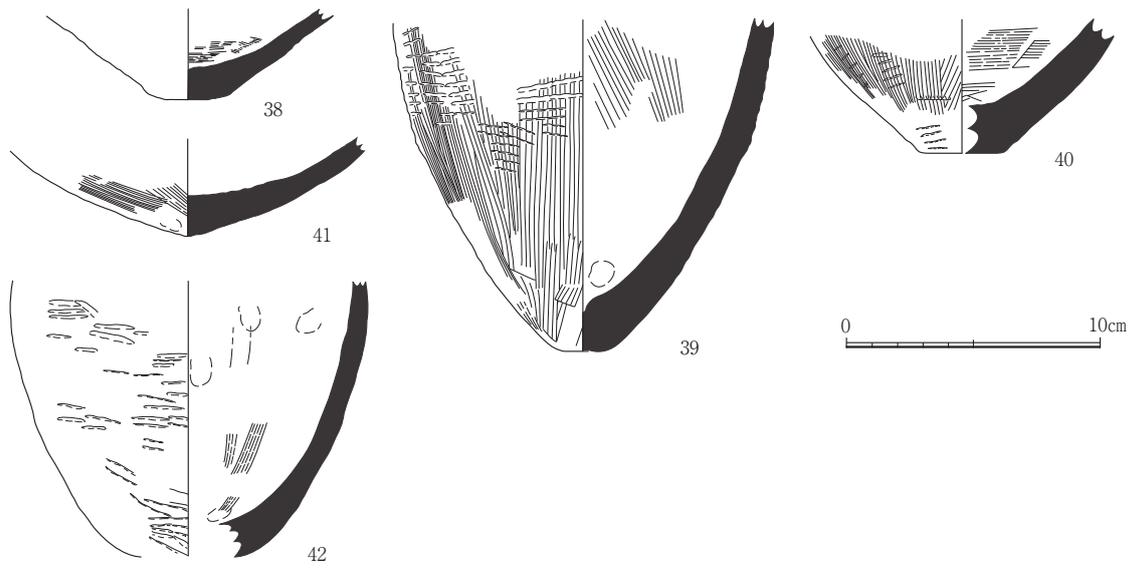
第 11 図 ST1 平面図・セクション図



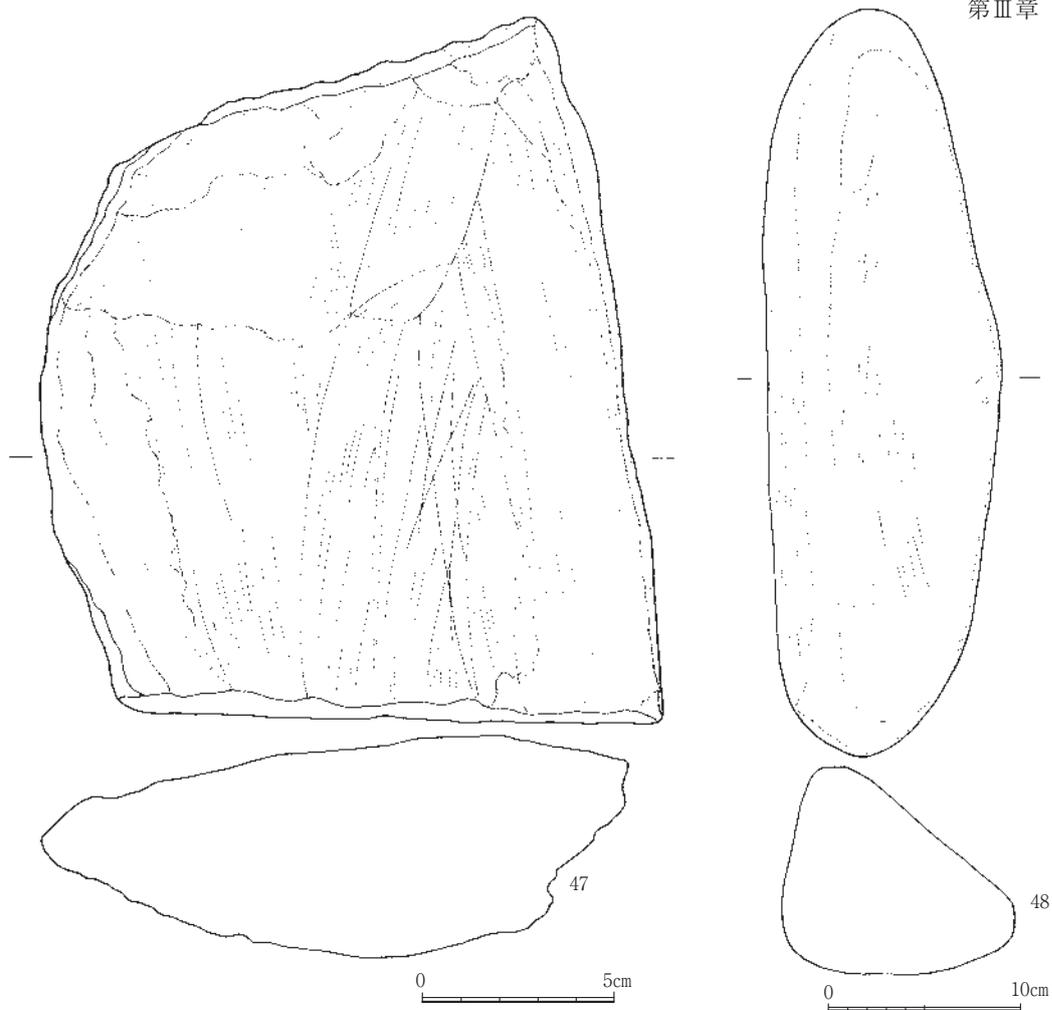
第12図 ST1出土遺物実測図1



第13図 ST1出土遺物実測図2



第14図 ST1出土遺物実測図3



第15図 ST1出土遺物実測図4

ハケ調整である。61は擦り石であり、床面直上から出土した。両端は使用により平坦面を成している。また、水銀朱の付着が認められる。図化していないが、土製の紡錘車、庄内式土器の体部片1点が出土している。

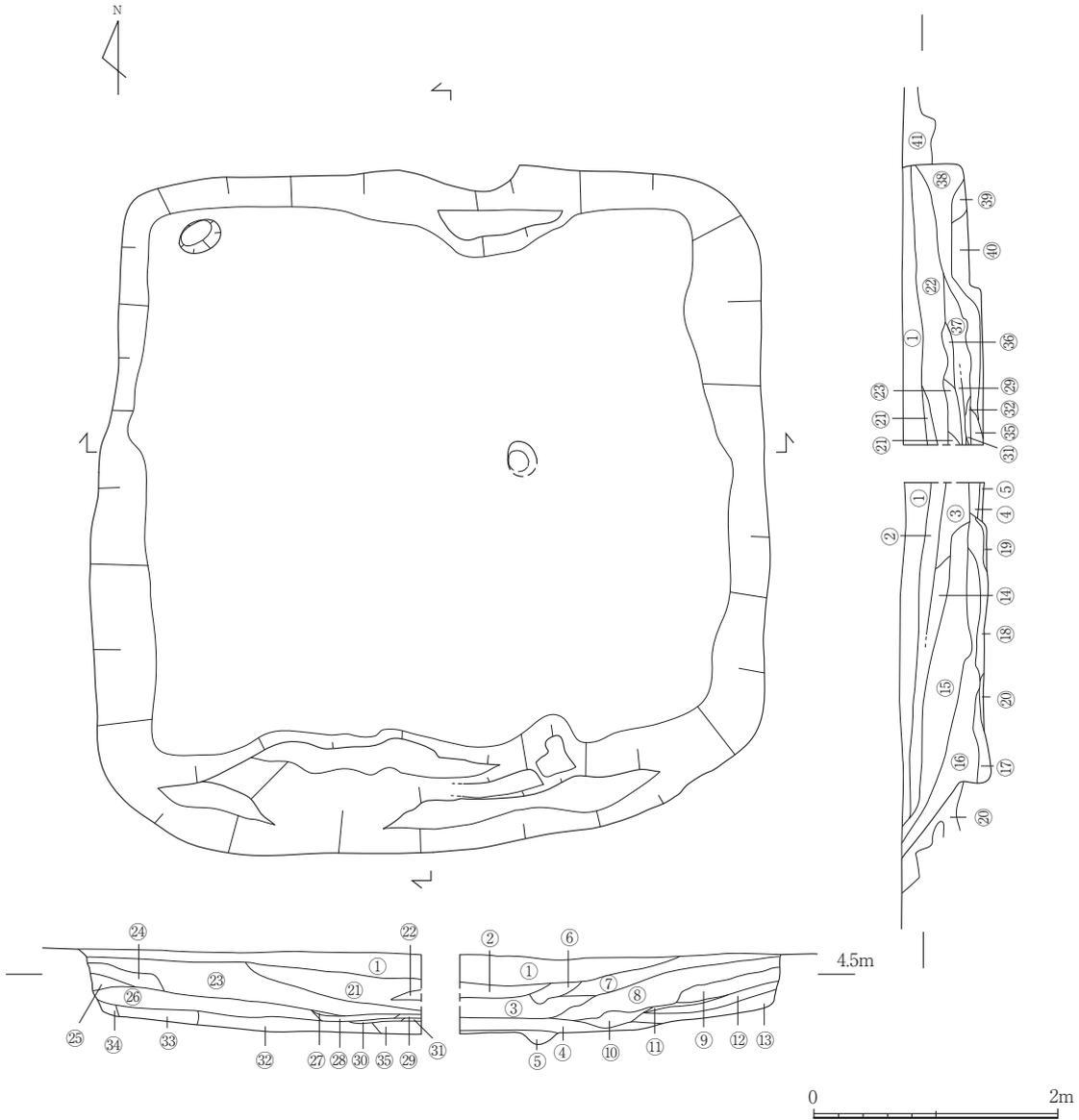
ST3

I区の中央からやや南に位置し、南部をST11に切られているが後述するように検出時においては両者の新旧関係は不明瞭であった。長軸約7.0m、短軸約6.5mの隅丸方形を呈していたものと推定される。深さ約0.6mを測る。ベッド状遺構は北側部分にかけて約半周分を確認したが、本来は全周していたものと推定される。ベッドの高さは約20cm程度である。床面では中央ピット、ピットが10基検出されており、内柱穴はP1～5・7～10の9基である。楕円形に分布していること、柱穴が近接しているものがあること、ベッドが全周していればその下に柱穴があることなどから、立て替えあるいはST11の柱穴も含んでいる可能性がある。また、中央ピットとP6の位置関係はST1のものと同様である。

ST11のベッド状遺構の深さまで掘削しなければ、両者の新旧関係を決定することができなかったため、遺物については明確に分別できていない可能性がある。ST3-11とした遺物群の検出レベルは検出面から20cmと浅く、遺物群の位置関係からもどちらに属するか明確ではないため、ST3の出

土遺物について述べた後に分けて述べる。

図示した遺物は、広口壺(62・63)、壺(64～66)、複合口縁壺(67～68)、甕(71～78)、小形鉢(79・80)、中形鉢(81～90・93)、大形鉢(91・92)、鉢(94)、高杯(99)、支脚(100・101)である。64・65・69・83・86・90・91・97・99・100は床面直上からの出土である。64は小形壺である。球形の体部から口縁部が直線的にのびる。外面は粗いハケ調整であり、一部にはミガキ調整を施す。内面は口縁部が外面同様、粗いハケ調整であり、体部はハケ後ナデ調整を施す。均整のとれた形態である。外面には煤が付着し、煮沸に使用されている。65は球形の体部から口縁部が短く外反する。底部は丸底である。外面は丁寧なミガキ調整を施す。66は上半部から口縁部にかけての破片である。なで肩の体部から頸部が絞りこまれ口縁部が大きく外反する。口唇部はヨコナデにより凹状を呈し、上下端に粘土がはみ出す。体部外面は叩き後ミガキ調整を施す。体部内面は粗いハケ調整である。口縁部は外面がナデ調整、内面がミガキ調整である。67は二次口縁部を一次口縁部の外上端に粘土帯を接合し成形する。



第16図 ST2平面図・セクション図

- ①黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルト(炭化物粒を少量含む)
- ②黒褐色(7.5YR2/2)細砂混じり(シルト浅黄(2.5Y7/4)シルト[地山]ブロックを少量含む)
- ③黒色(10YR2/1)細砂混じりシルト(炭化物粒、浅黄(2.5Y7/4)シルト[地山]ブロックを少量含む)
- ④灰色(5Y5/1)細砂(炭化物粒、浅黄(2.5Y7/4)シルト[地山]ブロックを少量含む)
- ⑤黄灰色(2.5Y4/1)中砂混じりシルト(炭化物粒をやや多く含む)
- ⑥黒褐色(10YR3/1)シルト(炭化物粒をごく少量含む)
- ⑦黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト(炭化物粒、浅黄(2.5Y7/4)シルト[地山]ブロック、直径2cm以下の河原石をそれぞれごく少量含む)
- ⑧暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂混じりシルト(炭化物をごく少量、浅黄(2.5Y7/4)シルト[地山]ブロック(拳大)を含む)
- ⑨黒褐色(10YR3/1)シルト(炭化物をごく少量含む、焼土塊かをごく少量含む)
- ⑩⑨と同じ
- ⑪暗灰黄色(2.5Y5/2)粗砂混じりシルト
- ⑫暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂混じりシルト(直径5mm大の河原石を少量含む)
- ⑬暗灰黄色(2.5Y5/2)粗砂混じり中砂
- ⑭褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト(炭化物をごく少量、灰白色(2.5Y8/1)[地山]ブロックを含む)
- ⑮にぶい黄色(2.5Y6/3)[地山]シルトブロック、黒褐色(10YR3/1)・褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルトが混じる
- ⑯⑧と同じ
- ⑰黒褐色(10YR3/1)シルト粘土(炭化物をごく少量含む)
- ⑱黄灰色(2.5Y4/1)中砂混じりシルト(炭化物粒をやや多く含む、浅黄色(2.5Y7/4)シルト[地山]ブロックを少量含む)
- ⑲黄灰色(2.5Y5/1)中砂、にぶい橙色(7.5YR6/4)細砂混じりシルト(炭化物をごく少量含む)(中央P埋土か)
- ⑳黒褐色(10YR3/1)シルト粘土(炭化物粒を含む)[ST埋土]
- ㉑黒褐色(10YR3/1)シルト(炭化物粒を少量含む)
- ㉒黄灰色(2.5Y4/1)細砂混じりシルト、浅黄色(2.5Y7/4)[地山]シルト、黄褐色(2.5Y5/3)細砂混じりシルトが混じる
- ㉓暗灰黄色(2.5Y4/2)、黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトが混じり、浅黄色(2.5Y7/4)シルトブロックを含む(炭化物粒を少量含む)
- ㉔暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂混じりシルト
- ㉕黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト
- ㉖暗灰黄色(2.5Y4/2)細砂混じりシルト、にぶい黄色(2.5Y6/4)シルト[地山]ブロックを少量含む
- ㉗黄灰色(2.5Y5/1)細砂混じりシルト
- ㉘褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト(炭化物をごく少量含む)
- ㉙黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト(浅黄色(2.5Y7/4)シルト[地山]ブロック、炭化物粒を含む)
- ㉚黄灰色(2.5Y4/1)細砂混じりシルト
- ㉛暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂混じりシルト
- ㉜黄灰色(2.5Y5/1)細砂混じりシルト
- ㉝浅黄色(2.5Y7/4)シルト(浅黄色(2.5Y4/1)[地山]ブロックを含む)
- ㉞暗灰黄色(2.5Y4/2)中砂
- ㉟褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト(浅黄色(2.5Y7/4)シルト[地山]ブロックを少量含む)
- ㊱褐灰色(10YR4/1)、黄灰色(2.5Y4/1)細砂混じりシルトが混じる
- ㊲黒褐色(10YR3/1)、黄灰色(2.5Y4/1)細砂混じりシルトが混じる、黄灰色(2.5Y4/1)シルト[地山]ブロックを含む
- ㊳黄灰色(2.5Y5/1)細砂混じりシルト
- ㊴黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト
- ㊵暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂
- ㊶黒褐色(10YR3/1)シルト[SK埋土]

口唇部は平坦面を成し、外面に鋸歯文を施す。68は櫛描波状文を施す。69は二重口縁壺であり、二次口縁部は短く外反させる。二次口縁接合部は断面三角形に突出させる。70は壺の体部であり、やや扁平な算盤玉形を呈する。外面は丁寧にミガキ調整が施されている。73は中形甕であり、口縁部は「く」の字状を呈する。外面は叩き調整であり、肩部は叩き後ハケ調整を施す。口縁部外面はナデ調整であり、粘土帯接合痕跡が認められる。内面はハケ調整あるいはナデ調整である。また、粘土帯接合痕跡が認められる。75は大形甕である。口縁部は外反度合いが弱い「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。外面は叩き調整後ハケ調整を施す。口縁部は特に丁寧に施され、下地に叩き目が存在するかどうかかわからない。内面はハケ調整である。76は大形甕であり、口縁部の外反度合いは強く、口縁部は若干内湾する。体部は球形を呈すると推定される。外面は叩き調整後ナデ調整を施す。内面はナデ調整が主体である。形態等から土師器の範疇に入るものと考えられる。77は特徴的な甕である。口縁部の外反度合いは弱く、口唇部を上方に拡張させ、口唇部はハケ状原体で面取りする。内外面とも粗いハケ調整を施す。79・80は小形鉢である。外面に叩き目は見られない。80は外面に多くの指頭圧痕が認められる。81～90は中形鉢である。形態は様々であり法量も若干のばらつきがある。外面は叩き調整後に叩き目をナデ消すものが多く認められる。また、亀裂が入るものも6個体確認され、86～88は特に激しく入る。88・89は浅いタイプであり、90は半球形を呈し、深いタイプである。91・92は大形鉢である。半球形であり、底部は丸底である。口唇部はルーズな面取りを施す。94は粘土帯を輪積みしながら成形しており、内面には粘土帯接合痕跡が明瞭に残存している。外底面に葉脈の圧痕が認められる。ミニチュア土器か。99・100は支脚であり形態は異なる。99は中実の柱部分の上下がひらく。上方は半分弱程が切り開かれており土器の受け部とする。裾部はスカート状に開く。全体的に受け部側へ内傾する。煤が付着しており使用状況を類推させる。100は中実の柱部分から上方へは中空部がさらに続き、2ヶ所に突出部が付き土器の受け部を成形する。一方、裾部はあまりひらかない円筒状である。全体的に受け部側へ内傾する。法量的には両者をセットとして使用していたと考えても矛盾しない。

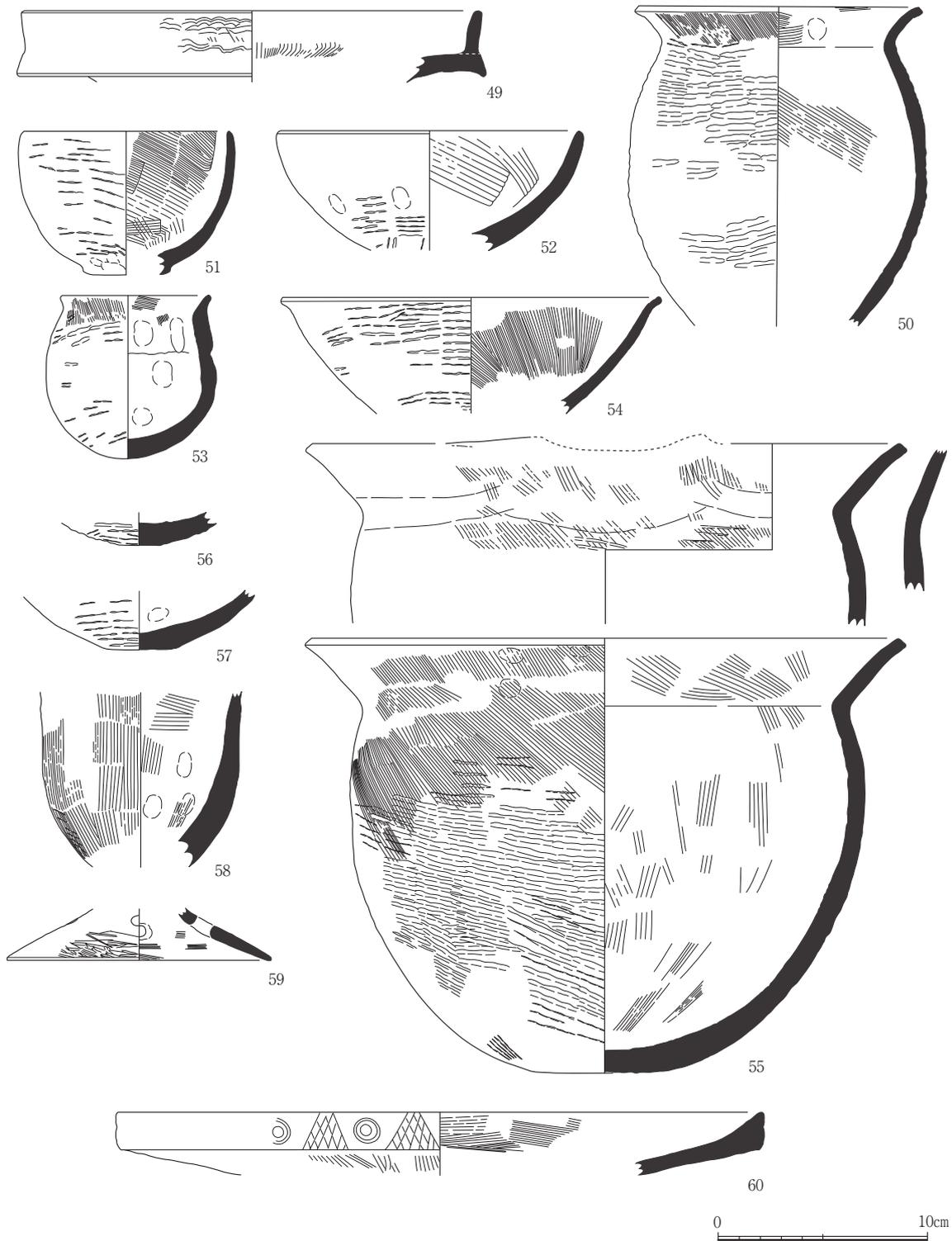
105は柳葉形の鉄鏃であり鏃身は左右非対称である。106は叩き石である。107は擦り石であり、先端部は使用により平坦面を成している。108は砂岩製の砥石であり、三面を使用している。

上層で検出した土器群は、ST3から見れば南東部、ST11から見れば北東部で検出した。両堅穴住居跡の新旧関係を考慮に入れるとST11に属している可能性が高いか。出土遺物のうち、広口壺(101)、甕(102・103)、高杯(104)を図示した。101は肩部から頸部が短く立ち上がり口縁部は大きく外反し、口唇部は平坦面を成す。体部外面はミガキ調整を施す。103は甕である。口縁部の外反度合いは弱く直立気味に立ち上がる。口縁部はナデ調整であり、粘土帯接合痕跡が認められる。体部には太くて深い叩き目が残存しており、底部付近は叩き目をナデ消す。内面はナデ調整であり、粘土帯接合痕跡が認められる。形態等にやや異質な印象を受ける。104は高杯である。脚部は中空で筒状を呈し、裾部は大きくひろがる。脚部はミガキ調整であり、裾部はハケ調整である。また、裾部には円孔を推定で4ヶ所穿つ。

ST4

I区の南東部隅に位置し、大部分が近世の攪乱を受けている。一部が調査区域外であるが、東西約

2.3m、南北約4.9mまでは検出した。Ⅱ区では検出されなかったことから、南北規模は5.0m前後である。検出面からの深さは約0.7mを測る。床面から中央ピット等の付属遺構は確認されておらず、住居跡ではない可能性がある。



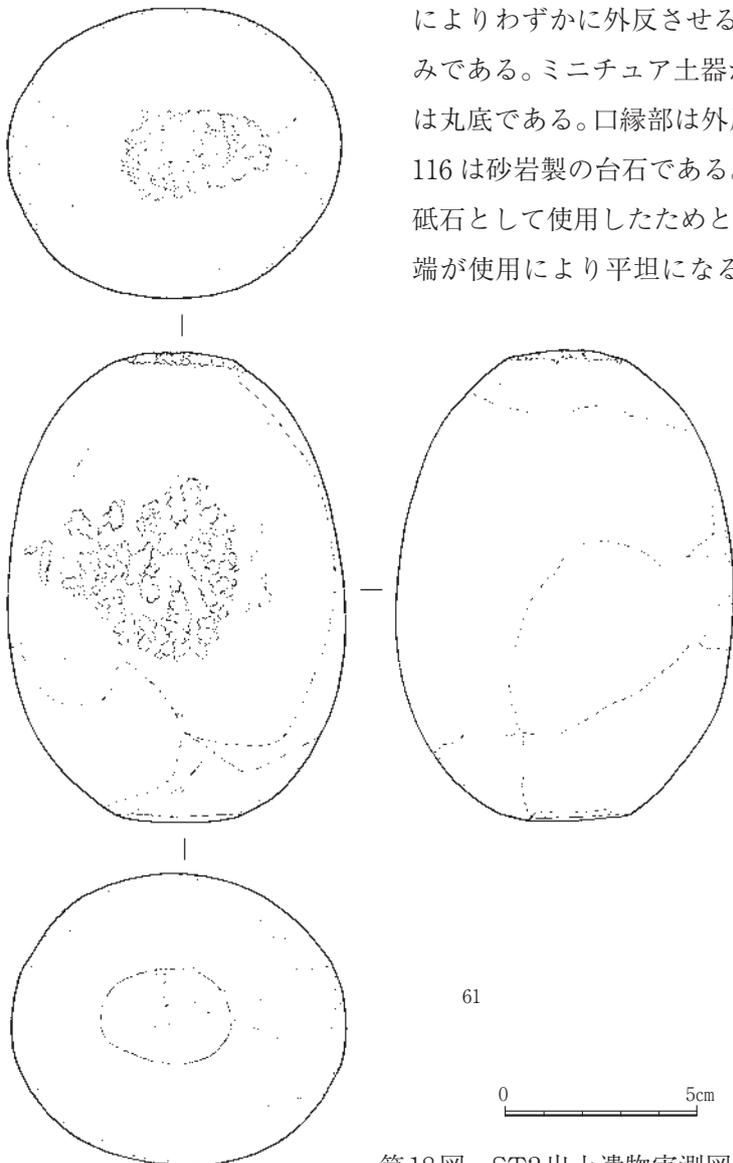
第17図 ST2出土遺物実測図

ST5

I 区の南側に位置し、ST6 を切っている。一辺が約 5.0m の隅丸方形を呈しており、検出面からの深さは約 0.6m を測る。中央ピットは住居跡のやや南に位置し、長軸約 80cm、短軸約 40cm の長楕円形を呈しており、深さは約 10cm を測る。断面形は舟底状を呈する。埋土の上層は黒色(7.5YR2/1)細砂、下層は黒褐色(10YR2/2)細砂である。ピットは 4 基検出されており、各隅部からやや内側に直径 30～40cm、深さは 10～20cm の円形を呈する。住居跡の埋土は 2 層にわかれるが、両層の違いはほとんどない。ともに黒褐色を呈し②層は細砂混じりシルトであり、④層は細砂である。

遺物は、住居跡南東部から土器片が出土した。外面が上向きの状態のものが多く、検出面からの深さは 30cm である。床面、中央ピット付近から台石(116)が出土している。また、ほぼ完形の鉢(110)が床面から浮いた状態で出土した。壁際からの出土ではない。

図示した出土遺物は小形鉢(109・110)、中形鉢(111～115)、砥石(116)、擦り石(117)である。鉢は丸底の個体が多い。110 は大きめの平底を持ち、口縁端部を指頭によりわずかに外反させる。叩き目は外底部付近に見られるのみである。ミニチュア土器か。115 は半球状の体部であり、底部は丸底である。口縁部は外反する。内外面ともナデ調整である。116 は砂岩製の台石である。使用により平滑になる部分があり、砥石として使用したためと考えられる。117 は擦り石であり、両端が使用により平坦になる。図化してないが、庄内式土器の体

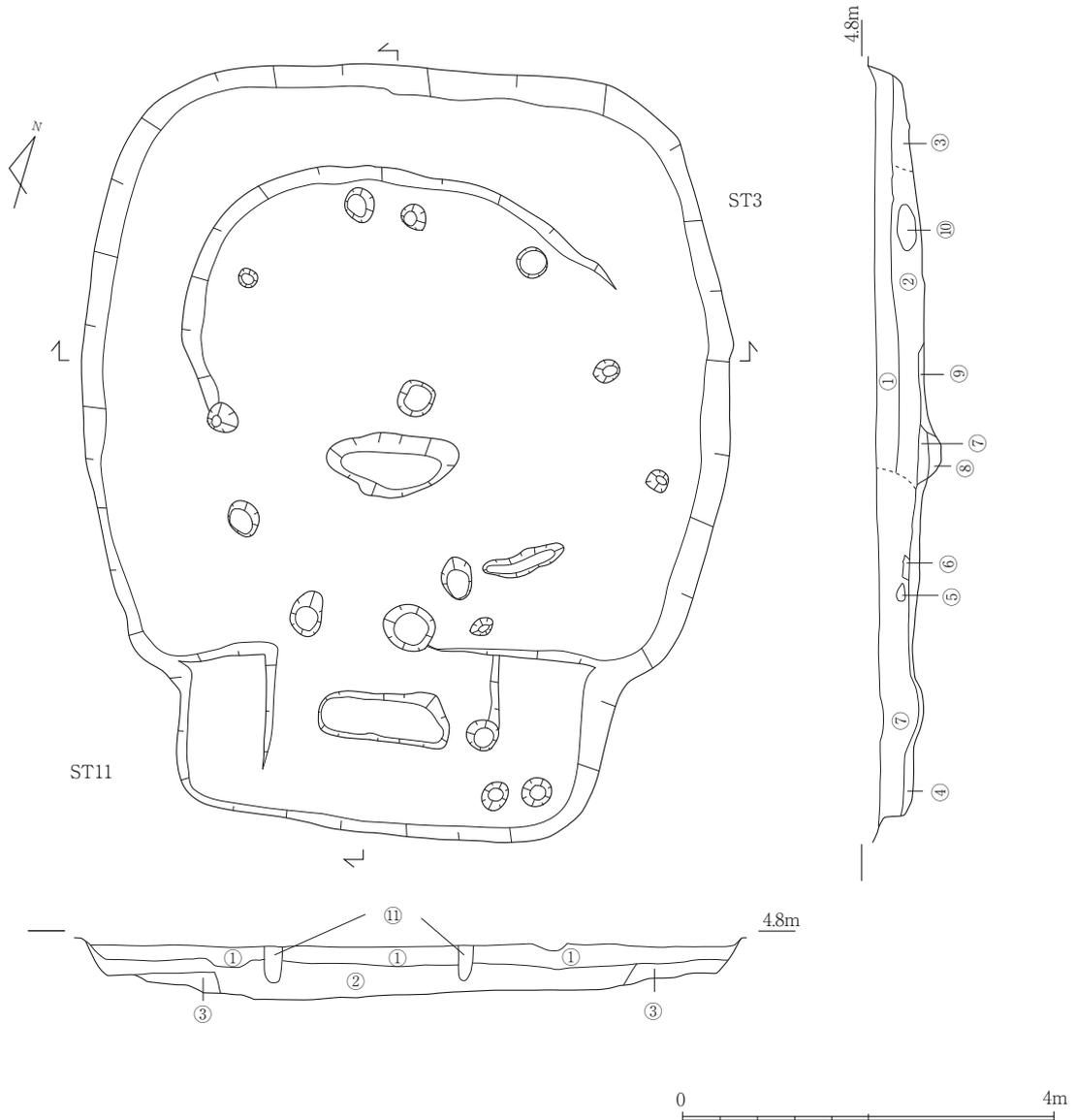


第18図 ST2出土遺物実測図2

部片12点が出土している。

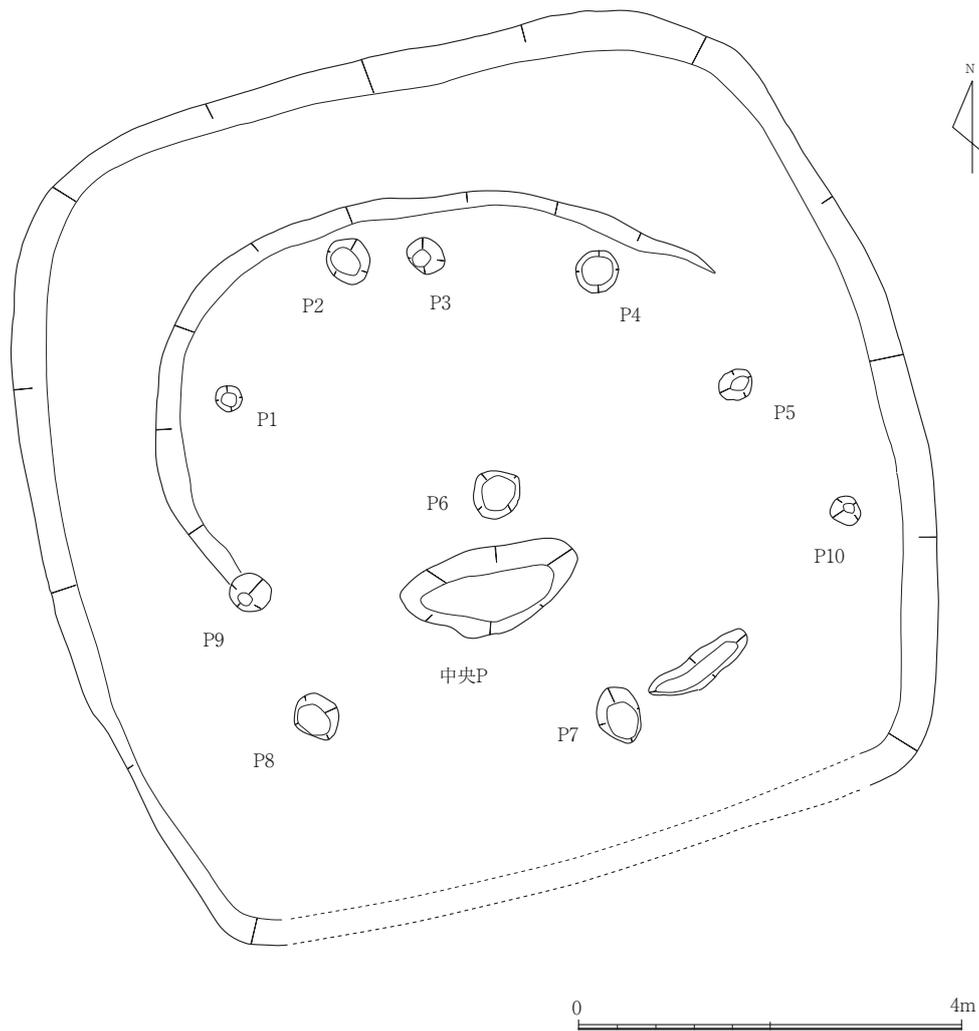
ST6

I区の南側に位置し、ST5に切られる。長軸約6.0m、短軸約5.7mの隅丸方形を呈しており、検出面からの深さは約0.4mを測る。ピットが4基検出されており、規模や配置から主柱穴と考えられる。直径30～50cmの円形を呈し、深さは10～40cmである。中央ピットは検出されなかった。



- ①黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト[ST3埋土]
- ②黒褐色(10YR3/2)粘性細砂[ST3埋土]
- ③浅黄色(2.5Y7/4)暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂[ベッド]
- ④浅黄色(2.5Y7/4)と上層の黄灰色(2.5Y4/1)細砂混じり粘土
- ⑤浅黄色(5Y7/3)粘土[焼土か]
- ⑥にぶい黄褐色(10YR5/4)細砂混じり粘土[焼土]
- ⑦灰色(5Y5/1)細砂混じり粘土に浅黄色(5Y7/3)粘土ブロックが混じる[中央P埋土]
- ⑧炭化物層[中央P埋土]
- ⑨砂礫層
- ⑩浅黄色(2.5Y7/4)シルト(ブロックを含む)
- ⑪攪乱

第19図 ST3・11平面図・セクション図

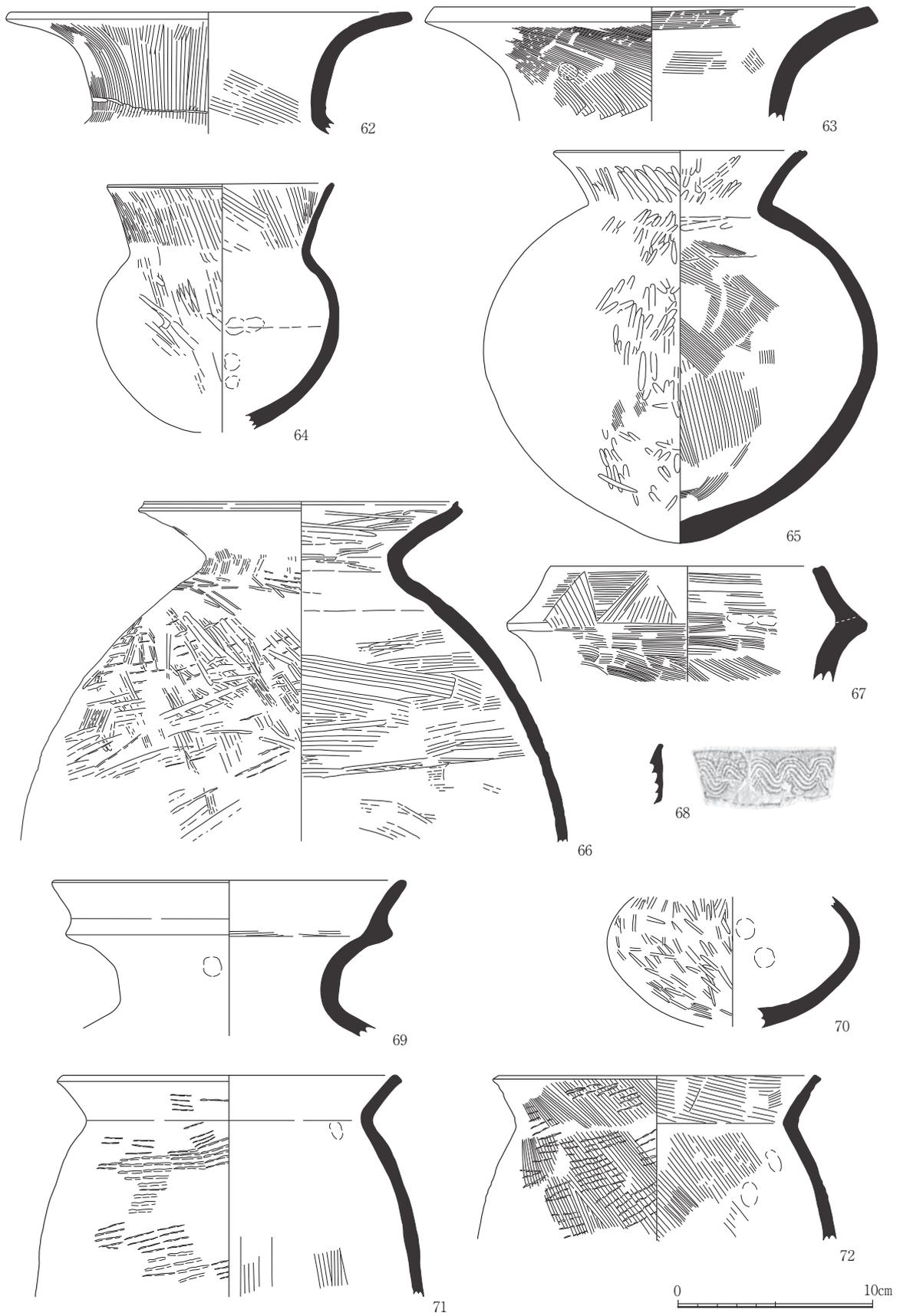


第20図 ST3平面図

図示した出土遺物は広口壺(118)、甕(119)、中形鉢(120～125・127)、大形鉢(126)である。118は球形の体部から口縁部は大きく外反する。口縁部と体部を図上で復原したため、本来、体部はもう少し張り、全体の最大径が体部の中位にくる可能性がある。体部外面は叩き調整後ハケ調整、口縁部・内面はハケ調整である。123は丸底のやや深めの鉢である。外面は叩き調整後粗いハケ調整であり、内面も粗いハケ調整である。125は外面に叩き目を残存させる。126は大形鉢であり、外面は叩き後ハケ調整・ミガキ調整であり、作りは丁寧である。

ST7

I区東端部中央に位置し、住居跡東側が調査区外である。規模は南北約3.1mまでは検出した。平面形は隅丸方形と推定でき、検出面からの深さは約0.5mを測る。住居跡の西側でベッド状遺構を確認した。幅約80cm、高さ約10cmを測る。住居跡の埋土は黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルトである。床面からはピット3基が検出されており、すべて円形を呈している。深さは10～18cmを測る。



第21図 ST3出土遺物実測図1

遺物は、住居跡南部で壁際に沿って、ほぼ完形の鉢(128)が出土した。

図示した遺物は中形鉢(128～130)である。128・129は丸みをおびた平底、130は丸底である。外面は叩き調整後、ナデ調整である。内面はハケ調整あるいはナデ調整である。

ST8

I区北東隅に位置し、住居跡のほとんどが調査区外である。規模は東西約1.0m、南北は約2.0mまでは検出した。検出面からの深さは約0.5mを測る。

図示した遺物は小形甕(131)、中形鉢(132・133)である。131は丸底、フットボール形の体部、外反度合いが弱い短い口縁部である。外面は叩き調整後、ハケ調整を比較的密に施す。内面はナデ調整である。頸部から口縁部にかけてはハケ調整である。132・133とも丸底であり、外面は叩き調整後ナデ調整である。内面は、132が工具ナデ調整、133がナデ調整・ハケ調整である。

ST9

I区北端部中央に位置し、住居跡の北側が調査区外である。規模は東西約4.9m、南北約1.5mまでは検出した。平面形は隅丸方形と推定でき、検出面からの深さは約0.5mを測る。住居跡の西側でベッド状遺構を確認した。幅約120cm、高さ約20cmを測る。床面からはピット2基が検出された。住居跡の埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトであり、下層には暗灰黄色細砂混じりシルトが混ざる。⑦層は黒色の細砂混じりシルト(②層)であり炭化物粒を多く含むことから中央ピットの埋土である可能性が高い。

図示した遺物は鉢(134)である。134は口径に比べ器高が高くコップ状を呈する鉢である。

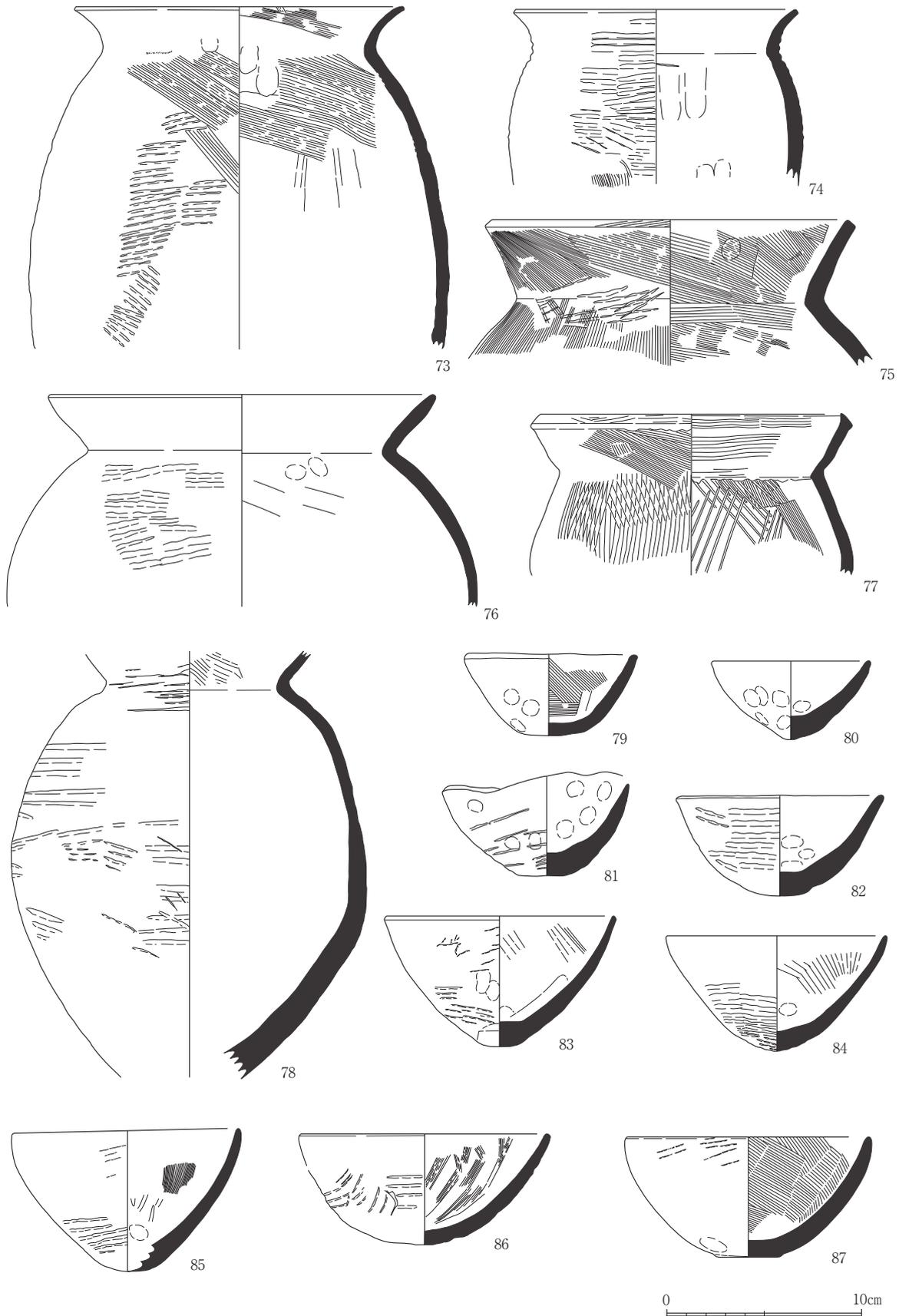
ST10

I区の北西部に位置し、住居跡の西側が調査区外である。規模は東西約1.7m、南北約3.6mまでは検出した。平面形は隅丸方形と推定でき、検出面から床面までの深さは約0.6mを測る。住居跡の東側には盛土(⑦～⑨層)によるベッド状遺構を確認した。幅約100cm、高さ約10cmを測る。住居跡の埋土は、②層：黒褐色細砂混じりシルト、③層：褐灰色～灰黄褐色細砂混じりシルト、④層：黒褐色細砂混じりシルト、⑤層：黄灰色細砂混じりシルト、⑥層：黄灰色細砂混じりシルトである。遺物は、住居跡北東部で検出面からの深さが20～40cmの間に重層的に遺物が出土した。

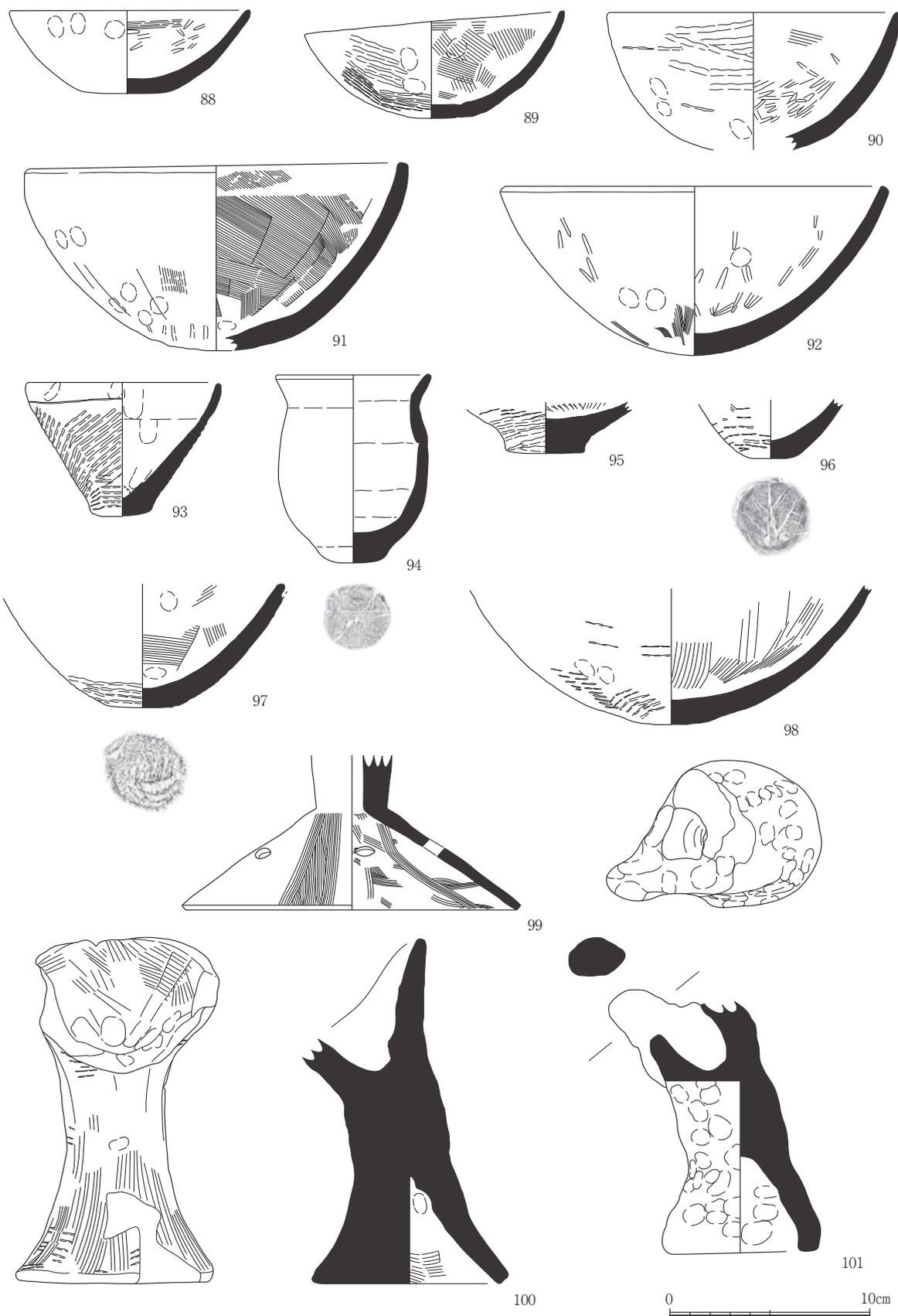
図示した出土遺物は壺(135)、甕(136～139)、皿状鉢(140)、小形鉢(141)、中形鉢(143・144)、大形鉢(142・145)である。135は小形丸底壺か直口壺の頸部から胴部にかけての破片である。外面はミガキ調整であり、内面はナデ調整である。また、内面には粘土帯接合痕跡が認められる。136はフットボール形の体部、やや大きめの丸みをおびた平底、口縁部は「叩き出し技法」により「く」の字状を呈する。外面は叩き調整後、下半部にはハケ調整を比較的密に施す。138・139の口縁部は「叩き出し技法」により成形される。137・139の外面は叩き調整後、下半部に比較的密にハケ調整を施す。140は指頭圧痕が認められる。142は平底の浅めの鉢であり、口唇部は平坦面を成す。外面は叩き後、ナデ調整である。内面はハケ・ナデ調整である。外底面に葉脈痕が認められる。144の外面には亀裂が認められる。145はやや上げ底風である。

ST11

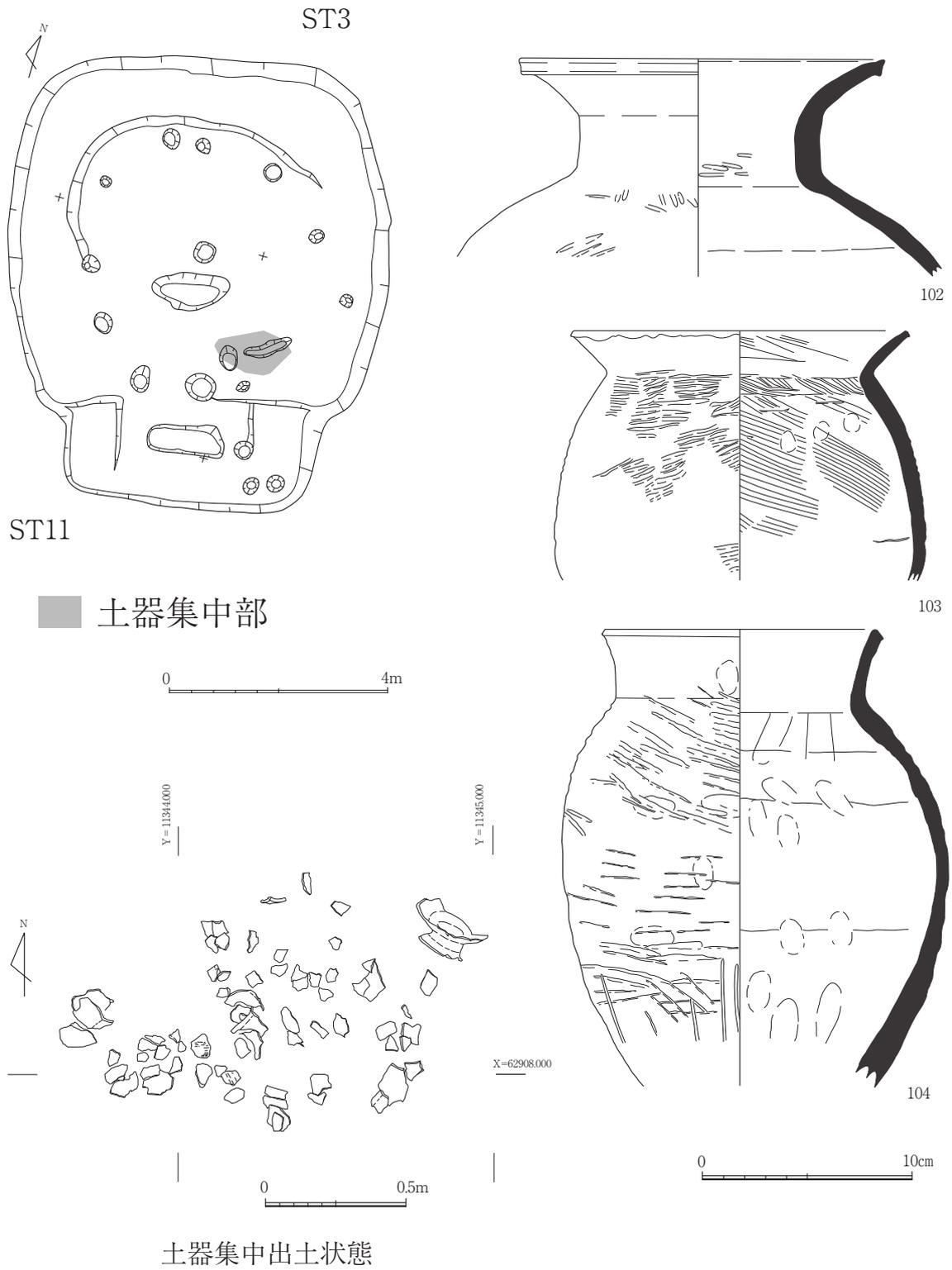
I区の中央部南東に位置しており、ST3を切る。前述のように検出時は両者の新旧関係は不明瞭



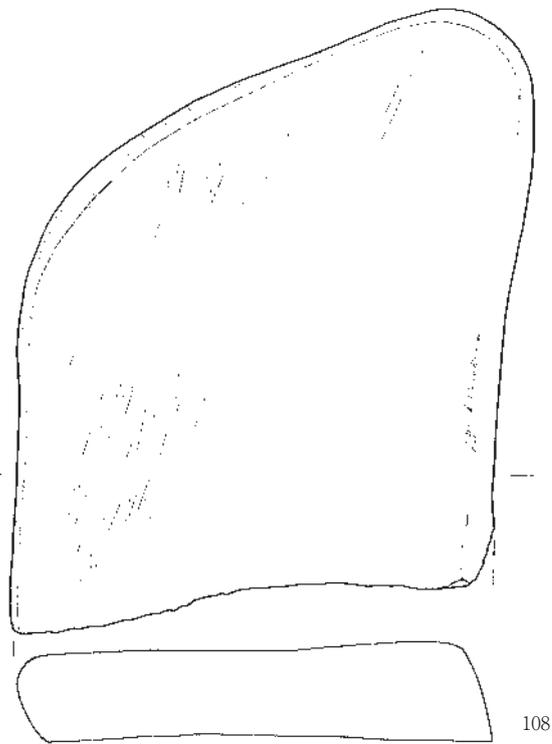
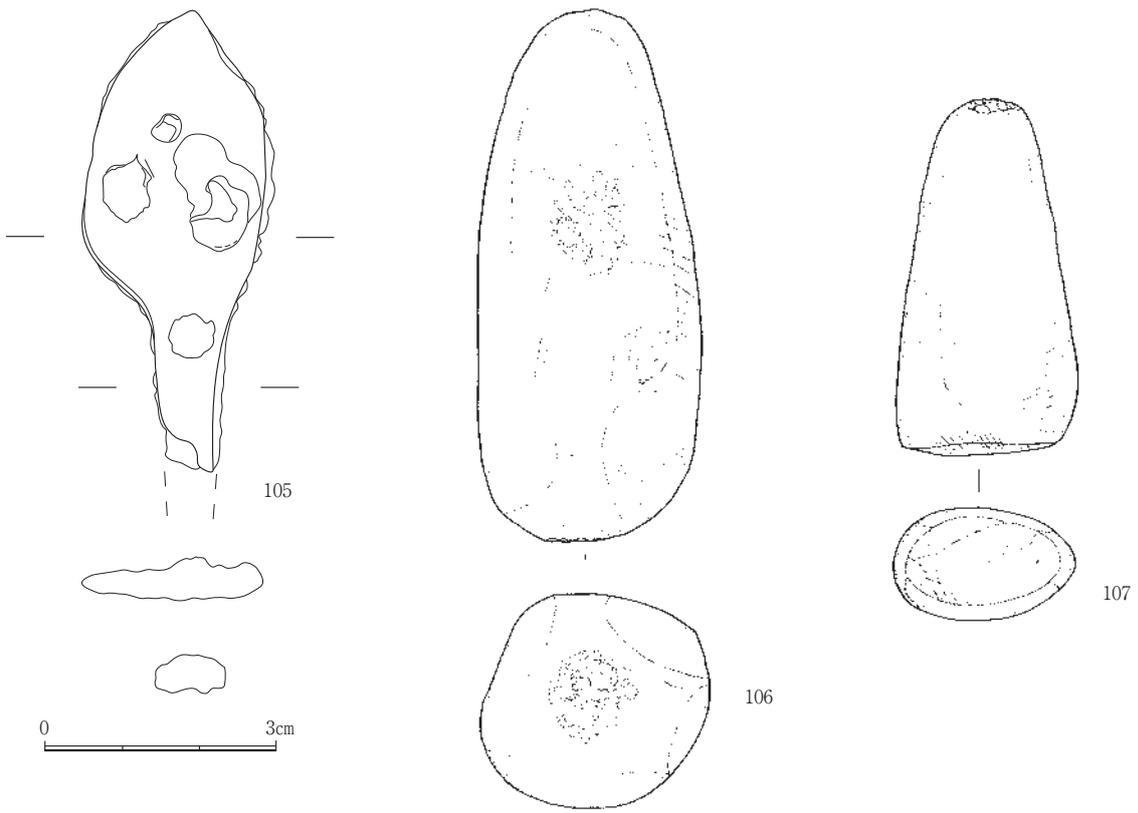
第22図 ST3出土遺物実測図2



第23図 ST3出土遺物実測図3

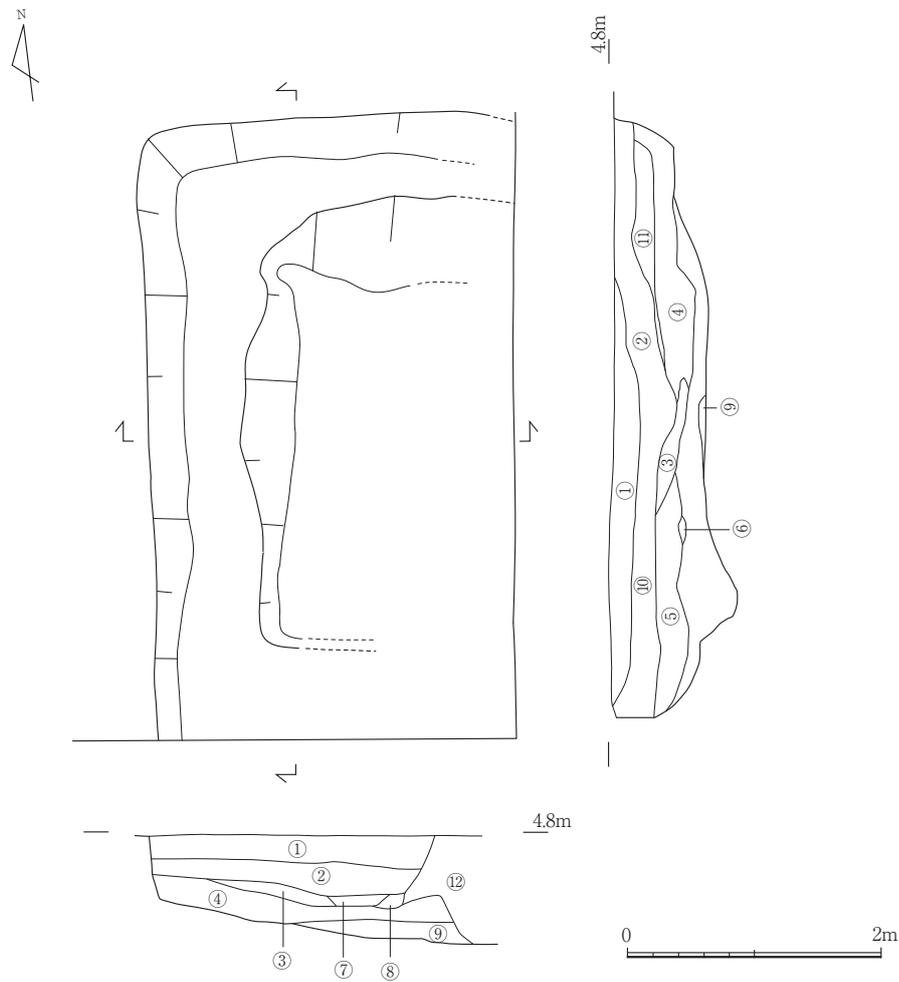


第24図 ST3・11遺物出土状況図・遺物実測図1



第25図 ST3・11遺物実測図2

であり、ST11のベッド状遺構を検出した時点でST3を切っていることが判明した。南北方向の断面観察でも、ST11の南壁の立ち上がりはきわめて不明瞭であった。規模は長軸約4.7m、短軸約3.9mの隅丸方形を呈し、検出面から床面までの深さは約0.4mを測る。床面で張り床を確認しており、中央ピット周辺では残りがよかった。ベッド状遺構は盛土により構築されており、北側は検出できていない。ベッド状遺構に使われていた土は確認していないことから、北側には存在しなかったものと推測される。床面直上で炭化材を検出した。床面で中央ピット1基とピット7基を検出した。中央ピットは床面の南に位置し、ベッド状遺構に接していた。長軸1.5m、短軸0.5mの不整長楕円形である。支柱穴はベッド内四隅に配置するパターンではP4が該当する。ベッド上に配置するパターンで



- ①黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト(直径3cm大以下の河原石をごく少量含む)
- ②にぶい黄色(2.5Y6/4)細砂混じりシルト(直径5cm大以下の河原石と直径3cm大以下の河原石をごく少量含む)
- ③黒褐色(10YR3/1)細砂(やや粘性有り)
- ④暗灰黄色(2.5Y5/2)中砂～粗砂(やや粘性有り)
- ⑤暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂混じりシルト[ST4埋土]
- ⑥黒褐色(10YR3/1)粘土
- ⑦黄灰色(2.5Y4/1)細砂混じりシルト(粘性有り)[ST4埋土]
- ⑧暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂混じりシルト[ST4埋土]
- ⑨灰黄色(2.5Y6/2)細～中砂[ST4埋土]
- ⑩暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂混じりシルト
- ⑪黄灰色(2.5Y4/1)細砂混じりシルト
- ⑫攪乱

第26図 ST4平面図・セクション図

はP3・5が該当する。また、ベッド内に2本配置するパターンではP2・7が該当する。

図示した出土遺物は小形鉢(146)と砥石(147)である。146は内外面ともナデ調整であり、ミニチュア土器の可能性がある。147は中央ピットに近接して出土した砥石である。

ST12

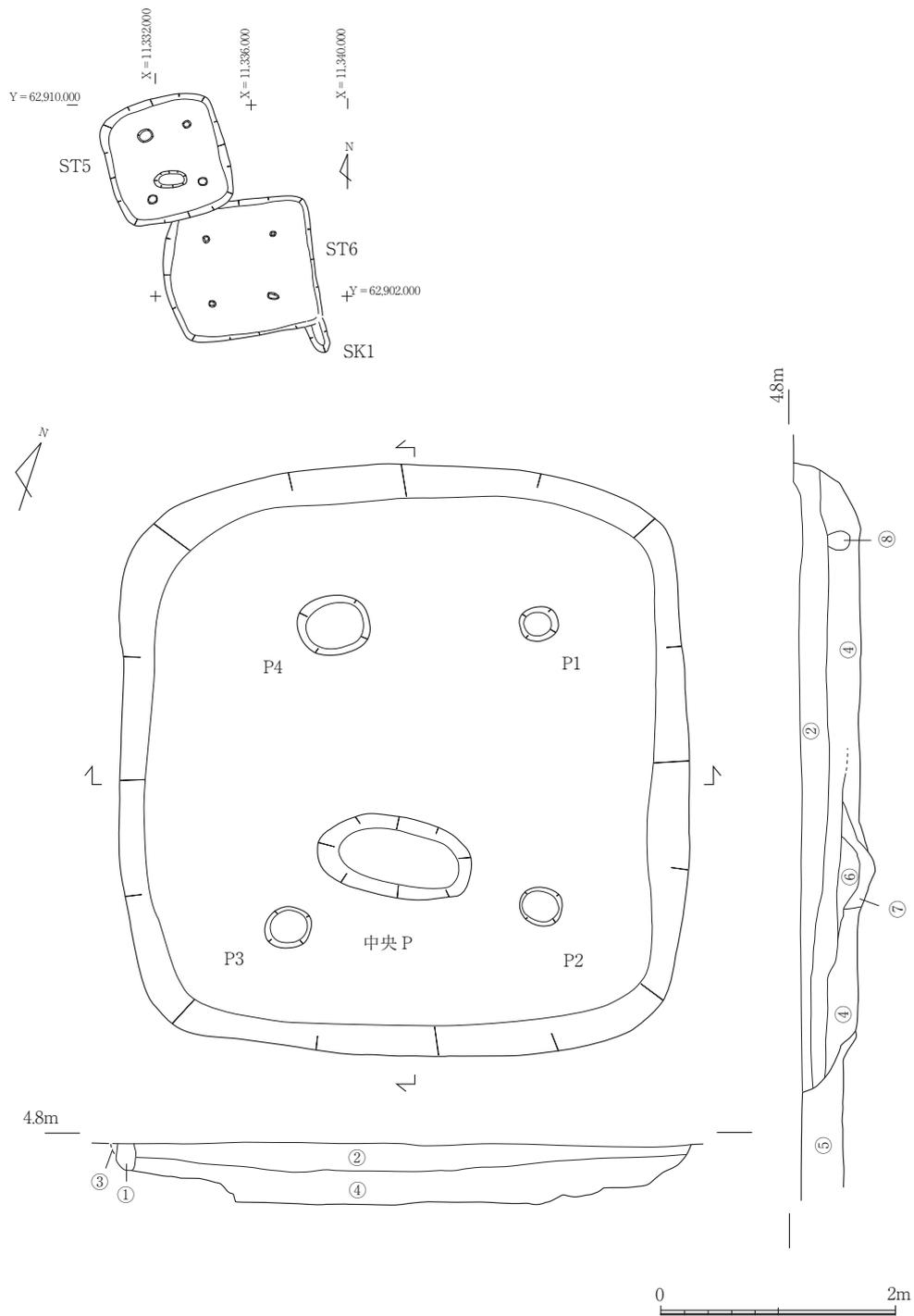
Ⅱ区の南部で検出した竪穴住居跡であり、ST17を切る。また、ST12についても検出時平面プランから2棟の竪穴住居跡が重複しているもののそれぞれの規模等を明らかにすることができなかった。両竪穴住居跡は、北東方向と南西方向に若干ずれている程度であり、大部分が重複している。中央ピットとしたものが南東部の竪穴住居跡に属し、SK1としたものが北西部の竪穴住居跡の中央ピットである。床面ではピットを4基確認しているが、P3と4は配置から北東部の竪穴住居跡のものと推測される。ベッド状遺構については、部分的には確認しているが判然としない。

図示した出土遺物は中形甕(148～150)、中形鉢(151～154)、大形鉢(155)、小形鉢(156)、小形埴(157)、高杯(158)、支脚(159)、鉄鏝(160)、砥石(161)、擦り石(164)、叩き石(162・163)である。148の体部は歪んでおり、中位がやや張る。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。底部はドーナツ状を呈する。外面は叩き目がわずかに残る部分もあるが、丁寧にナデ調整が施されている。内面はハケ調整である。搬入土器の可能性がある。中形鉢は、平底が2点、丸底が2点である。外面は叩き調整後にハケ調整あるいはナデ調整を施しており、丁寧に叩き目を消しているものが多い。内面はハケ調整のものが主体を占める。大形鉢は丸底であり体部は半球形を呈する。外面はナデ調整であり、叩き目は確認できない。小形鉢は丸みをおびた体部から直立気味に口縁部がのびる。内外面とも、ハケ調整である。157は小さな体部から口縁部が大きく外上方へのびる。ほぼ完形である。158は杯底部から脚との接合部の破片である。杯部は内外面ともミガキ調整である。胎土は均質で精良なもので作られている。159は断面台形であり、底面中央部が凹む。全体的にやや摩耗しているが、ナデ調整と考えられる。160は柳葉形の鉄鏝であり、鏝身から茎部にかけて残存していた。鏝身は細く左右非対称である。ベッド内からの出土である。161は流紋岩製の砥石であり、四面とも使用されている。162は砂岩製の擦り石である。両端に使用痕跡が認められる。また、ベンガラがうっすらと付着している。164は砂岩製の擦り石であり、一端が摩滅により平坦になる。

ST13

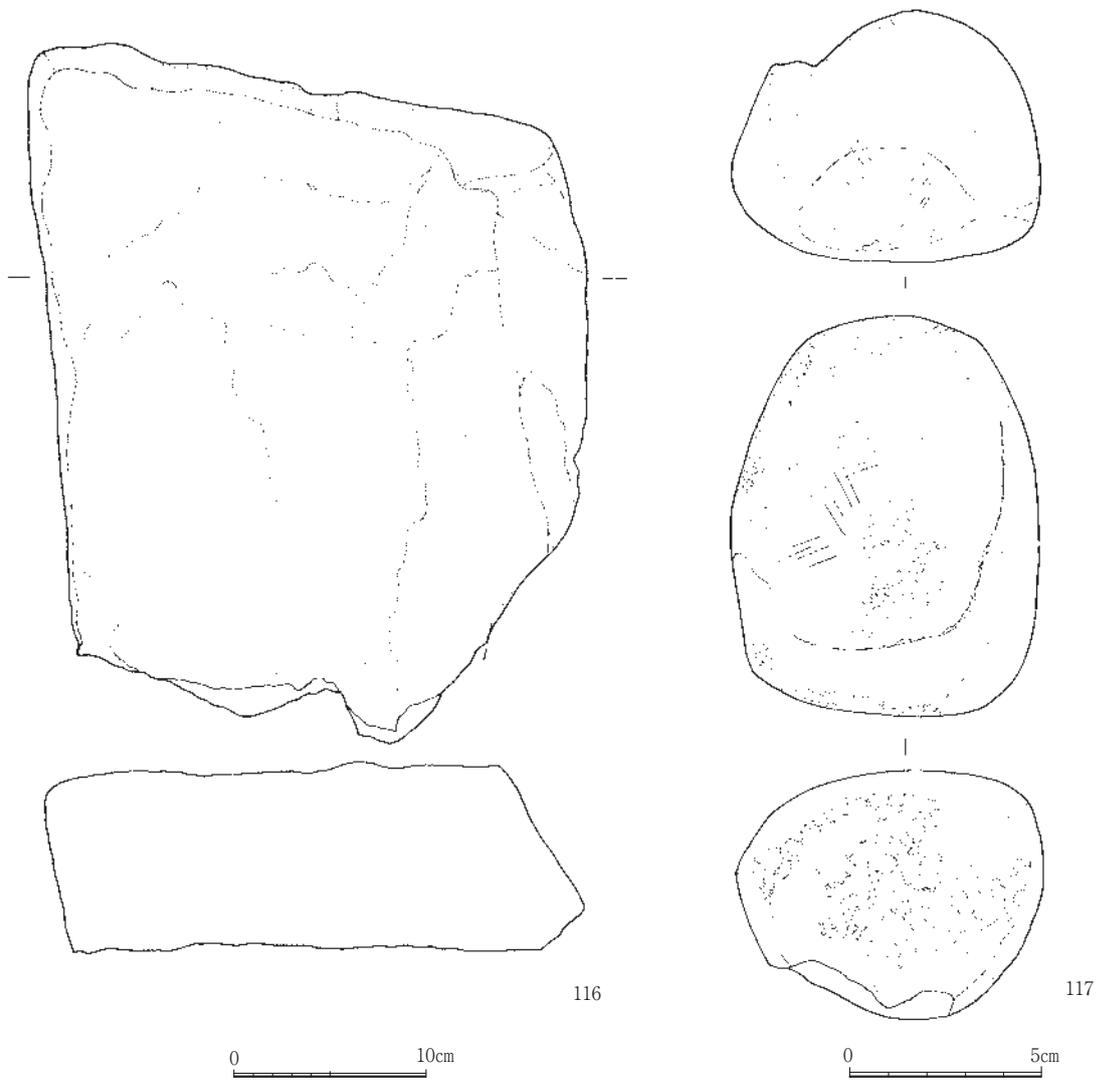
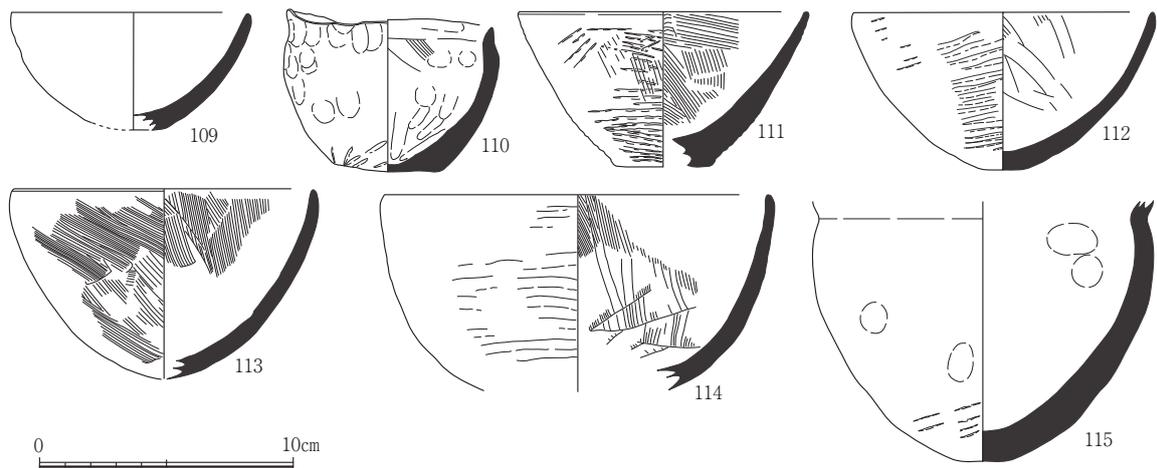
Ⅱ区の中央東側に位置し、SD21・22・25に切られているが、残存状態は良好である。規模は長軸約6.5m、短軸約5.6mの隅丸方形を呈しており、検出面から床面までの深さは約0.6mを測る。住居跡の西側でのみベッド状遺構を確認した。幅90cm、高さ30cmを測る。住居跡の埋土は灰黄褐色(10YR4/2)細砂混じりシルトである。中央ピットは検出されなかったが、床面の中央付近に厚さ2cm程度の焼土を確認した。床面から4基のピットが検出されたが、主柱穴の配置については判然としない。北東部の壁際から焼石が3点出土した。

図化した出土遺物は壺(165～169)、皿状鉢(170)、小形鉢(171・174)、中形鉢(172・173～176)、鉄鏝(177・178)、叩き石(179)、焼石(180)である。165は口唇部を下方へ拡張させ、ハケ状原体により斜格子文を施文する。168は偏球形の体部から筒状の口縁部がのびる。外面はミガキ調整である。底部



- ① 黒褐色 (10YR2/2) 細砂混じりシルト (直径 1cm 大以下の河原石を含む) (攪乱)
- ② 黒褐色 (10YR2/2) 細砂混じりシルト (直径 5cm 大の河原石～直径 3cm 大をごく少量、直径 1cm 大以下の河原石を少量含む) (ST5 埋土)
- ③ 黒褐色 (7.5YR2/2) 細砂混じりシルトと小礫混じり細砂 (ST5 埋土)
- ④ 黒褐色 (10YR2/2) 細砂 (粘性有り、直径 5cm 大の河原石～直径 3cm 大をごく少量、直径 1cm 大の河原石を少量含む) (ST5 埋土)
- ⑤ 黒褐色 (10YR2/2) 砂礫層 (ST6 埋土)
- ⑥ 黒色 (7.5YR2/1) 細砂 (粘性有り、炭化物粒をごく少量含む) (中央 P 埋土)
- ⑦ 黒褐色 (10YR2/2) 細砂 (粘性有り、炭化物粒をごく少量含む) (中央 P 埋土)
- ⑧ 黒褐色 (10YR2/2) 黒褐色 (10YR3/2) の細砂が混じる
- ⑨ 黒褐色 (10YR2/2) 細砂 (粘性有り、炭化物粒をごく少量含む) (中央 P 埋土)

第27図 ST5平面図・セクション図



第28図 ST5出土遺物実測図

は丸底であり小豆大に突出する。170は外面には多くの指頭圧痕が認められる。小形及び中形の鉢は、丸底が多く、外面の叩き目を消す傾向がみられる。177・178は鉄鏝の茎部である。177は細身の柳葉形と考えられる。

ST14

Ⅱ区の南部で検出した竪穴住居跡であり、ST17を切る。長軸3.4m、短軸3.2mの隅丸方形を呈する。床面では中央ピット、ピット2基を検出した。中央ピットは床面のほぼ中央に位置し、両脇にピットが2基配置される。床面近くで石臼(186)が出土しており、竪穴住居跡の規模等から工房的性格の建物跡であった可能性がある。

図化した出土遺物は壺(181・182)、小形鉢(183)、大形鉢(184)、石臼(186)である。181は二次口縁部が付くタイプである。二次口縁部の接合部は断面三角形を呈する。183は口縁端部を外反させる。体部は球形を呈し丸底である。184は内外面ともナデ調整であり、外面に叩き目は認められない。ほぼ完形である。186は砂岩製の石臼である。中央部が使用により、大きく凹む。

ST15

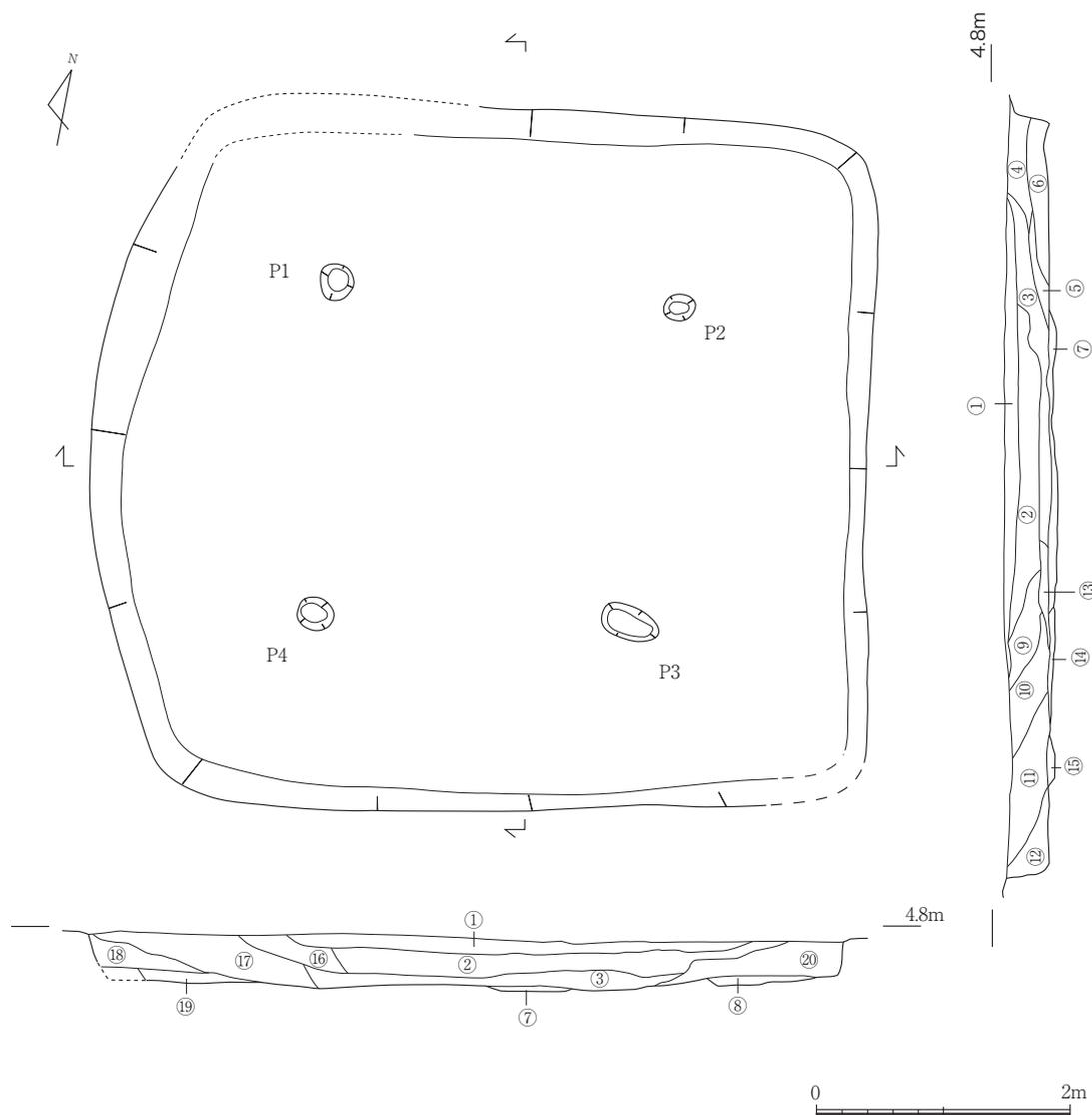
Ⅱ区の北西に位置する。規模は長軸約4.8m、短軸約3.5mの隅丸方形を呈しており、検出面から床面までの深さは約0.3mを測る。中央ピットは住居跡の中央あたりに位置し、長軸約90cm、短軸約70cmの長楕円形を呈し、深さは約10cmを測る。断面形は逆台形を呈する。ピットが2基、中央ピットの両脇で検出されており、ST14と同様の構造である。また、SD1が住居跡を3分割するように掘削されている。

図化した出土遺物は甕(187)、小形鉢(194)、中形鉢(188・189)、大形鉢(190)、ミニチュア土器(191～194)、脚付き鉢(196)、台石(197)である。ミニチュア土器は器高が高く深いもの(191・194)と口径が大きく浅いもの(192・193)に大別できる。196は脚部から杯部下半の破片である。脚部は指頭により作り出され、杯部は直線的にのびる。197は礫岩製の台石である。肉眼による観察では使用痕跡は認められない。

ST16

Ⅱ区の北東に位置し、住居跡東側が調査区外である。SD2に切られている。住居跡の規模は東西約5.2m、南北約9.0mまでを検出しており、今次調査で検出した竪穴住居跡では最大規模である。平面形は隅丸方形と推定でき、検出面から床面までの深さは約0.6mを測る。また、ベッド状遺構を確認した。幅約100cm、高さ約40cmを測る。住居跡の埋土は褐灰色(10YR5/1)細砂混じりシルトと浅黄色(2.5Y7/4)シルトが混じる。床面でピットが2基検出されており、その規模や配置から支柱穴と考えられる。

図化した出土遺物は大型壺(198・202)、甕(199～201)、大形鉢(203～207)、高杯(208)、甑(209)、鉄鏝(210)、叩き石(211)、石包丁(212)である。198は卵形の体部に直立気味の口縁部がのびる。口縁部の中程に断面三角形の突帯を付す。外面は叩き後、ハケ調整をわずかに施す。頸部は粗いハケ調整であり、突帯より上はナデ調整である。内面は粗いハケ調整である。199・200の外面には右上がりから水平方向の叩き目が見られ、ハケ目などはほとんど認められない。口縁部の形状等はそれぞれ異なる。199は「口縁叩き出し技法」である。200の口唇部は凹状を呈する。201は粗いハケ調整である。



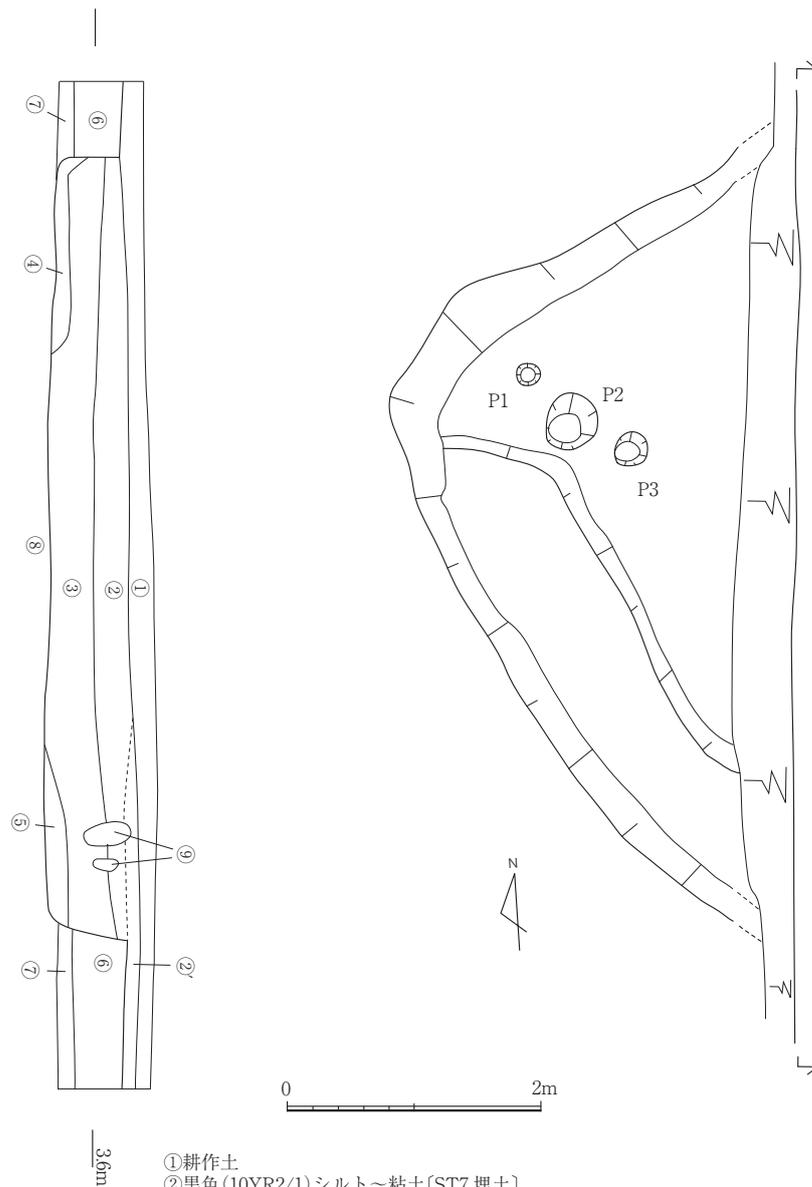
- ① 黒褐色 (10YR3/1) 中砂混じりシルト〔ST6埋土〕
- ② ①に浅黄色 (2.5Y7/4) シルト〔地山〕ブロックを含む〔ST6埋土〕
- ③ 黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト (炭化物粒をごく少量含む)〔ST6埋土〕
- ④ 黄灰色 (2.5Y4/1) 細砂混じりシルト〔ST6埋土〕
- ⑤ 黒褐色 (2.5Y3/1) 中砂混じりシルト (炭化物粒をごく少量含む)〔ST6埋土〕
- ⑥ 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 中砂混じりシルト〔ベッドか〕
- ⑦ 黒褐色 (10YR3/1) 粗砂混じりシルト (やや粘性有り、炭化物粒をやや多く含む)〔中央P周辺か〕
- ⑧ 浅黄色 (2.5Y7/4) シルトと暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルトが混じる〔ST6埋土〕
- ⑨ 黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルトに浅黄色 (2.5Y7/4) シルト (地山) ブロックを含む〔ST6埋土〕
- ⑩ 黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト (浅黄色 (2.5Y7/4) シルト (地山) ブロックをごく少量含む)〔ST6埋土〕
- ⑪ 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 細砂混じりシルト (浅黄色 (2.5Y7/4) シルト (地山) ブロックを少量含む)〔ST6埋土〕
- ⑫ 黄灰色 (2.5Y4/1) 細砂混じりシルト (浅黄色 (2.5Y7/4) シルト (地山) ブロックをごく少量含む)〔ST6埋土〕
- ⑬ 黄灰色 (2.5Y4/1) 細砂混じりシルト (浅黄色 (2.5Y7/4) シルト (地山) ブロックをごく少量含む)〔ST6埋土〕
- ⑭ 黒褐色 (10YR3/1) シルト〔ST6埋土〕
- ⑮ 褐灰色 (10YR4/1) 細砂混じりシルト〔ST6埋土〕
- ⑯ 灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂混じりシルト〔ST6埋土〕
- ⑰ にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粗砂混じりシルト〔ST6埋土〕
- ⑱ 黒褐色 (10YR3/1) と浅黄色 (2.5Y7/4) の細砂混じりシルトが混じる〔ST6埋土〕
- ⑲ 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 中砂混じりシルト〔ST6埋土〕
- ⑳ 褐灰色 (10YR4/1) 細砂混じりシルト〔ST6埋土〕

第29図 ST6平面図・セクション図

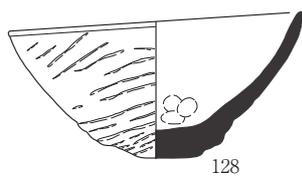
202は胴部片であり、床面の凹み内から一括して出土した。体部は球形を呈し、頸部径は約12cmである。外面は叩き調整後、粗いハケ調整である。頸部付近にはミガキ調整を施す。内面はハケ調整であるが、原体は数種類認められる。207は丸底の球形の体部から口縁部が大きく外反するタイプである。外面はハケ後、ミガキ調整を施す。内面は口縁部がハケ調整、体部がナデ調整である。煤が付着するが、破片となってから二次焼成を受けたものである。208は脚部の破片である。中空であり、裾部は水平近くにひろがる。外面はミガキ調整である。内面には絞り目が認められる。胎土は精良である。209は底部に焼成前穿孔の一部と考えられる部分が認められたことと土器の形態から甌とした。外面には太い叩き目が明瞭に残存している。内面は粗いハケ調整であり、叩きの原体とハケ目の太



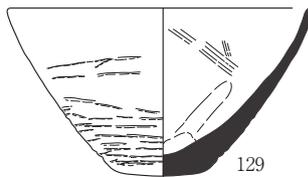
第30図 ST6出土遺物実測図



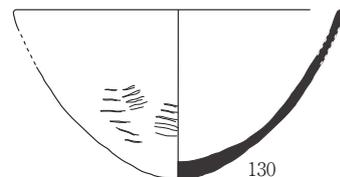
- ①耕作土
- ②黒色(10YR2/1)シルト～粘土〔ST7埋土〕
- ②'にぶい黄褐色(10YR4/3)細砂混じりシルト〔地山か〕
- ③黒褐色(10YR3/2)シルト〔ST7埋土〕
- ④黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルトと黄褐色(2.5Y5/3)細砂混じりシルトが混ざる。〔ベッド〕
- ⑤黒褐色(10YR3/2)シルト(にぶい黄色(2.5Y6/4)シルトブロック〔地山〕を少量含む)〔ベッド〕
- ⑥明黄褐色(2.5Y7/6)シルト〔地山〕
- ⑦黄褐色(2.5Y5/3)細砂〔地山〕
- ⑧砂礫層〔地山〕
- ⑨攪乱



128



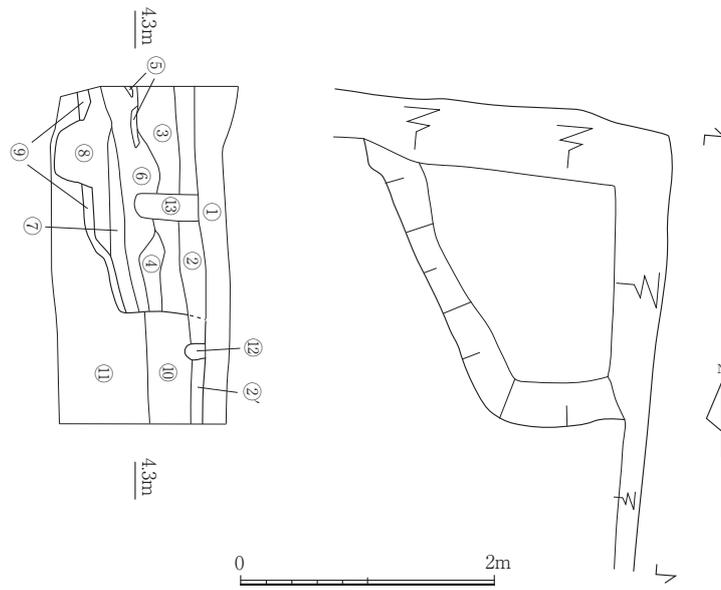
129



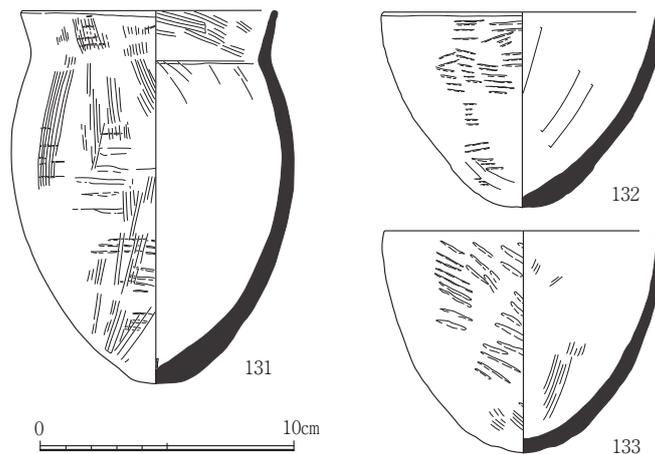
130

0 10 cm

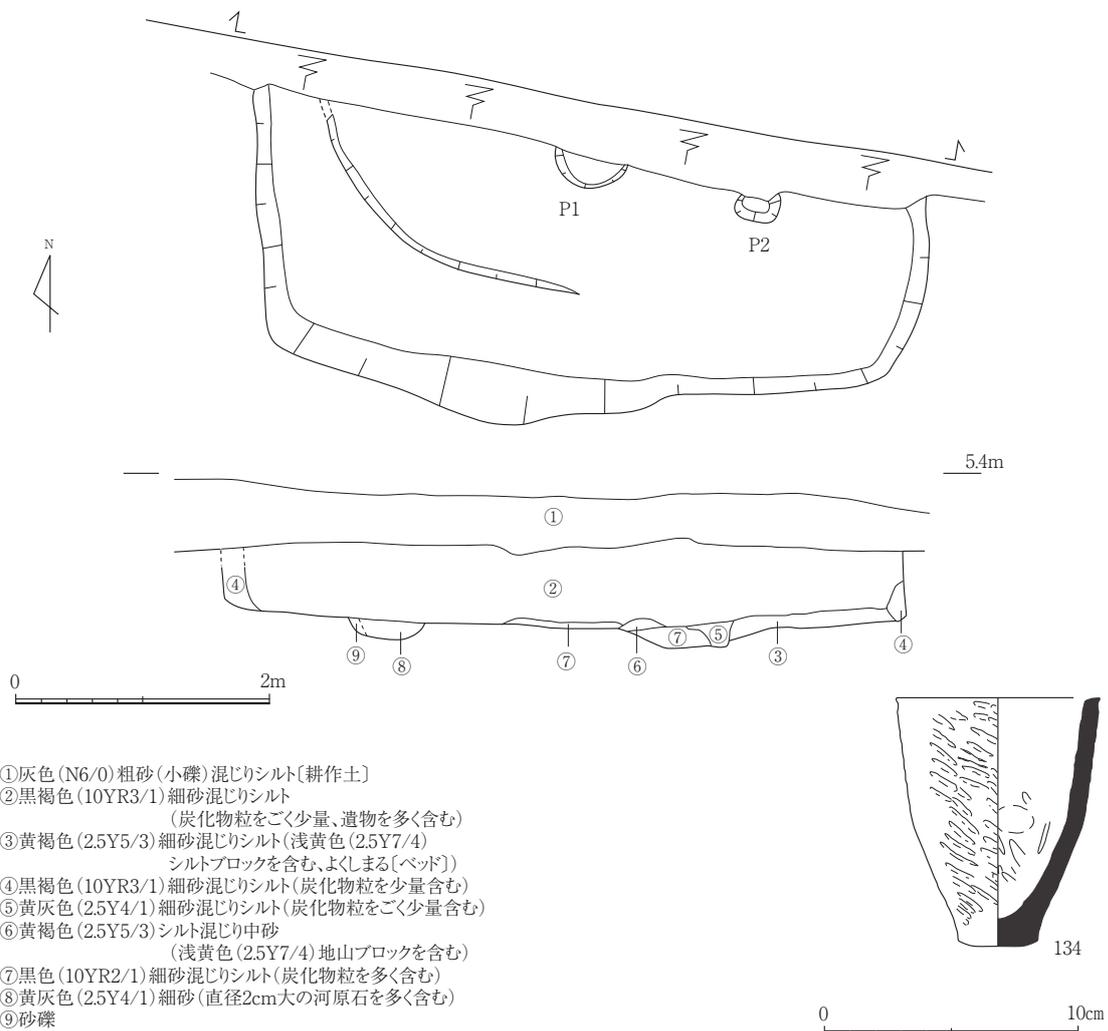
第31図 ST7平面図・セクション図・出土遺物実測図



- ①耕作土
- ②黒褐色 (10YR3/1)シルト混じり粘土
- ②'にぶい黄褐色 (10YR4/3)細砂混じりシルト
- ③灰褐色 (10YR4/2)細砂混じりシルト
- ④オリーブ褐色 (2.5Y4/3)細砂混じりシルト
- ⑤黒褐色 (10YR3/2)細砂混じり粘土
- ⑥黄褐色 (2.5Y5/3)細砂混じりシルト(明黄褐色 (2.5Y7/6)シルトブロック・炭化物を含む)
- ⑦⑥に炭化物粒を含む
- ⑧暗灰黄色 (2.5Y4/2)細砂混じりシルト(明黄褐色 (2.5Y7/6)シルトブロック、焼土を含み、炭化物をやや多く含む)
- ⑨暗灰黄色 (2.5Y5/2)中砂混じりシルト(明黄褐色 (2.5Y7/6)シルトブロックを含む)
- ⑩浅黄色 (2.5Y7/4)～明黄褐色 (2.5Y7/6)シルト
- ⑪黄褐色 (2.5Y5/3)細砂～粗砂層
- ⑫黄灰色 (2.5Y5/1)細砂混じり細砂混じりシルト
- ⑬攪乱



第32図 ST8平面図・セクション図・出土遺物実測図



第33図 ST9平面図・セクション図・出土遺物実測図

さと間隔がよく似ている。底部付近には多くの指頭圧痕が認められる。外面の口縁部付近にうっすらと煤が付着する。211は砂岩製の叩き石である。中央部と長軸の一端に敲打痕跡が認められる。212は片岩製の打製石包丁である。両面とも主要剥離面を全面に残し、両端に抉りを入れる。刃部は研磨され片刃に仕上げられている。

ST17

Ⅱ区南部で検出した竪穴住居跡である。ST12・14に切られている。平面形は円形あるいは多角形を呈していたものと推測される。東側に隅丸長方形の突出部を有する。

ST18

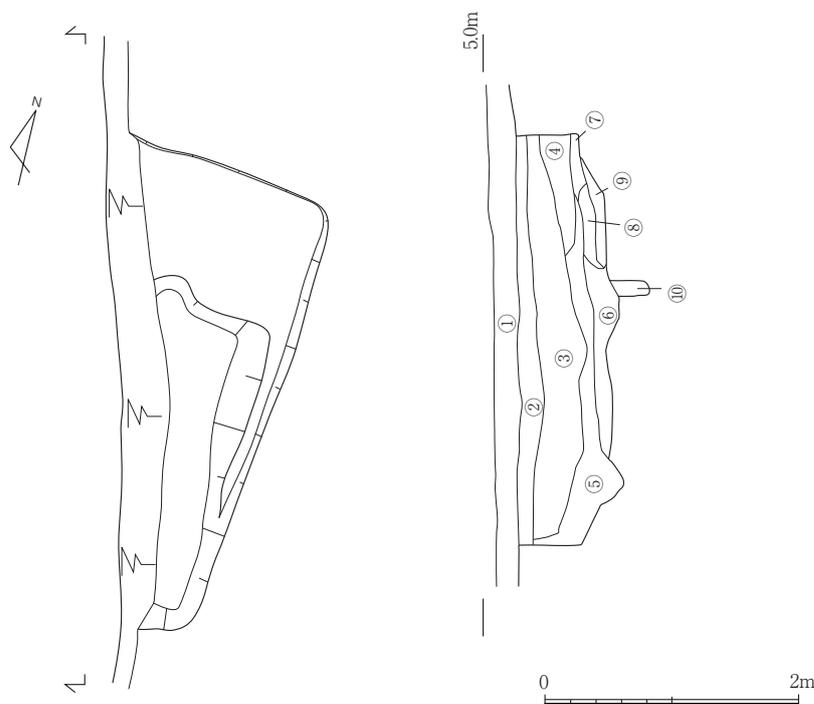
ⅢW区の北に位置する。長軸約5.0m、短軸約4.9mの隅丸方形を呈し、検出面から床面の深さは約0.6mを測る。住居跡の南に中央ピットが位置し、長軸約110cm、短軸約80cmの楕円形を呈し、検出面

からの深さは約10cmを測る。全周するベッド状遺構が確認された。幅約110cm、高さ約15cmを測る。また、床面の四隅にはSP4・SP6を含むピット4基が検出された。配置や規模から主柱穴であると考えられる。また、ベッド上にもSP2・SP3が検出された。配置や規模から貯蔵穴と考えられる。

図化した出土遺物は壺(213・214)、小形丸底壺(215)、鉢(216)である。213は口唇部を下方に拡張させ、櫛描波状文を施す。214は頸部から体部下半にかけての破片である。体部は球形を呈し、頸部は外上方へのびる。外面下半は叩き後、ハケ調整を施す。上半部は横から斜め方向のハケ調整であり、叩き目は認められない。215は偏球形の体部から頸部が外上方へのびる。外面はミガキ調整である。216は器壁が厚い。外面、叩き後ナデ調整を施す。内面はハケ調整である。

ST19

ⅢW区、ⅢM区の中央あたりに位置する。規模は一辺約6.0mの隅丸方形を呈し、検出面から床面までの深さは約0.4mを測る。中央ピットは住居跡のほぼ中央あたりに位置する。長軸約150cm、短軸約90cmの楕円形を呈し、検出面からの深さは約10cmを測る。住居跡南側にピットが2基検出された。



- ①黄灰色(2.5Y6/1)
- ②黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト[ST10埋土]
- ③褐灰色(10YR4/1)～灰黄褐色(4/2)細砂混じりシルト(浅黄色(2.5Y7/4)シルト地山ブロックをごく少量含む)(直径5cm大以下の河原石を少量含む)[ST10埋土]
- ④黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト(直径2cm大以下の河原石をごく少量含む)[ST10埋土]
- ⑤黄灰色(2.5Y4/1)細砂混じりシルト(直径3cm大以下の河原石を少量含む)[ST10埋土]
- ⑥黄灰色(2.5Y4/1)細砂混じりシルトと浅黄色(2.5Y7/4)細砂混じりシルトが混じる。細砂混じりシルト(直径3cm大以下の河原石をやや多く含む)[ST10埋土]
- ⑦暗黄褐色(2.5Y5/2)細砂混じりシルト(直径1cm大の河原石をやや多く含む)[ベッド]
- ⑧浅黄色(2.5Y7/4)細砂[ベッド]
- ⑨浅黄色(2.5Y7/4)と黄灰色(4/1)が混ざる。細砂混じりシルト[ベッド]
- ⑩褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト(やや粘性有り)[主柱穴埋土]

第34図 ST10平面図・セクション図

その規模や配置から支柱穴であると考えられる。

図化した出土遺物は壺(217)、甕(218・219)、中形鉢(220)、大形鉢(221)、高杯(223・224)、紡錘車(225)、叩き石(226)である。218の口縁部は粘土帯を継ぎ足すことで作り出され、ハケ調整を施す。体部は叩き調整後、比較的密にハケ調整を施す。219は最大径部を下半部に有する。口縁部は「叩き出し技法」で作り出され、その後ナデ・ハケ調整を施す。体部は叩き調整後底部付近にハケ調整を施す。221は金魚鉢形の体部から口縁部が外上方にのび、口唇部は強いヨコナデにより凹状を呈する。体部外面は叩き調整である。222は甕あるいは鉢の底部と考えられる。内面に水銀朱の付着が認められる。223は低脚の高杯である。脚部は短く、裾部は大きくひらき、4ヶ所に円孔を穿つ。224は高杯の杯部であり、深い鉢状を呈する。225は紡錘車で半分ほど欠損している。中央部に円孔の一部が残存している。

ST20

ⅢW区の北西に位置する。黒褐色土(SX5)が帯状に分布しており、本来はこのSX5の上面で検出しなければならなかったが、SX5として全体を掘削しながら平面プランの検出を行った。竪穴住居跡の上層に包含されていた遺物はSX5として取り上げた。また、残存していた深さも0.5mよりも深い。一辺約3.8mの隅丸方形を呈し、検出面から床面までの深さは約0.5mを測る。また、ベッド状遺構が検出された。幅約50cm、高さ約20cmを測る。ピットが7基検出されており、その規模や配置からSP4～SP7が支柱穴であると考えられる。また、SP3はその規模や配置から貯蔵穴であると考えられる。遺物は住居跡南東部のベッド直上でミニチュア土器(230)が出土した。

図化した出土遺物は小形鉢(227)、中形鉢(228)、ミニチュア土器(230)である。225は壺の底部と考えられる。外面は水平方向の叩き調整後、ハケ調整をわずかに施す。底部は急角度の叩き調整及びナデ調整により丸底とする。外底面にも叩き目が認められる。

ST21

ⅢW区の北西に位置する。ST20と同様、SX5として全体を掘削し平面プランを検出した。長軸約3.7m、短軸約3.5mの隅丸方形を呈し、検出面から床面までの深さは約0.4mである。四隅からピットが4基検出された。その規模や配置から支柱穴であると考えられる。また、住居跡の西側に壁溝が確認された。

図化した出土遺物は壺(231)、鉢(233)、底部(232)である。231は口縁部の小破片である。大きく外反し器厚を減じながら口唇部に至る。

ST22

ⅢM区のやや北よりに位置し、住居跡の西側が調査区外である。東西約2.8m、南北約3.5mまでは検出した。平面形は隅丸方形と推定でき、検出面からの深さは約0.3mを測る。中央ピットは住居跡の南側に位置する。長軸約100cm、短軸約50cmの長楕円形を呈し、検出面からの深さは約15cmを測る。中央ピットの埋土は、炭化物混じりの暗茶褐色砂質土である。ピットが3基検出され、その規模や配置から支柱穴であると考えられる。

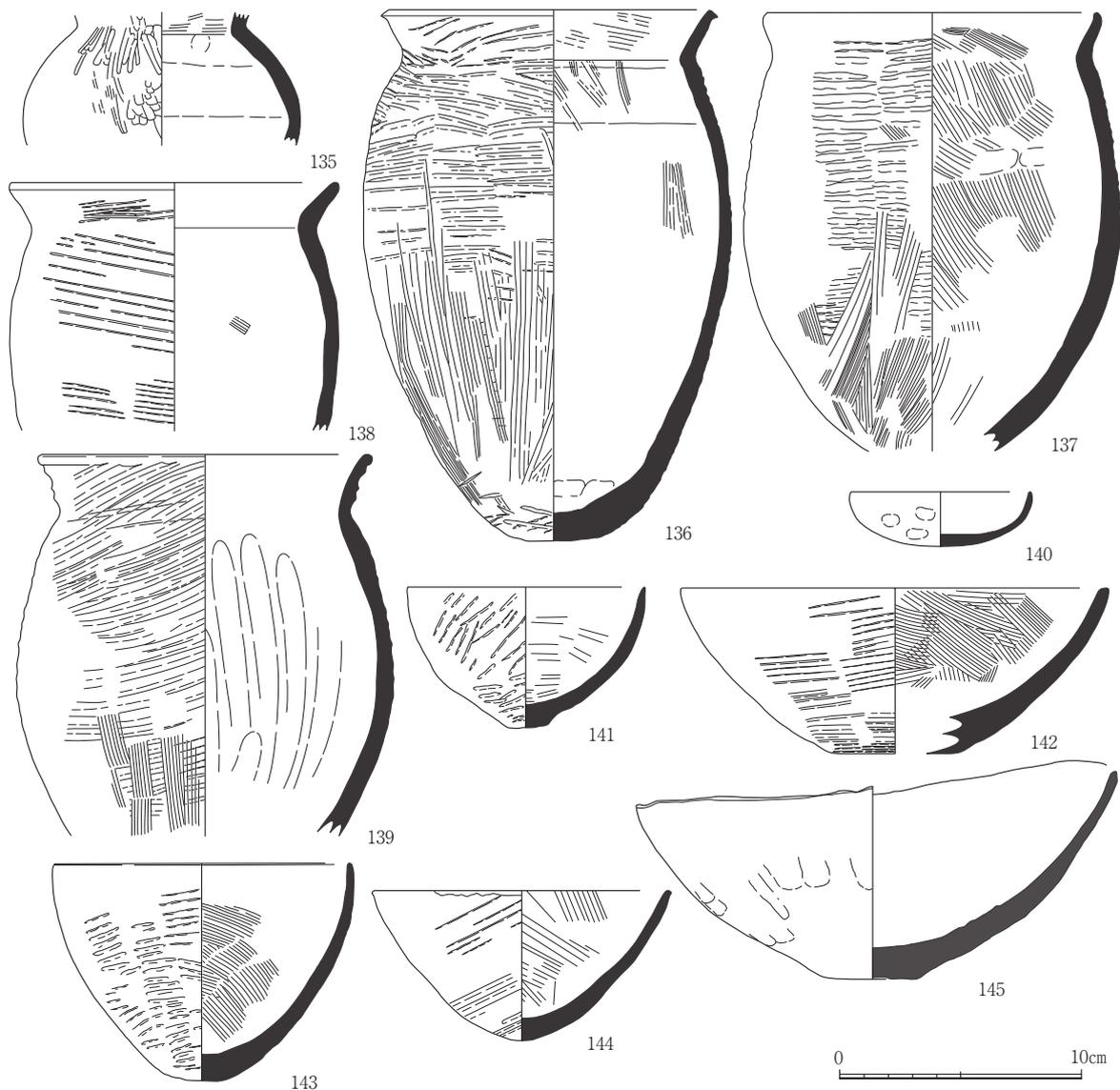
図化した出土遺物は高杯(235)、底部(234)、台石(236)である。236は中央ピット直上からの出土である。

ST23

Ⅳ区の中央からやや北西に位置する。直径約7.0mの円形を呈し、検出面から床面までの深さは約0.4mを測る。中央ピットは住居跡のやや南側に位置する。長軸約160cm、短軸約70cmの不整楕円形を呈し、検出面からの深さは約20cmを測る。断面形は舟底状を呈し、埋土はオリーブ黒色(5Y3/2)細砂混じりシルトである。住居跡から全周するベッド状遺構が検出された。幅約100cm、高さは約20cmを測る。床面からピットが5基検出された。その規模と配置から支柱穴であると考えられる。

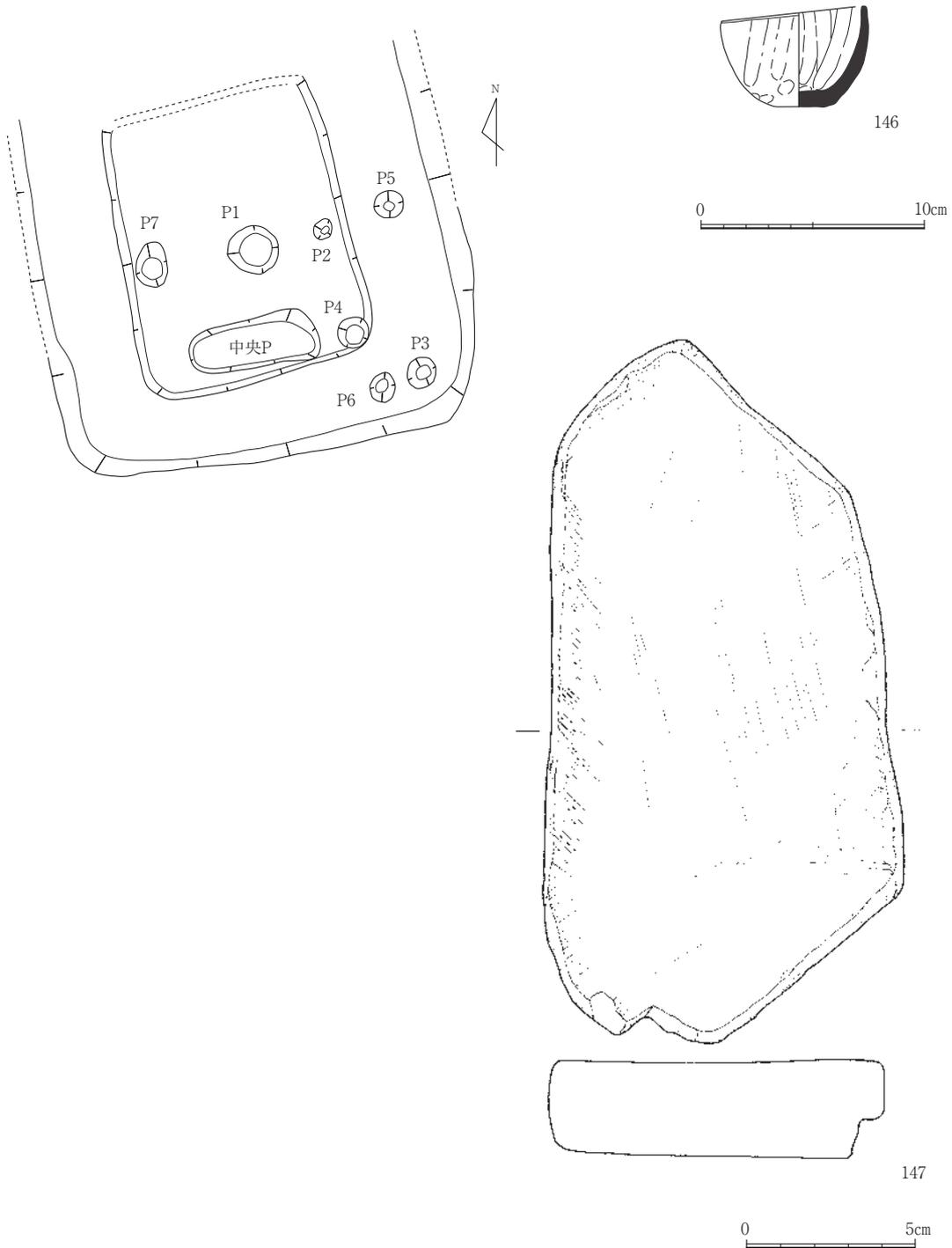
遺物は、住居跡中央部ベッド内で鉄鏟(250)が出土した。

図化した出土遺物は広口壺(237・240)、直口壺(238)、甕(241・242)、小形鉢(243)、中形鉢(244～246)、大形鉢(247・248)、支脚(249)、鉄鏟(250)である。237は外面口縁端部にも叩き目が認められる。238の体部は偏球形であり底部は尖る。頸部は筒状にのびる。239は壺体部である。底部は偏球形を



第35図 ST10出土遺物実測図

呈し、底部は丸みをおびた平底である。外面はハケ調整後ミガキ調整を施しており、叩き目はほとんど認められない。ミガキ調整は底部付近で密に施されている。頸部径は11cmである。241の口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体で面取りを行う。体部はフットボール状を呈し、本来は丸底であったと考えられるが、器壁が剥離している。体部は右下がりから水平方向の叩き調整後、下半部



第36図 ST11平面図・出土遺物実測図

に粗いハケ調整を施す。ハケ調整は下から逆「U」字形の軌跡を描く部分がある。口縁部及び内面はハケ調整である。249は支脚の脚部であり、中空である。器壁は厚く安定感がある。内面には絞り目が見られる。全体的に内傾する。煤が付着しており、使用状況を推測できる資料である。250は柳葉形の鉄鏝であり、鏝身は左右非対称である。莖部以下は欠損している。

ST24

IV区の南東に位置し、直径約7.0mの円形を呈し、検出面から床面の深さまでは約0.5mを測る。中央ピットは住居跡のやや南側に位置する。長軸約150cm、短軸約100cmの楕円形を呈し、深さは約15cmを測る。断面形は舟底状を呈し、埋土は黒色(2.5Y2/1)細砂混じりシルト～黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルト、黒色(2.5Y2/1)細砂混じりシルト、灰白色(5Y7/1)中砂と黒色(2.5Y2/1)細砂混じりシルトである。全周するベッド状遺構が検出された。幅約120cm、高さは約10cmを測る。床面からはピットが6基検出された。内、SP1～SP5はその規模や配置から支柱穴であると考えられる。

図化した出土遺物は広口壺(251)、複合口縁壺(252)、中形鉢(254・255)、砥石か(257)である。251は口唇部を下方に拡張させ櫛描波状文を施す。252は複合口縁壺の二次口縁であり、接合面から剥離している。外面に櫛描波状文を施す。255は口縁端部を外反させる。底部は小さな平底である。内外面ともハケ調整であり、叩き目は認められない。257は砂岩製であり、特に使用の痕跡は認められないが、火を受けている可能性がある。

ST25

IV区の北端に位置し、住居跡の北側が調査区外である。規模は東西約3.0m、南北約1.5mまでを検出した。平面形は円形と推定でき、検出面から床面までの深さは約0.5mを測る。住居跡の東側でベッド状遺構を検出した。幅約100cm、高さは約10cmを測る。床面からはピットが1基検出された。その規模や配置から支柱穴であると考えられる。

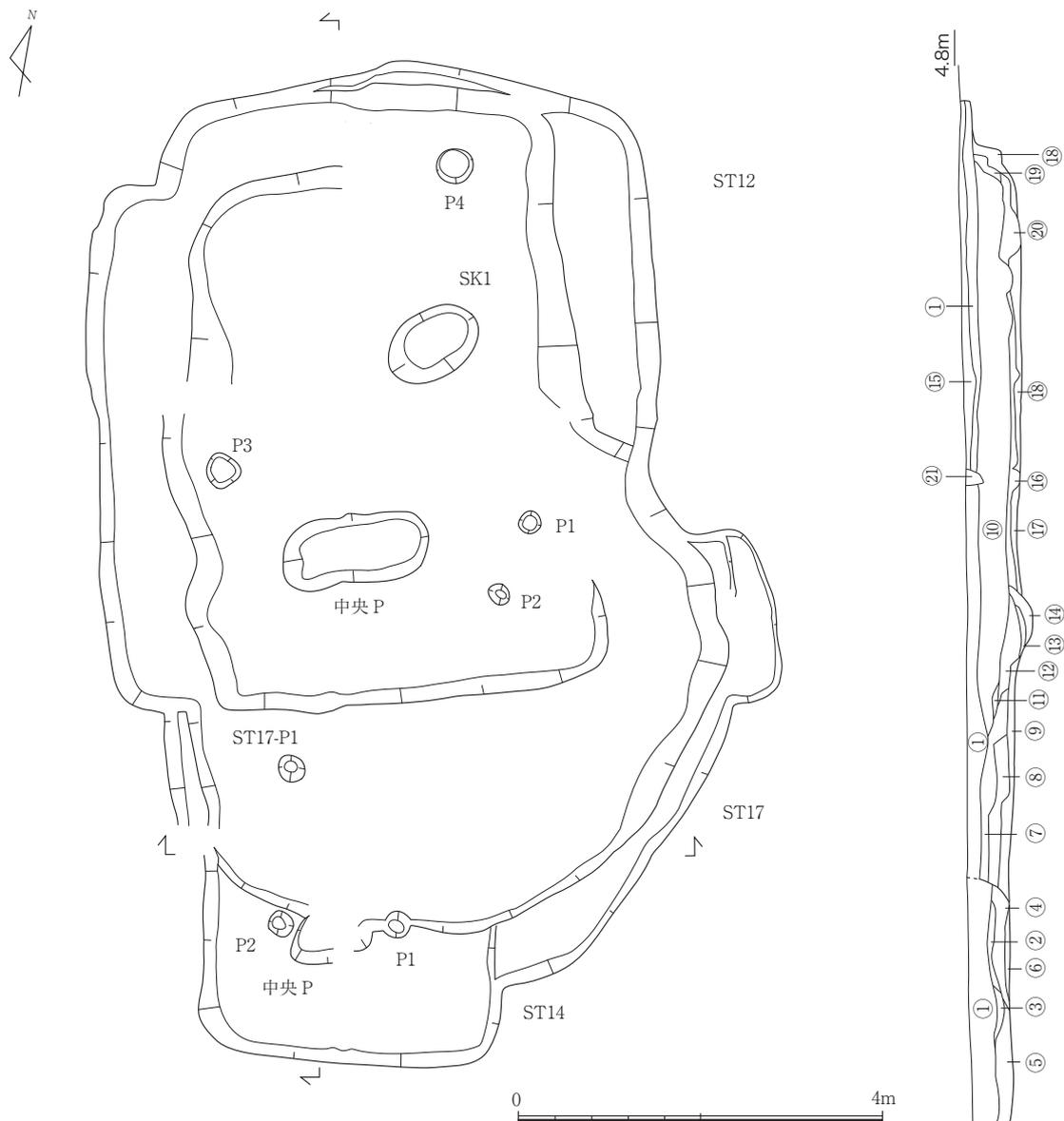
図化した出土遺物は大型鉢(258)である。口径が大きく浅い鉢で、底部はハケ調整により丸底化している。

ST26

IV区の北東に位置し、住居跡の北側が調査区外である。規模は東西約2.0m、南北約1.0mまでを検出した。平面形は隅丸方形と推定でき、検出面から床面の深さは約0.5mを測る。住居跡の東側でベッド状遺構を検出した。幅約50cm、高さは約10cmを測る。住居跡の南東隅でSK1を検出しており、直径約80cmの円形を呈し深さは約60cmである。その規模と配置から貯蔵穴であると考えられる。

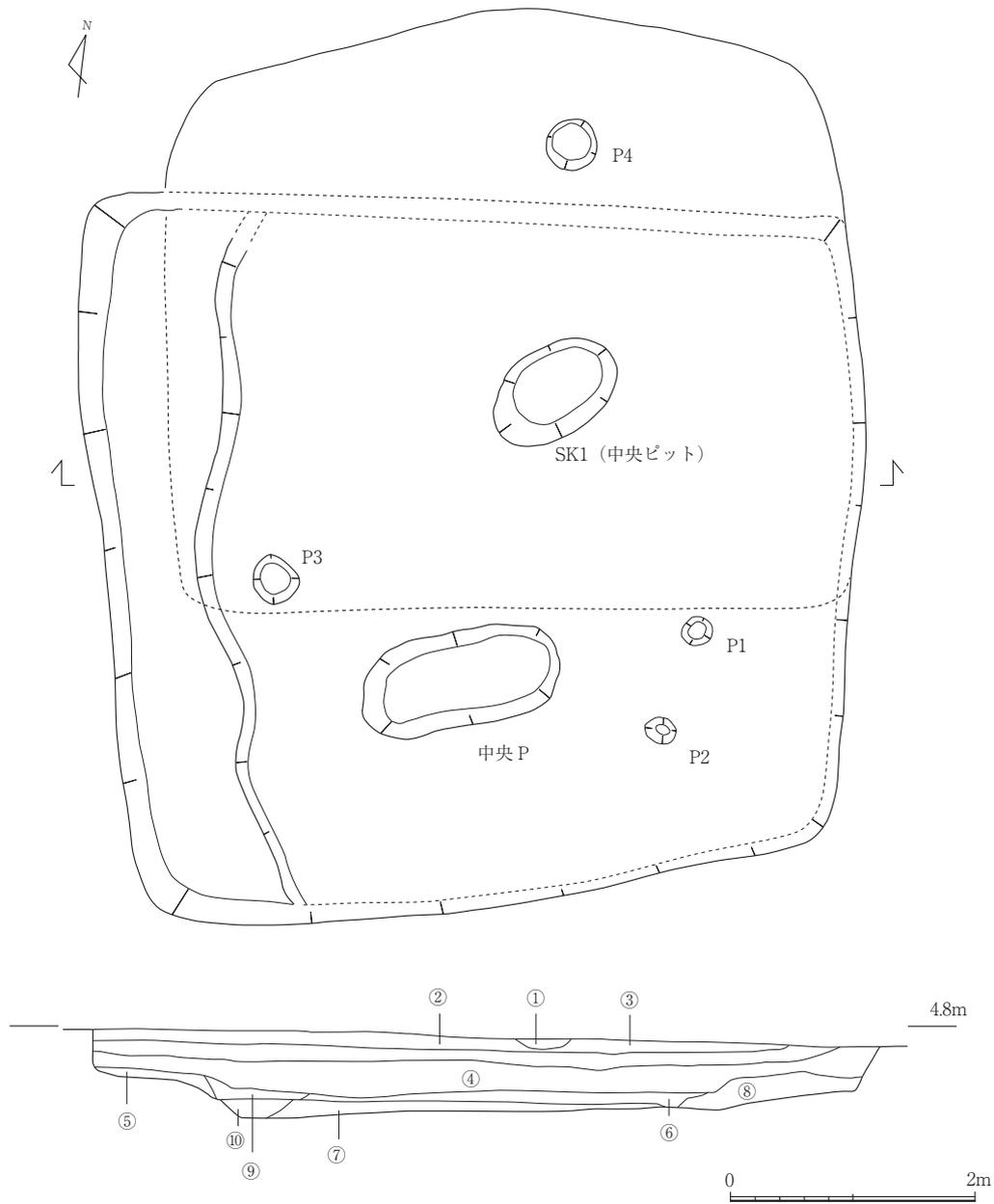
遺物は、住居跡中央部ベッド内から甕の口縁部や体部を含む土器が集中して出土した。検出面からの深さは35cmである。同じく中央部床面直上から焼土が検出された。住居跡南部の床面直上から、ほぼ完形の鉢が内面上向きの状態で出土した。また、住居跡東部のベッド直上から鉄製品が出土し、北東部ベッド直上からは土器片が集中して出土した。住居跡南東部隅のベッド上にSK1が検出され、遺構内からほぼ完形の土器が出土した。

図化した出土遺物は、複合口縁壺(259)、大型壺(260)、甕(261～267)、小形鉢(268)、中形鉢(269～271)、体部(272)、底部(273)、鉄鏝(274)である。259の一次口縁部の外上端部に二次口縁部を貼り付け、内側から粘土をナデ付け補強する。無文である。261の口縁部は粘土帯を接合することで成形し



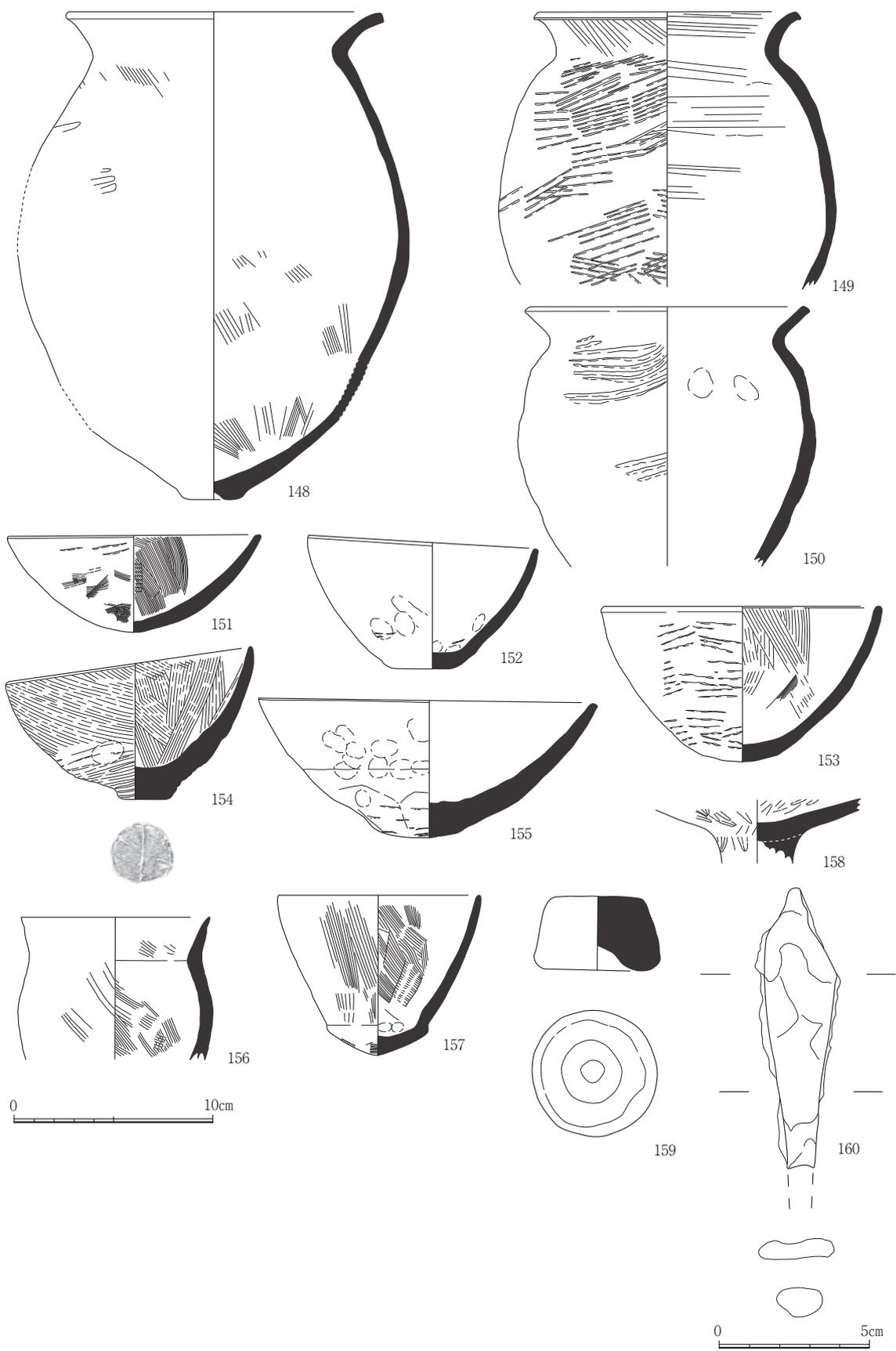
- ① 灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂混じりシルト [ST14埋土]
- ② 褐灰色 (10YR4/1) シルト [ST14埋土]
- ③ 黒色 (2.5Y2/1) 細砂混じりシルト [ST14埋土、中央P埋土]
- ④ 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 細砂混じりシルト [ST14埋土か]
- ⑤ にぶい黄色 (2.5Y6/4) 細砂 [地山]
- ⑥ にぶい黄色 (2.5Y6/4) 中砂
- ⑦ 黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト [ST12埋土]
- ⑧ 褐灰色 (10YR4/1) 細砂混じりシルト [ST12埋土]
- ⑨ 黄灰色 (2.5Y4/1) 中砂 (浅黄色 (2.5Y7/4) 細～シルト [地山] ブロックを含む [ST12ベッドか])
- ⑩ 黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト [ST12埋土]
- ⑪ 黄灰色 (2.5Y4/1) 細砂混じりシルト [ST12埋土]
- ⑫ 褐灰色 (10YR4/1) 細砂混じりシルト [ST12埋土]
- ⑬ 黒色 (2.5Y2/1) 細砂混じりシルト [中央P埋土]
- ⑭ 灰黄色 (2.5Y6/2) 中砂 [中央P]
- ⑮ 黒色 (10YR2/1) 細砂混じりシルト
- ⑯ 黒褐色 (10YR3/1)、褐灰色 (10YR4/1) 細砂混じりシルトが混じる
- ⑰ 浅黄色 (2.5Y7/4) 中砂混じりシルトと褐灰色 (10YR4/1) 細砂混じりシルトが混じる
- ⑱ 浅黄色 (2.5Y7/4) シルト [ベースか]
- ⑲ 黒色 (10YR2/1) 粘土
- ⑳ 黒色 (10YR2/1)、褐灰色 (10YR4/1)、浅黄色 (2.5Y7/4) シルトが混じる
- ㉑ 攪乱

第37図 ST12・14・17平面図・セクション図

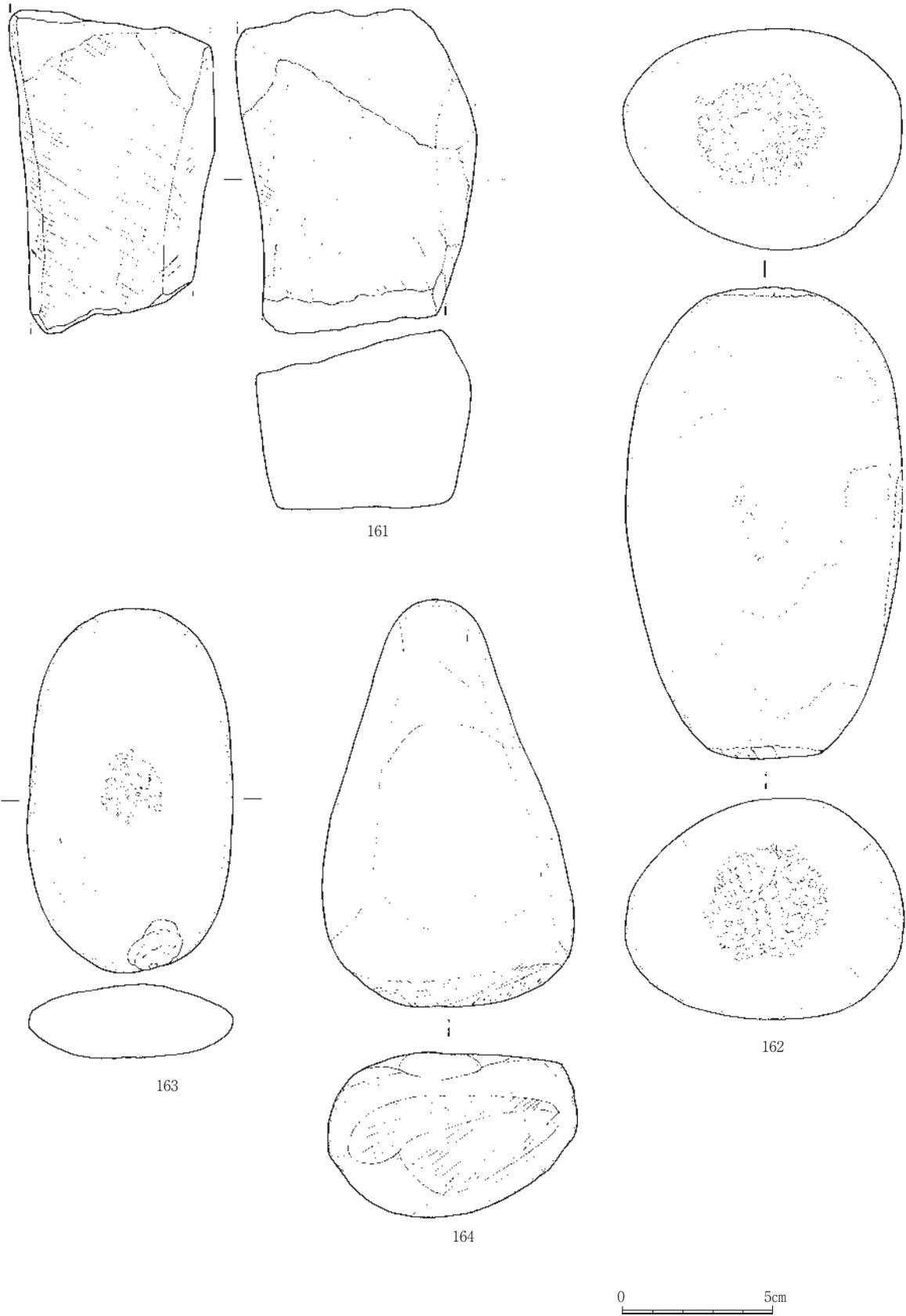


- ①黒色(10YR2/1)と褐灰色(10YR4/1)と浅黄色(2.5Y7/4)シルトが混じる
- ②灰黄褐色(10YR4/2)細砂混じりシルト[ST14埋土]
- ③暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂混じりシルト(炭化物粒を少量含む)
- ④褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト(炭化物粒を少量含む)
- ⑤暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂混じりシルト
- ⑥暗灰黄色(2.5Y5/2)中(細)混じりシルト(にぶい黄色(2.5Y6/4)シルトブロックを含む)
- ⑦黄灰色(2.5Y5/1)細砂混じりシルト
- ⑧浅黄色(2.5Y7/4)と黄灰色(2.5Y5/1)細砂混じりシルトが混じる
- ⑨浅黄色(2.5Y7/4)中砂(上層は④の影響を受ける)
- ⑩浅黄色(2.5Y7/4)中～粗砂

第38図 ST12平面図



第39図 ST12出土遺物実測図1



第40図 ST12出土遺物実測図2

叩き調整を施す。内面には口縁部の接合痕跡が明瞭に残存している。体部外面は叩き調整であり、下半部はさらにハケ調整を施す。268はやや深い体部を持ち、口縁部を外反させる。ほぼ完形である。272は小形壺の体部と考えられる。球形の体部であり、外面は叩き調整後、ハケ調整を全面に施す。内外面に煤が付着しており、付着状況から破損後に二次焼成を受けたものと推測される。274は圭頭形の鉄鏃である。木質が付着しているが、この鉄鏃に伴うものか、偶然によるものかは不明である。

SK74

ⅢE区の南に位置し、長軸約5.0m、短軸約4.5mの不整形円形を呈し、検出面からの深さは約0.5mを測る。住居跡の南側で中央ピットを検出した。規模は長軸約150cm、短軸約70cmの長楕円形を呈し、検出面からの深さは約20cmを測る。断面形は舟底状を呈し、埋土は黒色(5Y2/1)細砂である。

図化した出土遺物は、壺(275)、甕(276)、中形鉢(277)、大形鉢(278・279)、支脚(280・281)、石包丁(282)である。275は球形の体部で、口縁部は大きく外反する。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施しさらにミガキ調整を部分的に施す。内面には粘土帯接合痕跡が明瞭に残存している。また、底部に穿孔された可能性がある。280の脚部は断面楕円形の中空であり、端部を折り曲げる。2本の突起はやや斜め上方にのびるが両方とも欠損している。突起と反対側につまみを持つ。内外面ともナデ調整で作られる。281の脚部は中空で断面台形である。叩き調整を全面に施す。2本の突起はしっかりとした作りであり、斜め上方にのびる。また、反対側に小さなつまみを持つ。ほぼ完形であり、若干煤ける。282は砂岩製の打製石包丁である。一方は自然面、他方は主要剥離面を残し、両端に抉りを入れる。片刃である。

SK75

ⅢE区の南に位置し、攪乱に切られている。一辺約4.0mの隅丸方形を呈していたものと推定でき検出面からの深さは約0.4mを測る。住居跡の北側と西側でベッド状遺構を検出した。

遺物は、住居跡南西部から砥石が出土した。検出面からの深さは15cmである。

図化した出土遺物は、小形甕(283)、中形甕(284)、中形鉢(285～288)、砥石(289・291)、台石(290)である。中形鉢は286が丸底、それ以外は丸みをおびた平底である。288は口縁部を外反させるタイプであり、色調も他のものと異なる。289は流紋岩製の砥石であり、四面とも使用されている。290は砂岩製の台石と考えられる。敲打により表面が剥離している面が多い。

(2) 土坑

SK1

I区の南に位置し、ST6が切る。平面形は不整形を呈しており、規模は長軸1.4m、短軸は0.8mまで測量した。検出面からの深さは0.4mを測る。床面は平坦で断面形は逆台形であり、埋土は黒褐色(7.5YR2/1)細砂混じりシルトである。検出面の遺構中央あたりで土器の集中状態が見られた。検出面からの深さは5cmである。

図化した出土遺物は、底部(292)である。壺の底部と考えられ、器壁の厚い丸底である。

SK2

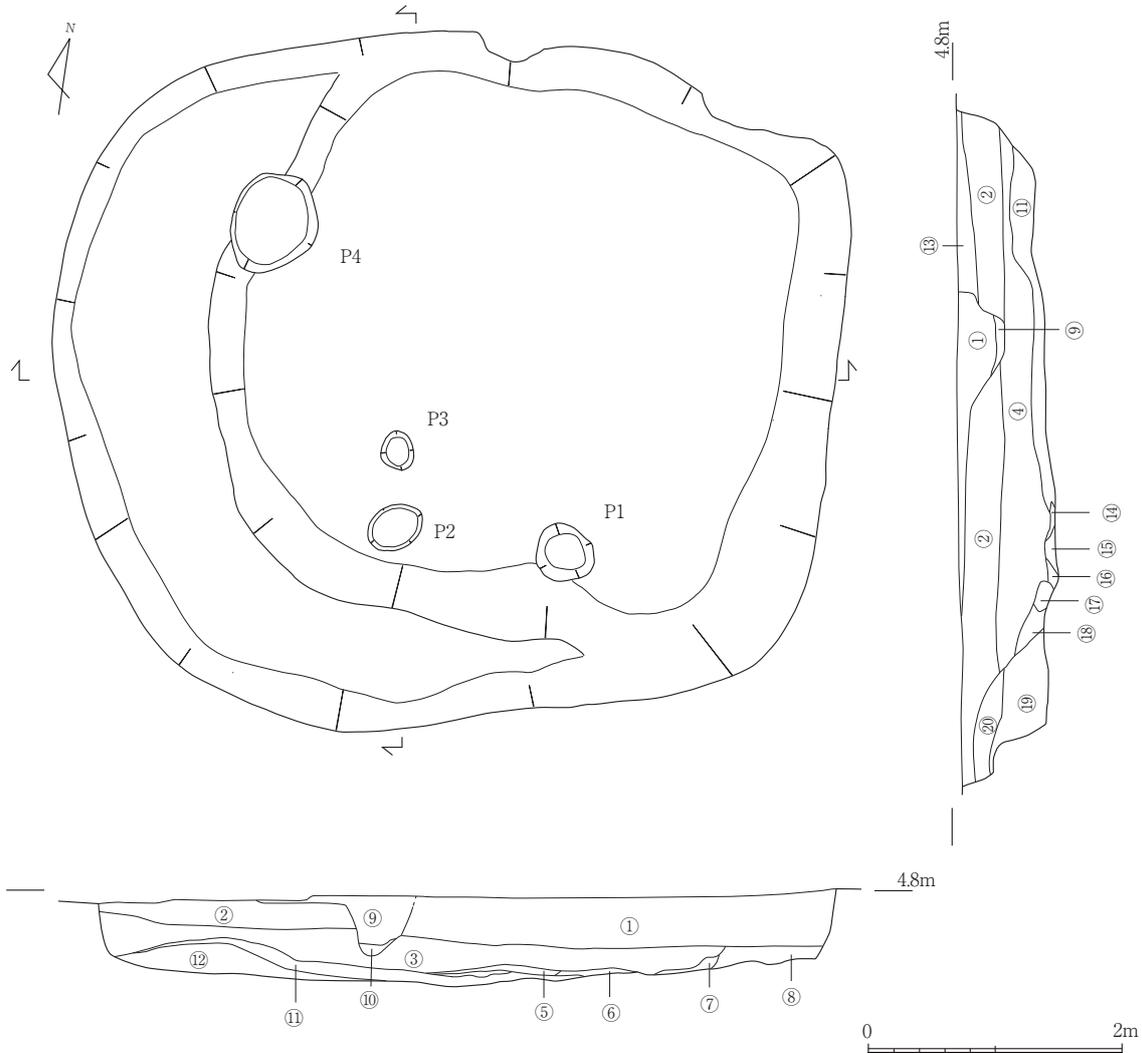
I区の東部に位置する。平面形は不正円形を呈し、長軸1.3m、短軸0.9m、検出面からの深さは

10 cmを測る。断面形は皿状を呈する。

図化した出土遺物は、中形鉢(293)である。

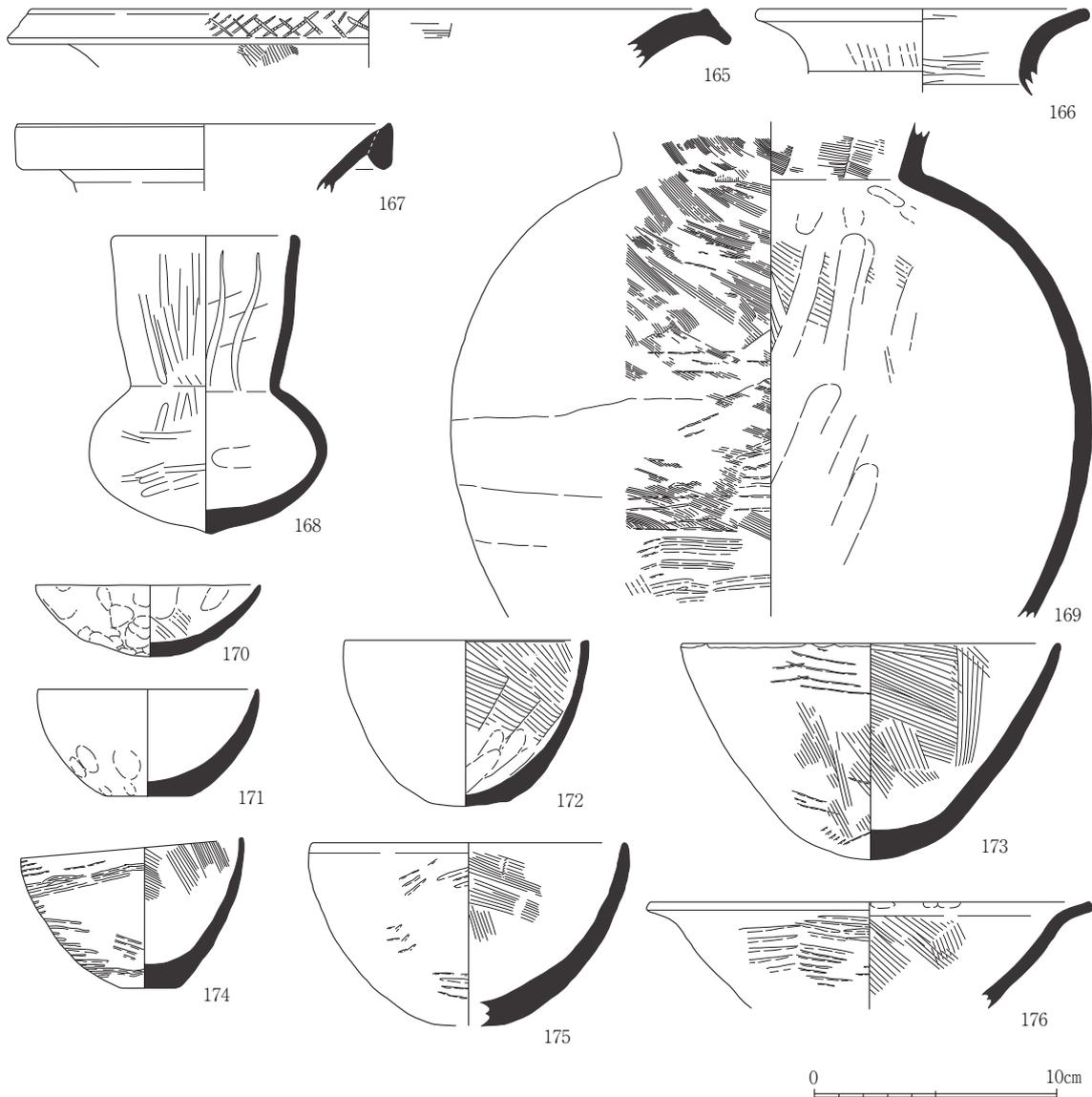
SK3

I区の南部に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸0.6m、短軸0.3m、検出面からの深さは



- ①にぶい黄褐色(10YR4/3)細砂混じりシルト
- ②灰黄褐色(10YR4/2)細砂混じりシルト
- ③灰黄褐色(10YR4/2)細砂混じりシルト
- ④灰黄褐色(10YR4/2)細砂混じりシルト
- ⑤黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト
- ⑥褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト
- ⑦暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト混じり細砂
- ⑧黄褐色(2.5Y5/3)と暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂混じりシルトが混じる
- ⑨黒褐色(10YR3/1)シルト
- ⑩にぶい黄褐色(10YR5/3)細砂混じりシルト
- ⑪褐灰色(10YR4/1)とにぶい黄色(2.5Y6/3)が混じる
- ⑫褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルトとにぶい黄色(2.5Y6/3)細砂混じりシルトが混じる(炭化物を少量含む)
- ⑬灰黄褐色(10YR4/2)～褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト
- ⑭黒色(N2/0)炭化物層[中央P]
- ⑮浅黄色(2.5Y7/3)粗砂[ベースカ]
- ⑯黄灰色(2.5Y5/1)細砂混じりシルト
- ⑰褐灰色(5YR5/1)粘土
- ⑱黄灰色(2.5Y5/1)～にぶい黄色(2.5Y6/3)細砂
- ⑲浅黄色(2.5Y7/3)と黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトが混じる
- ⑳灰黄色(2.5Y6/2)と黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトが混じる

第41図 ST13平面図・セクション図



第42図 ST13出土遺物実測図1

6 cmを測る。

出土遺物のなかで、図化したものはない。

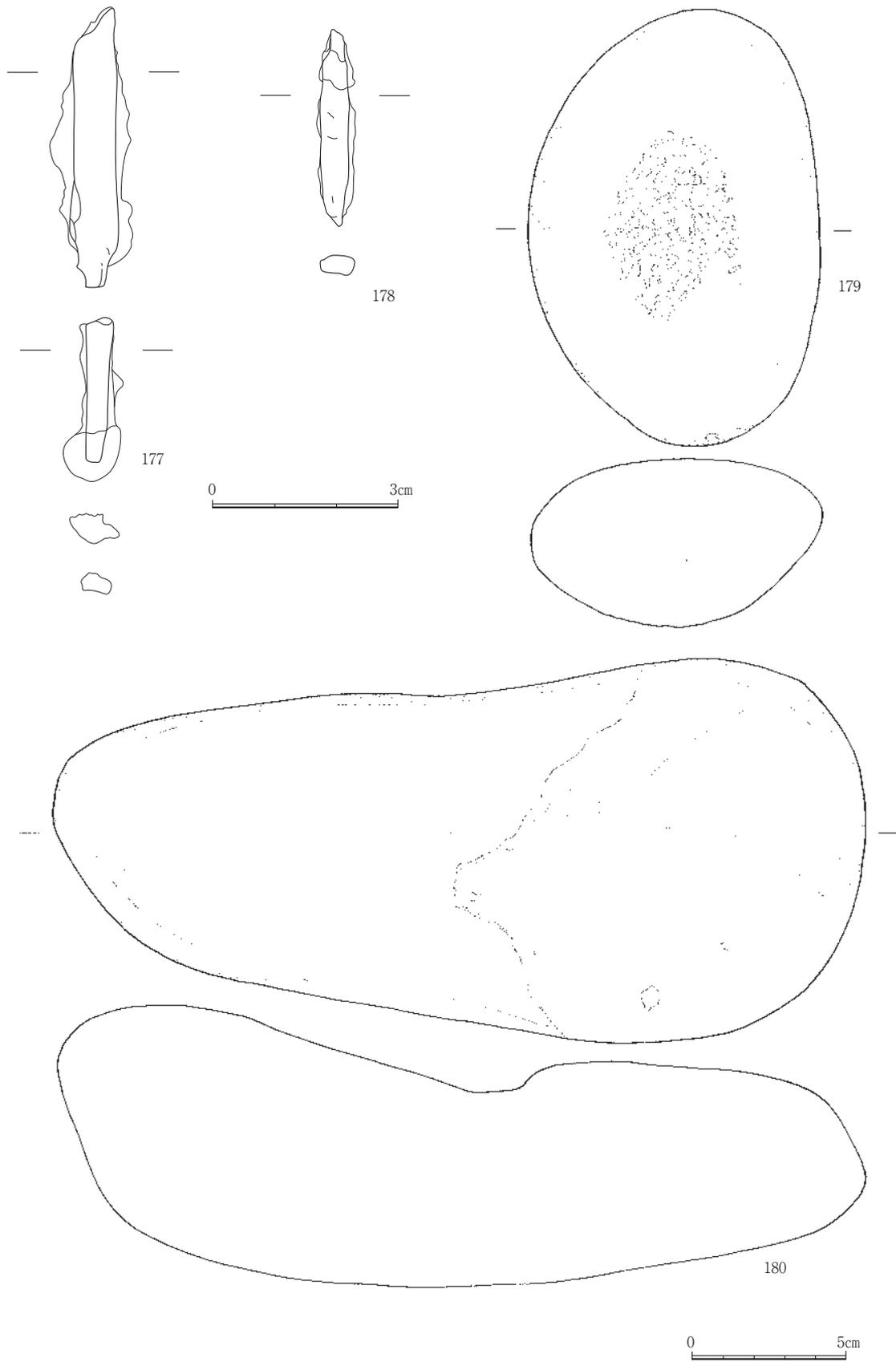
SK4

I区の中央部東側に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸 0.5m、短軸 0.1m、検出面からの深さは 15 cmを測る。断面形は皿状であり、埋土はにぶい黄褐色（10YR4/3）細砂混じりシルトである。

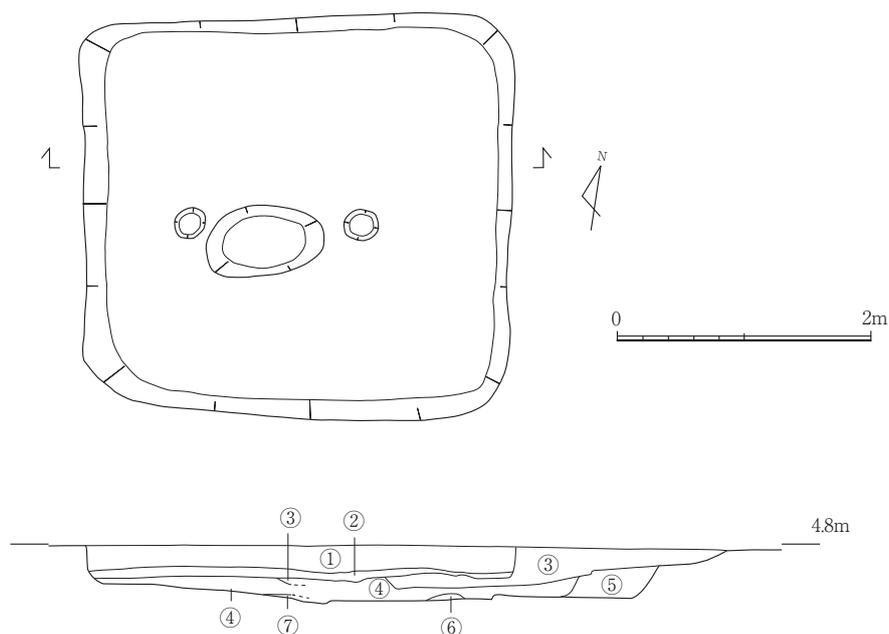
図化した出土遺物は、甕(294)である。

SK5

I区の北東部に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸 1.5m、短軸 0.8m、検出面からの深さは 0.2m を測る。断面形は逆台形であり、埋土は黒褐色（10YR3/1）細砂混じりシルトである。



第43図 ST13出土遺物実測図2



- ① 灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂混じりシルト (炭化物粒を含む) [ST14 埋土]
- ② 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト (炭化物粒をごく少量含む) [ST14 埋土]
- ③ 灰黄褐色 (10YR5/2) 細砂混じりシルト [ST17 埋土]
- ④ 暗灰黄色 (2.5Y5/2)、浅黄色 (2.5Y7/4) 細砂 [ST17 埋土]
- ⑤ 黒褐色 (10YR3/1) シルト粘土と浅黄色 (2.5Y7/4) 黄褐色 (2.5Y5/3) と細砂混じりシルト [ST17 埋土]
- ⑥ 浅黄色 (2.5Y7/4) 細砂 [ST17 埋土]
- ⑦ 浅黄色 (2.5Y7/4) 細砂細砂混じりシルト [ST17 埋土]

第44図 ST14平面図

図化した出土遺物は、大形鉢(295)である。

SK6

I 区の北東部に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸 1.5m、短軸 0.8m、検出面からの深さは 0.1m を測る。断面形は舟底状であり、埋土は①黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト、②①と地山浅黄色 (2.5Y7/4) シルトである。

出土遺物のなかで、図化したものはない。

SK7

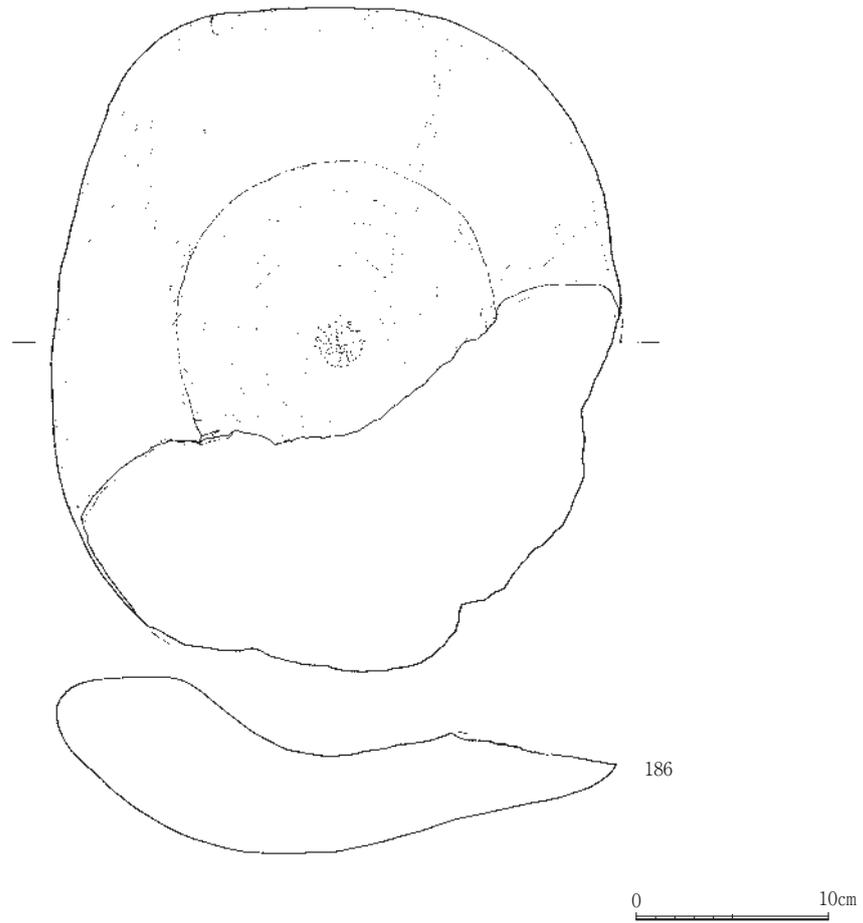
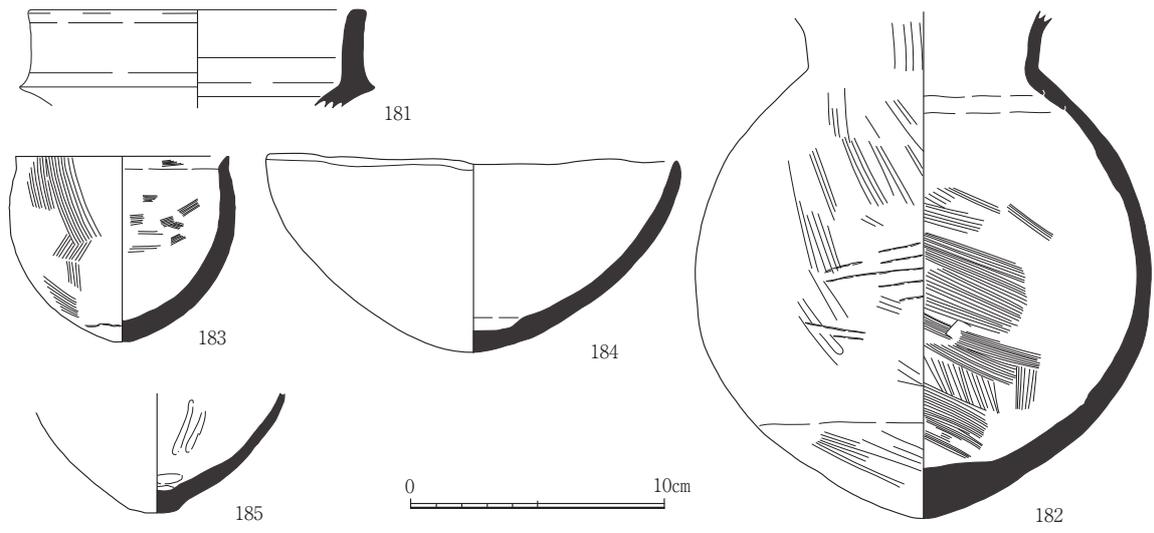
I 区の中央部東側に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸 1.1m、短軸 0.5m、検出面からの深さは 0.1m を測る。断面形は箱形であり、埋土は黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルトである。

出土遺物のなかで、図化したものはない。

SK8

I 区の北東部に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸 1.3m、短軸 0.7m、検出面からの深さは 0.3m を測る。断面形は舟底状であり、埋土は黒褐色 (10YR3/1) シルトである。

図化した出土遺物は、大形鉢(296)である。



第45図 ST14出土遺物実測図

SK9

I 区の中央部西側に位置する。平面形は不整長楕円形を呈し、長軸 1.3m、短軸 0.4m、検出面からの深さは 0.1m を測る。断面形は逆台形であり、埋土は W 側黒褐色 (10YR3/1) シルト、E 側にぶい黄色 (2.5Y6/4) シルトである。

出土遺物のなかで、図化したものはない。

SK10

I 区の中央部に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸 8.5m、短軸 0.5m、検出面からの深さは 0.5m を測る。断面形は舟底状であり、埋土は①にぶい黄色 (2.5Y6/4) 細砂混じりシルト、②黒褐色 (10YR3/1) シルト、③灰色 (N6/0) 細砂混じり粘土である。

出土遺物のなかで、図化したものはない。

SK11

I 区の中央部に位置する。平面形は不正円形を呈し、長軸 1.3m、短軸 0.5m、検出面からの深さは 0.3m を測る。断面形は逆台形であり、埋土は①黒褐色 (10YR3/1) シルト、②黒褐色 (2.5Y3/2) シルトである。

図化した出土遺物は、大形鉢 (297) である。

SK12

I 区の東部に位置する。平面形は不整形を呈し、長軸 1.3m、短軸 0.5m、検出面からの深さは 15 cm を測る。

SK13

I 区の西部に位置する。平面形は逆台形を呈し、長軸 2.5m・短軸 1.8m・検出面からの深さは 0.3m を測る。断面形は逆台形であり、埋土は灰色 (N4/0) 細砂混じりシルトである。

SK14

I 区の西部に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸 1.5m、短軸 0.7m、検出面からの深さは 0.4m を測る。断面形は舟底状であり、埋土は黒色 (10YR1.7/1) 細砂混じりシルトである。

SK15

I 区の西部に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸 0.8m、短軸 0.4m、検出面からの深さは 15 cm を測る。断面形は舟底状であり、埋土は黒褐色 (10YR3/2) 細砂混じりシルトである。

SK16

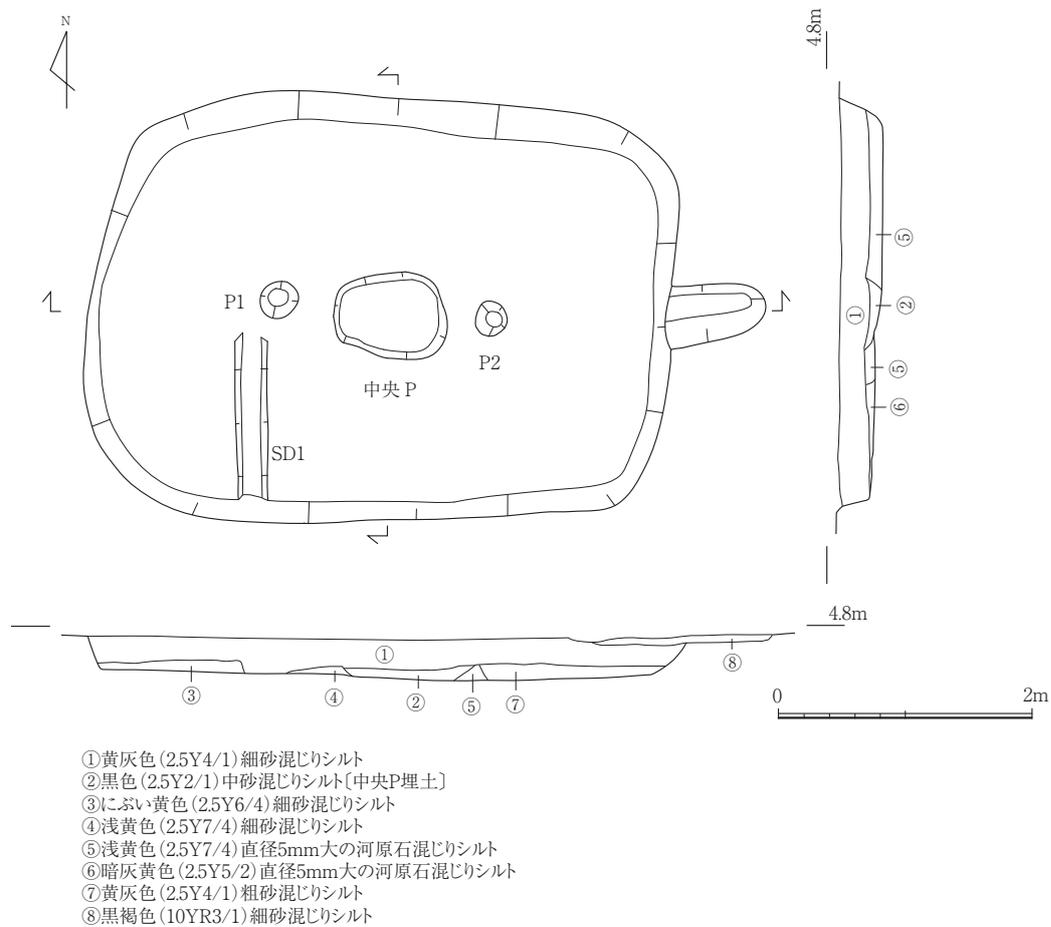
I 区の中央部に位置する。平面形は不整円形を呈し、長軸 0.5m、短軸 0.4m、検出面からの深さは 0.2m を測る。断面形は舟底状であり、埋土は黒褐色 (10YR2/2) 細砂混じりシルトである。

SK17

I 区の中央部に位置する。平面形は不整形を呈し、長軸 0.6m、短軸 0.4m、検出面からの深さは 0.1m を測る。断面形は逆台形であり、埋土は暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂混じりシルトである。

SK18

I 区の中央部北側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.9m、短軸 0.6m、検出面からの深さは 0.2m を測る。断面形は舟底状であり、埋土は黒褐色 (2.5Y3/1) 細砂混じりシルトである。



第46図 ST15平面図・セクション図

SK19

I 区の北東部に位置する。平面形は円形を呈し、長軸 0.6m、短軸 0.5m、検出面からの深さは 5 cmを測る。

SK20

I 区の南西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.9m、短軸 0.6m、検出面からの深さは 0.1mを測る。

SK21

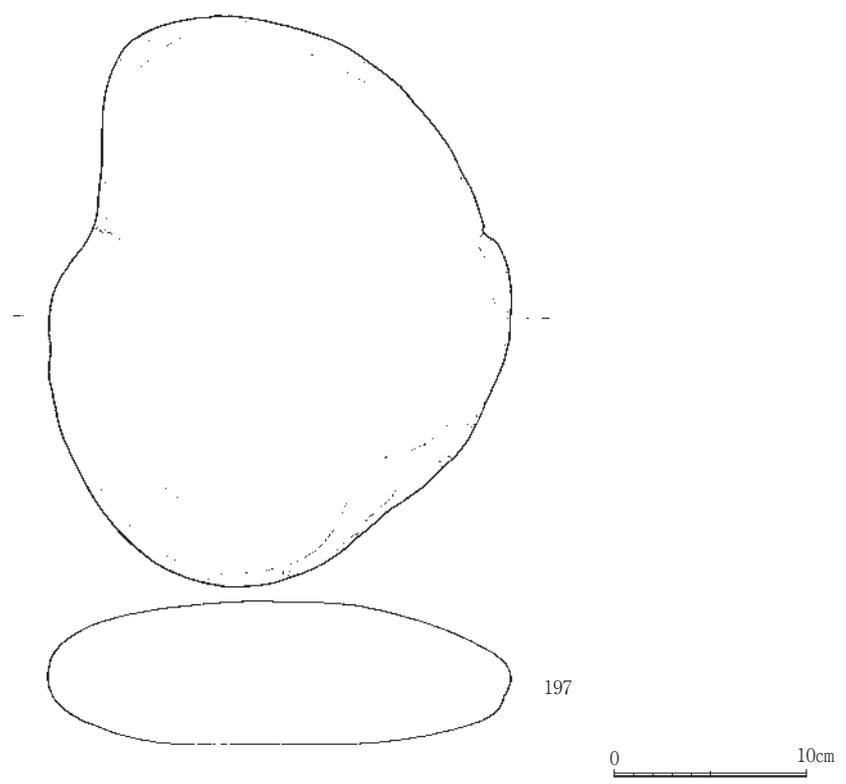
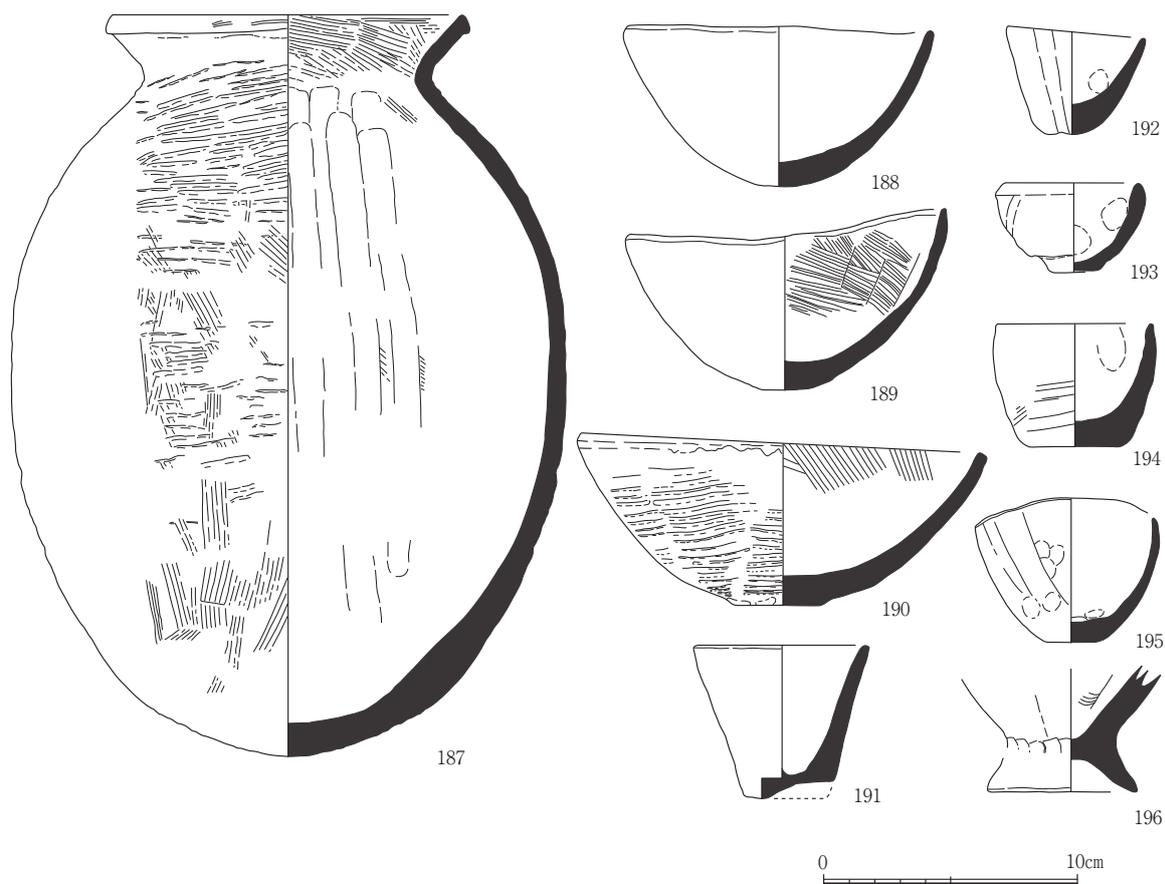
I 区の南西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.7m、短軸 0.5m、検出面からの深さは 5 cmを測る。

SK22

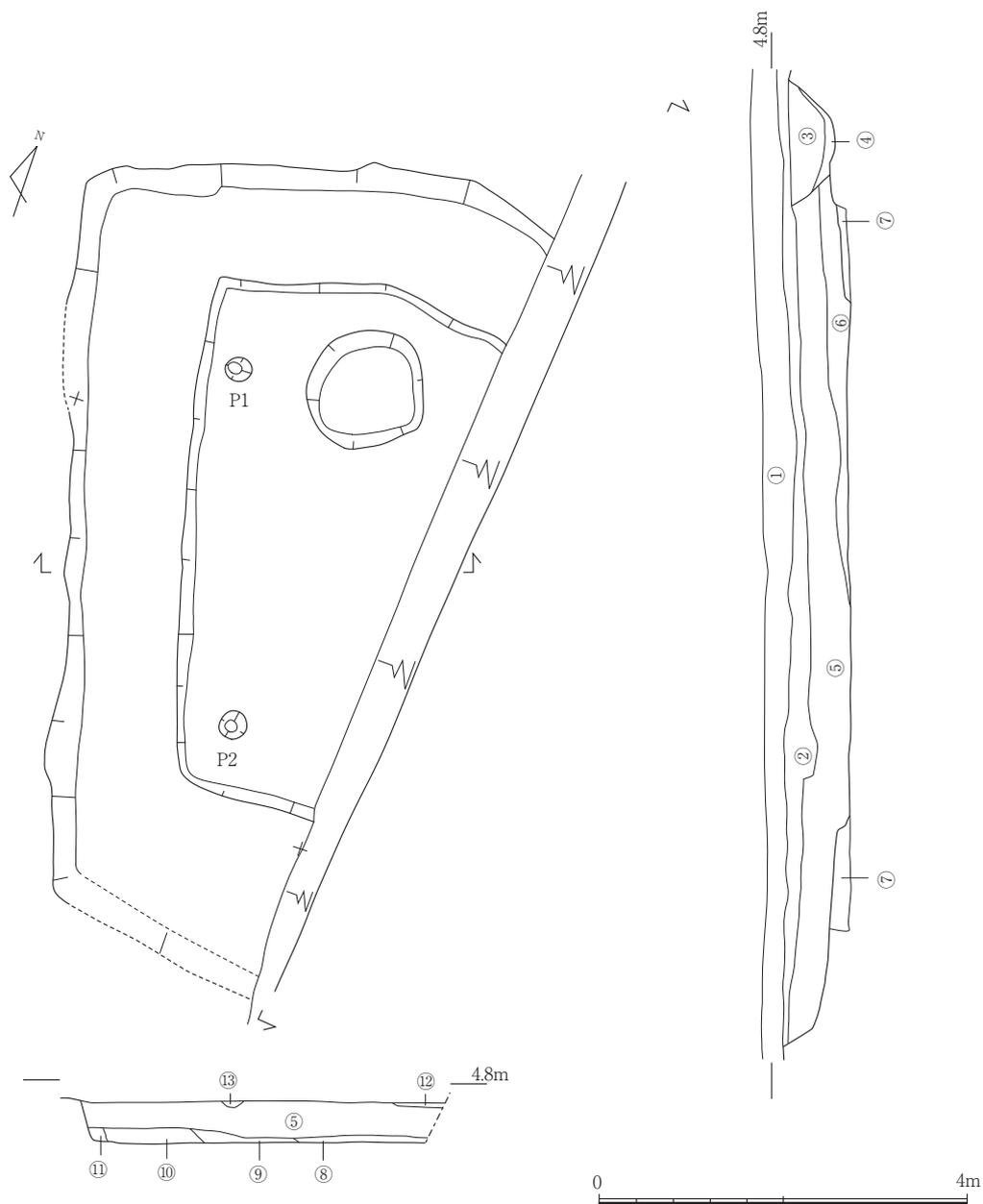
I 区の南西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.7m、短軸 0.5m、検出面からの深さは 5 cmを測る。

SK23

I 区の東部に位置する。平面形は不整形を呈し、長軸 0.9m、短軸 0.1m、検出面からの深さは 0.2m

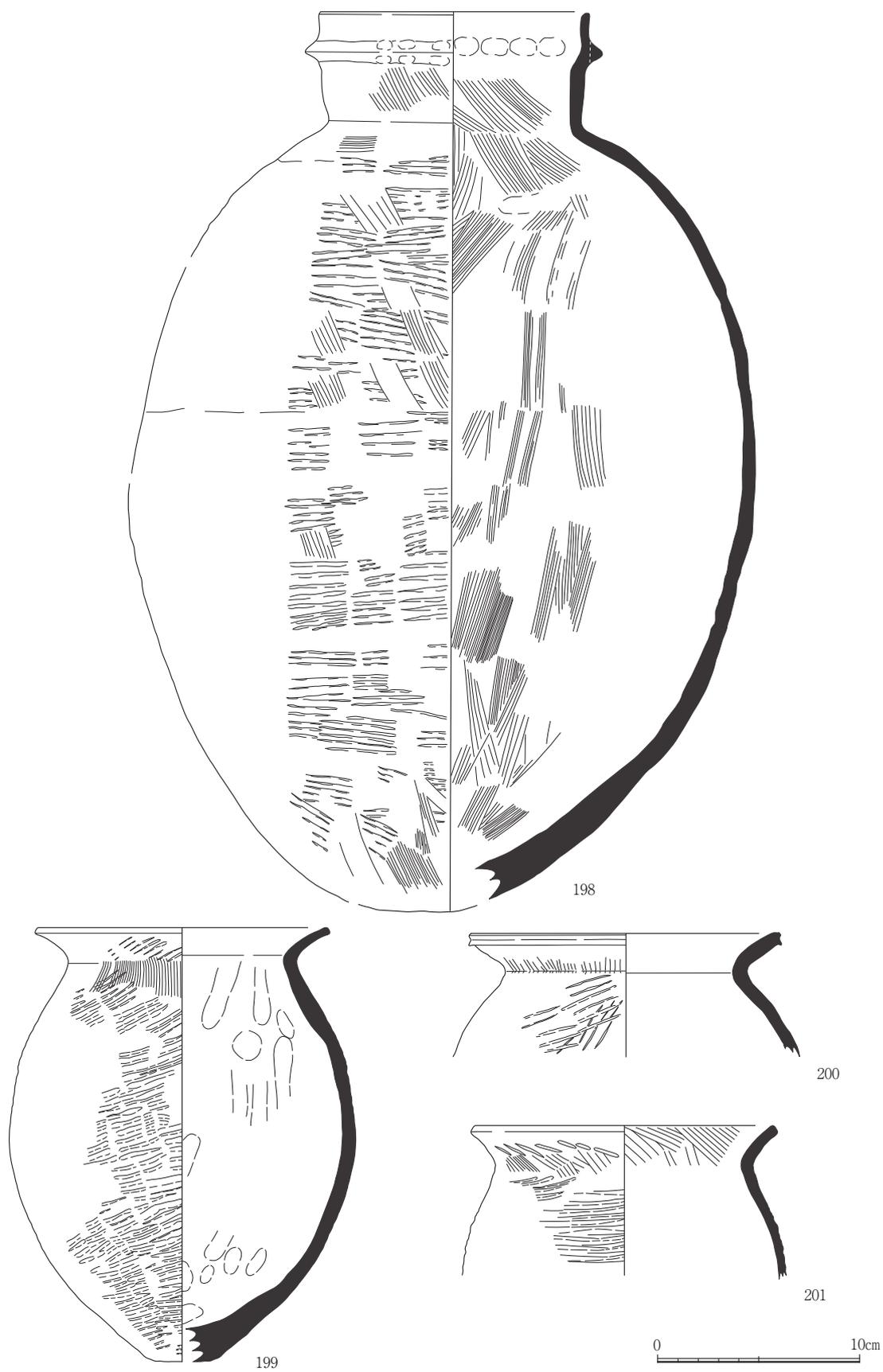


第47図 ST15出土遺物実測図



- ①黄灰色(2.5Y4/1)細砂混じりシルト〔耕作土〕
- ②黒色(10YR2/1)シルト
- ③黒褐色(10YR3/1)シルト〔SD2埋土〕
- ④褐色(10YR4/1)シルト〔SD2埋土〕
- ⑤黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト
- ⑥にぶい黄橙色(10YR6/4)細砂混じりシルト(浅黄色(2.5Y7/4)シルトブロックを少量含む)
- ⑦褐色(10YR5/1)細砂混じりシルトと浅黄色(2.5Y7/4)シルトが混じる〔ベッド〕
- ⑧黄褐色(2.5Y5/3)細砂混じりシルト
- ⑨黄灰色(2.5Y4/1)細砂混じりシルト(炭化物粒をごく少量含む、浅黄色(2.5Y7/4)シルト〔地山〕ブロックを少量含む)
- ⑩浅黄色(2.5Y7/4)シルト〔地山〕に黄灰色(2.5Y4/1)細砂混じりシルトが混ざる〔ベッド〕
- ⑪黄灰色(2.5Y4/1)シルト混じり細砂
- ⑫黒褐色(10YR3/1)粘土〔SDの埋土〕
- ⑬黒褐色(10YR3/1)粘土

第48図 ST16平面図・セクション図



第49図 ST16出土遺物実測図1

を測る。

SK24

I 区の東部に位置する。平面形は不整形を呈し、長軸 0.6m、短軸 0.4m、検出面からの深さは 0.3m を測る。

SK25

I 区の南東部に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸 1.3m、短軸 0.5m、検出面からの深さは 0.1m を測る。

SK26

I 区の南東部に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、径 0.7m、検出面からの深さは 5 cm を測る。

SK27

I 区の中央部北側に位置する。平面形は円形を呈し、径 0.6m、検出面からの深さは 5 cm を測る。



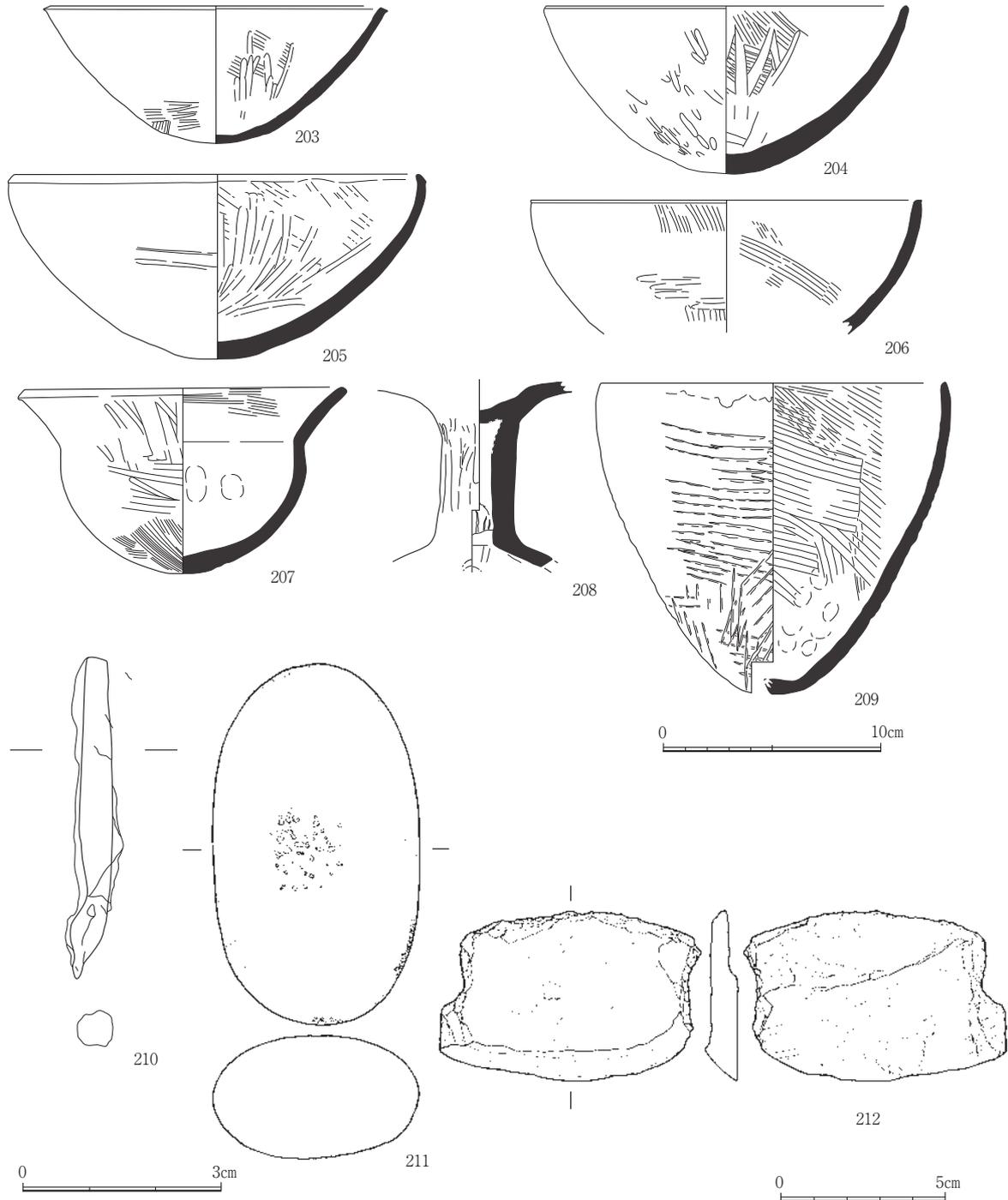
第50図 ST16出土遺物実測図2

SK28

I 区の中央部東側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸 4.5m、短軸 0.7m、検出面からの深さは 0.1m を測る。断面形は皿状であり、埋土はオリブ黒色 (10Y3/2) 細砂混じりシルトである。

SK29

I 区の北西部に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸 0.5m、短軸 0.2m、検出面からの深さは 7cm を測る。埋土は暗オリブ色 (5Y4/3) 細砂混じりシルトである。



第51図 ST16出土遺物実測図3

SK30

I 区の北西部に位置する。平面形は円形を呈し、径 0.6m、検出面からの深さは 0.2m を測る。断面形は逆台形であり、埋土は黒色（7.5YR2/1）細砂混じりシルトである。

SK31

I 区の北西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.5m、短軸 0.3m、検出面からの深さは 0.3m を測る。埋土は暗オリーブ色（5Y4/3）細砂混じりシルトである。

SK32

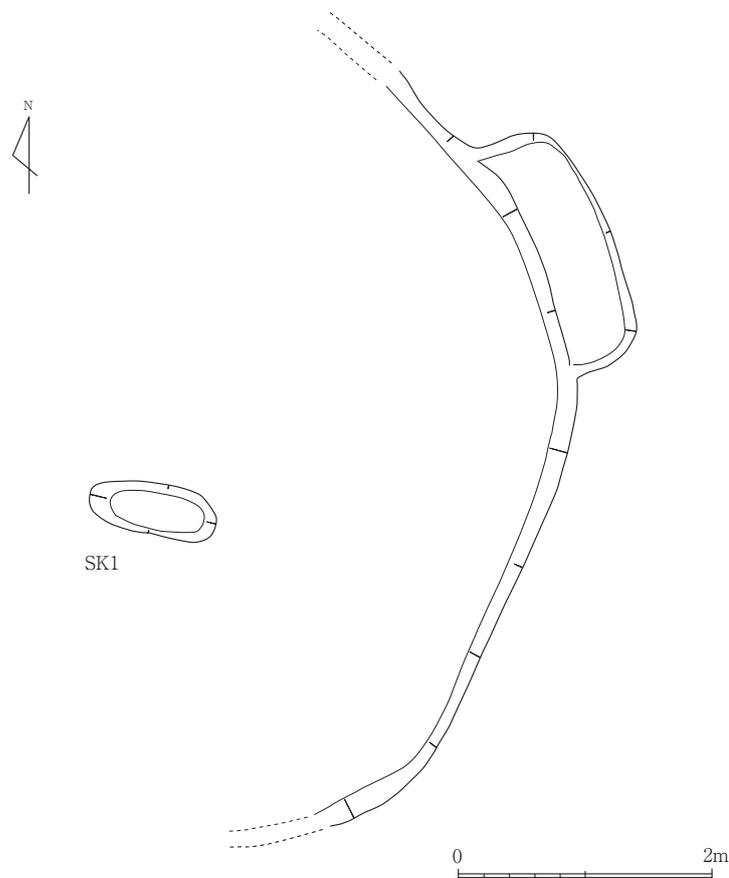
I 区の南西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.5m、短軸 0.3m、検出面からの深さは 0.2m を測る。断面形は舟底状であり、埋土はオリーブ黒色（7.5YR3/2）細砂混じりシルトである。

SK33

I 区の中央部西側に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸 1.3m、短軸 0.4m、検出面からの深さは 0.2m を測る。

SK34

I 区の中央部に位置する。平面形は隅丸方形を呈し、長軸 1.3m、短軸 1.0m、検出面からの深さは 5 cm を測る。埋土は暗オリーブ色（5Y4/3）細砂混じりシルトである。



第52図 ST17平面図

SK35

I 区の中央部に位置し、平面形は長方形を呈する。

SK36

II 区の南西部に位置する。平面形は隅丸方形を呈し、南北 2.2m、東西 2.2m までは検出した。検出面からの深さは 0.2m を測る。埋土は、褐灰色細砂混じりシルト、黒褐色細砂混じりシルト、暗灰黄色シルトである。

図化した出土遺物は、中形鉢(298)、砥石(299)、台石(300)である。300 は砂岩製の台石である。肉眼による観察では使用痕跡は認められない。この他に図化はしていないが、砂岩製の小形の砥石が出土している。

SK37

II 区の南西部に位置する。平面形は隅丸方形を呈し、径 3.0m、検出面からの深さは 0.3m を測る。

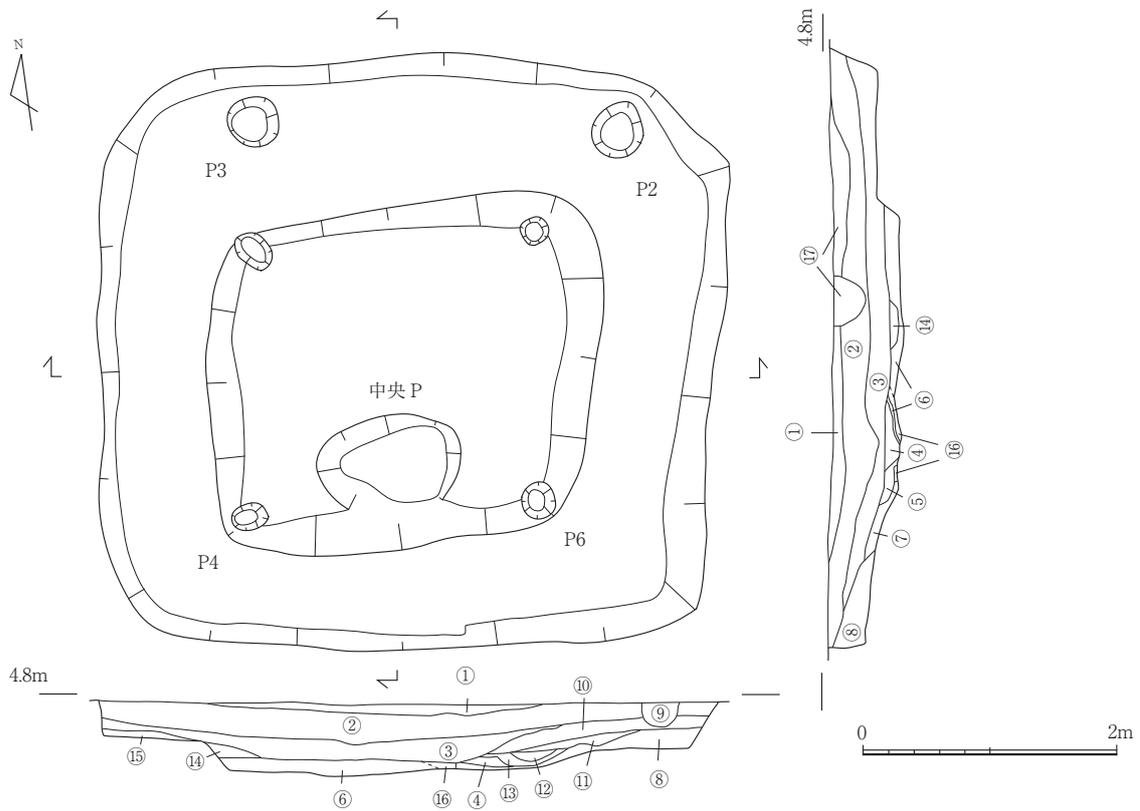
遺構の北西部、検出面から 10 cm の深さで、焼土・炭化物・土器片が集中して検出された。土器片の中には、壺が出土しており、体部が外面上向きで一部欠けた状態で検出された。また、検出面から 30 cm の深さで、炭化物・焼土・土器片が検出された。検出面から 20 cm の深さで、東壁際からほぼ完形の甕が体部上向き状態で出土した。遺構の中央部からは、床面直上で甕・壺・土器片が出土した。甕は体部が上向きで、一部が欠けた状態で検出した。壺は口縁部が欠けており、体部の半分以上が残った状態で出土した。中央部の南側からは、ほぼ完形の甕が出土した。土器片は底部が含まれるものが多く出土した。遺構の東部からは、床面直上から完形・ほぼ完形の鉢が口縁部上向きの状態で出土した。

図化した出土遺物は、広口壺(301～305・307)、複合口縁壺(306)、小形甕(309～311)、中形甕(312～316)、ミニチュア土器(318・319)、小形鉢(320・321)、中形鉢(322～331)、大形鉢(332～335)、土製品(336)である。301 は球形の体部に口縁部が大きくひらき、口唇部は平坦面を成す。体部は叩き調整後、比較的密にハケ調整を施す。302 は球形の体部から頸部が直立する。頸部外面には調整により、わずかに器壁が盛り上がり突帯状になる。口縁部は欠損しており形状は不明であるが、頸部から 90 度近く外反することが残存部から推測できる。306 は複合口縁壺である。丸みをおびた肩部から一次口縁部が短く外反し、内湾気味の二次口縁部が付く。308 は残存破片からかなり大きな個体と推測される。口縁部はわずかにひらく程度であり、口唇部はハケ状原体により面取りを行う。体部外面は叩き調整であり、口縁部はハケ調整である。体部内面は、基本的にはナデ調整を施す。310 は亀裂が口縁部から肩部に入っており、外面は層状に剥離している。311 は精良な胎土で作られている。丸底、長胴である。全体的に摩耗している。315 の口縁部は短めである。316 の口縁部は内湾気味に外反する。318・319 は形態、分量ともよく似ている。319 は体部の下半に叩き目が残存しているが、318 には認められない。320 はほぼ完形であるが、口縁部から亀裂が入っている。321 は浅い鉢であり、内外面に指頭圧痕が認められる。336 は筒状の土製品であり、穿孔されている。両端とも欠損している。

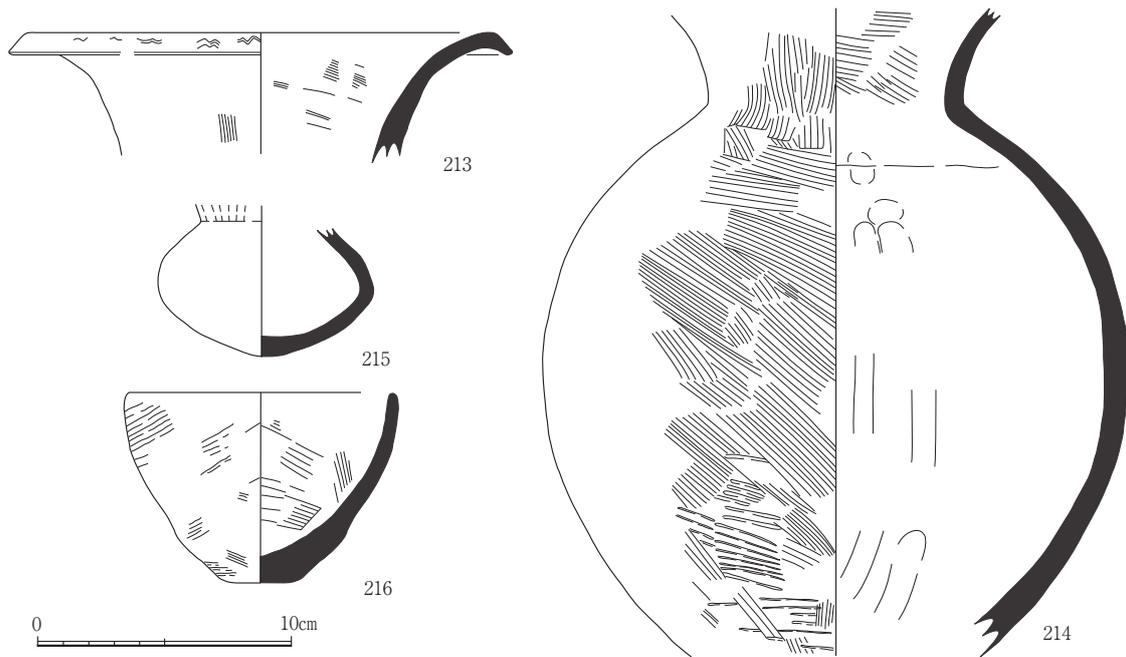
図化していないが、スサ入りの粘土塊が出土した。

SK38

II 区の南東部に位置する。平面形は円形を呈し、長軸 0.7m、短軸 0.6m、検出面からの深さは 0.2m



- | | |
|--|---------------------------------------|
| ① 黒褐色 (10YR2/1) 細砂混じりシルト | ⑩ 黒褐色 (10YR2/2) 細砂混じりシルト |
| ② 黒褐色 (10YR3/2) 細砂混じりシルト | ⑪ 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 細砂混じりシルト (炭化物粒を少量含む) |
| ③ 黒褐色 (10YR3/2) 細砂混じりシルト (浅黄色 (2.5Y7/4) シルトがブロック状に混じる) | ⑫ 褐色 (7.5YR4/4) 細砂混じりシルト (焼土層) |
| ④ 黄灰色 (2.5Y4/1) 細～中砂混じりシルト [中央ピット埋土] | ⑬ 灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂混じり粘土 (炭化物粒を少量含む) |
| ⑤ 黄灰色 (2.5Y4/1) 細～中砂混じりシルト (炭化物粒を少量含む) [中央ピット埋土] | ⑭ 褐色 (10YR4/1) 細砂混じりシルト (炭化物粒を少量含む) |
| ⑥ 黒色 (N2/0) 中砂混じり粘土 | ⑮ 黒褐色 (10YR3/2) 細砂混じりシルトと |
| ⑦ 黄灰色 (2.5Y4/1) 細～中砂混じりシルト | 褐色 (10YR4/1) 細砂混じりシルト (炭化物粒を少量含む) |
| ⑧ 黄褐色 (2.5Y5/3) 細砂混じりシルト | ⑯ 炭化物層 [中央ピット埋土] |
| ⑨ 黒褐色 (10YR2/1) 細砂混じりシルト (SD埋土) | ⑰ 攪乱 |



第53図 ST18平面図・セクション図・出土遺物実測図

を測る。断面形は舟底状であり、埋土は黒色（2.5Y2/1）細砂混じりシルトである。

SK39

Ⅱ区の北東部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸1.1m、短軸0.9m、検出面からの深さは0.1mを測る。断面形は皿状であり、埋土は黒褐色（7.5YR3/1）細砂混じりシルトである。

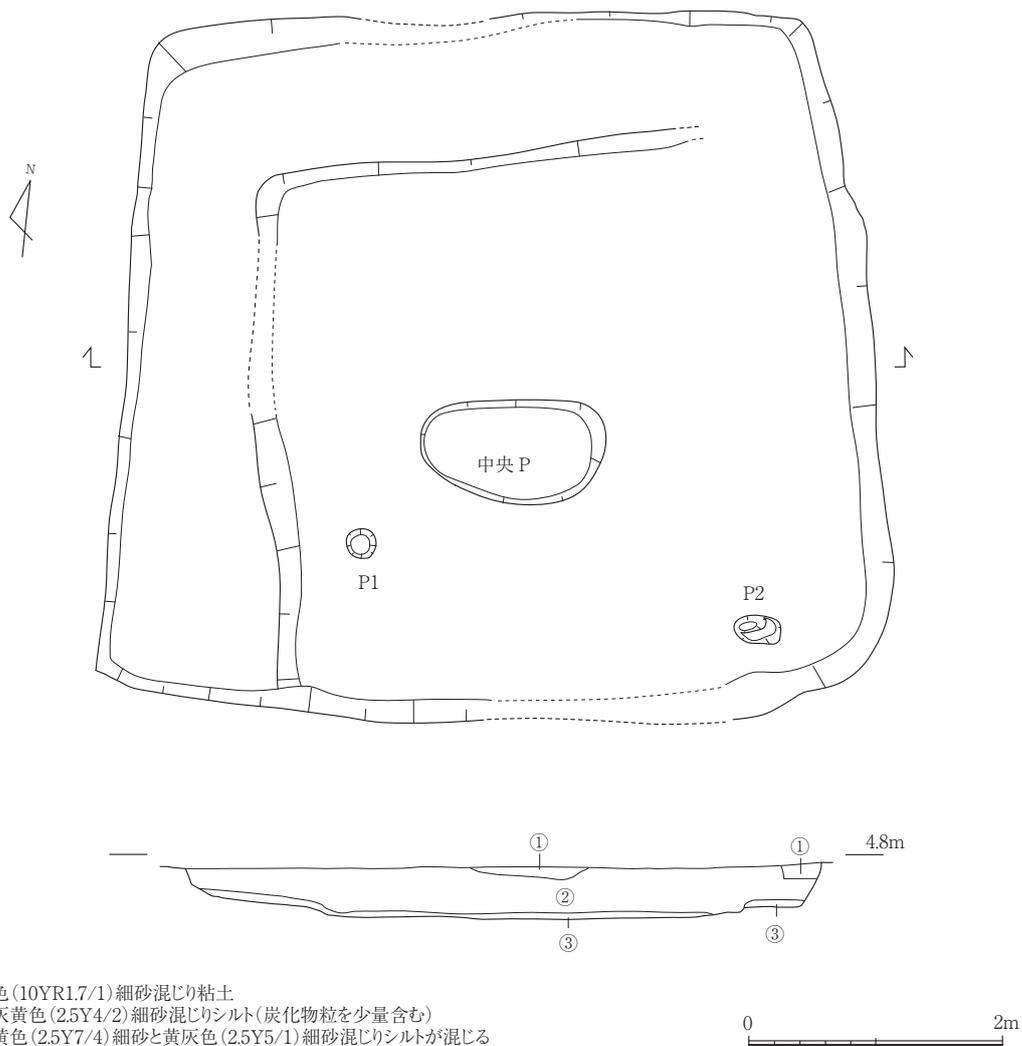
図化した出土遺物は、中形鉢(337)である。

SK40

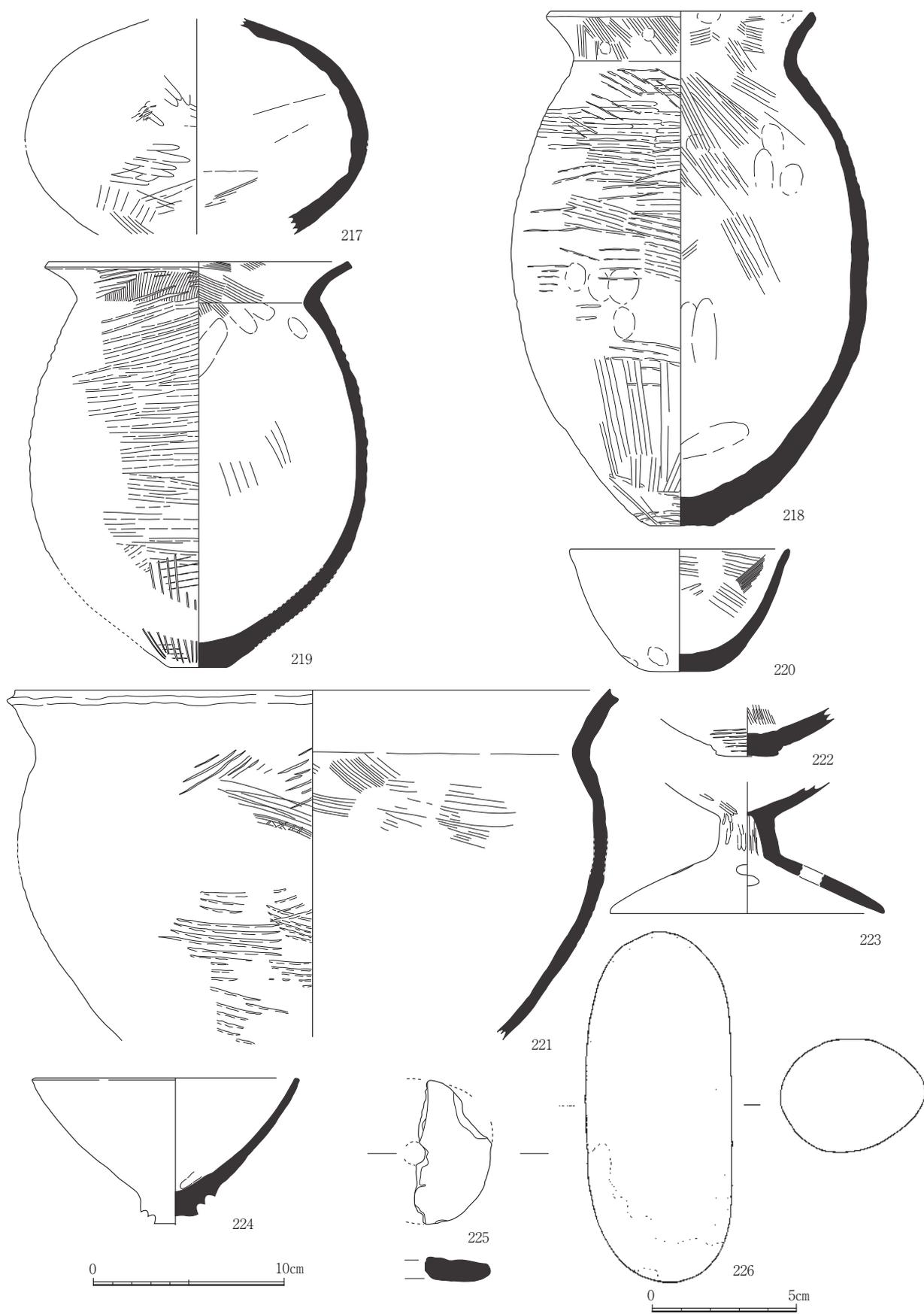
Ⅱ区の中央部に位置する。平面形は不整形を呈し、径1.3m、検出面からの深さは0.3mを測る。断面形は舟底状であり、埋土は黒色（7.5YR2/1）細砂混じりシルト、黒褐色（10YR3/2）細砂混じりシルトである。

SK41

Ⅱ区の中央部に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸0.9m、短軸0.8m、検出面からの深さは0.1mを測る。断面形は舟底状であり、埋土は黒色（10YR2/1）細砂混じりシルトである。



第54図 ST19平面図・セクション図



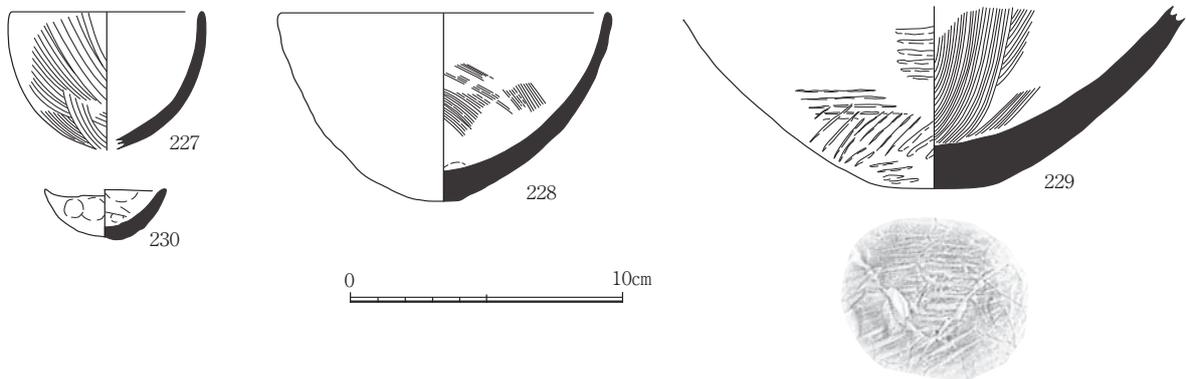
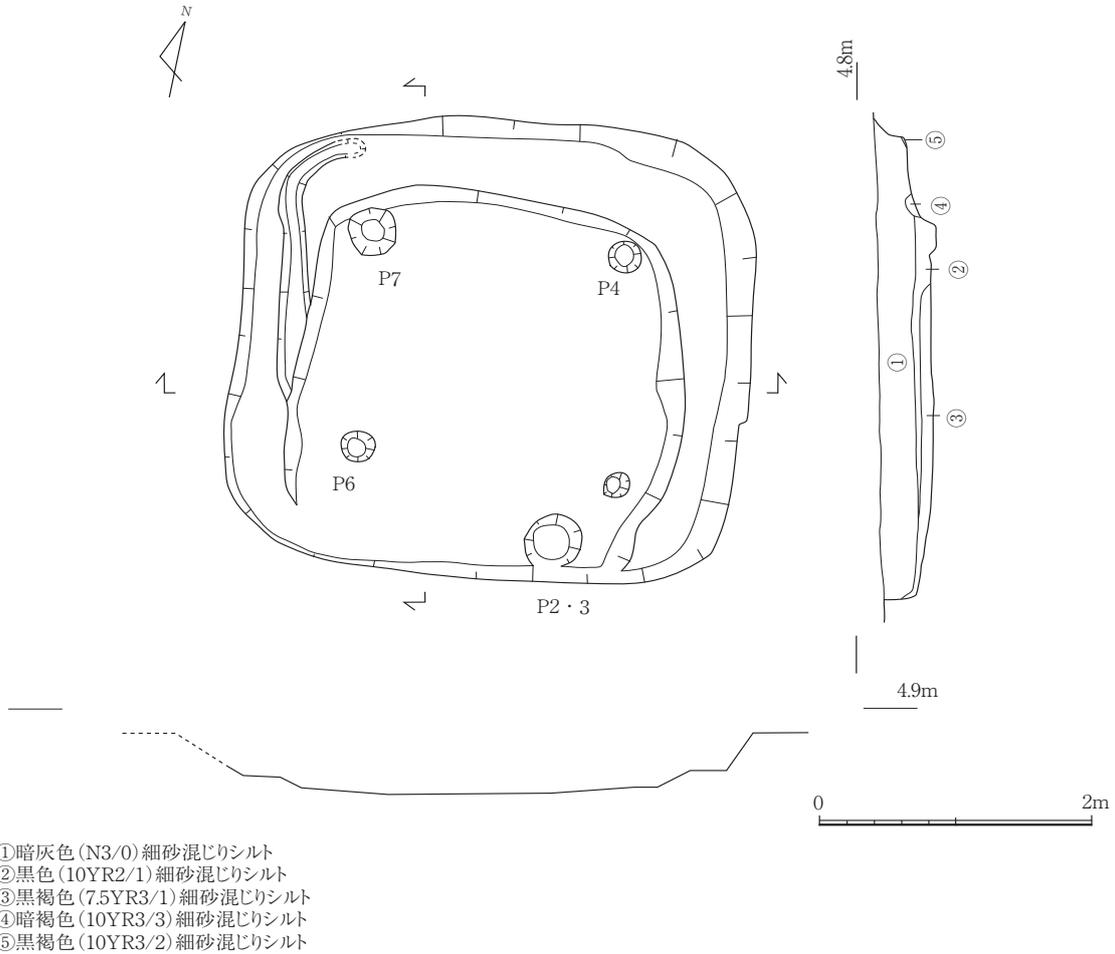
第55図 ST19出土遺物実測図

SK42

Ⅱ区の中央部に位置する。平面形は不整長楕円形を呈し、長軸 1.2m、短軸 0.3m、検出面からの深さは 7 cmを測る。埋土は黒褐色（10YR3/2）細砂混じりシルトである。

SK43

Ⅱ区の中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.3m、短軸 0.2m、検出面からの深さは



第56図 ST20平面図・セクション図・出土遺物実測図

7 cmを測る。埋土は黒褐色（10YR3/1）細砂混じりシルトである。

SK44

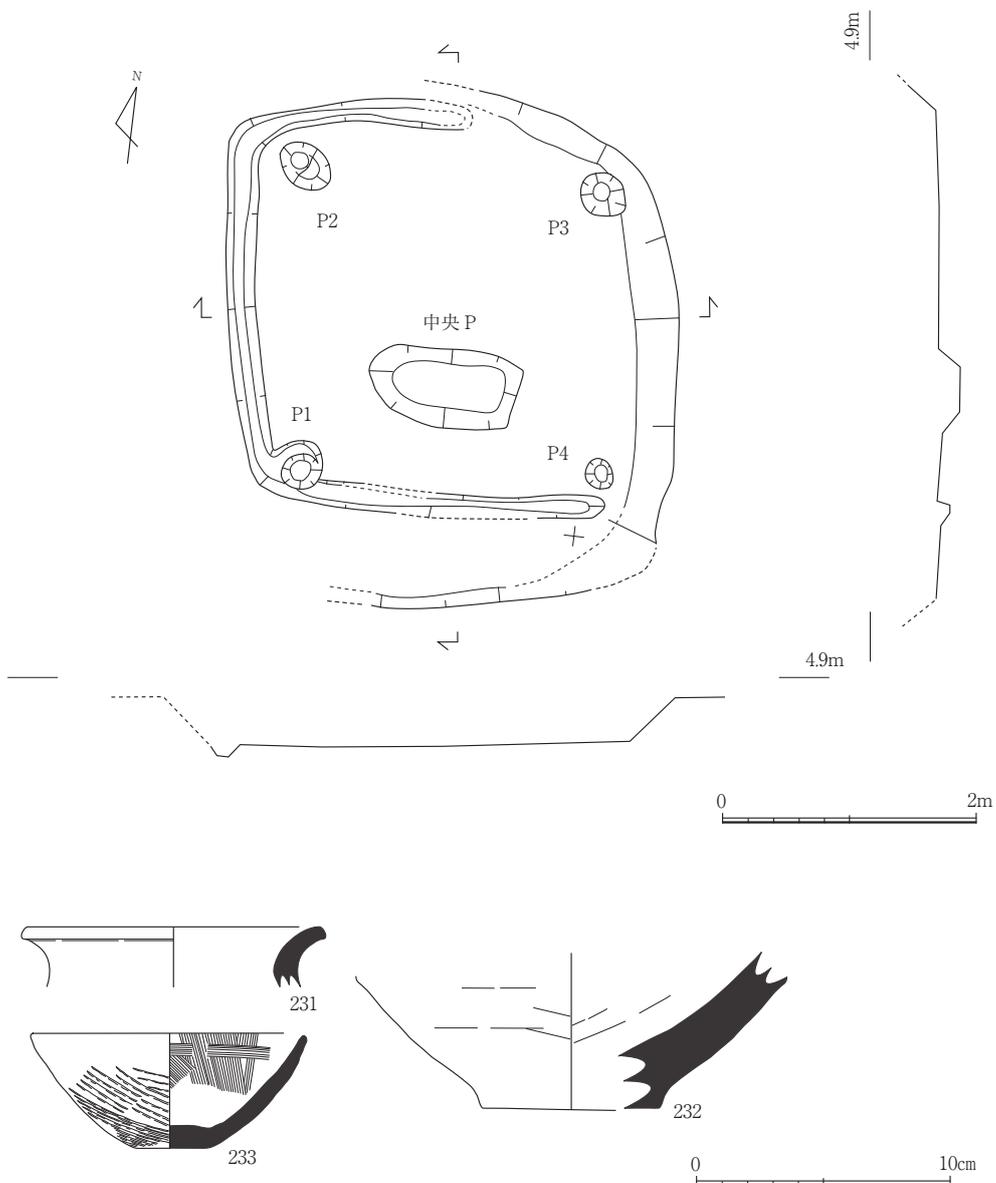
Ⅱ区の中央部に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸 0.6m、短軸 0.2m、検出面からの深さは 0.2m を測る。埋土は褐灰色（10YR4/1）細砂混じりシルトである。

SK45

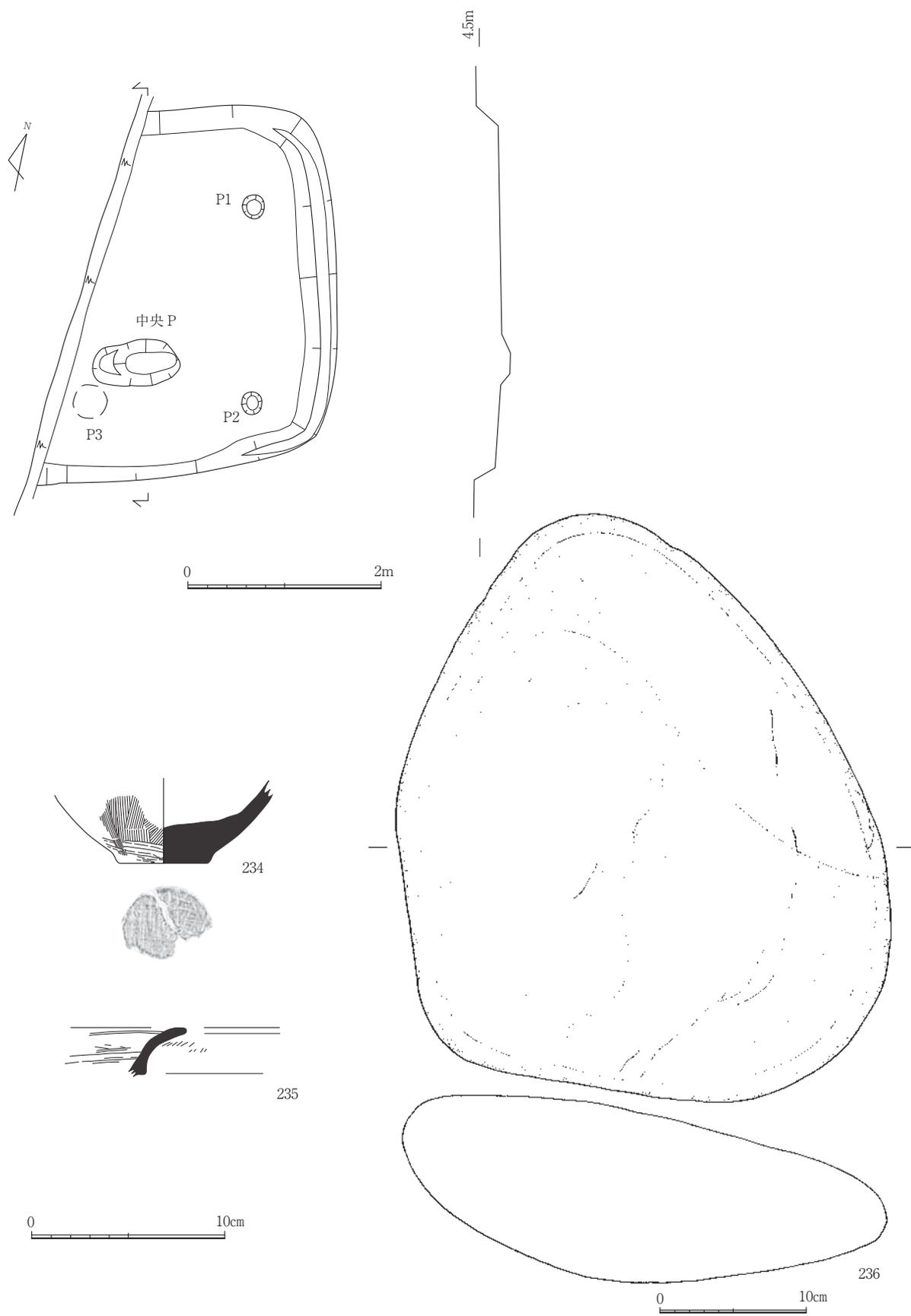
Ⅱ区の中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.7m、短軸 0.5m、検出面からの深さは 5 cm を測る。埋土は褐灰色（10YR4/1）細砂混じりシルトである。

SK46

Ⅱ区の東部に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸 1.5m、短軸 1.0m、検出面からの深さは 0.5m を測る。断面形は舟底状であり、埋土は灰黄褐色シルト、黒色シルト、暗灰黄色細砂混じり



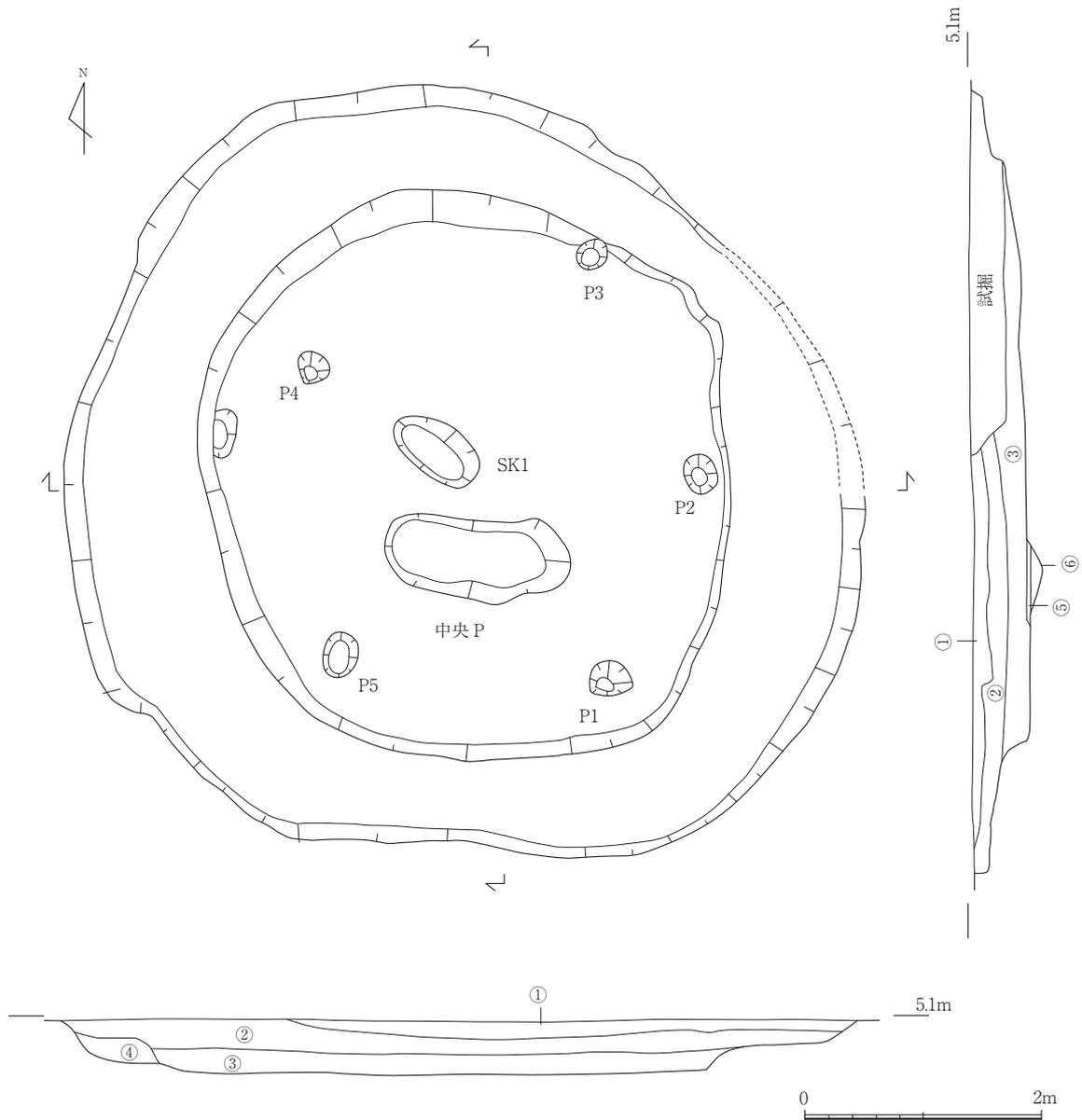
第57図 ST21平面図・エレベーション図・出土遺物実測図



第58図 ST22平面図・エレベーション図・出土遺物実測図

りシルトである。

図化した出土遺物は、壺(338)、中形甕(339～344)、底部(345・346)、大形鉢(347)、甑(348)である。338は平底であり、球形の体部を持つ。頸部は短く口縁部は大きく外反する。外面は叩き調整後、ミガキ調整を施す。下半部は器面が荒れる。340はやや小形の甕である。口縁部は短く、外反度合いは弱い。すべてで外面に叩き目が見られるが、339・341・344の叩き目の方向は右下がりである。339・344・345は丸みをおびた小さな平底である。



- ① 黒色 (N1.5/0)シルト [ST23埋土]
- ② 黒色 (10YR1.7/1)粗砂混じり粘土 (直径3cm大の河原石をごく少量含む) [ST23埋土]
- ③ 黒褐色 (10YR3/1)中砂混じり粘土 [ST23埋土]
- ④ オリーブ黒色 (5Y2/2)中砂混じり粘土 (直径3cm大以下の河原石を多く含む) [ベッド]
- ⑤ 黒褐色 (2.5Y3/1)小礫混じりシルト (炭化物粒をごく少量含む)
- ⑥ 黒褐色 (2.5Y3/1)小礫混じりシルト (炭化物粒、地山の粗砂をごく少量含む)

第59図 ST23平面図・セクション図

SK47

Ⅱ区の西部に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸 1.5m、短軸 0.8m、検出面からの深さは 0.3m を測る。断面形は逆台形であり、埋土は暗灰色（N1.5/0）細砂混じりシルトである。

図化した出土遺物は、中形甕(349)、小形鉢(350)、中形鉢(351)、大形鉢(352)である。349はフットボール形の体部から口縁部が外反する。底部は小さな丸みをおびた平底である。外面は叩き調整後、下半にハケ調整を施す。叩き目の方向は右下がりである。口縁部は「叩き出し技法」で成形される。

SK48

Ⅱ区の北西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸 1.1m、短軸 0.7m、検出面からの深さは 0.5m を測る。断面形は逆台形であり、埋土は暗灰色細砂混じりシルト、黒色細砂混じりシルトである。

SK49

Ⅱ区の中央部西側に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸 1.5m、短軸 0.5m、検出面からの深さは 0.1m を測る。断面形は舟底状であり、埋土は黒色（10YR1.7/1）細砂混じりシルトである。

図化した出土遺物は、小形鉢(353)である。353は皿状を呈し、内外面ともナデ調整を施す。

SK50

Ⅱ区の北西部に位置する。平面形は不整形を呈し、長軸 1.5m、短軸 0.9m、検出面からの深さは 0.2m を測る。断面形は舟底状であり、埋土は黒褐色（2.5Y3/2）細砂混じりシルトである。

SK51

Ⅱ区の北西部に位置する。平面形は不整形を呈し、長軸 0.9m、短軸 0.7m、検出面からの深さは 0.2m を測る。

SK52

Ⅱ区の中央部西側に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸 0.8m、短軸 0.4m、検出面からの深さは 0.5m を測る。

SK53

Ⅱ区の南西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.7m、短軸 0.5m、検出面からの深さは 0.1m を測る。

SK54

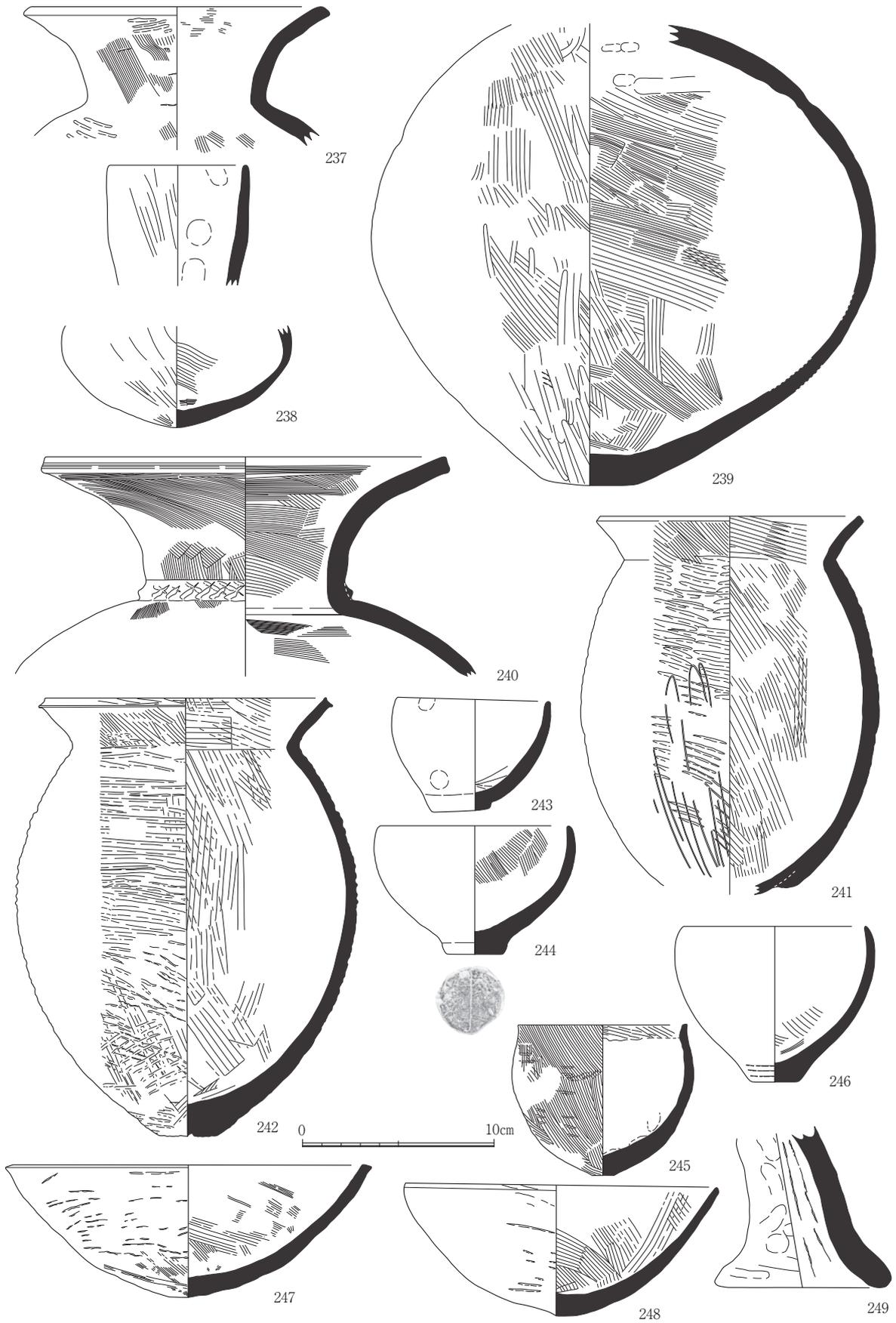
Ⅱ区の南西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.7m、短軸 0.5m、検出面からの深さは 0.1m を測る。

SK55

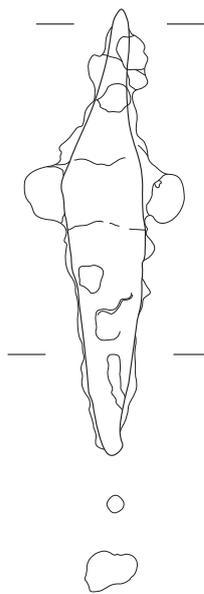
Ⅱ区の北部に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸 1.5m、短軸 0.7m、検出面からの深さは 0.3m を測る。断面形は舟底状であり、埋土は黒色（10YR2/1）細砂混じりシルトである。

SK56

Ⅱ区の北部に位置する。平面形は不整長楕円形を呈し、長軸 1.1m、短軸 0.5m、検出面からの深さは 0.2m を測る。断面形は舟底状であり、埋土は黒色細砂混じりシルト、黒褐色細砂混じりシルトである。



第60図 ST23出土遺物実測図1



SK57

Ⅱ区の北部に位置する。平面形は不整形を呈し、長軸 0.8m、短軸 0.5m、検出面からの深さは 0.1m を測る。

SK58

Ⅱ区の北部に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸 0.5m、短軸 0.3m、検出面からの深さは 0.2m を測る。

SK59

Ⅱ区の南部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.5m、短軸 0.2m、検出面からの深さは 7 cm を測る。

SK60

Ⅱ区の南西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.6m、短軸 0.4m、検出面からの深さは 0.1m を測る。

SK61

Ⅱ区の南西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.8m、短軸 0.5m、検出面からの深さは 0.1m を測る。



第61図 ST23出土遺物実測図2

SK62

Ⅱ区の北部に位置する。平面形は円形を呈し、長軸 0.5m、短軸 0.6m、検出面からの深さは 0.3m を測る。断面形は舟底状であり、埋土は黒色 (7.5YR2/1) 細砂混じりシルトである。

SK63

Ⅱ区の中央部に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸 0.7m、短軸 0.4m、検出面からの深さは 0.1m を測る。埋土はオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂混じりシルトである。

SK64

Ⅱ区の北部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.9m、短軸 0.7m、検出面からの深さは 0.3m を測る。断面形は逆台形であり、埋土は①暗灰色 (N3/0) 細砂混じりシルト、②黒褐色 (10YR3/2) 細砂混じりシルトである。

SK65

Ⅱ区の南西部に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸 0.6m、短軸 0.4m、検出面からの深さは 0.3m を測る。埋土はオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂混じりシルトである。

SK66

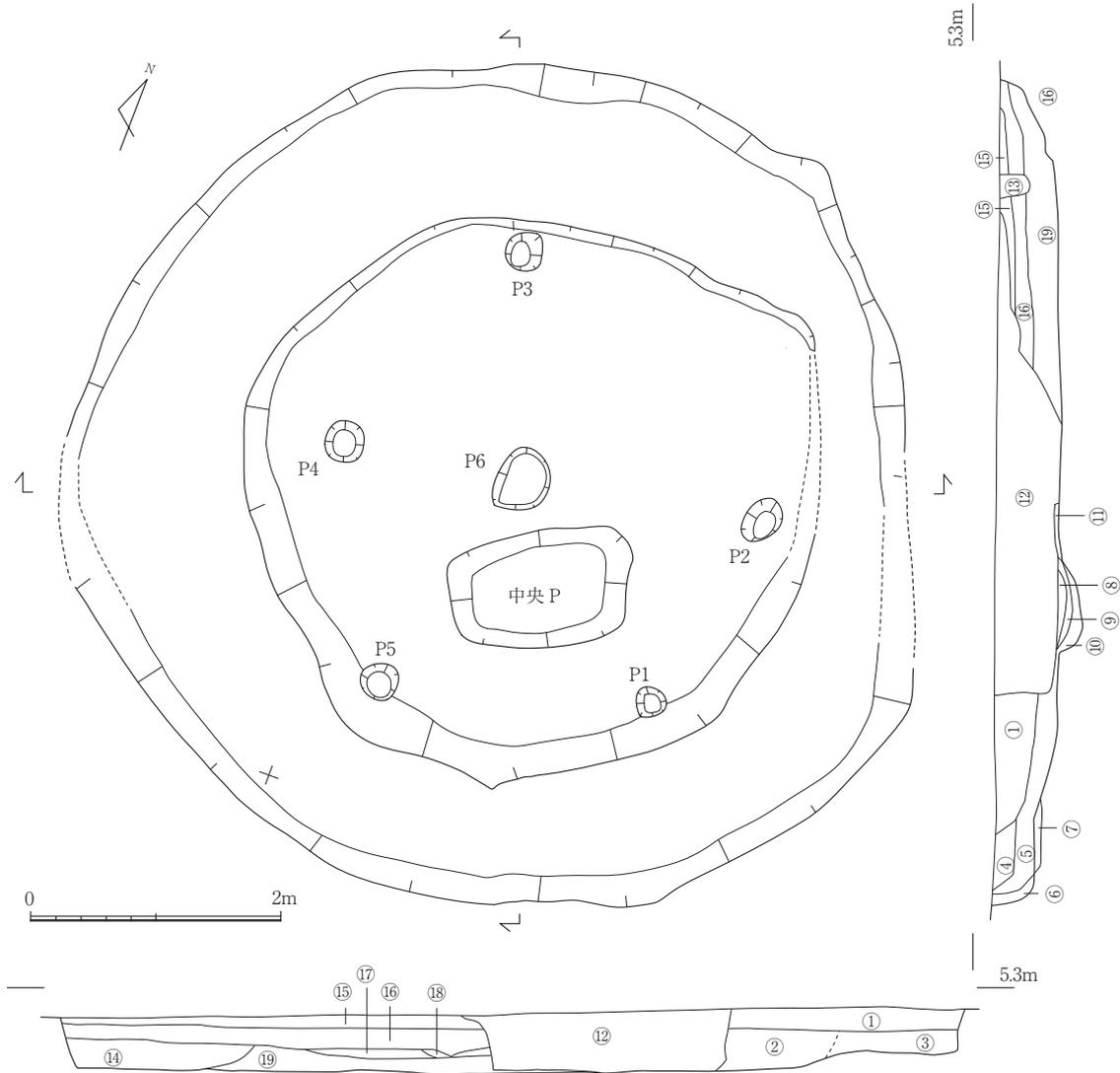
Ⅱ区の南西部に位置する。平面形は不整円形を呈し、径 0.5m、検出面からの深さは 0.2m を測る。埋土は黒褐色 (2.5Y3/2) 細砂混じりシルトである。

SK67

Ⅱ区の東部に位置する。南北 3.5m、東西 1.0m までは検出した。検出面からの深さは 0.2m を測る。

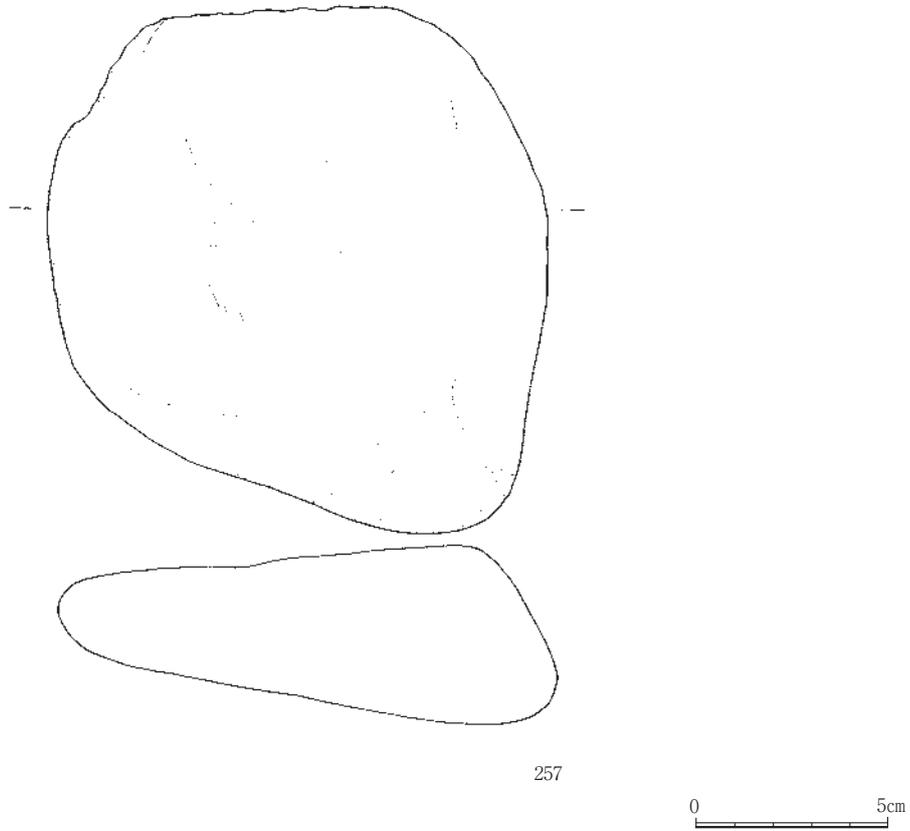
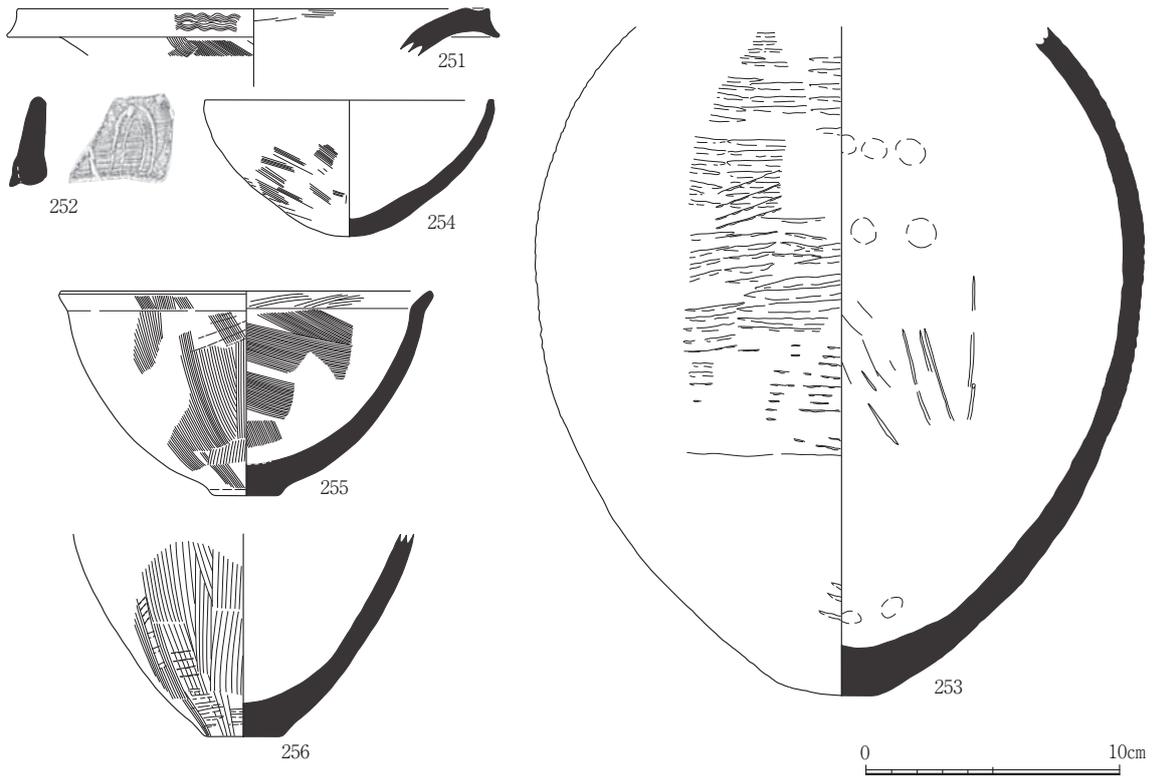
SK68

Ⅱ区の東部に位置する。平面形は不整長楕円形を呈し、長軸 1.7m、短軸 0.5m、検出面からの深



- ①黒色 (10YR2/1) 細砂混じりシルト [SD47 埋土か]
- ②黒褐色 (7.5YR2/2) 細砂混じりシルト [SD47 埋土か]
- ③黒褐色 (10YR3/2) 細砂混じりシルト [SD47 埋土の可能性あり]
- ④黒褐色 (10YR2/2) 細砂混じりシルト [ST24 埋土]
- ⑤黒褐色 (10YR3/2) 細砂混じりシルト (浅黄色 (2.5Y7/4) シルトブロックを少量、焼土粒、炭化物粒をごく少量含む) [ST24 埋土]
- ⑥黒褐色 (10YR2/2) 細砂混じりシルト [ST24 埋土]
- ⑦黒褐色 (10YR3/2) 細砂混じりシルト (直径 5cm 大の河原石を多量に含む) [ベースか]
- ⑧黒色 (2.5Y2/1) ~ 黒褐色 (10YR2/2) 細砂混じりシルト (炭化物粒を少量含む) [中央ピット埋土]
- ⑨黒色 (2.5Y2/1) 細砂混じりシルト (炭化物粒をやや多く含む) [中央ピット埋土]
- ⑩灰白色 (5Y7/1) 中砂と黒色 (2.5Y2/1) 細砂混じりシルトが混じる。[中央ピット埋土]
- ⑪灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂混じりシルト [中央ピット埋土]
- ⑫試掘坑
- ⑬黒色 (2.5Y2/1) 粗砂混じりシルト
- ⑭黒褐色 (10YR3/1) シルト ~ 粘土 [SD 埋土か]
- ⑮黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト
- ⑯におい黄褐色 (10YR4/3) 細砂混じりシルト (直径 3cm 大の河原石をごく少量含む、炭化物粒をごく少量含む)
- ⑰⑯に比べてやや暗い色調を呈する以外は同じ。
- ⑱炭化物を多く含んでおり、さらに暗い色調を呈する以外は同じ。
- ⑲灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂混じりシルト (直径 3cm 大の河原石を少量含む)

第62図 ST24平面図・セクション図



第63図 ST24出土遺物実測図

さは0.3mを測る。埋土はオリーブ黒色(7.5Y3/1)細砂混じりシルトである。

SK69

Ⅱ区の西部に位置する。平面形は不整形を呈し、長軸0.8m、短軸0.5m、検出面からの深さは0.1mを測る。埋土は暗オリーブ色(5Y4/3)細砂混じりシルトである。

SK70

Ⅱ区の西部に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸0.6m、短軸0.2m、検出面からの深さは7cmを測る。埋土は暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細砂混じりシルトである。

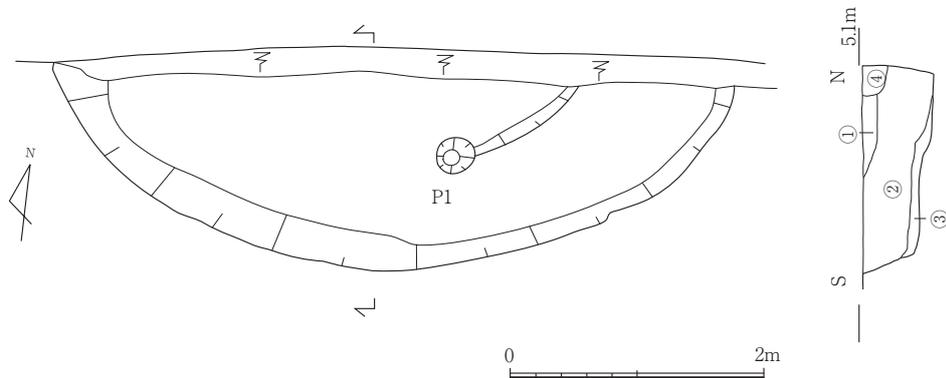
SK71

ⅢE区の南部に位置する。東西0.2m、南北2.3mまでは検出した。検出面からの深さは0.1mを測る。埋土は黒褐色(2.5Y3/2)細砂混じりシルトである。

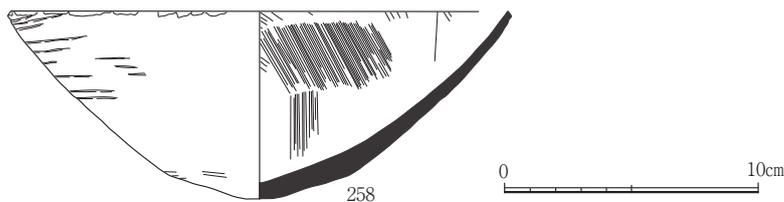
SK72

ⅢW区の西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.4m、検出面からの深さは1.1mまでは検出した。断面形は箱形状であり、埋土は黄灰色(2.5Y4/1)細砂混じりシルトである。

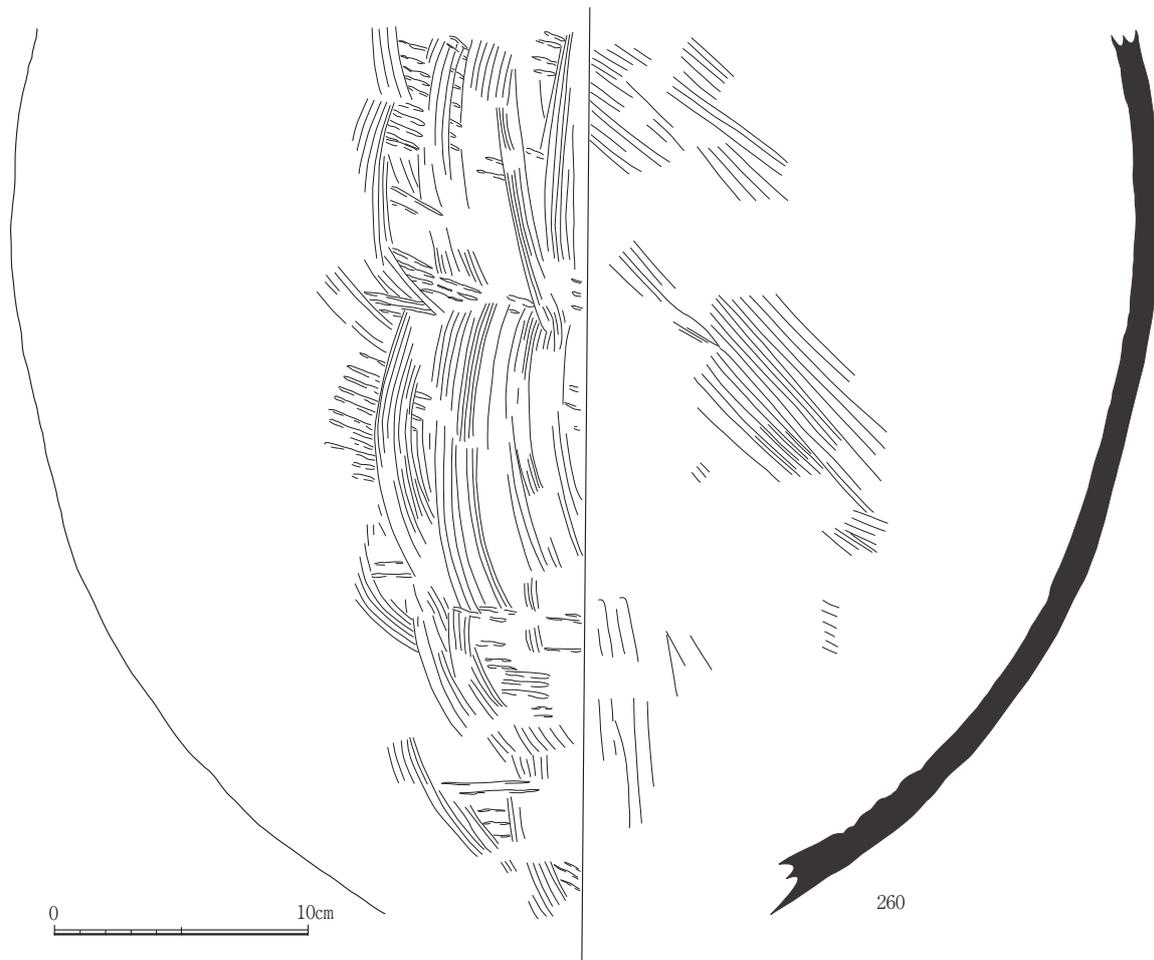
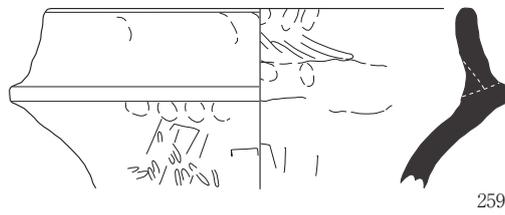
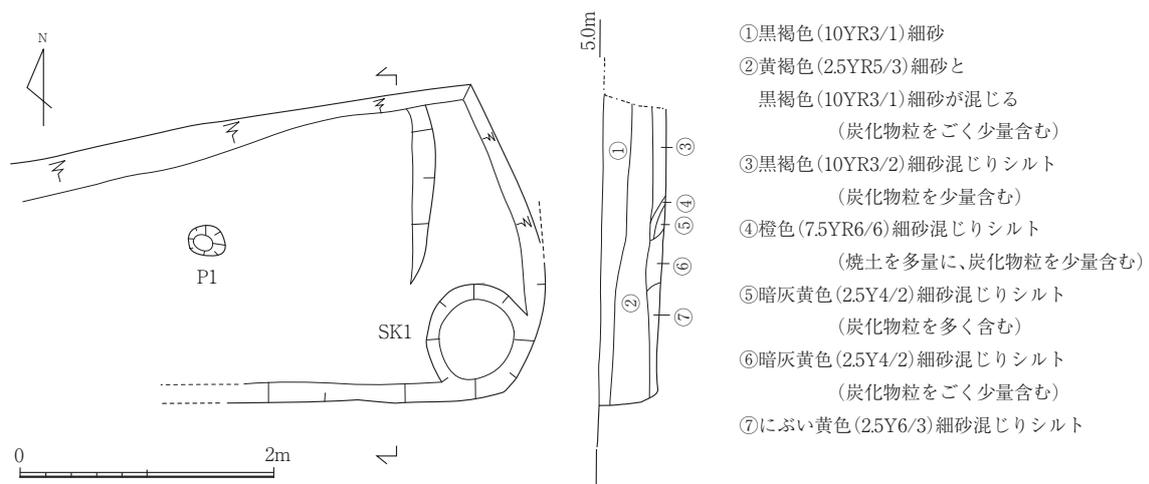
図化した出土遺物は、壺(354・355)であり同一個体の可能性が高い。355は上胴部に最大径を持ち卵形を呈する。底部は平底であり、安定感がある。口縁部は短く外反し、口唇部は肥厚させる。外面は叩き調整後、丁寧にハケ調整が施され叩き目が消されている。また、肩部付近はミガキ調整を施す。内面はナデ調整を基本としており、粘土帯接合痕跡が認められる。



- ①黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト
- ②黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト
- ③暗灰黄色(2.5Y4/2)シルトと浅黄色(2.5Y7/4)シルト(炭化物粒を少量含む)が混じる
- ④攪乱



第64図 ST25平面図・セクション図・出土遺物実測図



第65図 ST26平面図・セクション図・出土遺物実測図1

SK73

Ⅲ E 区の中央部に位置する。検出面からの深さは 0.3m を測る。東西 1.1m までは検出した。埋土は黒色 (5Y2/1) 細砂混じりシルトである。

SK76

Ⅲ N 区の北端に位置する。平面形は楕円形を呈し、南北 0.5m、検出面からの深さは 0.3m を測る。

SK77

Ⅲ W 区の中央部に位置する。平面形は不整長楕円形を呈し、長軸 1.7m、短軸 0.5m、検出面からの深さは 0.4m を測る。断面形は逆台形であり、埋土は黒褐色 (10YR3/1) 粘土、灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土である。

SK78

Ⅲ W 区の北西部に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸 1.4m、短軸 0.8m、検出面からの深さは 0.3m を測る。断面形は舟底状であり、埋土は暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂混じりシルトである。

図化した出土遺物は、小形鉢 (356) である。タマネギ形の体部から口縁部が直線的につく。外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。口縁部は「叩き出し技法」で成形される。内面はナデ調整である。

SK79

Ⅲ W 区の北東部に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸 1.0m、短軸 0.3m、検出面からの深さは 0.1m を測る。

SK80

Ⅲ W 区の北東部に位置する。平面形は不整円形を呈し、長軸 0.6m、短軸 0.5m、検出面からの深さは 5 cm を測る。埋土はオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂混じりシルトである。

SK81

Ⅲ M 区の中央部に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸 0.9m、短軸 0.4m、検出面からの深さは 0.2m を測る。

SK82

Ⅲ M 区の中央部に位置する。平面形は不整長楕円形を呈し、長軸 1.3m、短軸 0.7m、検出面からの深さは 0.1m を測る。埋土は褐灰色 (10YR4/1) 細砂混じりシルトである。

SK83

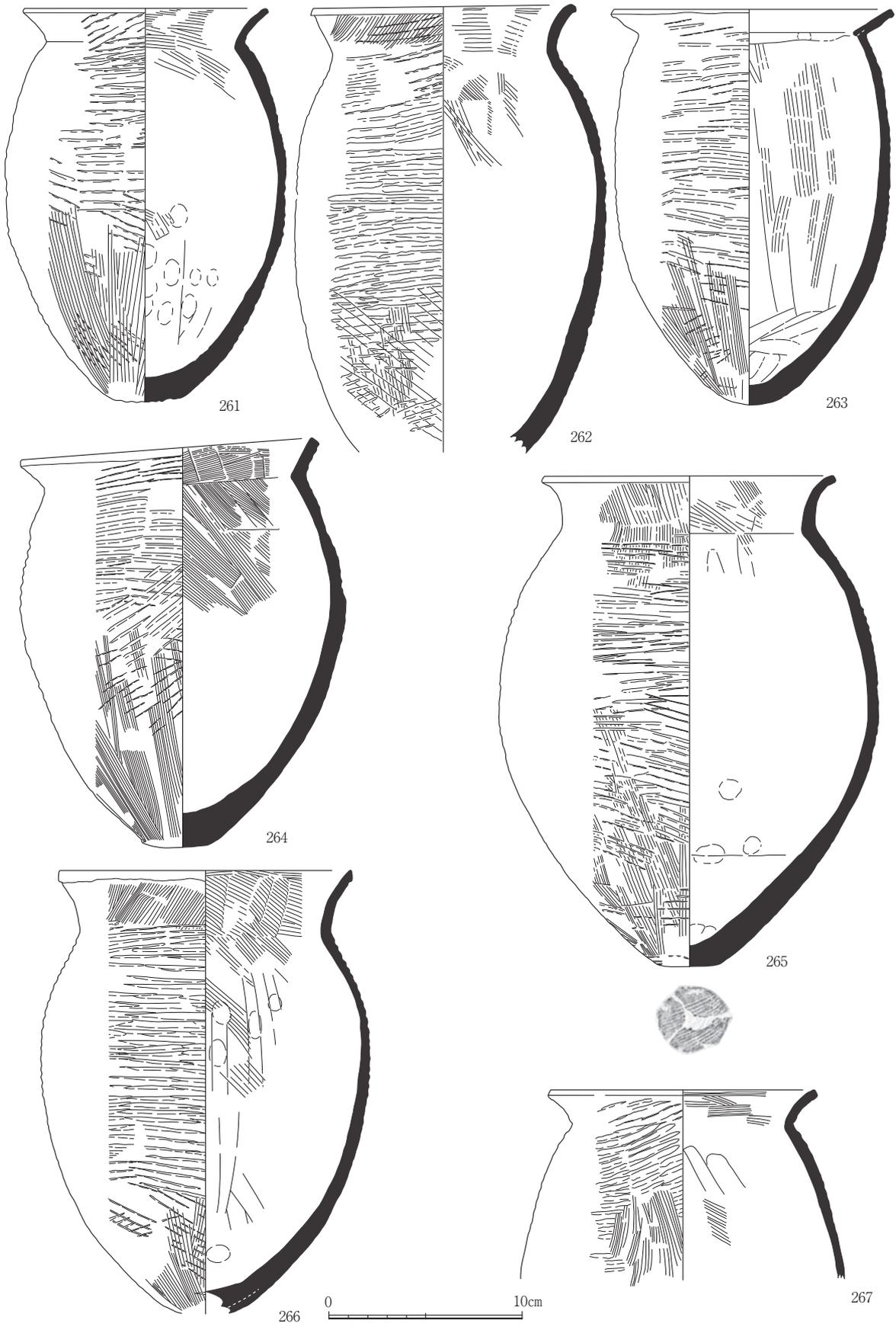
Ⅲ M 区の中央部に位置する。平面形は不整円形を呈し、長軸 0.7m、短軸 0.6m、検出面からの深さは 0.2m を測る。埋土は黒褐色 (10YR3/2) 細砂混じりシルトである。

SK84

Ⅲ M 区の中央部に位置する。平面形は長楕円形を呈し、南北 1.5m、検出面からの深さは 0.3m を測る。

SK85

Ⅳ 区の西部に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸 1.5m、短軸 0.6m、検出面からの深さは 0.1m を測る。埋土は黄褐色 (2.5Y5/4) 細砂混じりシルトである。



第66图 ST26出土遺物実測図2

SK86

IV区の西部に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸 1.0m、短軸 0.8m、検出面からの深さは 0.4m を測る。断面形は舟底状であり、埋土は黒褐色 (2.5Y3/2) 細砂混じりシルトである。

SK87

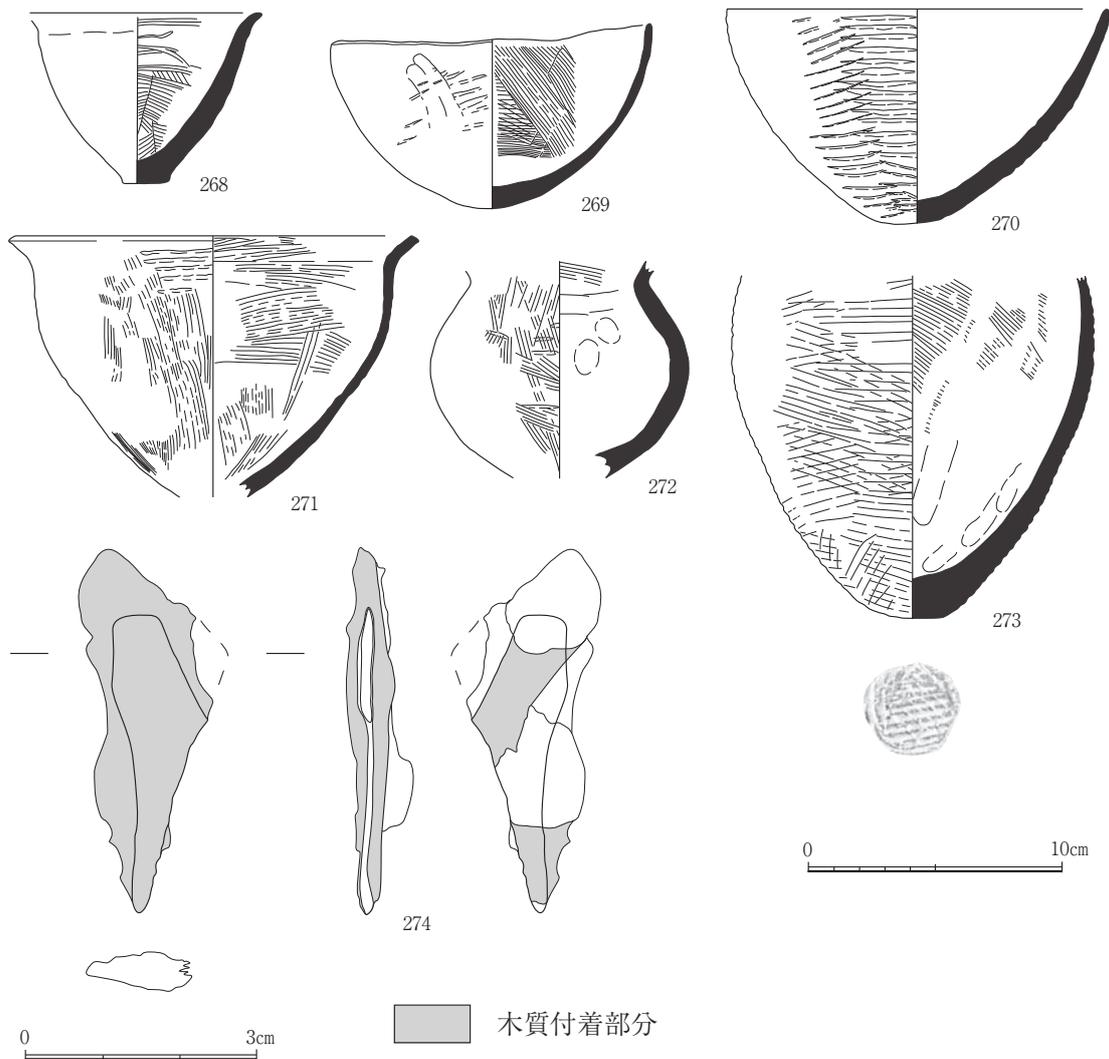
IV区の南西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸 1.2m、短軸 0.9m、検出面からの深さは 0.1m を測る。埋土はオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂混じりシルトである。

SK88

IV区の南東部に位置し、調査区外へのびる。埋土はオリーブ黒色 (5Y3/1) 細砂混じりシルトである。

SK89

IV区の北東部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.8m、短軸 0.5m、検出面からの深さは 0.1m を測る。埋土はオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂混じりシルトである。



第67図 ST26出土遺物実測図3

SK90

I 区の北東部に位置する。平面形は不整形を呈し、長軸 1.1m、短軸 0.7m、検出面からの深さは 0.4m を測る。

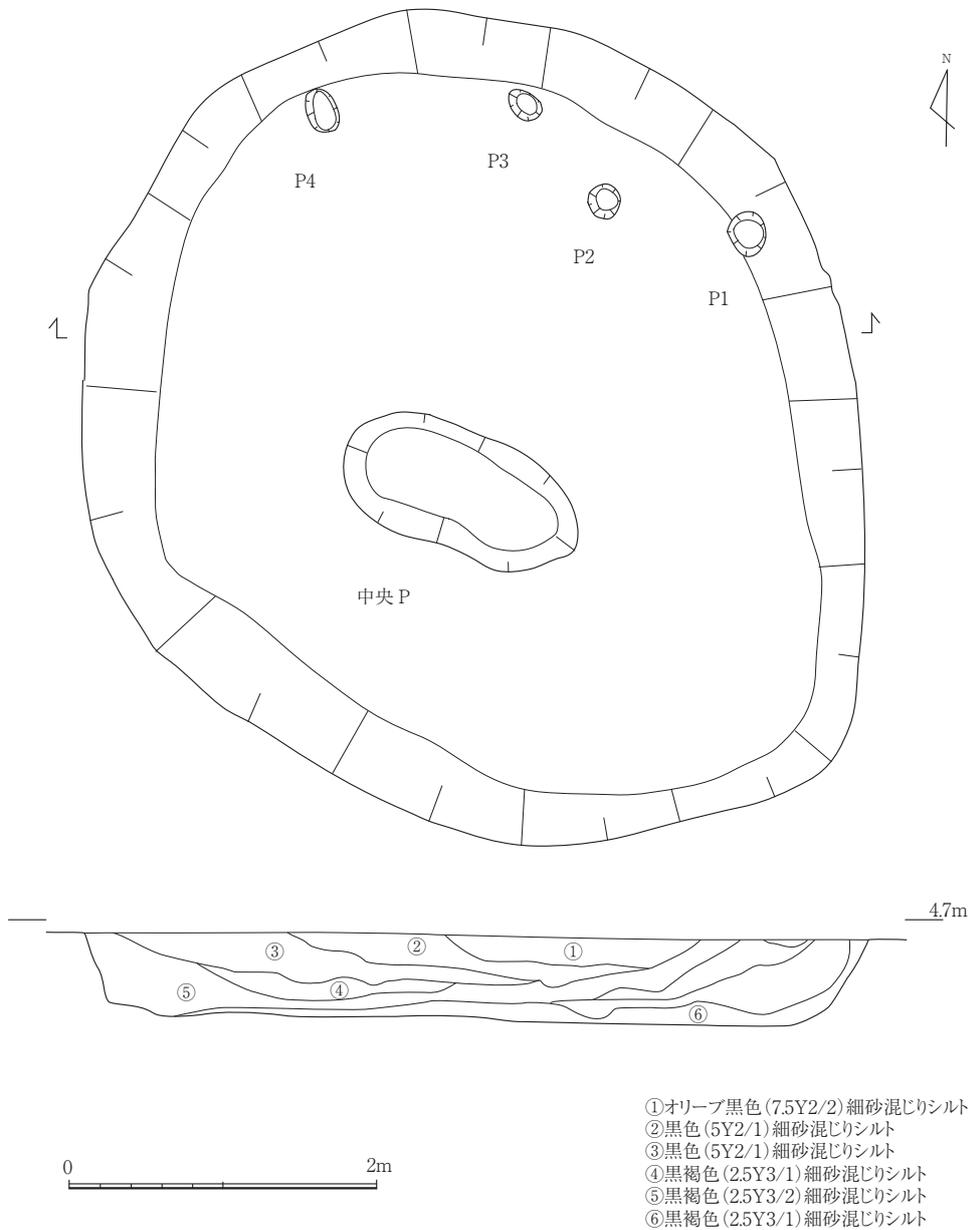
(3) 溝跡

SD1

I 区の北東部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ 16.5m、幅 4.8 m、深さ 0.2m を測る。断面形は皿状であり、埋土は黒色 (7.5YR2/1) 細砂混じりシルトである。

SD2

I 区の南部で検出した東西にのびる溝である。規模は長さ 27.0m、幅 1.3 m、深さ 0.4m を測る。



第68図 SK74平面図・セクション図

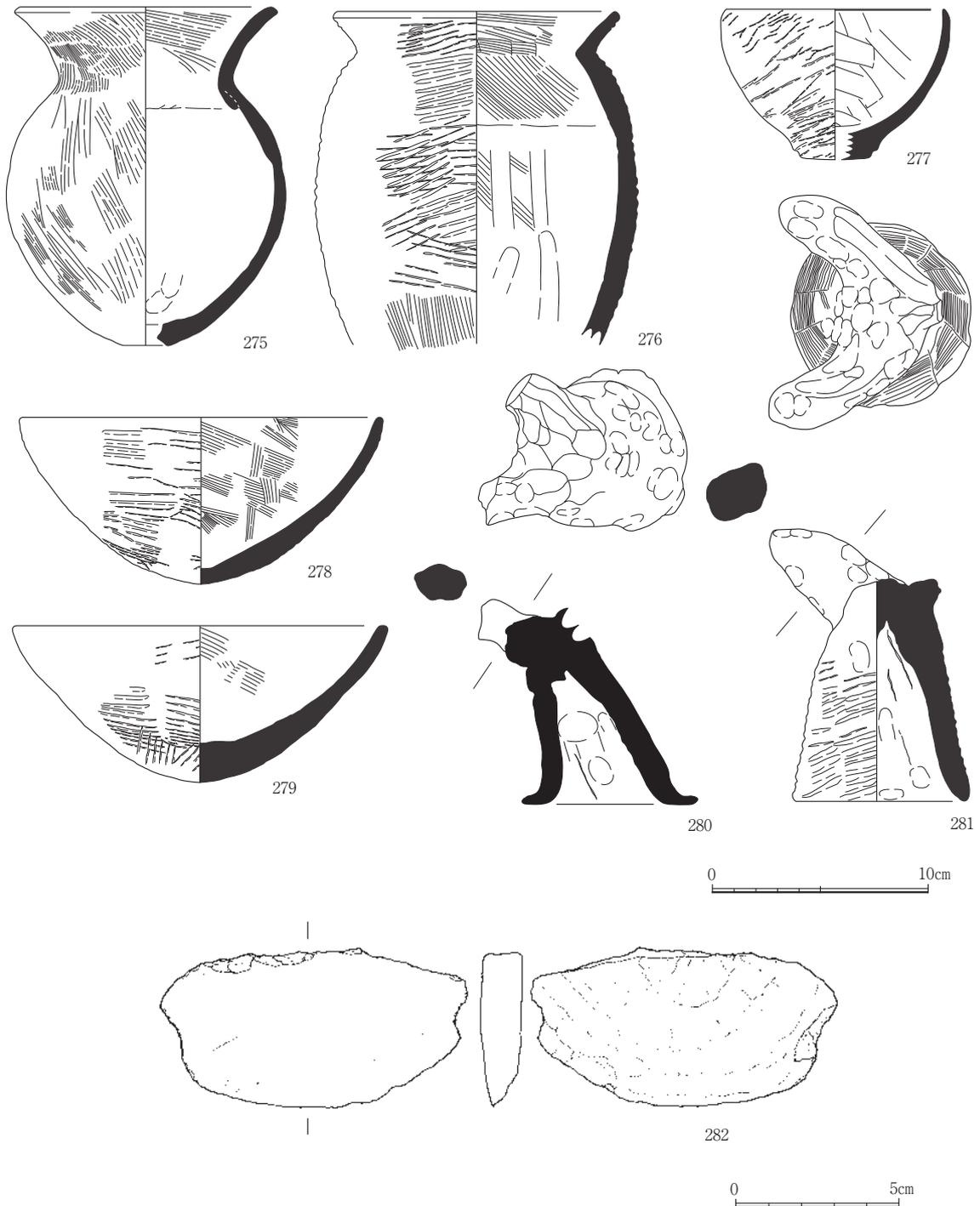
断面形はU字状であり、埋土は黒褐色系のシルトである。

SD3

I 区の北西部調査区外から東へのび、ST1 を切りながら南北へのびる溝である。規模は長さ 10.4m、幅 0.1 m、深さ 0.1m までは検出した。

SD4

I 区の南東部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ 7.5m、幅 0.3 m、深さ 5 cm を測る。



第 69 図 SK74 出土遺物実測図

断面形は皿状である。図化した遺物はないが、出土遺物のなかには庄内土器の体部片が1点含まれている。

SD5

I区の南部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ11.0m、幅0.3m、深さ0.1mを測る。

SD6

I区の北西部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ6.2m、幅0.3m、深さ0.1mを測る。図化した遺物はないが、出土遺物のなかには庄内土器の体部片が1点含まれている。

SD7

I区の北西部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ6.8m、幅0.4m、深さ5cmを測る。

SD8

I区の北西部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ2.8m、幅0.3m、深さ5cmを測る。

SD9

I区の西部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ2.8m、幅0.5m、深さ0.1mを測る。

SD10・12

I区の西部で検出した東西にのびる溝である。規模は長さ4.1m、幅0.3m、深さ5cmを測る。

SD11

I区の西部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ2.4m、幅0.5m、深さ0.1mを測る。

SD13

I区の西部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ1.6m、幅0.5m、深さ0.2mを測る。断面形は舟底状であり、埋土は黄灰色(2.5Y4/1)細砂混じりシルトと浅黄色(2.5Y7/4)シルトブロックが混じる。

図化した出土遺物は、壺(357)である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを行う。外面はナデ調整、内面はハケ調整である。甕の可能性もある。

SD14

I区の西部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ1.4m、幅0.6m、深さ0.3mを測る。断面形はU字状であり、埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

SD15

I区の中央部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ2.2m、幅0.4m、深さ0.1mを測る。

SD16

I区の北西部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ1.0m、幅0.8m、深さ0.3mまでは検出した。

図化した出土遺物は、複合口縁壺(358)、甕(359)、鉢(360)である。358の口唇部は丸くおさめる。外面には櫛描波状文を施す。359は上胴部に最大径を持ち、頸部はあまりしまらず、口縁部は「く」の字状を呈する。外面は叩き調整後、丁寧にハケ調整を施し、叩き目はほとんど見られない。内面はハケ調整である。

SD17

Ⅱ区の南部で検出した東西にのびる溝である。規模は長さ 20.3m、幅 0.5 m、深さ 0.1m を測る。

SD18

Ⅱ区の南部で検出した東西にのびる溝である。規模は長さ 7.0m、幅 0.5 m、深さ 0.1m を測る。

図化した出土遺物は、甕(361)である。口縁部は「く」の字状に屈曲し、端部はつまみ上げ風におわらせる。搬入土器である。

SD19

Ⅱ区の南部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ 5.6m、幅 0.5 m、深さ 0.3m を測る。

SD20

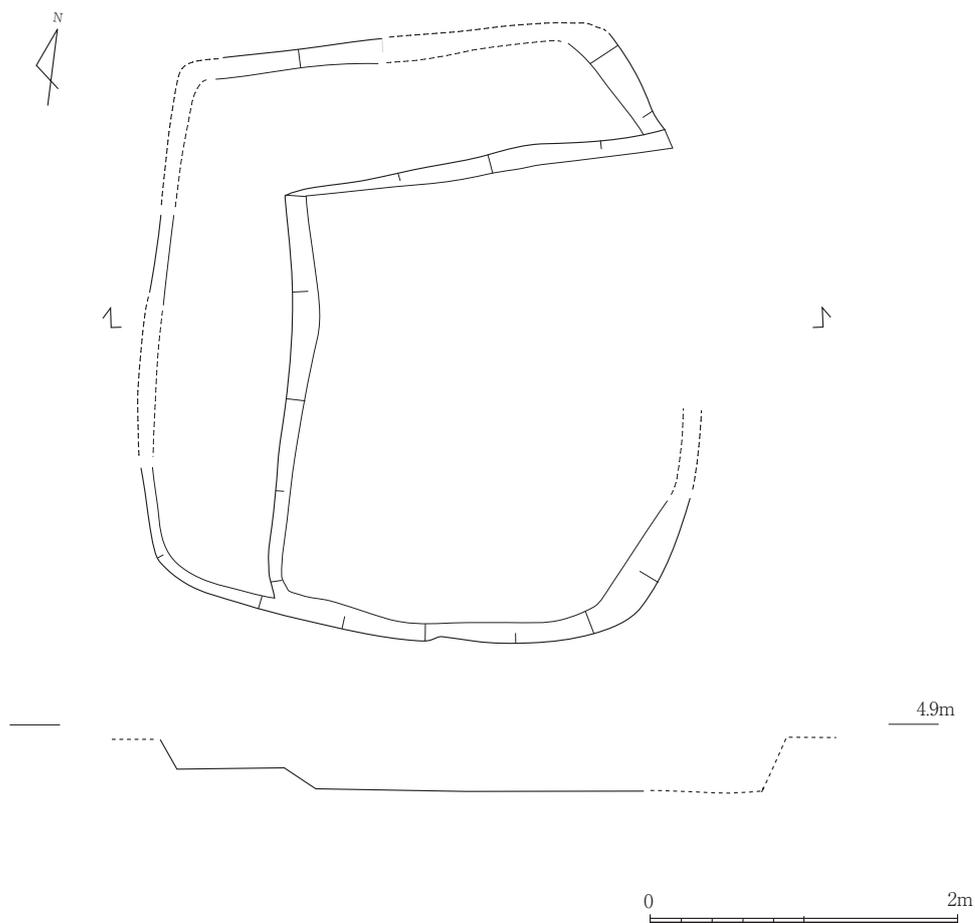
Ⅱ区の北部で検出した東西にのびる溝である。規模は長さ 23.5m、幅 0.6 m、深さ 0.2m を測る。

断面形はU字状であり、埋土は黒色 (10YR1.7/1) シルトである。

SD21

Ⅱ区の中央部東側で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ 7.0m、幅 0.4 m、深さ 0.3m を測る。

断面形は舟底状である。



第70図 SK75平面図・エレベーション図

SD22

II 区の南東部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ 3.8m、幅 0.3 m、深さ 0.1m を測る。

SD23

II 区の南西部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ 2.2m、幅 0.2 m、深さ 5 cm を測る。

SD24

II 区の南東部で検出した東西にのびる溝である。規模は長さ 1.2m、幅 0.4 m、深さ 0.1m を測る。断面形は舟底状であり、埋土は黒色 (2.5Y2/1) 細砂混じりシルトである。

SD25

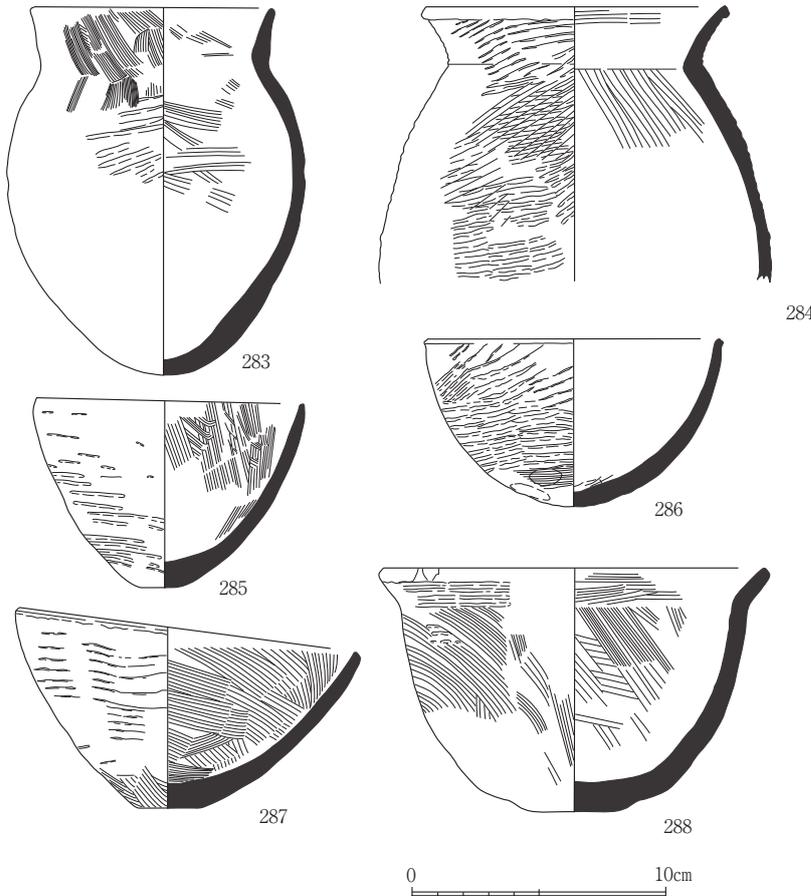
II 区の中央部東側で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ 16.0m、幅 0.5 m、深さ 0.3m を測る。断面形は U 字状であり、埋土は①褐灰色 (10YR4/1) 細砂混じりシルト、②暗灰黄色 (2.5Y4/2) 細砂混じりシルトである。

SD26

II 区の中央部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ 2.0m、幅 0.2 m、深さ 5 cm を測る。

SD27

II 区の中央部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ 0.9m、幅 0.4 m、深さ 0.2m を測る。断面形は U 字状であり、埋土は黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルトである。



SD28

II 区の中央部東側で検出した溝である。規模は長さ 6.0m、幅 0.2 m、深さ 6 cm を測る。埋土は黒褐色 (10YR3/1) シルトである。

SD29

II 区の北西部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ 3.0m、幅 0.4 m、深さ 0.1m を測る。断面形は皿状である。

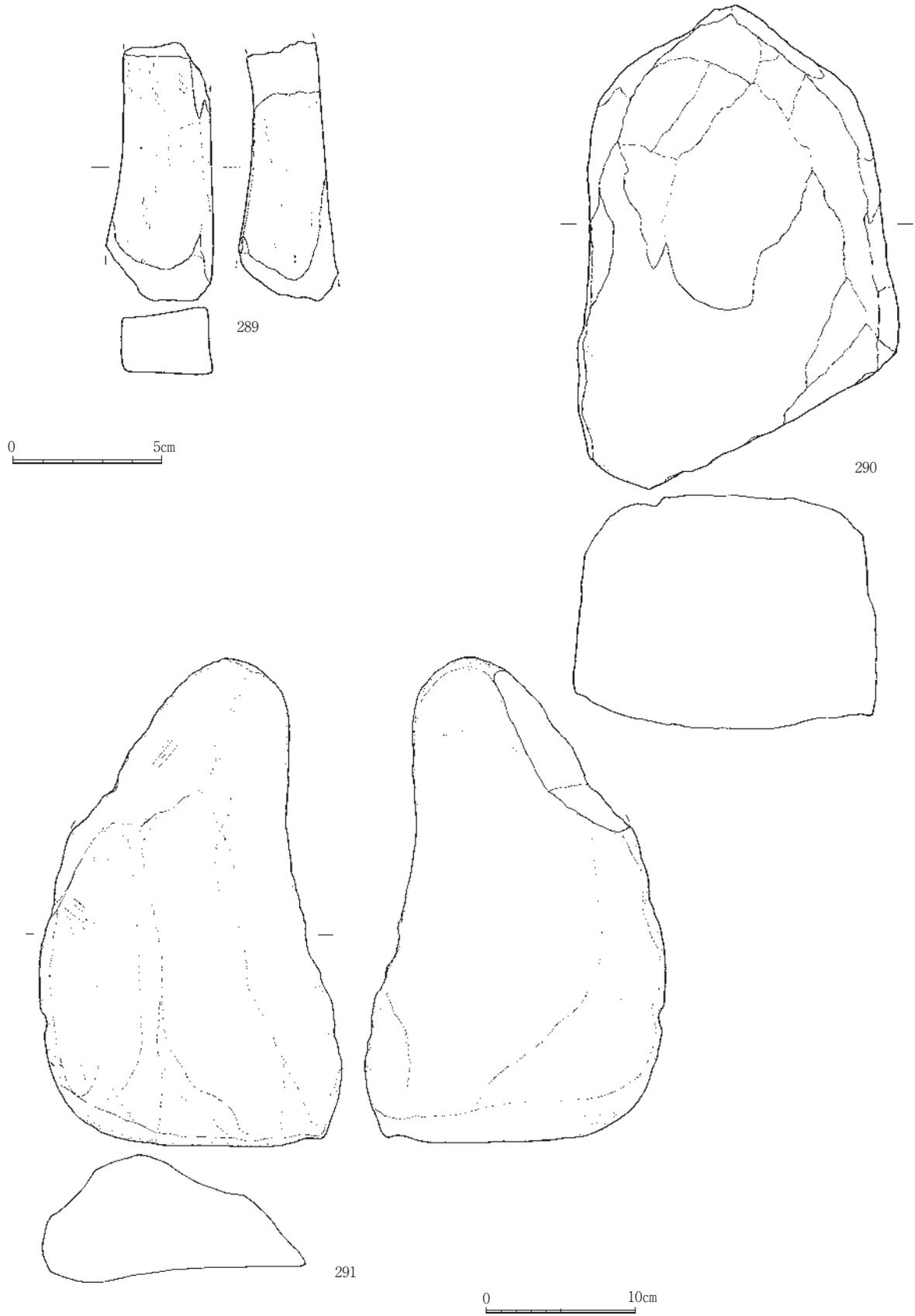
SD30

II 区の東部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ 4.2m、幅 0.2 m、深さ 0.1m までは検出した。

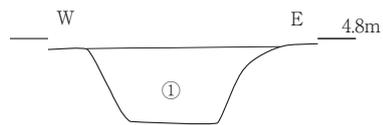
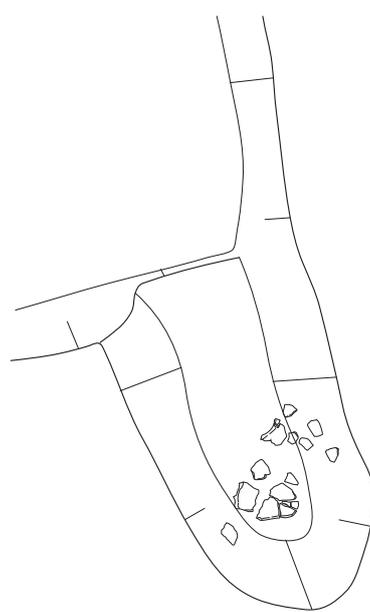
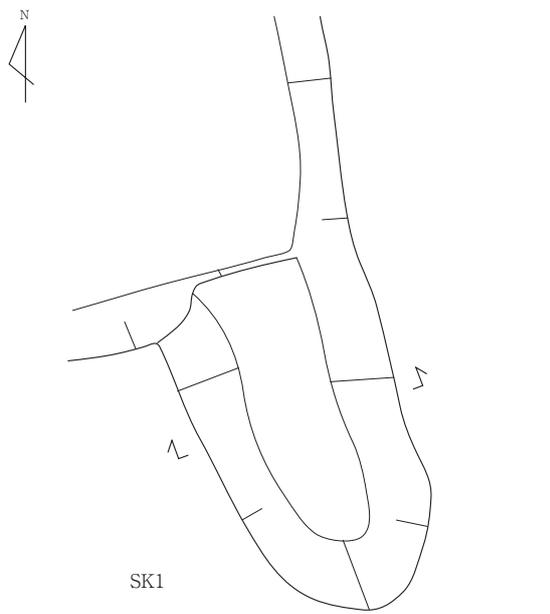
SD31

II 区の西部で検出した東西にのびる溝である。規模

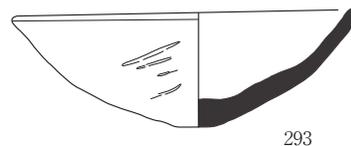
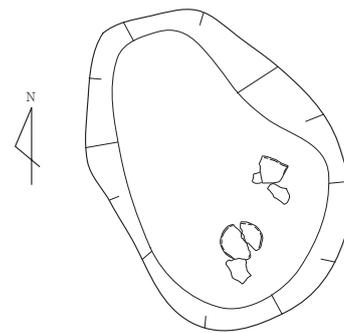
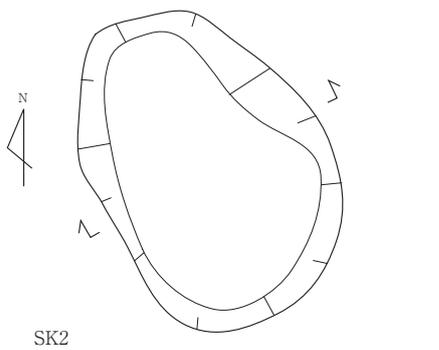
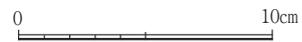
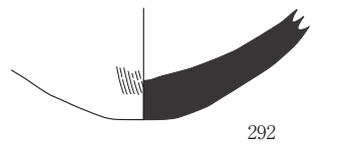
第71図 SK75出土遺物実測図1



第72図 SK75出土遺物実測図2



①黒色(7.5YR2/1)シルト



第73図 SK1・2平面図・セクション図・遺物出土状況図・遺物実測図

は長さ 1.3m、幅 0.4 m、深さ 0.1m を測る。

SD32

Ⅱ区の西部で検出した東西にのびる溝である。規模は長さ 2.6m、幅 0.4 m、深さ 0.1m を測る。

SD33

Ⅱ区の南西部で検出した溝である。規模は長さ 2.2m、幅 0.2 m、深さ 3 cm を測る。

SD34

Ⅱ区の東部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ 1.1m、幅 0.3 m、深さ 0.1m を測る。

SD35・44

Ⅲ E 区の中央部で検出した東西にのびる溝である。規模は長さ 13.5m、幅 0.4 m、深さ 0.2m を測る。断面形は逆台形であり、埋土はオリーブ黒色（5Y3/2）細砂混じりシルトである。

SD36・39

Ⅲ E 区の北部で検出した東西にのびる溝である。規模は長さ 17.7m、幅 0.8 m、深さ 0.2m を測る。断面形は舟底状であり、埋土は灰黄褐色（10YR4/2）粘土である。

SD37

Ⅲ E 区の南部で検出した東西にのびる溝である。規模は長さ 0.9m、幅 0.3 m、深さ 0.1m を測る。

SD38

Ⅲ W 区の中央部で検出した東西にのびる溝である。規模は長さ 14.0m、幅 0.5 m、深さ 0.2m を測る。埋土は褐灰色（10YR4/1）粘土である。

SD40

Ⅲ S 区の中央部北側で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ 6.0m、幅 0.4 m、深さ 0.1m を測る。

SD41

Ⅲ S 区の北部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ 3.2m、幅 0.5 m、深さ 5 cm を測る。

SD42

Ⅲ S 区の北西部で検出した東西にのびる溝である。規模は長さ 3.0m、幅 0.2 m、深さ 5 cm を測る。

SD43

Ⅲ M 区の北東部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ 6.5m、幅 0.5 m、深さ 0.1m を測る。埋土は褐灰色（10YR4/1）細砂混じり粘土である。

SD45

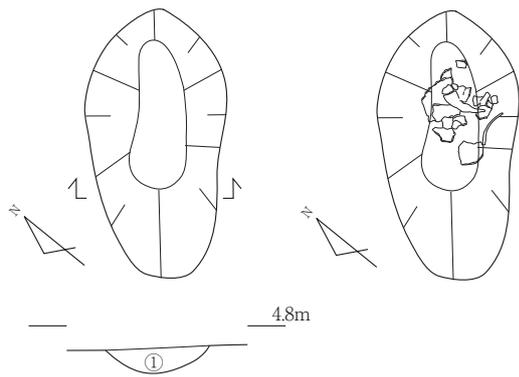
Ⅳ区の中央部で検出した東西にのびる溝である。規模は長さ 7.5m、幅 0.5 m、深さ 0.2m を測る。

SD46

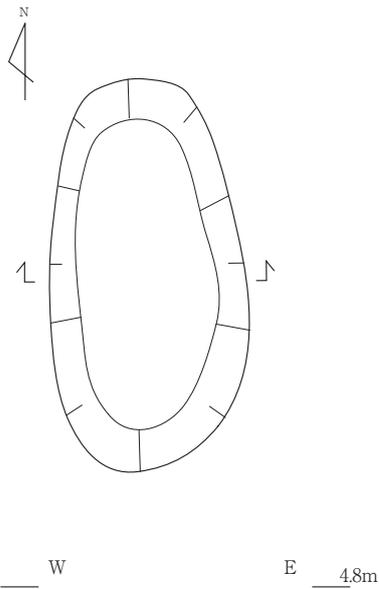
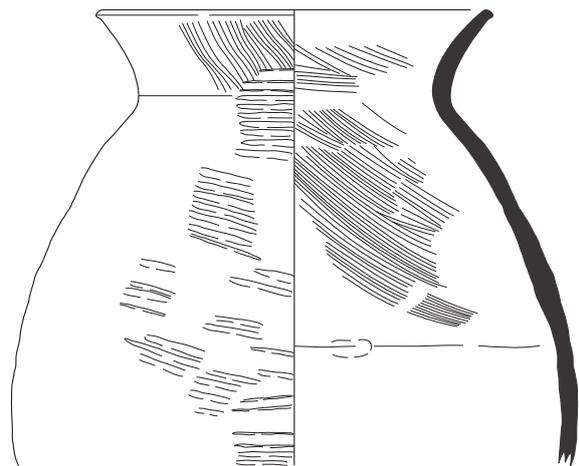
Ⅳ区の南西部で検出した東西にのびる溝である。規模は長さ 20.0m、幅 1.0 m、深さ 0.5m を測る。

SD47

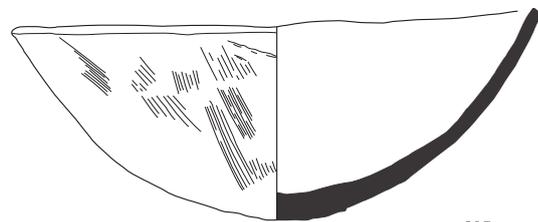
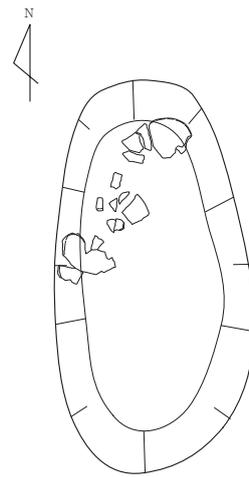
Ⅳ区の南部で検出した東西にのびる溝であり、数条の溝跡が重複している。このうちの 1 条の溝跡は ST24 を切る。規模は長さ 14.5m、幅 1.0 m、深さ 0.4m を測る。断面形は舟底状であり、埋土は暗灰黄色（2.5Y4/2）細砂混じりシルトである。



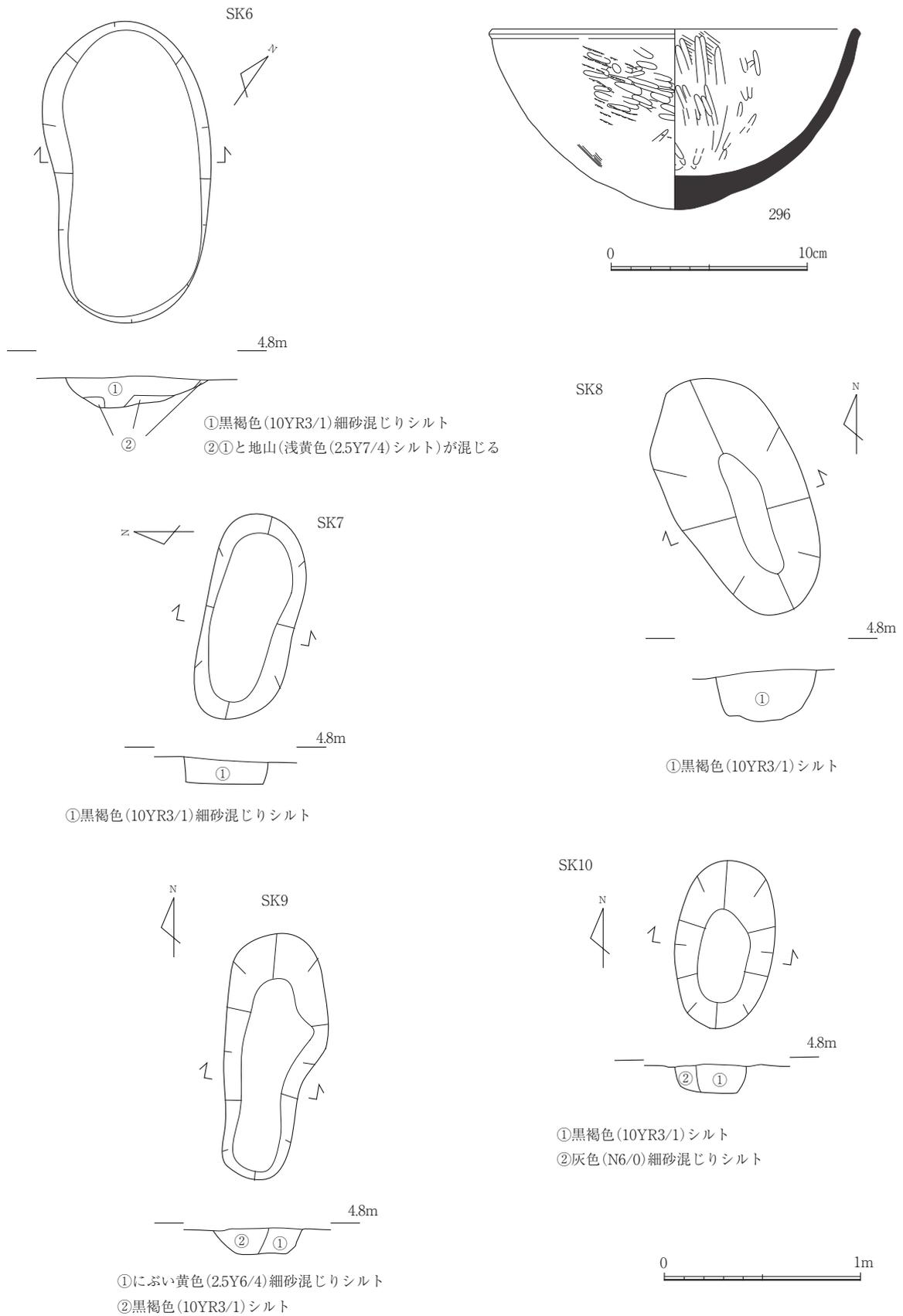
①にぶい黄褐色(10YR4/3)細砂混じりシルト



①黒褐色(10YR3/1)シルト(炭化物土器含む)



第74図 SK4・5平面図・セクション図・遺物出土状況図・遺物実測図



第75図 SK6～10平面図・セクション図・遺物実測図

SD48

IV区の南部で検出した東西にのびる溝である。規模は長さ 9.5m、幅 3.5 m、深さ 0.2m を測る。断面形は舟底状である。

SD49

IV区の東部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ 5.2m、幅 0.6 m、深さ 0.4m を測る。断面形は舟底状であり、埋土は黒褐色細砂混じりシルト、灰黄褐色細砂混じりシルトである。

図化した出土遺物は、壺(362～365)、甕(366～376)、鉢(377)、高杯(378)、磨製石鏃(379)である。362は口縁端部を外反させ、口頸部境に弱い段部を有する。363は口頸部境に明瞭な段部を有する。366～369・373・374は如意状口縁部で口唇部下端に刻み目を施し、上胴部は無文のタイプである。内外面とも、すべてナデ調整である。366は底部に焼成後の穿孔が認められる。370～372はいわゆる有段甕である。370の口縁部は如意状を呈し、口唇部下端に刻み目を施す。上胴部に刻み目を施した突帯状の隆起帯が巡る。371の口縁部は如意状を呈し、口唇部下端に刻み目を施す。上胴部に刻み目を施した段部を有する。外面はハケ調整である。372の口縁部は如意状を呈し、口唇部の上端と下端に刻み目を施す。段部の幅は狭いものと推定され、段部には刻み目を持つ。378は杯部から脚部にかけての破片である。杯部内面に段部を持ち、脚部に断面三角形の刻目突帯を巡らせる。379は粘板岩の磨製石鏃である。断面形は扁平な菱形を呈し、片面の鏑は直線的に入る。

SD50

IV区の東部で検出した東西にのびる溝である。規模は長さ 1.0m、幅 0.3 m、深さ 0.1m を測る。

SD51

IV区の南西部で検出した南北にのびる溝である。規模は長さ 9.0m、幅 1.0 m、深さ 0.4m を測る。

SD52

IV区の北西部で検出した東西にのびる溝である。規模は長さ 5.2m、幅 1.0 m を測る。断面形は逆台形である。

図化した出土遺物は、壺(380)である。弥生時代前期の大形壺の底部である。

(4)ピット

P2

I区の中央部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.4m、深さは 0.1m を測る。埋土はにぶい黄褐色(10YR4/3)シルトである。

P4

I区の中央部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.2m を測る。埋土は褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルトである。

P5

I区の中央部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.2m を測る。埋土は褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルトである。

P6

I 区の東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.3m、深さは 0.1m を測る。埋土は黒褐色（7.5YR3/2）細砂である。

P7

I 区の東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.3m、深さは 0.1m を測る。埋土は黒褐色（10YR3/1）細砂である。

P8

I 区の東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 5 cm を測る。埋土は黒褐色（7.5YR3/2）細砂である。

P9

I 区の東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.4m、深さは 5 cm を測る。埋土は黒褐色（2.5Y3/1）細砂である。

P10

I 区の東部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸 0.4m、短軸 0.3m、深さは 0.1m を測る。埋土は黒褐色（10YR3/2）細砂である。

P11

I 区の東部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸 0.3m、短軸 0.2m、深さは 5 cm を測る。埋土は黒色（10YR1/2）細砂である。

P12

I 区の東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.3m、深さは 0.1m を測る。埋土は黒褐色（10YR3/2）細砂である。

P13

I 区の東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.1m を測る。埋土は黒褐色（2.5Y3/2）細砂である。

P14

I 区の東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.2m を測る。埋土は黒褐色（10YR3/2）細砂である。

P15

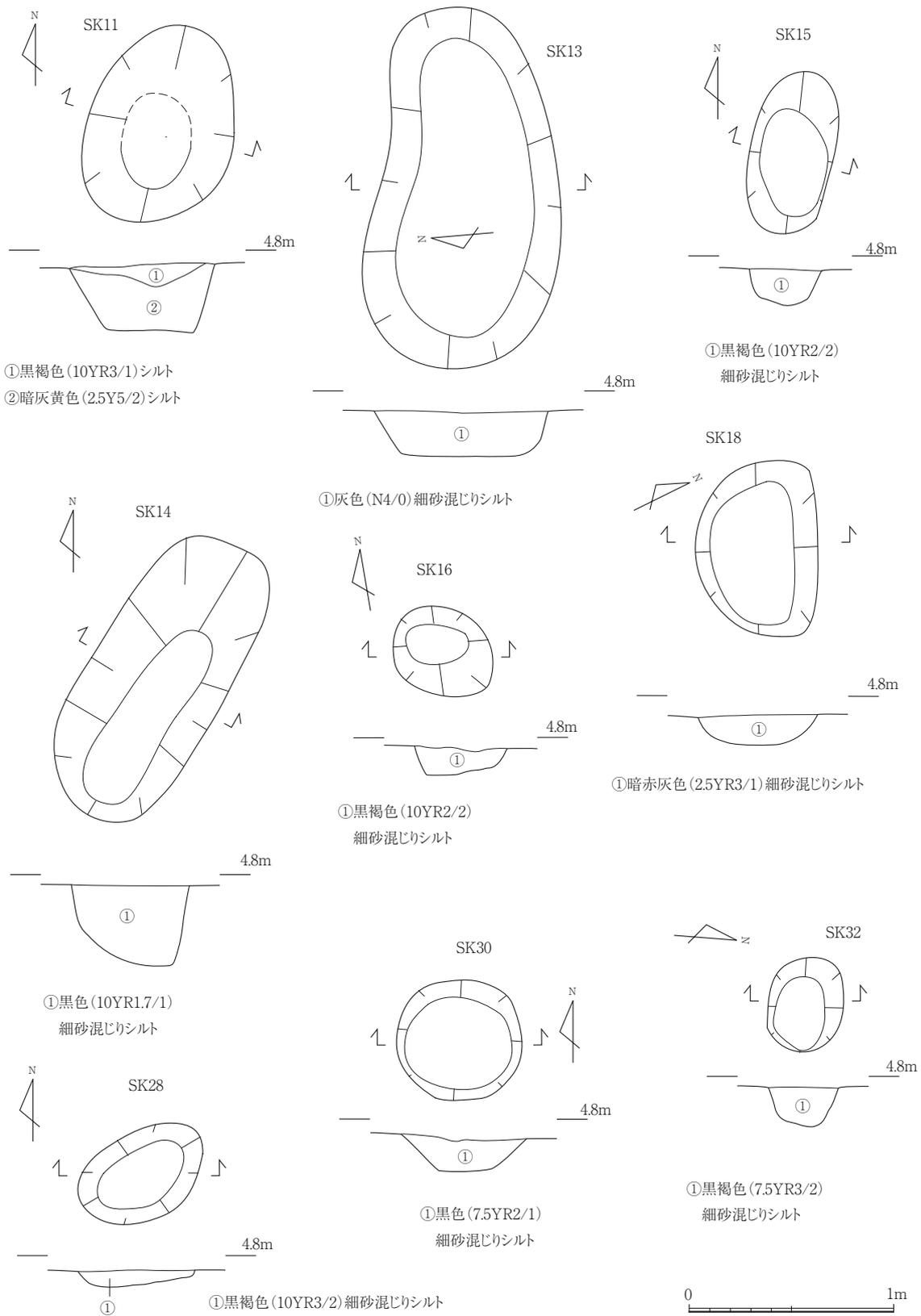
I 区の東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.2m を測る。埋土は黒褐色（7.5YR3/2）細砂である。

P16

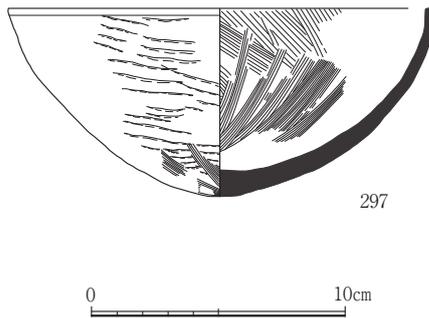
I 区の東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.3m、深さは 0.1m を測る。埋土は黒褐色（10YR3/2）細砂である。

P17

I 区の東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.3m、深さは 0.1m を測る。埋土は黒褐色（10YR3/2）細砂である。



第76図 SK11・13～16・18・28・30・32平面図・セクション図



第77図 SK11実測図

P18

I 区の東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.3m、深さは 0.1m を測る。埋土は黒褐色 (10YR2/2) 細砂である。

P19

I 区の東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.3m、深さは 0.1m を測る。埋土は極暗褐色 (7.5YR2/3) 細砂である。

P20

I 区の北東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.3m、深さは 0.1m を測る。埋土は暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂混じりシルトである。

P21

I 区の北東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.3m を測る。埋土は暗褐色 (10YR3/3) 細砂混じりシルトである。

P22

I 区の中央部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.1m を測る。埋土は暗褐色 (10YR3/3) 細砂混じりシルトである。

P23

I 区の中央部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.2m を測る。埋土は灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂混じりシルトである。

P24

I 区の中央部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.2m を測る。埋土は暗褐色 (10YR3/3) 細砂混じりシルトである。

P25

I 区の中央部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 5 cm を測る。埋土は灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂混じりシルトである。

P26

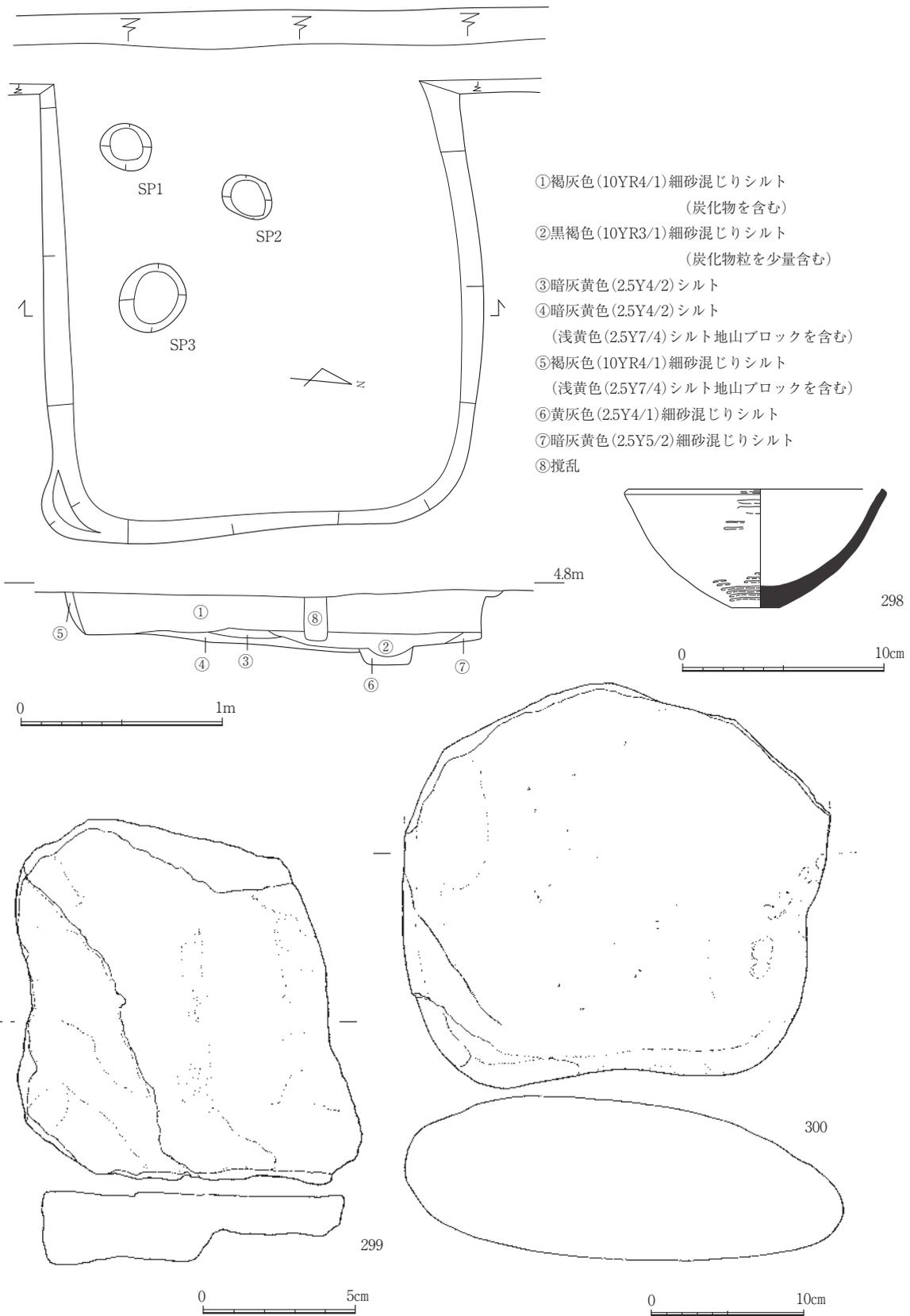
I 区の中央部に位置する。平面形は不整円形を呈しており、規模は長軸 0.3m、短軸 0.2m、深さは 0.1m を測る。埋土はにぶい黄褐色 (10YR4/3) 細砂混じりシルトである。

P27

I 区の中央部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸 0.4m、短軸 0.3m、深さは 5 cm を測る。埋土は暗褐色 (10YR3/3) 細砂混じりシルトである。

P28

I 区の中央部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.2m を測る。埋土は暗褐色 (10YR3/3) 細砂混じりシルトである。



第78図 SK36平面図・セクション図・出土遺物実測図

P29

I 区の中央部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.3m、深さは 0.2m を測る。埋土は暗褐色（10YR3/3）細砂混じりシルトである。

P32

I 区の中央部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.2m を測る。埋土は暗褐色（10YR3/3）細砂混じりシルトである。

P33

I 区の中央部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.2m を測る。埋土は暗褐色（10YR3/3）細砂混じりシルトである。

P34

I 区の中央部に位置する。平面形は不整形円形を呈しており、規模は径 0.4m、深さは 0.1m を測る。埋土は暗褐色（10YR3/3）細砂混じりシルトである。

P35

I 区の中央部に位置する。平面形は不整形円形を呈しており、規模は径 0.4m、深さは 0.1m を測る。埋土はオリブ褐色（2.5Y4/3）細砂混じりシルトである。

P36

I 区の中央部に位置する。平面形は不整形円形を呈しており、規模は径 0.4m、深さは 0.2m を測る。埋土はオリブ褐色（2.5Y4/3）細砂混じりシルトである。

P37

I 区の中央部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.2m を測る。埋土は暗褐色（10YR3/3）細砂混じりシルトである。

P38

I 区の北部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.3m、深さは 0.1m を測る。埋土はオリブ褐色（2.5Y4/3）細砂混じりシルトである。

P39

I 区の北部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.2m を測る。埋土は暗褐色（10YR3/4）細砂混じりシルトである。

P40

I 区の北部に位置する。平面形は隅丸方形を呈しており、規模は長軸 0.3m、短軸 0.2m、深さは 5 cm を測る。埋土はオリブ褐色（2.5Y4/3）細砂混じりシルトである。

P41

I 区の北部に位置する。平面形は不整形円形を呈しており、規模は長軸 0.5m、短軸 0.4m、深さは 0.2m を測る。埋土は黒褐色（10YR3/2）細砂混じりシルトである。

P42

I 区の北部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.4m、深さは 0.1m を測る。埋土はオリブ褐色（2.5Y4/3）細砂混じりシルトである。

P43

I 区の北西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.4m、深さは 0.1m を測る。埋土はオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂混じりシルトである。

P44

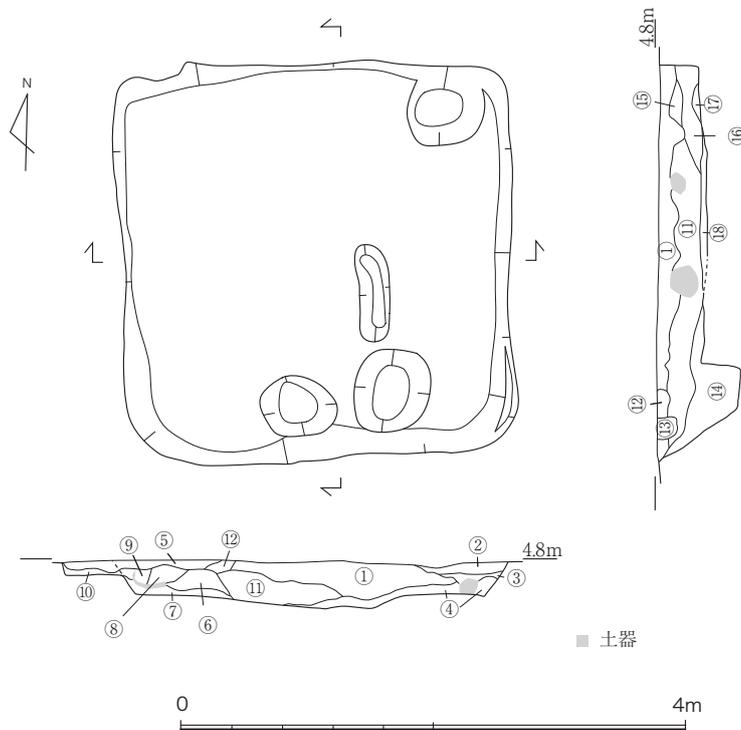
I 区の西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.3m を測る。埋土は暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂混じりシルトである。

P45

I 区の南西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.1m を測る。埋土はオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂混じりシルトである。

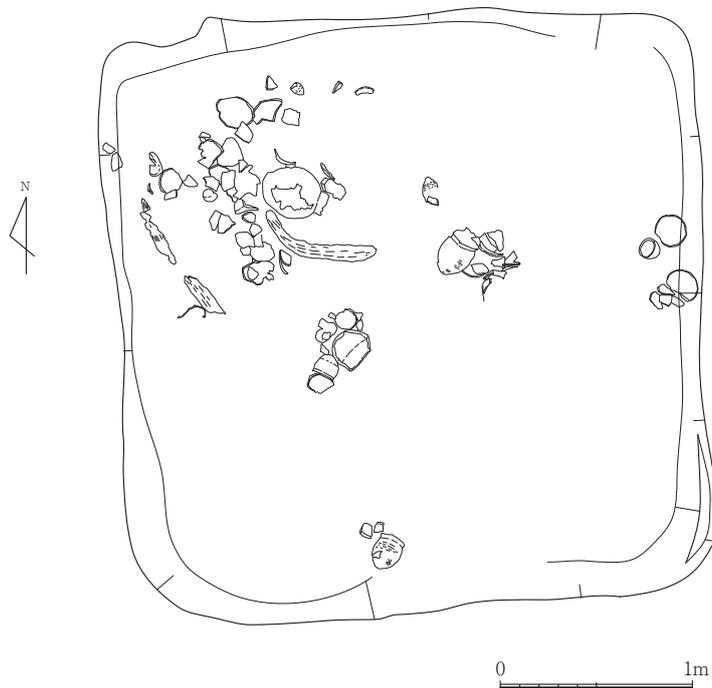
P46

I 区の南西部に位置する。平面形は不整形円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.1m を測る。埋土は暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂混じりシルトである。



- ① オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂混じりシルト (浅黄色 (2.5Y7/4) 細砂ブロックを含む)
- ② 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 細砂混じりシルト
- ③ 黄褐色 (2.5Y5/3) 細砂混じりシルト
- ④ 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂混じりシルト
- ⑤ 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 細砂混じりシルト [攪乱]
- ⑥ 暗オリーブ褐色 (5Y4/3) 細砂混じりシルト
- ⑦ 灰オリーブ色 (5Y5/3) 細砂混じりシルト
- ⑧ オリーブ黒色 (5Y3/1) 細砂混じりシルト
- ⑨ オリーブ黒色 (5Y3/2) 細砂混じりシルト (焼土)
- ⑩ オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 細砂混じりシルト [攪乱]
- ⑪ オリーブ色 (5Y5/6) 細砂混じりシルト (焼土)
- ⑫ 攪乱
- ⑬ 攪乱
- ⑭ 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 細砂混じりシルト (砂利を含む)
- ⑮ オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂混じりシルト
- ⑯ 暗オリーブ褐色 (5Y4/3) 細砂混じりシルト
- ⑰ オリーブ色 (5Y5/4) 細砂混じりシルト
- ⑱ 黒色 (5Y2/1) 細砂混じりシルト

第79図 SK37平面図・セクション図



第80図 SK37遺物出土状況図

P47

I 区の北部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.4m、深さは 5 cm を測る。埋土はオリブ黒色 (5Y3/2) 細砂混じりシルトである。

P48

I 区の中央部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.1m を測る。埋土はにぶい黄褐色 (10YR4/3) 細砂混じりシルトである。

P49

I 区の中央部南側に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.2m を測る。埋土はオリブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂混じりシルトである。

P50

I 区の中央部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.1m を測る。埋土は暗オリブ褐色 (5Y4/3) 細砂混じりシルトである。

P51

II 区の中央部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸 0.4m、短軸 0.3m、深さは 0.4m を測る。埋土は褐灰色 (10YR4/1) シルト～粘土である。

P52

II 区の中央部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は径 0.3m、深さは 0.1m を測る。

埋土は黒褐色（2.5Y3/2）細砂混じりシルトである。

P53

Ⅱ区の中央部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸0.5m、短軸0.3m、深さは0.3mを測る。埋土は黒褐色（10YR3/1）粘土である。

P54

Ⅱ区の中央部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸0.4m、短軸0.3m、深さは0.4mを測る。埋土は黒褐色（10YR3/1）粘土である。

P55

Ⅱ区の北部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは6cmを測る。埋土は黒褐色（2.5Y3/2）細砂混じりシルトである。

P56

Ⅱ区の北部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.2mを測る。埋土は黒褐色（2.5Y3/2）細砂混じりシルトである。

P57

Ⅱ区の中央部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.2mを測る。

P58

Ⅱ区の北部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸0.4m、短軸0.3m、深さは0.2mを測る。埋土は黒褐色（2.5Y3/2）細砂混じりシルトである。

P59

Ⅱ区の南部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.4m、深さは0.1mを測る。埋土は黒褐色（2.5Y3/2）細砂混じりシルトである。

P60

Ⅱ区の北西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.4m、深さは0.1mを測る。埋土は暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）細砂混じりシルトである。

P61

Ⅱ区の西部に位置する。平面形は不整形円形を呈しており、規模は径0.3m、深さは0.2mを測る。埋土は暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）細砂混じりシルトである。

P62

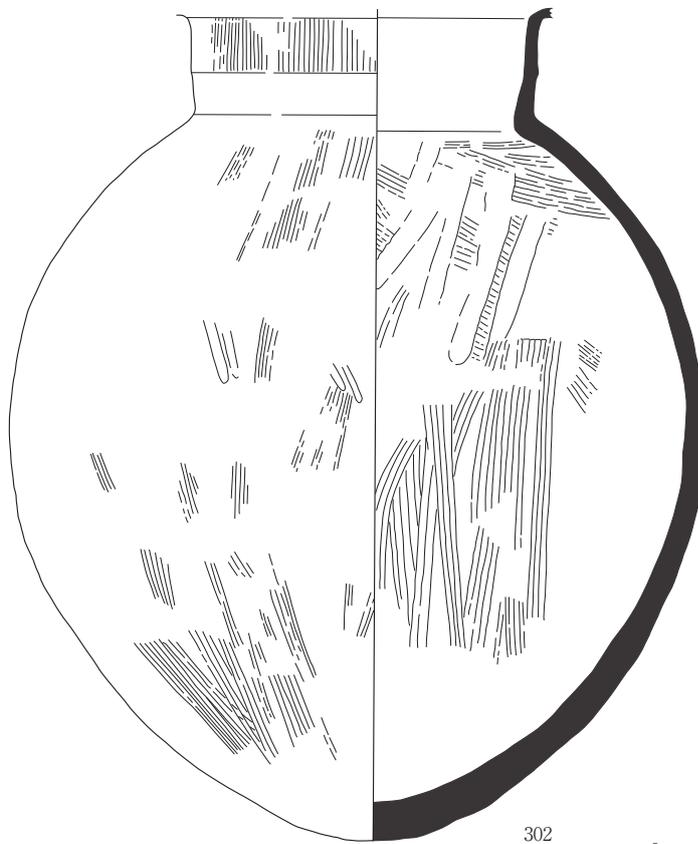
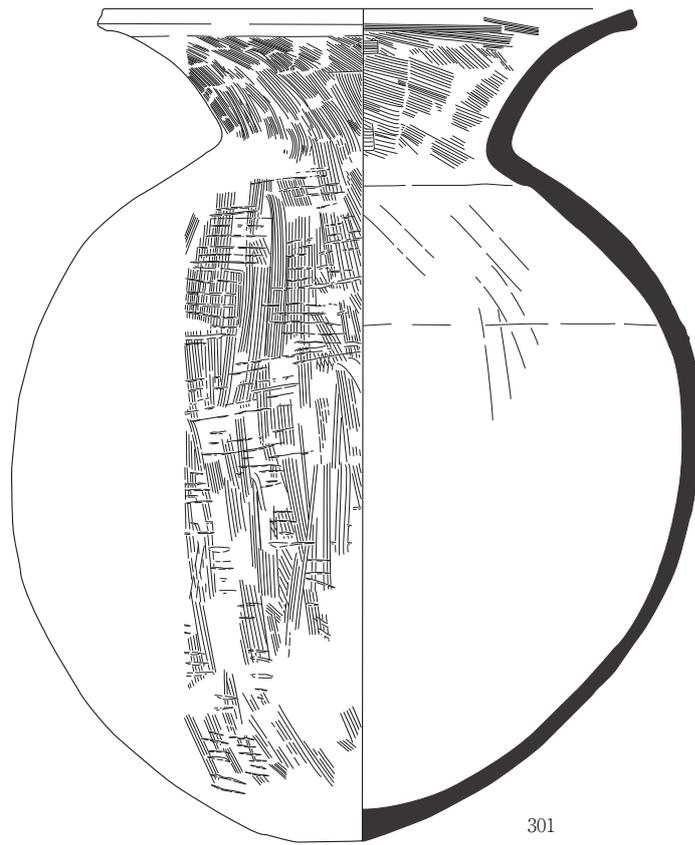
Ⅱ区の西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.3m、深さは0.1mを測る。埋土は黒褐色（2.5Y3/2）細砂混じりシルトである。

P63

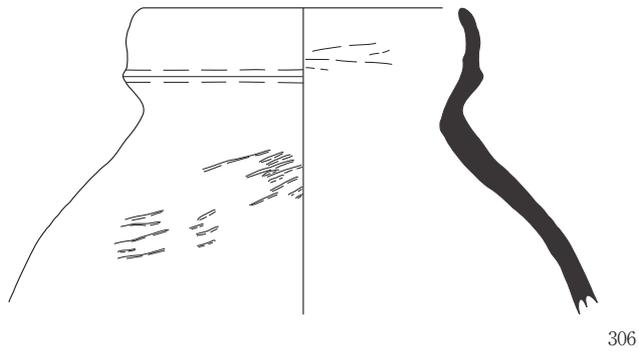
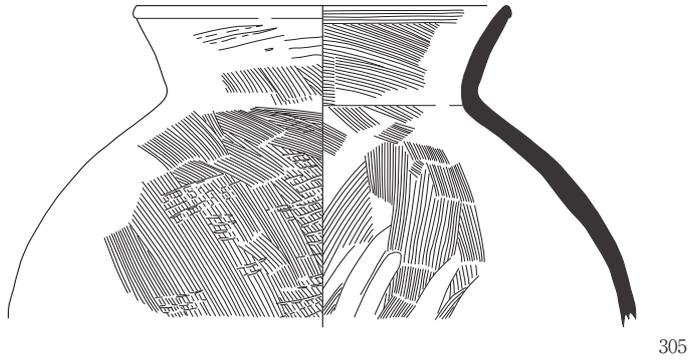
Ⅱ区の西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.1mを測る。埋土は黒褐色（2.5Y3/2）細砂混じりシルトである。

P64

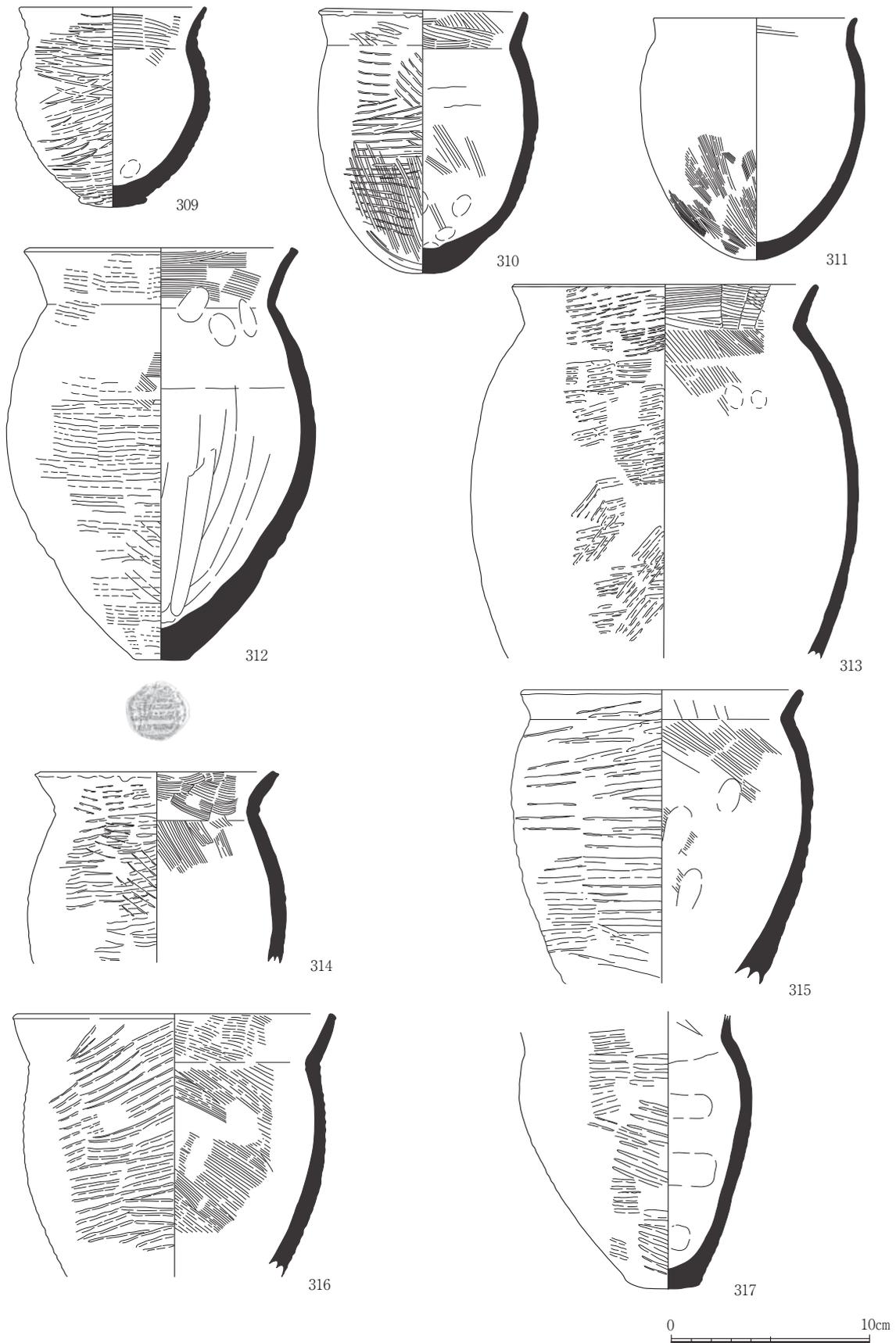
Ⅱ区の中央部西側に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.4m、深さは0.1mを測る。埋土は黒褐色（2.5Y3/2）細砂混じりシルトである。



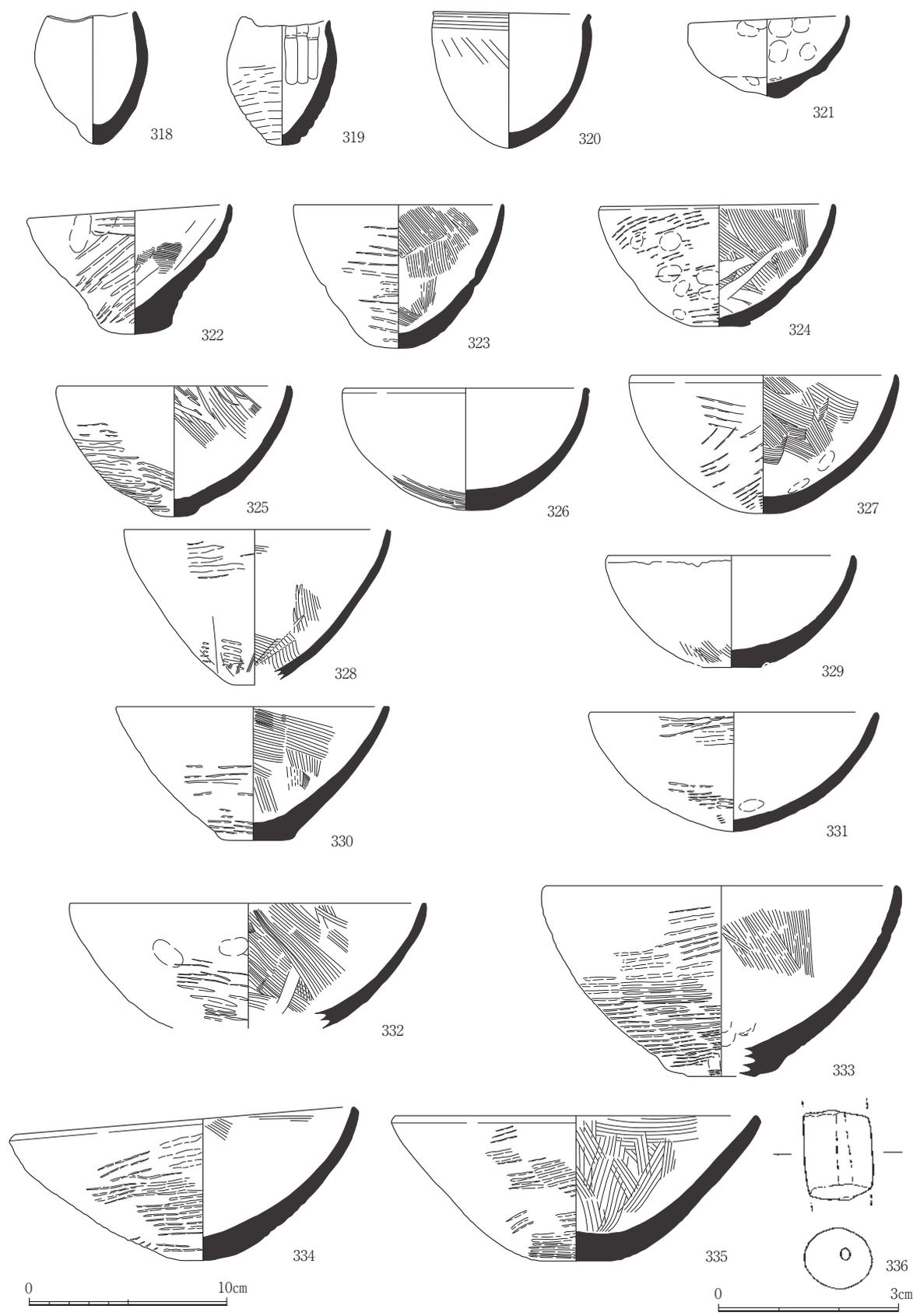
第81図 SK37出土遺物実測図1



第82図 SK37出土遺物実測図2



第83図 SK37出土遺物実測図3



第84図 SK37出土遺物実測図4

P65

Ⅱ区の西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.2mを測る。埋土はオリーブ黒色（5Y3/2）細砂混じりシルトである。

P66

Ⅱ区の西部に位置する。平面形は不整円形を呈しており、規模は径0.3m、深さは7cmを測る。埋土はオリーブ黒色（5Y3/2）細砂混じりシルトである。

P67

Ⅱ区の北部に位置する。平面形は不整円形を呈しており、規模は東西0.3m、南北0.2mまでは検出した。深さは0.3mを測る。埋土はオリーブ黒色（5Y3/2）細砂混じりシルトである。

P68

Ⅱ区の北部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.2mを測る。埋土はオリーブ黒色（5Y3/2）細砂混じりシルトである。

P69

Ⅱ区の北部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.2mを測る。埋土はオリーブ黒色（5Y3/2）細砂混じりシルトである。

P70

Ⅱ区の北部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸0.3m、短軸0.2m、深さは0.3mを測る。埋土はオリーブ黒色（5Y3/2）細砂混じりシルトである。

P71

Ⅱ区の北部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.3mを測る。埋土はオリーブ黒色（5Y3/2）細砂混じりシルトである。

P72

Ⅱ区の北部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.2mを測る。埋土はオリーブ黒色（5Y3/2）細砂混じりシルトである。

P73

Ⅱ区の南西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.3m、深さは8cmを測る。埋土はオリーブ褐色（2.5Y4/3）細砂混じりシルトである。

P74

Ⅱ区の南西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.3m、深さは4cmを測る。埋土はオリーブ褐色（2.5Y4/3）細砂混じりシルトである。

P75

Ⅱ区の南西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.1mを測る。埋土はオリーブ褐色（2.5Y4/3）細砂混じりシルトである。

P76

Ⅱ区の南西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは8cmを測る。埋土はオリーブ褐色（2.5Y4/3）細砂混じりシルトである。

P77

Ⅱ区の南西部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸 0.3m、短軸 0.2m、深さは 5 cmを測る。埋土は暗オリーブ色 (5Y4/3) 細砂混じりシルトである。

P78

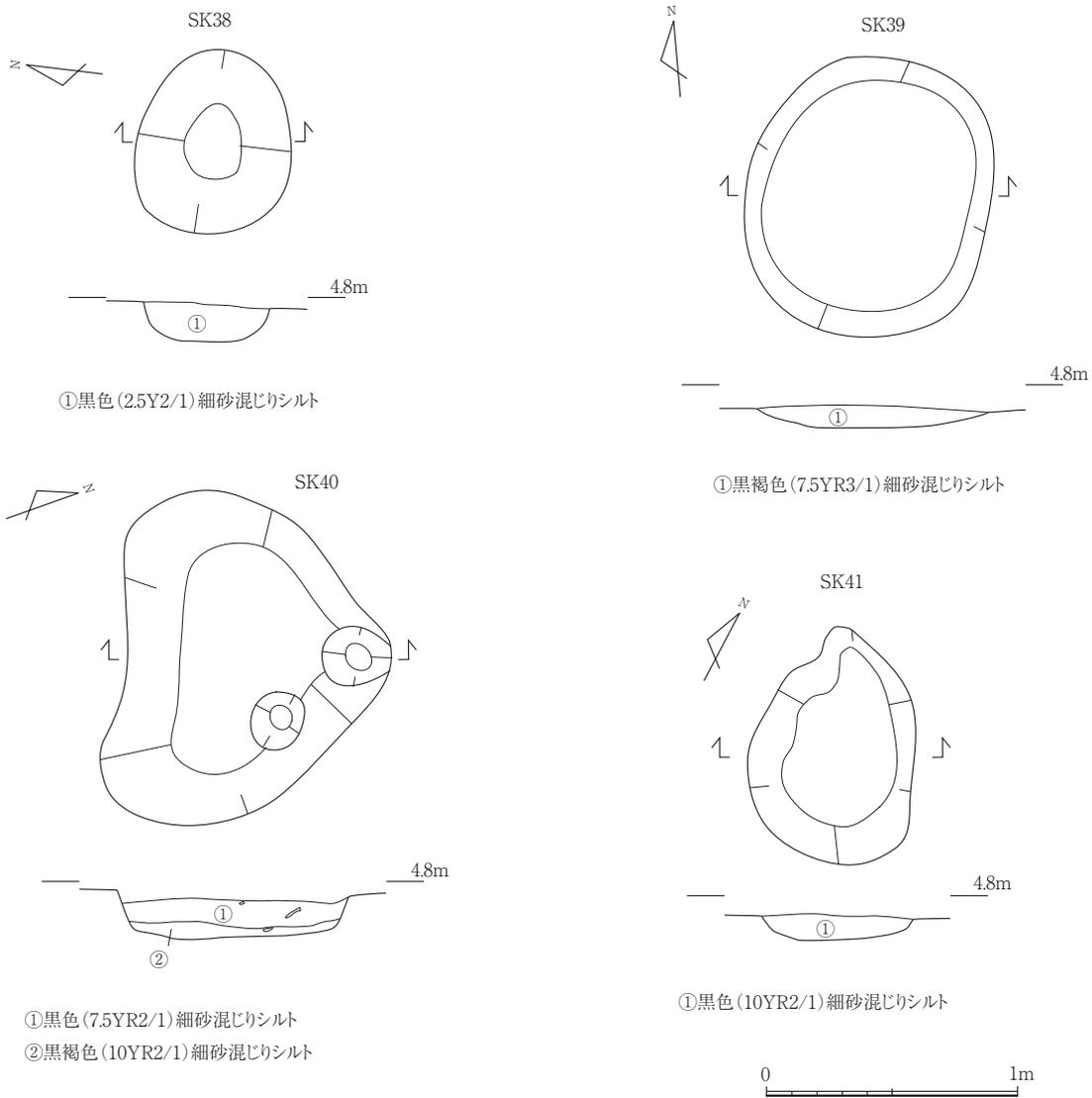
Ⅱ区の南西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.3m、深さは 0.3m を測る。埋土は暗オリーブ色 (5Y4/3) 細砂混じりシルトである。

P79

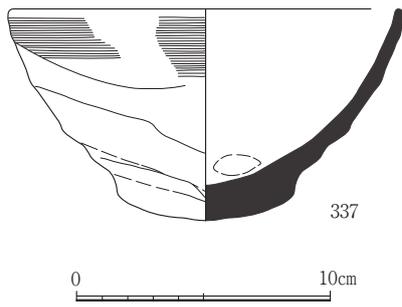
Ⅱ区の南西部に位置する。平面形は不整形円形を呈しており、規模は径 0.5m、深さは 0.2m を測る。埋土はオリーブ黒色 (5Y3/2) 細砂混じりシルトである。

P80

Ⅱ区の西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.1m を測る。埋土はオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂混じりシルトである。



第85図 SK38～41 平面図・セクション図



第86図 SK39出土遺物実測図

P81

Ⅱ区の西部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸 0.6m、短軸 0.4m、深さは 7 cm を測る。埋土はオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂混じりシルトである。

P82

Ⅱ区の西部に位置する。平面形は不整形円形を呈しており、規模は径 0.3m、深さは 0.1m を測る。埋土はオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂混じりシルトである。

P83

Ⅱ区の北部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.2m を測る。埋土は黒褐色 (2.5Y3/2) 細砂混じりシルトである。

P84

Ⅱ区の北部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.2m を測る。埋土はにぶい黄褐色 (10YR4/3) 細砂混じりシルトである。

P85

Ⅱ区の南西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.3m、深さは 0.1m を測る。埋土はオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂混じりシルトである。

P86

Ⅱ区の西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.4m を測る。埋土は黒褐色 (2.5Y3/2) 細砂混じりシルトである。

P87

Ⅱ区の南部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.1m を測る。

P88

Ⅱ区の北部に位置する。平面形は不整形円形を呈しており、規模は東西 0.3m、南北 0.2m までは検出した。深さは 0.1m を測る。埋土はオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂混じりシルトである。

P89

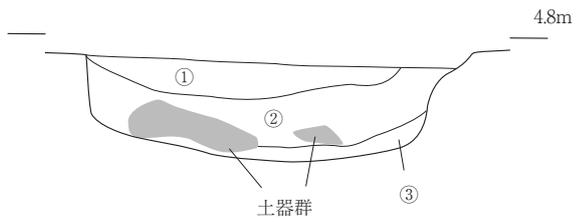
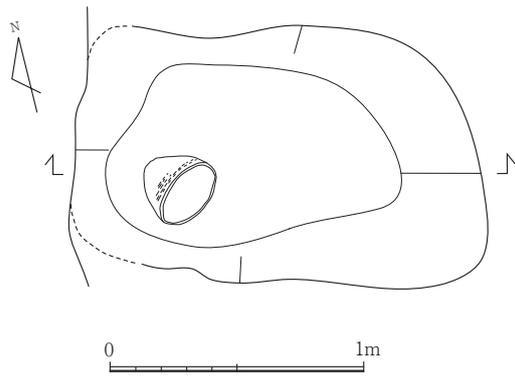
Ⅱ区の東部に位置する。平面形は不整形円形を呈しており、規模は南北 0.4m、東西 0.4m までは検出した。深さは 6 cm を測る。埋土はオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂混じりシルトである。

P90

Ⅱ区の南東部に位置する。平面形は不整形円形を呈しており、規模は径 0.4m、深さは 0.4m を測る。埋土は黒褐色 (7.5YR2/2) 細砂混じり粘土である。

P91

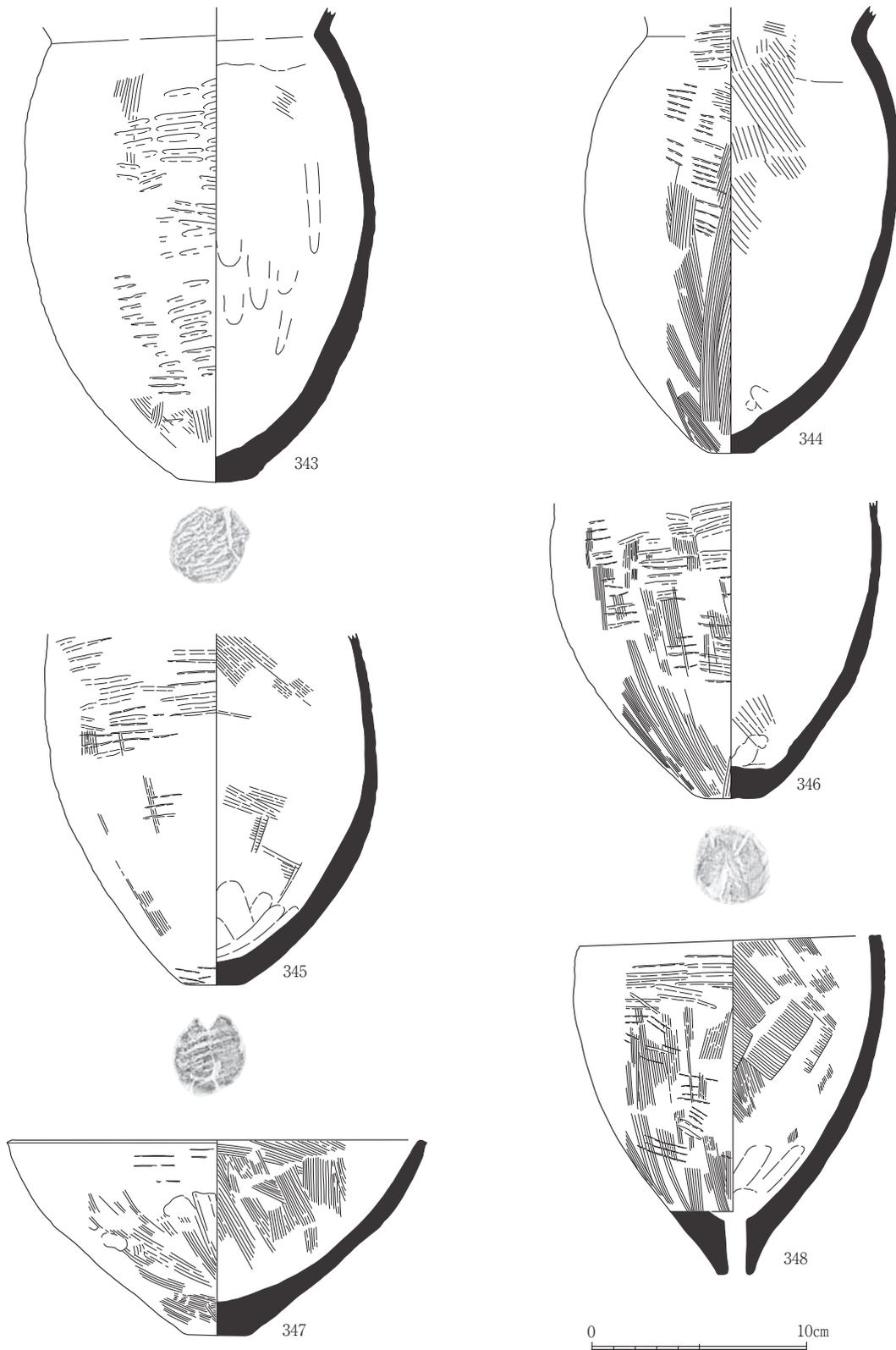
Ⅱ区の南東部に位置する。平面形は不整形円形を呈しており、規模は長軸 0.4m、短軸 0.3m、深さは 0.4m を測る。埋土は黒褐色 (7.5YR3/2) 細砂混じり粘土である。



- ① 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト
- ② 黒色 (10YR2/1) シルト (炭化粒を少量含み、土器を多量に含む)
- ③ 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 細砂混じりシルト



第87図 SK46平面図・セクション図・出土遺物実測図1



第88図 SK46出土遺物実測図2

P92

Ⅱ区の北部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.2m を測る。埋土は暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂混じりシルトである。

P93

Ⅱ区の北部に位置する。平面形は不整楕円形を呈しており、規模は長軸 0.4m、短軸 0.2m、深さは 0.4m を測る。埋土はオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂混じりシルトである。

P94

Ⅱ区の中央部北側に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸 0.4m、短軸 0.2m、深さは 0.2m を測る。埋土は黒褐色 (2.5Y3/2) 細砂混じりシルトである。

P95

Ⅱ区の西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.2m を測る。埋土は灰色 (7.5Y4/1) 細砂混じりシルトである。

P96

Ⅱ区の西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.2m を測る。埋土は暗オリーブ褐色 (5Y4/3) 細砂混じりシルトである。

P97

Ⅱ区の西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.1m を測る。埋土は暗オリーブ褐色 (5Y4/3) 細砂混じりシルトである。

P98

Ⅱ区の西部に位置する。平面形は不整楕円形を呈しており、規模は長軸 0.4m、短軸 0.2m、深さは 7 cm を測る。埋土は黄褐色 (2.5Y5/4) 細砂混じりシルトである。

P101

Ⅱ区の東部に位置する。埋土は暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂混じりシルトである。

P105

Ⅲ E 区の中央部北側に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.3m、深さは 0.1m を測る。埋土はオリーブ黒色 (5Y3/2) 細砂混じりシルトである。

P106

Ⅲ M 区の中央部に位置する。平面形は不整円形を呈しており、規模は径 0.3m、深さは 0.1m を測る。

P107

Ⅲ M 区の中央部に位置する。規模は南北 0.3m、東西 0.2m までは検出した。深さは 0.1m を測る。

P108

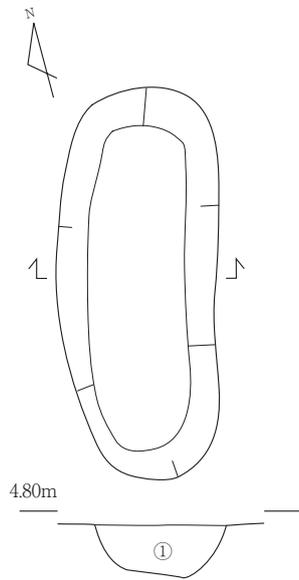
Ⅳ区の南東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.3m、深さは 0.3m を測る。埋土はオリーブ褐色 (2.5Y4/4) 細砂混じりシルトである。

P109

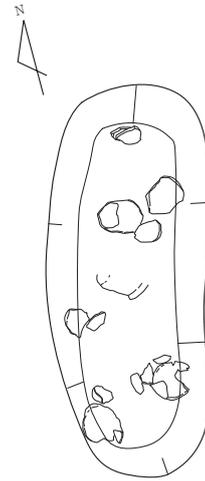
Ⅳ区の西部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸 0.7m、短軸 0.6m、深さは 0.2m を測る。埋土は黄褐色 (2.5Y5/4) 細砂混じりシルトである。

P110

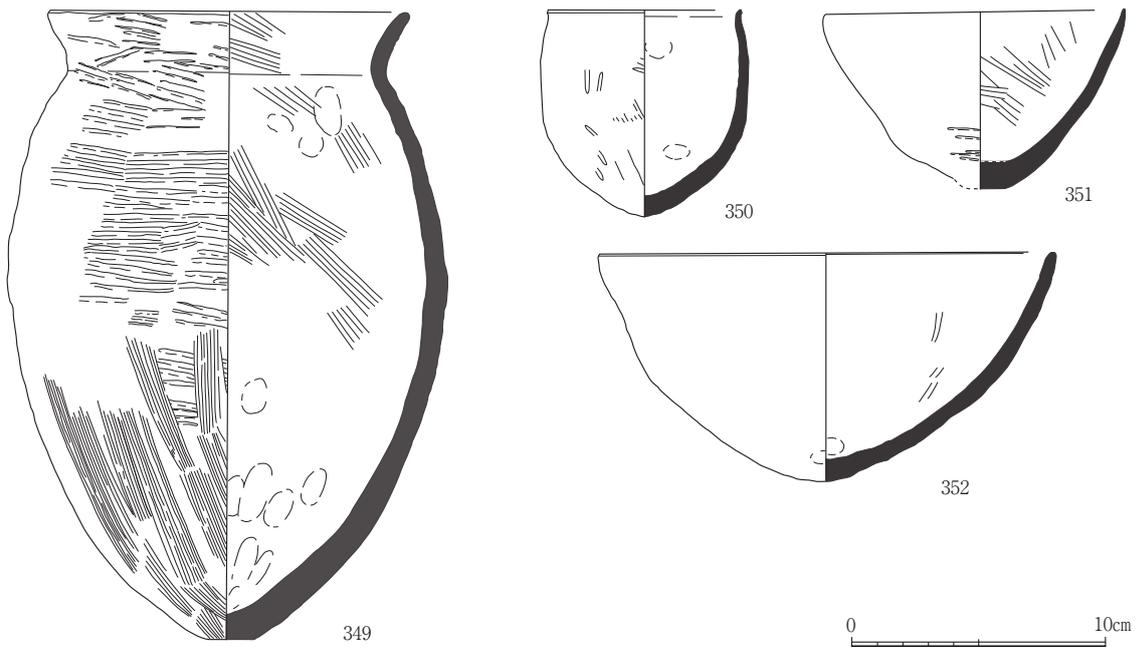
Ⅳ区の中央部西側に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸 0.5m、短軸 0.3m、深さは 0.1m を測る。埋土はオリブ褐色 (2.5Y4/4) 細砂混じりシルトである。



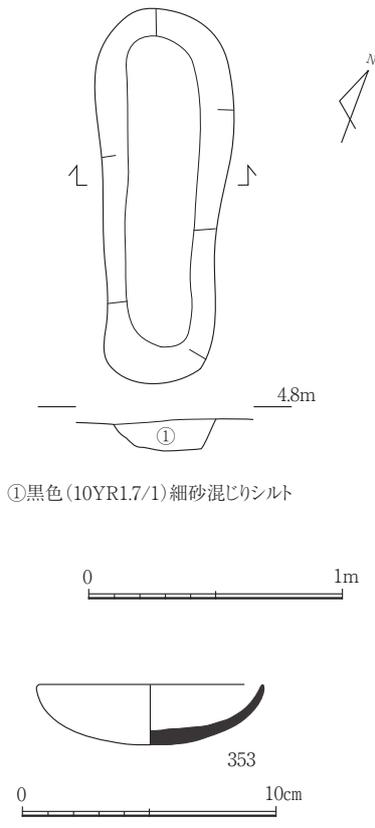
①黒色 (N1.5/0) 細砂混じりシルト



遺物出土状態



第89図 SK47平面図・セクション図・出土遺物実測図



①黒色(10YR1.7/1)細砂混じりシルト

第90図 SK49平面図・セクション図・遺物実測図

P111

IV区の西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.3mを測る。埋土は黒褐色(2.5Y3/2)細砂混じりシルトである。

P112

IV区の中央部西側に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.3m、深さは0.1mを測る。埋土は黒褐色(2.5Y3/2)細砂混じりシルトである。

P113

IV区の中央部西側に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.2mを測る。埋土はオリーブ褐色(2.5Y4/3)細砂混じりシルトである。

P114

IV区の中央部西側に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.1mを測る。埋土はオリーブ褐色(2.5Y4/3)細砂混じりシルトである。

P115

IV区の西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.3mを測る。埋土はオリーブ褐色(2.5Y4/3)細砂混じりシルトである。

P116

IV区の中央部西側に位置する。平面形は不整円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.3mを測る。埋土はオリーブ褐色(2.5Y4/3)細砂混じりシルトである。

P117

IV区の中央部西側に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.3m、深さは0.3mを測る。埋土は黒褐色(2.5Y3/2)細砂混じりシルトである。

P118

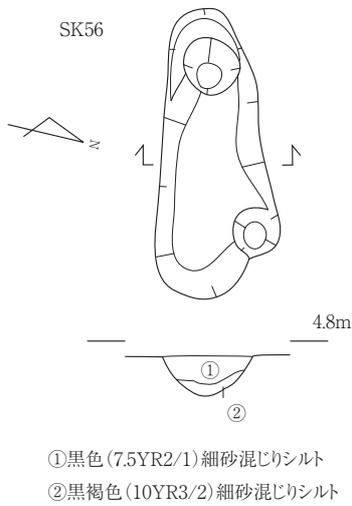
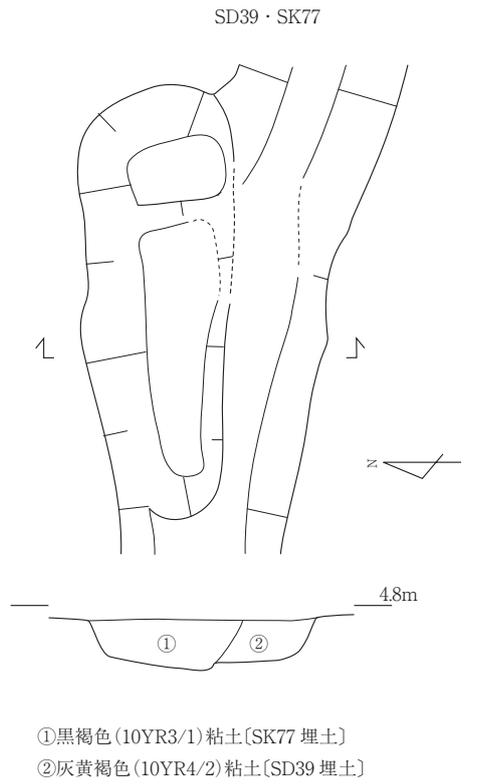
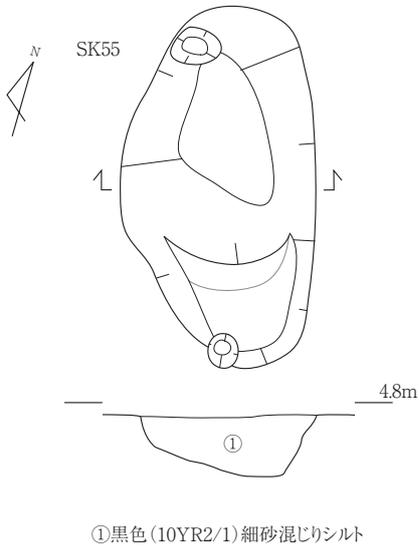
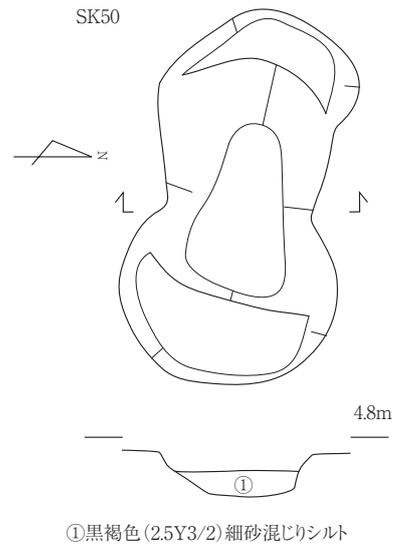
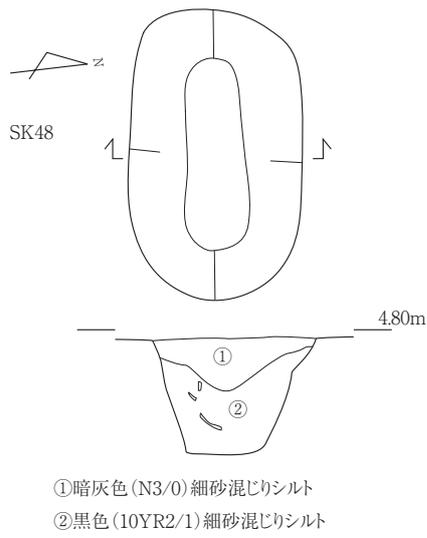
IV区の中央部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは7cmを測る。埋土は黄褐色(2.5Y5/4)細砂混じりシルトである。

P119

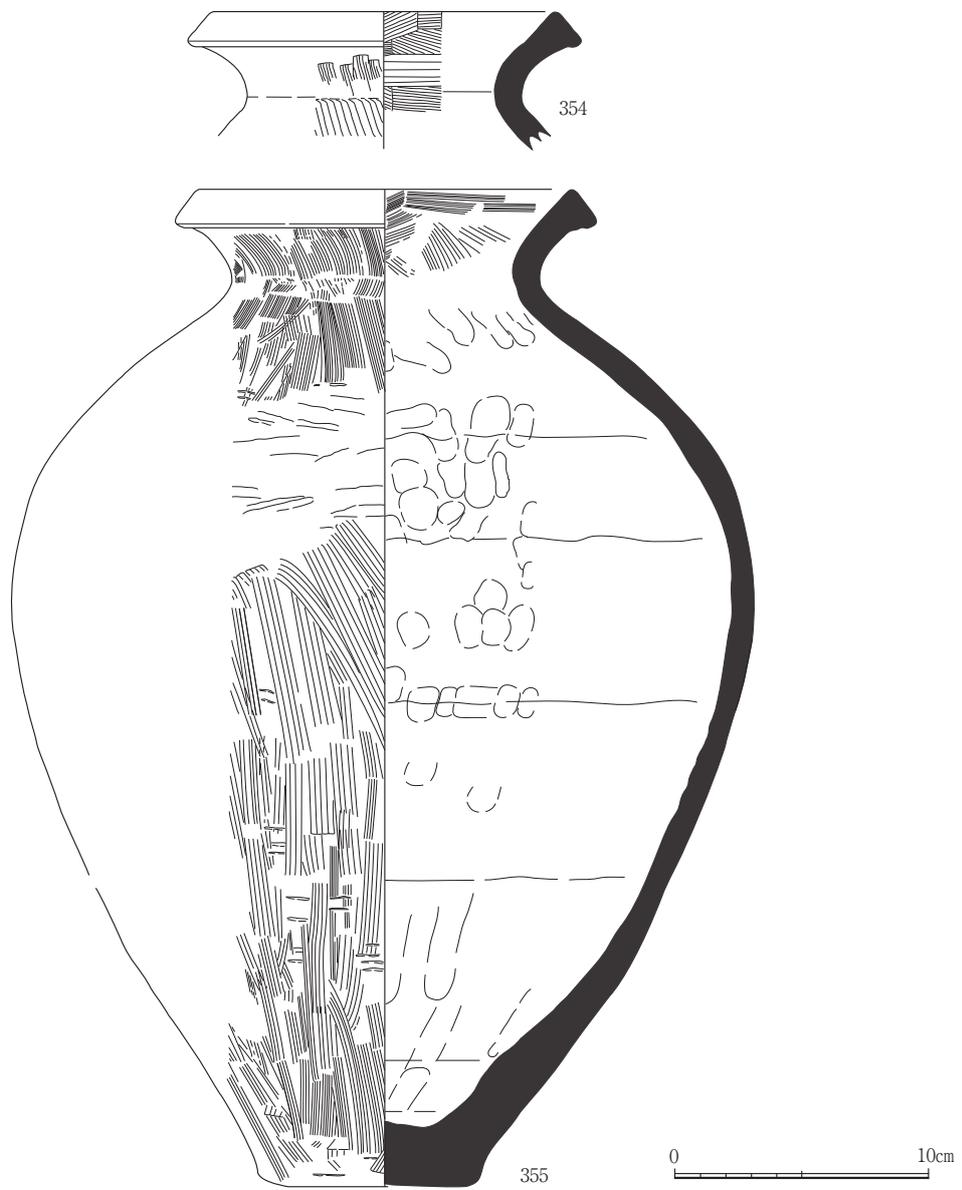
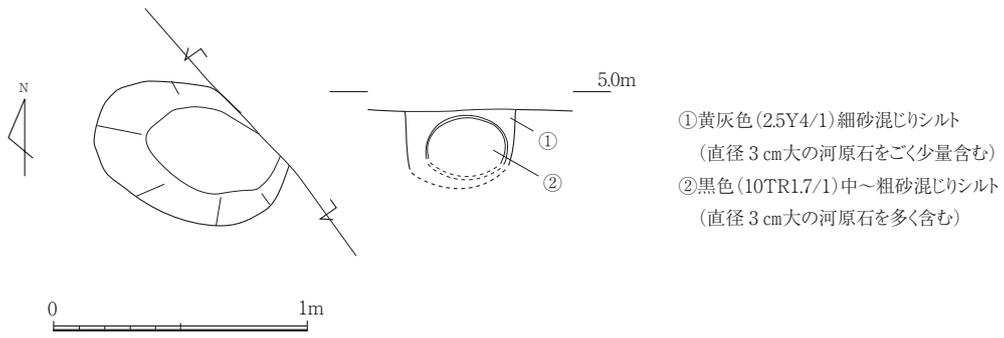
IV区の中央部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は径0.3m、深さは0.2mを測る。埋土は黒褐色(2.5Y3/2)細砂混じりシルトである。

P120

IV区の中央部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.3m、深さは0.2mを測る。埋土は暗灰黄色(2.5Y4/2)細砂混じりシルトである。



第91図 SK48・55・56・77平面図・セクション図



第92図 SK72平面図・セクション図・出土遺物実測図

P121

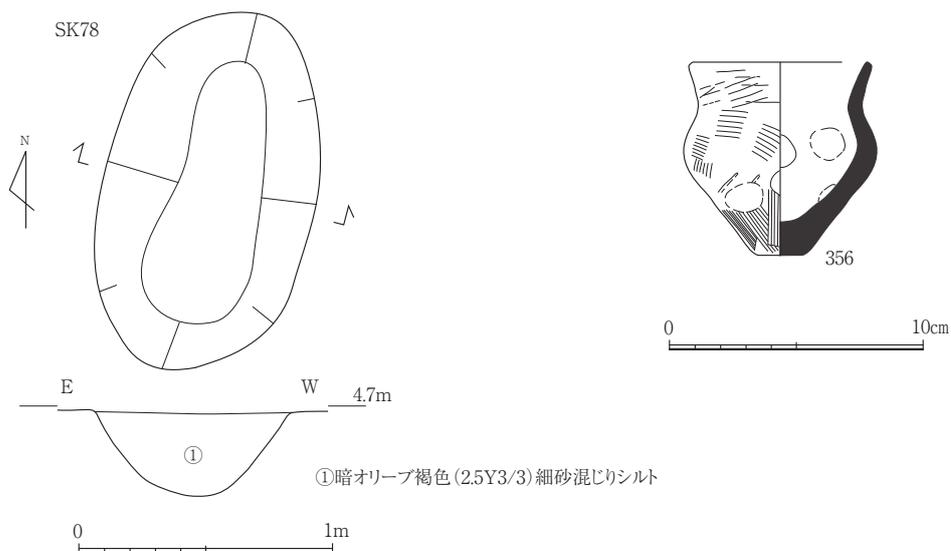
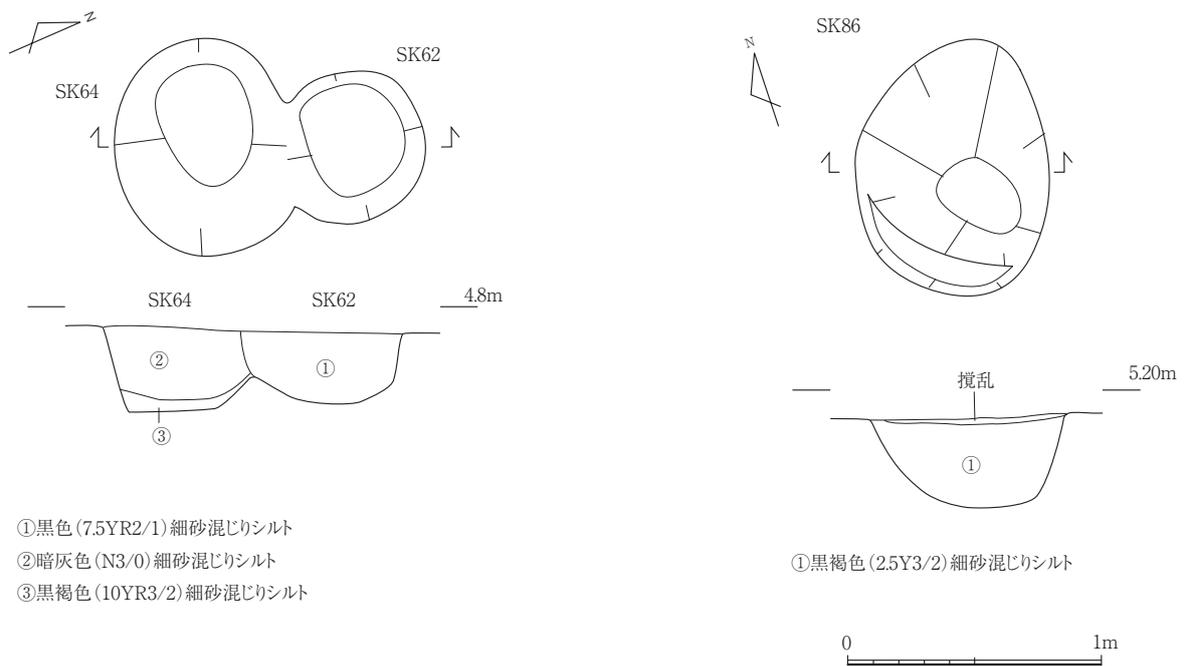
IV区の中央部南側に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.2mを測る。埋土は暗灰黄色(2.5Y4/2)細砂混じりシルトである。

P122

IV区の中央部南側に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸0.3m、短軸0.2m、深さは0.1mを測る。埋土は黄褐色(2.5Y5/3)細砂混じりシルトである。

P123

IV区の南東部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸0.3m、短軸0.2m、深さは0.3m



第93図 SK62・64・78・86平面図・セクション図・出土遺物実測図

を測る。埋土は暗灰黄色（2.5Y4/2）細砂混じりシルトである。

P124

IV区の南東部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸0.3m、短軸0.2m、深さは0.4mを測る。埋土は暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）細砂混じりシルトである。

P125

IV区の南東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.3mを測る。埋土は暗灰黄色（2.5Y4/2）細砂混じりシルトである。

P126

IV区の南東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.2mを測る。埋土はオリーブ褐色（2.5Y4/3）細砂混じりシルトである。

P127

IV区の北東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.2mを測る。埋土はオリーブ黒色（7.5Y3/1）細砂混じりシルトである。

P128

IV区の東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.2mを測る。埋土は黒色（7.5Y2/1）細砂混じりシルトである。

P129

IV区の中央部東側に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.3m、深さは0.1mを測る。埋土は灰オリーブ色（5Y4/2）細砂混じりシルトである。

P130

IV区の東部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸0.3m、短軸0.2m、深さは0.4mを測る。埋土はオリーブ黒色（5Y3/1）細砂混じりシルトである。

P131

IV区の東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.2mを測る。埋土はオリーブ黒色（5Y3/1）細砂混じりシルトである。

P132

IV区の東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.4m、深さは0.1mを測る。埋土はオリーブ褐色（2.5Y4/3）細砂混じりシルトである。

P133

IV区の中央部東側に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸0.6m、短軸0.4m、深さは0.1mを測る。埋土はオリーブ褐色（2.5Y4/3）細砂混じりシルトである。

P134

IV区の中央部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.3m、深さは0.1mを測る。埋土は黄褐色（2.5Y5/4）細砂混じりシルトである。

P135

IV区の中央部南側に位置する。平面形は隅丸方形を呈しており、規模は径0.3m、深さは0.1mを

測る。埋土は黄褐色 (2.5Y5/4) 細砂混じりシルトである。

P136

IV区の中央部南側に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.2mを測る。埋土は黄褐色 (2.5Y5/4) 細砂混じりシルトである。

P137

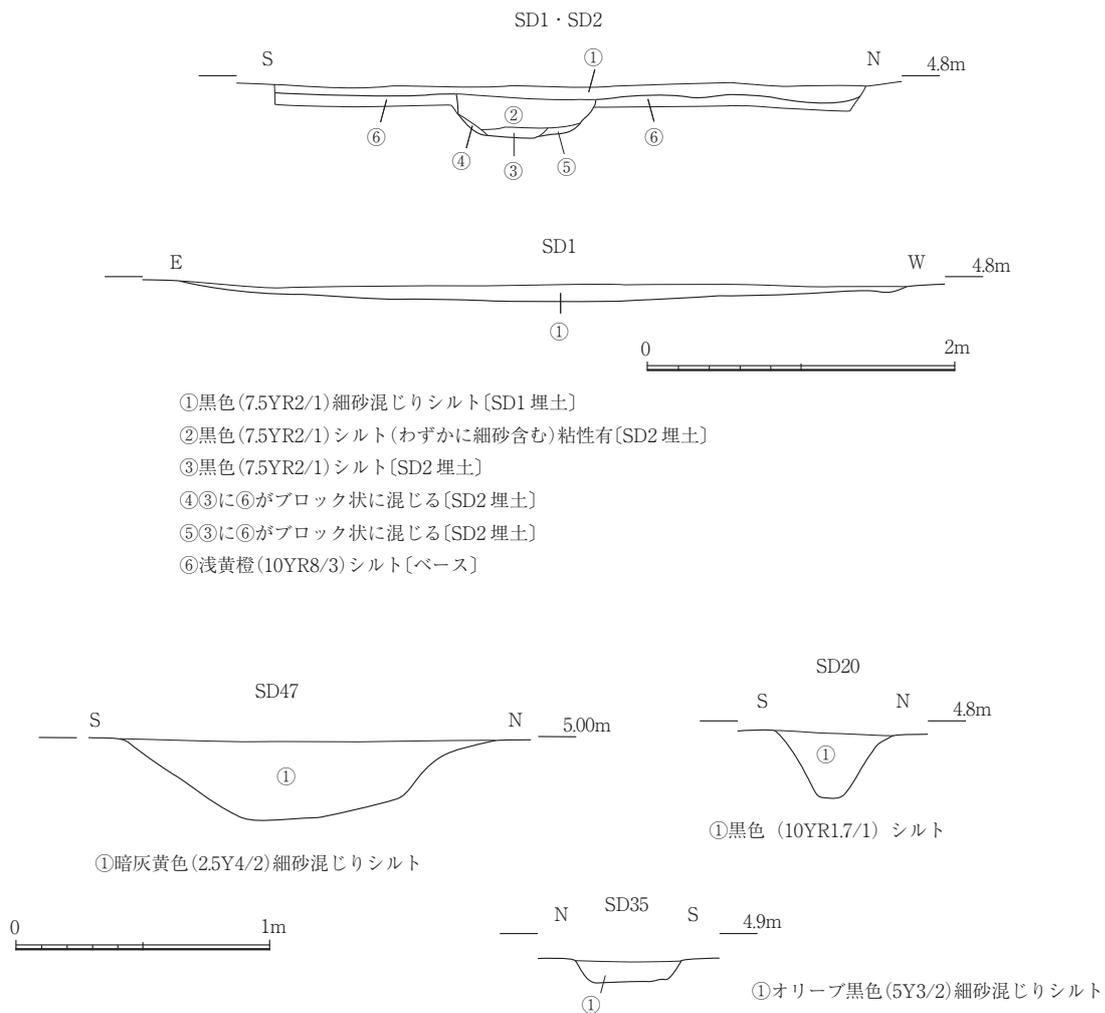
IV区の中央部南側に位置する。平面形は不整形円形を呈しており、規模は長軸0.3m、短軸0.2m、深さは5cmを測る。埋土は黄褐色 (2.5Y5/4) 細砂混じりシルトである。

P138

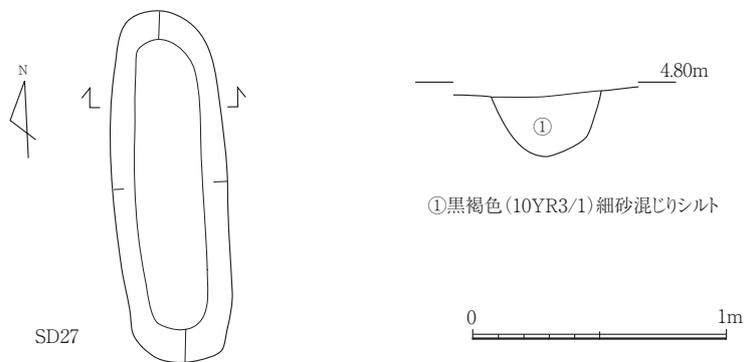
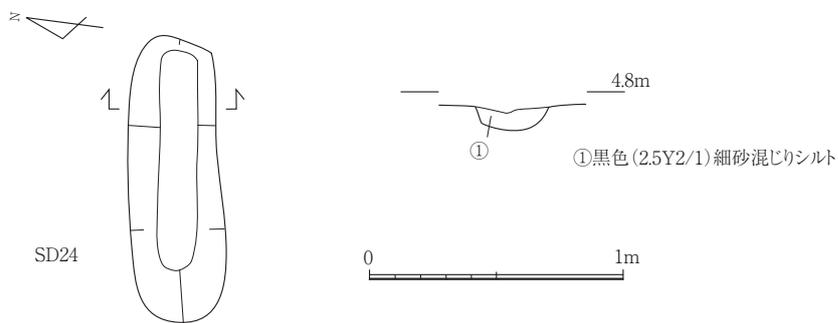
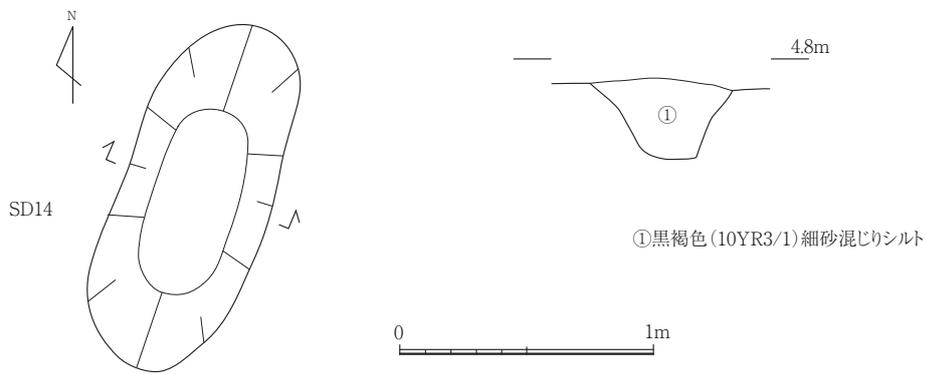
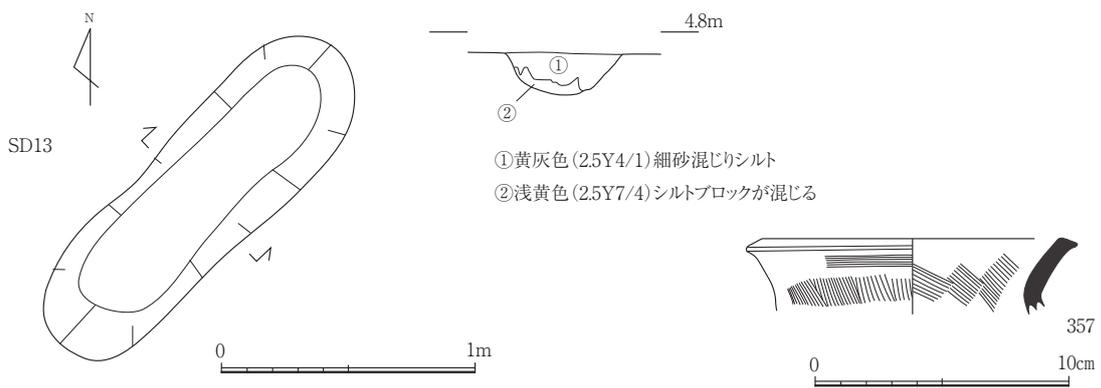
IV区の南部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸0.4m、短軸0.3m、深さは7cmを測る。埋土は黄褐色 (2.5Y5/4) 細砂混じりシルトである。

P139

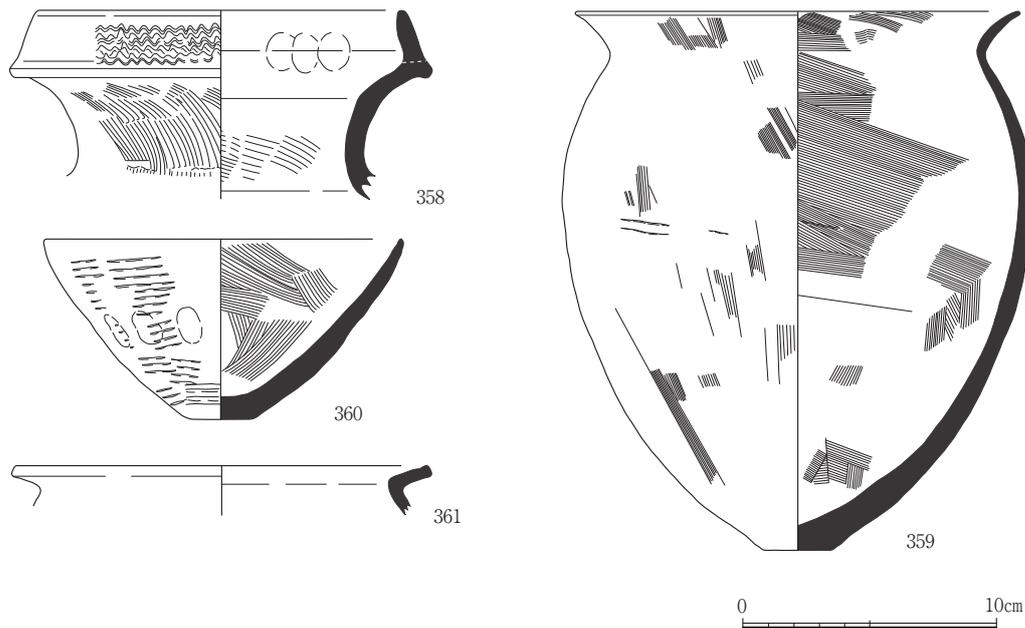
IV区の南部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.2mを測る。埋土は黄褐色 (2.5Y5/4) 細砂混じりシルトである。



第94図 SD1・2・20・35・47平面図・セクション図



第95図 SD13・14・24・27平面図・セクション図・出土遺物実測図



第96図 SD16・18出土遺物実測図

P140

IV区の南部に位置する。平面形は不整円形を呈しており、規模は径0.4m、深さは0.1mを測る。埋土は黄褐色（2.5Y5/4）細砂混じりシルトである。

P141

IV区の東部に位置する。平面形は隅丸方形を呈しており、規模は径0.2m、深さは0.4mを測る。埋土はオリーブ黒色（5Y3/1）細砂混じりシルトである。

P142

IV区の東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.4m、深さは0.1mを測る。埋土はオリーブ黒色（5Y3/1）細砂混じりシルトである。

P143

IV区の南東部に位置する。平面形は不整円形を呈しており、規模は径0.4m、深さは0.1mを測る。埋土は褐色（10YR4/4）細砂である。

P144

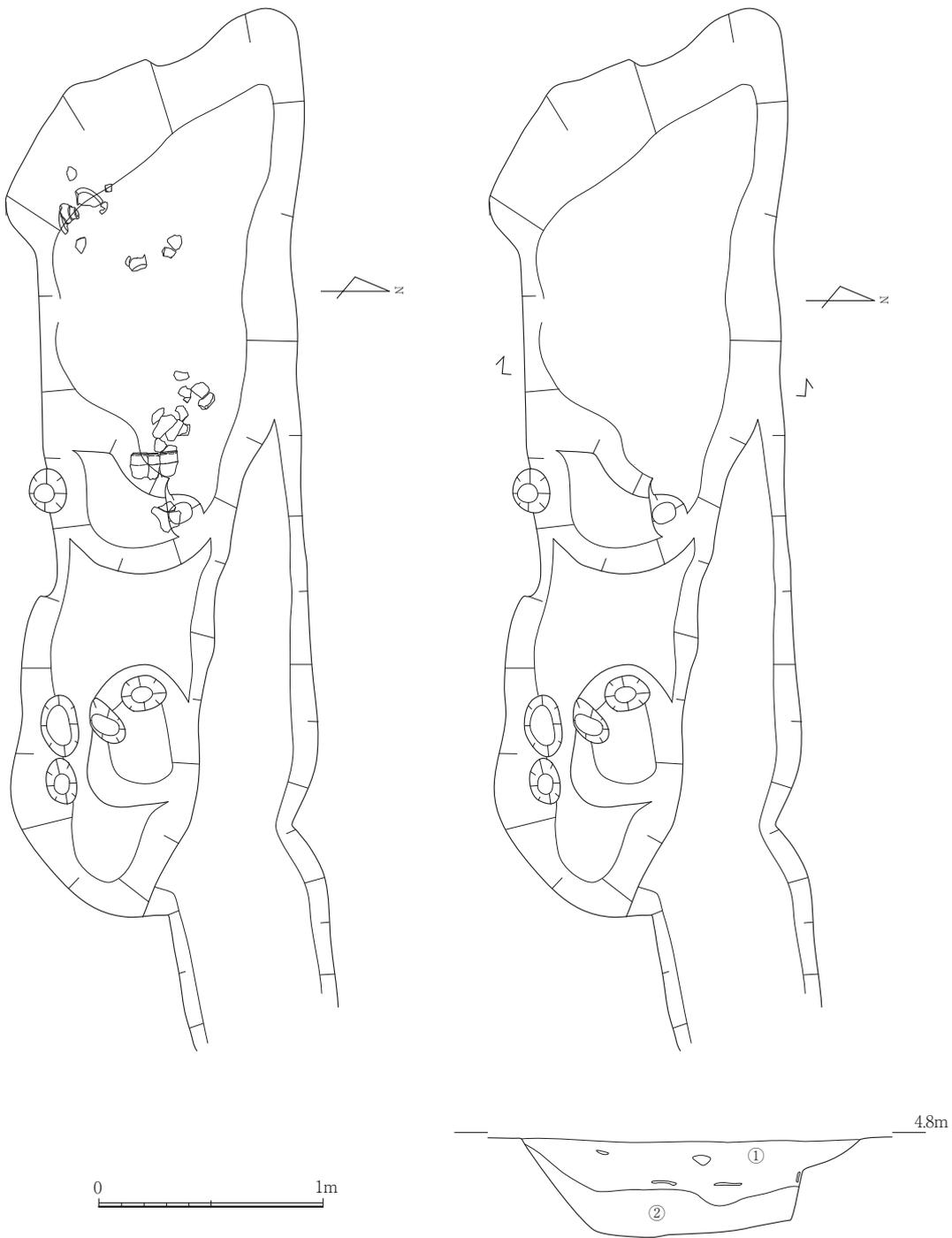
IV区の東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径0.3m、深さは0.1mを測る。埋土は黒褐色（2.5Y3/2）細砂混じりシルトである。

P145

IV区の東部に位置する。平面形は不整円形を呈しており、規模は径0.2m、深さは5cmを測る。埋土は黒褐色（2.5Y3/2）細砂混じりシルトである。

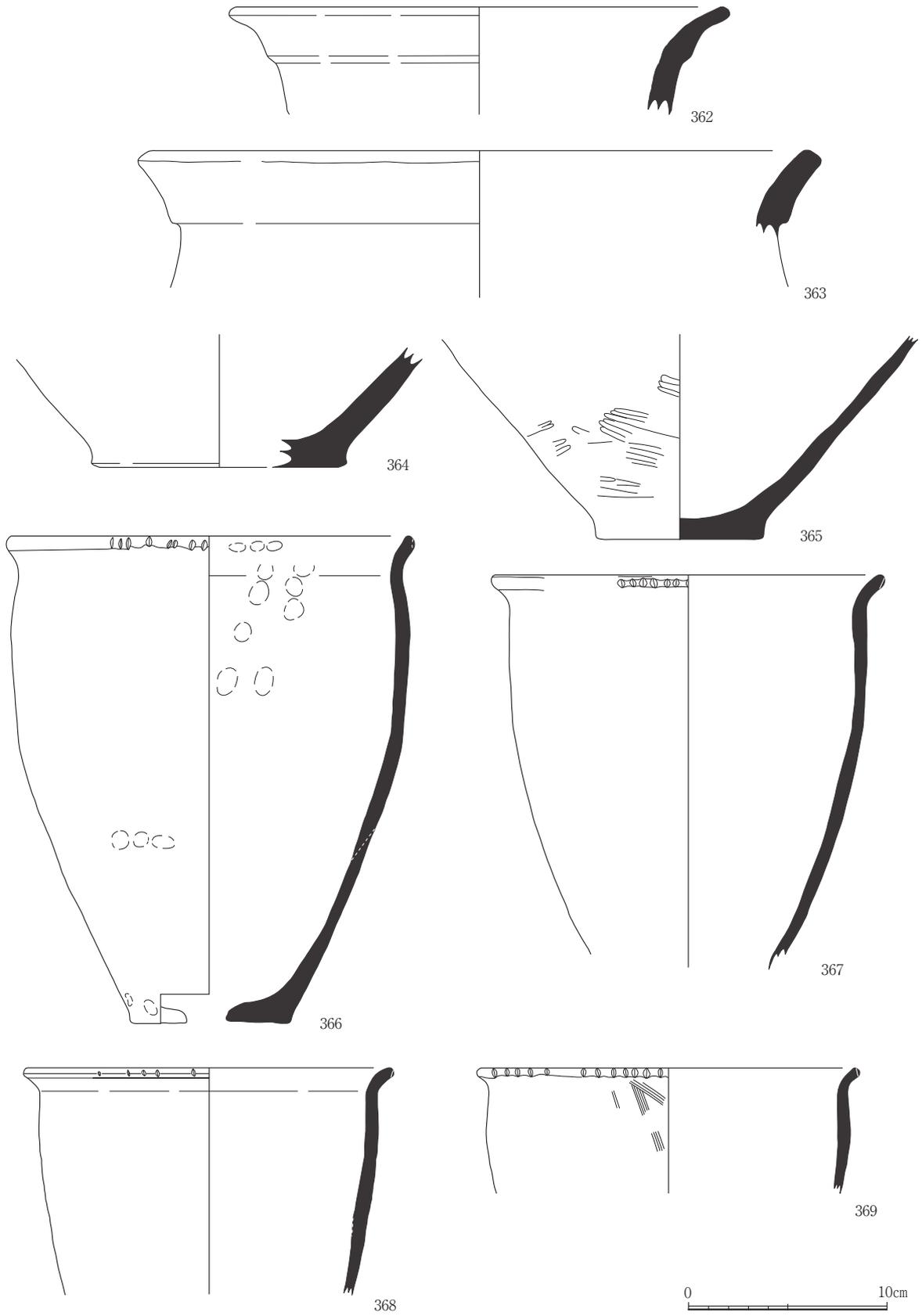
P146

IV区の東部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸0.4m、短軸0.2m、深さは0.1m

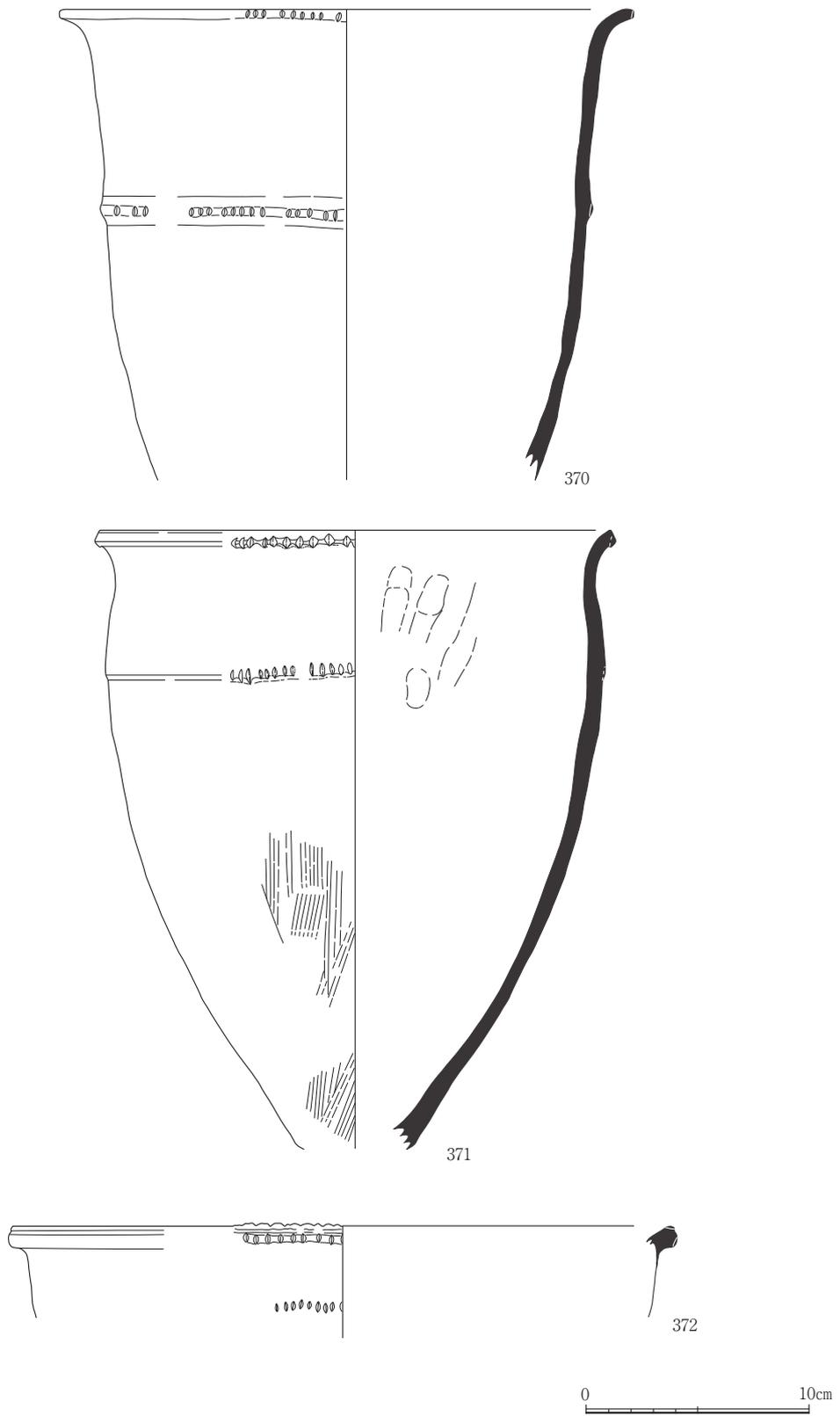


- ① 黒色 (7.5YR2/1) 細砂混じりシルト
(直径 5~10 mm 以下の礫を少量含む)
- ② 灰黄褐色 (10YR5/2) 細砂混じりシルトに
黒褐色 (10YR3/2) 細砂混じりシルトが層状に入る

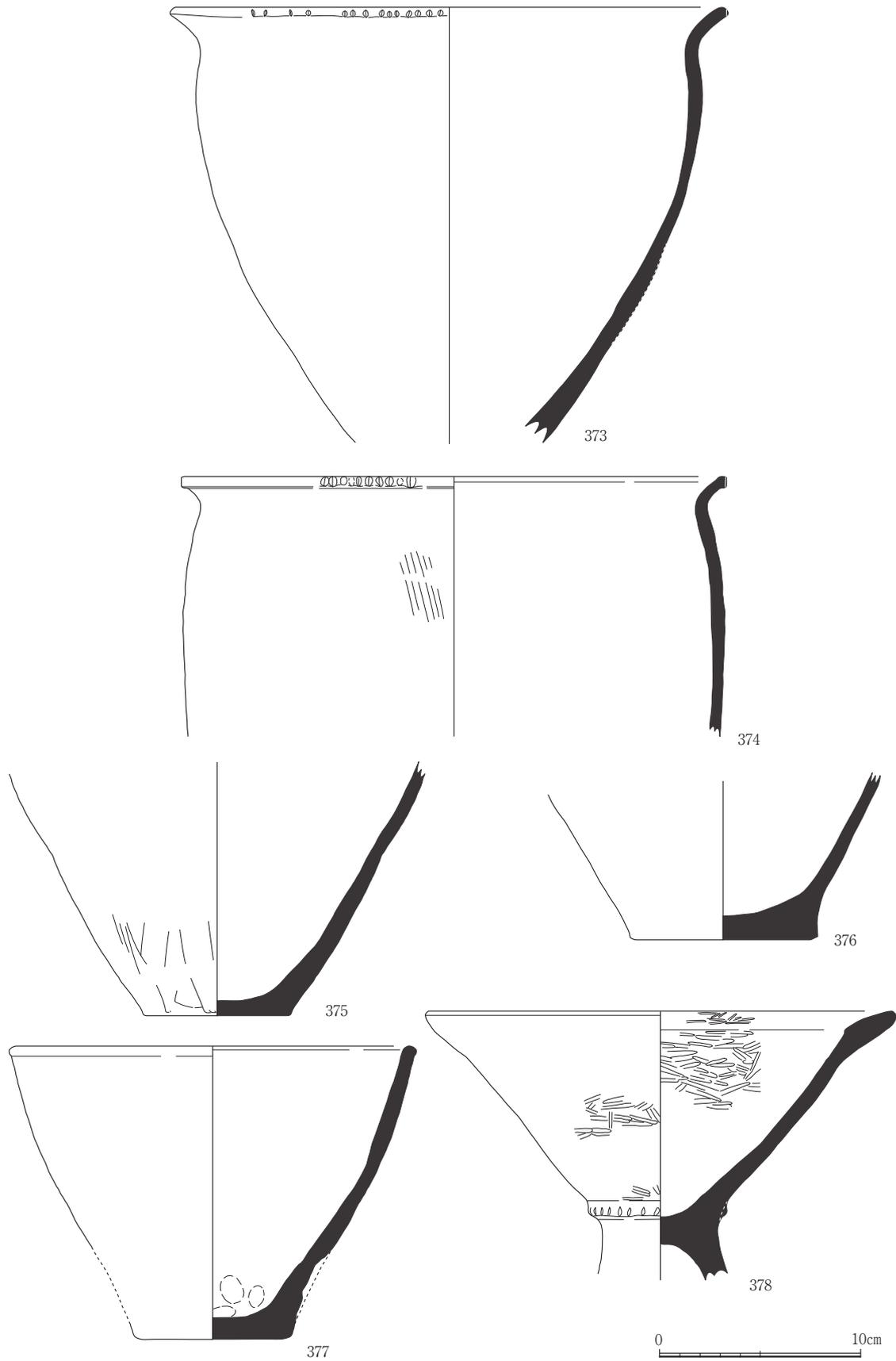
第97図 SD49平面図・セクション図・出土遺物実測図



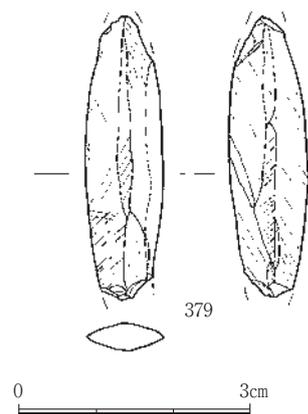
第98図 SD49出土遺物実測図1



第99図 SD49出土遺物実測図2



第100図 SD49出土遺物実測図3



第101図 SD49出土遺物実測図4

を測る。埋土は暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂混じりシルトである。

P147

IV区の東部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸 0.3m、短軸 0.2m、深さは 0.1m を測る。埋土は黒褐色 (2.5Y3/2) 細砂混じりシルトである。

P148

IV区の北東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.2m を測る。埋土はオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂混じりシルトである。

P149

IV区の北東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 0.1m を測る。埋土はオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂混じりシルトである。

P150

IV区の南東部に位置する。平面形は不整形円形を呈しており、規模は長軸 0.3m、短軸 0.2m、深さは 0.1m を測る。埋土は暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂混じりシルトである。

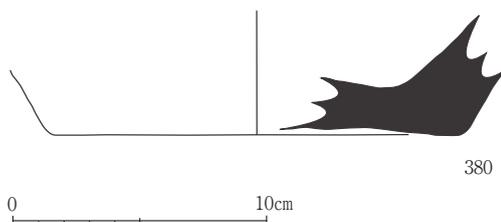
P151

IV区の南東部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は径 0.2m、深さは 5 cm を測る。埋土は暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂混じりシルトである。

(5) V区出土遺物

V区では遺構は検出されなかった。相対的に標高の低い部分であり、現在も介良野川の旧流路を示す土地区画が残存していることから居住域ではなかったようである。調査区の北端部から南方向への落ち込みが始まっている。遺物はこの落ち際から多く出土している。須恵器では甗、土師器では高杯の出土が目立つことから水辺での祭祀に供されたものである可能性が高い。現位置は保持していなかったが、それほど移動していないものと推測される。

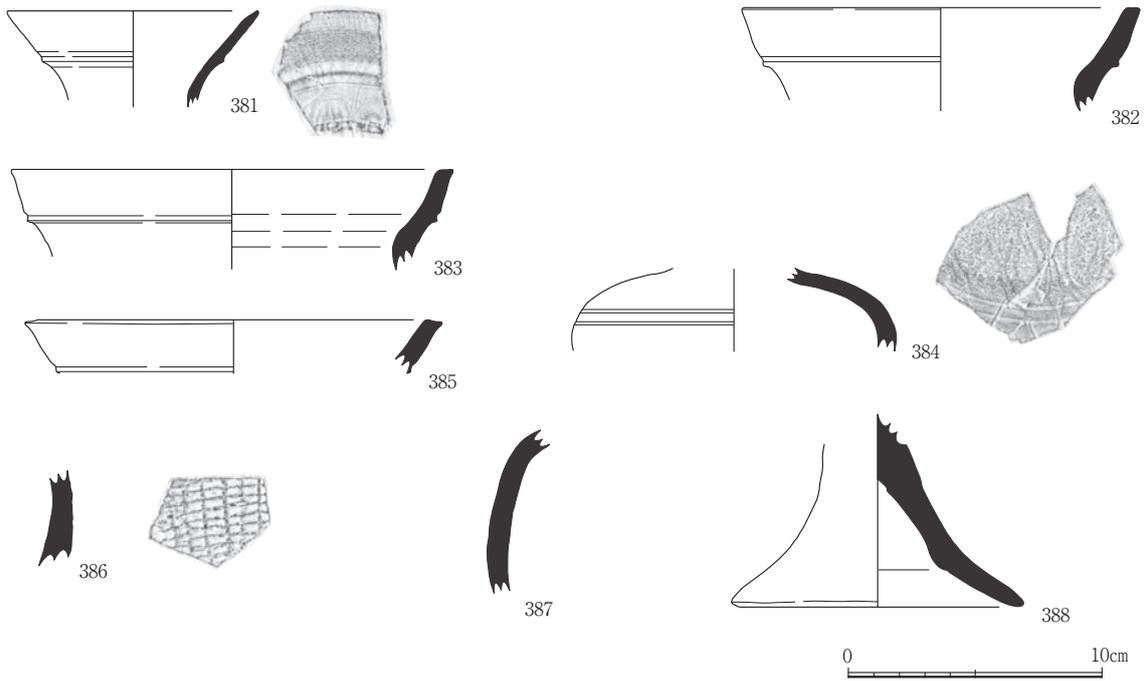
図化した出土遺物は、須恵器甗 (381 ~ 385)、須恵器体部 (386)、須恵器頸部 (387)、土師器高杯 (388) である。381 は外面に突帯が 1 条巡り、波状文を施す。382・383・385 の口唇部は平坦面を成し、外面に突帯を 1 条巡らせる。383 の突帯は断面が鋭い三角形である。384 は外面に波状文を施す。386 は外面に格子目状の叩き目が認められる。387 は壺あるいは甗の頸部である。388 は高杯の脚部である。



第102図 SD52出土遺物実測図

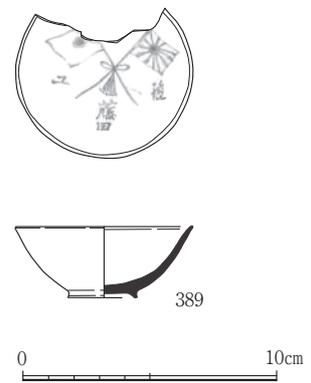
(6) 攪乱出土遺物

Ⅲ区には近世以降と推定される廃棄土坑が多く確認された。389 はⅢ E 区にあった廃棄土坑



第103図 V区出土遺物実測図

から出土したもので、当時の状況を物語る貴重な資料と考えられるため図示した。陶磁器の杯であり、畳付け以外には施釉する。内面には日章旗・旭日旗等が描かれる。



第104図 攪乱出土遺物実測図

第IV章 まとめ

第1節 概要

今回の調査では、弥生時代前期、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭、古墳時代中期の遺構・遺物を検出することができた。弥生時代前期は集落跡の縁辺部に該当する。弥生時代後期末～古墳時代前期初頭では竪穴住居跡をはじめ多くの遺構を検出しており、今次調査では最盛期にあたり、拠点集落の一つと考えられる。古墳時代中期では、遺構は未検出であるが、水辺での祭祀に供された遺物が出土した。以下では各時期の様相について若干述べていきたい。

第2節 弥生時代前期

IV区において、溝跡1条(SD52)、土坑1基(SK49)を検出したのみであり、集落の全体像については不明瞭な点が多い。溝跡は東西方向にのびていること、北側の調査区では弥生時代前期の土器片すら出土していないことから、東西方向へ集落跡が展開している蓋然性が高い。出土遺物は、壺・甕・鉢・高杯と一通りの器種が揃っている。諸特徴から西見当Ⅰ式に併行するものである。また、東松木式の特徴を有する土器片が出土しており、弥生文化の波及過程を考究するための重要な資料である。石器では磨製石鏃が1点出土しているのみであるが、県内では田村遺跡群、居徳遺跡群に続く3遺跡例目である。

第3節 弥生時代後期末～古墳時代前期初頭

前述のように今次調査では検出遺構、出土遺物とも最も多い。県内でも遺跡数が増加する時期に該当し、当集落跡もそのような流れのなかで出現したものである。介良周辺地域では不鮮明であった集落跡が明らかになったことは意義深い。

竪穴住居跡が28棟、土坑・溝跡多数、ピット群を検出した。遺構の切り合い関係から最大で4時期に区分できるが、出土遺物から各遺構を峻別することは現状では不可能である。竪穴住居跡の平面形は円形、隅丸方形、多角形かの3種類であり、円形は南部に偏在する傾向がある。竪穴住居の規模は一辺が約7m、約6m、約5m、約4mに区分でき、なかでもST16は一辺約9mの超大型のものも存在する。土坑の平面形は隅丸方形、楕円形を呈するものが多い。特筆されるものではSK37から土器焼成に伴う残滓類が廃棄された状態で検出した。このことにより調査区内あるいはその近辺で土器焼成が行われていたことが判明した。溝跡は東西方向を指向するものが多く、I区南端～II区北端で検出したSD2とSD20は掘り方もしっかりとしている。この周辺に空間分離の意識が働いているようである。ピット群はI区北東部、II区、IV区に偏在しているが時期比定が難しいものが多い。

土器型式では概ねヒビノキⅡ～Ⅲ式の範疇におさまる。主要な器種別の組成比率では、甕と鉢の比率が高く壺の比率が低いという、当該時期の一般的な傾向と一致している。壺では複合口縁壺が主要な器形として存在していることや、支脚の形態から弥生後期後半の土器様式成立については伊予との関連を視野に入れて検討していく必要がある。

第4節 古墳時代中期

V区から須恵器、土師器が出土した。須恵器では甗、土師器では高杯の出土が多く、試掘調査では勾玉が出土していることから祭祀に供されたものと考えられる。原位置を保持していたものではなく、移動しているようである。微地形的には落ち際に該当し、自然科学分析では湿地状を呈していたようである。

遺構計測表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模	ベッド高	時期	備考
ST1	I 区	B2・B3・B4・C2・C3・C4	多角形か	4.7	6.8×6.6×0.5	無し	弥生末～古墳初頭	
ST1-P1	I 区	C3	円形	4.1	0.4×0.4×0.2	—	—	
ST1-P2	I 区	—	—	—	—	—	—	欠番
ST1-P3	I 区	C3	円形	4.1	0.5×0.6×0.2	—	—	
ST1-P4	I 区	B3	円形	4.2	0.3×0.2×0.1	—	—	
ST1-P5	I 区	B2	円形	4.2	0.3×0.2×0.2	—	—	
ST1-P6	I 区	C2	円形	4.2	0.5×0.5×0.2	—	—	
ST1-P7	I 区	C3	円形	4.1	0.5×0.4×0.2	—	—	
ST1-P8	I 区	C2	円形	4.1	0.2×0.2×0.2	—	—	
ST1-中央P	I 区	B3・C3	長楕円形	4.1	1.4×0.7×0.2	—	—	
ST1-SD1	I 区	B3・C3	—	4.2	0.2×2.1×0.1	—	—	
ST2	I 区	E1・E2・E3・F1・F2・F3	隅丸方形	4.7	5.8×5.7×0.7	無し	弥生末～古墳初頭	
ST2-P1	I 区	E1	円形	4.1	0.3×0.3×0.2	—	—	
ST2-P2	I 区	F2	円形	4.0	0.3×0.2×0.1	—	—	
ST3	I 区	D6・D7・E6・E7・F6・F7	隅丸方形	4.7	6.5×7.0×0.6	0.2	弥生末～古墳初頭	
ST3-P1	I 区	E6	円形	4.1	0.2×0.2×0.1	—	—	
ST3-P2	I 区	E6	円形	4.1	0.2×0.3×0.1	—	—	
ST3-P3	I 区	E6	円形	4.2	0.2×0.2×0.1	—	—	
ST3-P4	I 区	E6	円形	4.2	0.3×0.3×0.1	—	—	
ST3-P5	I 区	F6	円形	4.2	0.2×0.2×0.1	—	—	
ST3-P6	I 区	E7	不整形	4.1	0.3×0.4×0.1	—	—	
ST3-P7	I 区	E7・F7	不整形	4.1	0.3×0.4×0.1	—	—	
ST3-P8	I 区	E7	不整形	4.1	0.3×0.3×0.1	—	—	
ST3-P9	I 区	E7	不整形	4.1	0.3×0.3×0.1	—	—	
ST3-P10	I 区	F7	不整形	4.2	0.3×0.3×0.1	—	—	
ST3-中央P	I 区	E7	不整形楕円形	4.1	0.7×1.4×0.1	—	—	
ST3-SD1	I 区	F7	—	4.1	0.3×0.9×0.5	—	—	
ST4	I 区	F9・F10・G9・G10	隅丸方形か	4.7	- × - × 0.7	0.3	弥生末～古墳初頭	
ST5	I 区	B6・B7・B8・C6・C7・C8	隅丸方形	4.7	5.0×5.0×0.6	無し	弥生末～古墳初頭	
ST5-P1	I 区	C7	不整形	4.1	0.3×0.3×0.2	—	—	
ST5-P2	I 区	C7	円形	4.1	0.4×0.4×0.1	—	—	
ST5-P3	I 区	B7	円形	4.2	0.3×0.4×0.2	—	—	
ST5-P4	I 区	B7	楕円形	4.1	0.4×0.2×0.1	—	—	
ST5-中央P	I 区	C7	長楕円形	4.1	0.4×0.8×0.1	—	—	
ST6	I 区	C7・C8・C9・D7・D8・D9	隅丸方形	4.7	5.7×6.0×0.4	無し	弥生末～古墳初頭	
ST6-P1	I 区	C8	円形	4.3	0.3×0.3×0.1	—	—	
ST6-P2	I 区	D8	円形	4.3	0.2×0.2×0.2	—	—	
ST6-P3	I 区	D8	楕円形	4.3	0.3×0.5×0.1	—	—	
ST6-P4	I 区	C9	円形	4.2	0.2×0.3×0.1	—	—	
ST7	I 区	F5・G5・G6	隅丸方形か	4.7	- × - × 0.5	0.1	弥生末～古墳初頭	
ST7-P1	I 区	G5	円形	4.2	0.2×0.2×0.1	—	—	
ST7-P2	I 区	G5	円形	4.2	0.3×0.4×0.1	—	—	
ST7-P3	I 区	G5	円形	4.1	0.3×0.2×0.1	—	—	
ST8	I 区	G1・G2	隅丸方形か	4.6	- × - × 0.5	無し	弥生末～古墳初頭	
ST9	I 区	B0・B1・C0・C1	隅丸方形か	4.7	- × - × 0.5	0.2	弥生末～古墳初頭	
ST9-P1	I 区	B0	—	4.1	- × - × 0.1	—	—	中央ビットか
ST9-P2	I 区	C0	—	4.2	- × - × 0.2	—	—	
ST10	I 区	Z1・Z2	隅丸方形か	4.7	- × 3.7 × 0.6	0.1	弥生末～古墳初頭	
ST11	I 区	E7・E8・F7・F8	隅丸方形	4.7	- × 4.7 × 0.4	0.2	弥生末～古墳初頭	
ST11-P1	I 区	E7	円形	4.2	0.5×0.6×0.1	—	—	
ST11-P2	I 区	F7	不整形	4.2	0.2×0.2×0.1	—	—	
ST11-P3	I 区	F7・F8	円形	4.4	0.3×0.3×0.1	—	—	
ST11-P4	I 区	F7	円形	4.4	0.3×0.3×0.1	—	—	
ST11-P5	I 区	F7	円形	4.4	0.3×0.3×0.2	—	—	
ST11-P6	I 区	F8	円形	4.4	0.3×0.3×0.1	—	—	
ST11-P7	I 区	E7	不整形	4.2	0.5×0.3×0.2	—	—	
ST11-中央P	I 区	E7・E8・F7・F8	不整形長楕円形	4.3	0.5×1.5×0.1	—	—	
ST12	II 区	B14・B15・B16・C14・C15・C16・D15・D16	隅丸方形	4.7	7.3×6.5×0.6	0.3	弥生末～古墳初頭	
ST12-P1	II 区	C15	円形	4.1	0.2×0.2×0.1	—	—	
ST12-P2	II 区	C16	円形	4.2	0.2×0.2×0.1	—	—	
ST12-P3	II 区	B15	不整形	4.2	0.4×0.4×0.1	—	—	
ST12-P4	II 区	C14・C15・B14・B15	円形	4.1	0.4×0.4×0.1	—	—	
ST12-SK1	II 区	B15・C15	楕円形	4.2	1.1×0.8×0.1	—	—	
ST12-中央P	II 区	B15・B16・C15・C16	長楕円形	4.2	0.8×1.7×0.2	—	—	
ST13	II 区	D15・D16・E15・E16・F15・F16	隅丸方形	4.7	5.6×6.5×0.6	0.3	弥生末～古墳初頭	
ST13-P1	II 区	E16	円形	4.0	0.4×0.4×0.2	—	—	
ST13-P2	II 区	E16	楕円形	3.9	0.5×0.4×-	—	—	

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模	ベッド高	時期	備考
ST13-SP3	Ⅱ区	E16	円形	3.9	0.3×0.2×0.1	—	—	
ST13-SP4	Ⅱ区	D15・E15	楕円形	4.0	0.4×0.3×0.1	—	—	
ST14	Ⅱ区	B16・C16・B17・C17	隅丸方形	4.8	3.4×3.2×0.3	無し	弥生末～古墳初頭	
ST14-SP1	Ⅱ区	C17	円形	4.4	0.3×0.3×0.2	—	—	
ST14-SP2	Ⅱ区	B17	円形	4.5	0.3×0.2×0.1	—	—	
ST14-中央P	Ⅱ区	B17・C17	不整形	4.5	0.5×0.5×0.1	—	—	
ST15	Ⅱ区	A11・A12・B11・B12	隅丸方形	4.7	3.5×4.8×0.3	無し	弥生末～古墳初頭	
ST15-SP1	Ⅱ区	A12	円形	4.4	0.3×0.3×0.3	—	—	
ST15-SP2	Ⅱ区	B12	円形	4.4	0.4×0.4×0.4	—	—	
ST15-中央P	Ⅱ区	B12	隅丸方形	4.4	0.7×0.9×0.1	—	—	
ST15-SD1	Ⅱ区	A12	—	4.5	1.2×0.3×0.1	—	—	
ST16	Ⅱ区	E11・F11・F12・F13・G11・G12・G13	隅丸方形か	4.7	9.0×-×0.4	0.4	弥生末～古墳初頭	
ST16-SP1	Ⅱ区	F11	円形	4.1	0.3×0.3×0.4	—	—	
ST16-SP2	Ⅱ区	F12	円形	4.1	0.3×0.3×0.4	—	—	
ST16-SK1	Ⅱ区	F11	円形	4.2	1.3×1.3×0.1	—	—	
ST17	Ⅱ区	B15・C15・B16・C16・B17・C17	多角形か	4.7	-×-×0.3	不明	弥生末～古墳初頭	
ST17-SP1	Ⅱ区	B16	円形	4.4	0.3×0.3×0.4	—	—	
ST18	ⅢW区	C19・C20・D19・D20・E19	隅丸方形	4.8	4.9×5.0×0.3	0.2	弥生末～古墳初頭	
ST18-SP1	ⅢW区	D19	円形	4.4	0.5×0.4×0.2	—	—	
ST18-SP2	ⅢW区	D19	円形	4.2	0.2×0.2×0.3	—	—	
ST18-SP3	ⅢW区	D19	円形	4.4	0.4×0.4×0.2	—	—	
ST18-SP4	ⅢW区	C20・D20	楕円形	4.3	0.2×0.3×0.3	—	—	
ST18-SP5	ⅢW区	D19	楕円形	4.2	0.2×0.3×0.1	—	—	
ST18-SP6	ⅢW区	D20	円形	4.2	0.3×0.3×0.3	—	—	
ST18-中央P	ⅢW区	D19・D20	楕円形	4.2	0.8×1.1×0.1	—	—	
ST19	ⅢW区	D22・D23・E22・E23・F22・F23	隅丸方形	4.8	6.0×6.0×0.3	0.1	弥生末～古墳初頭	
ST19-SP1	ⅢW区	E23	円形	4.4	0.2×0.2×0.1	—	—	
ST19-SP2	ⅢW区	F23	楕円形	4.5	0.2×0.4×0.1	—	—	
ST19-中央P	ⅢW区	E23	楕円形	4.4	0.9×1.5×0.1	—	—	
ST20	ⅢW区	B21・C21・C22	隅丸方形	4.7	3.8×3.8×0.3	0.2	弥生末～古墳初頭	
ST20-SP1	ⅢW区	—	—	—	—	—	—	欠番
ST20-SP2	ⅢW区	—	—	—	—	—	—	欠番
ST20-SP3	ⅢW区	C22	円形	4.3	0.4×0.4×0.2	—	—	
ST20-SP4	ⅢW区	C21	円形	4.2	0.2×0.2×0.3	—	—	
ST20-SP5	ⅢW区	C21	円形	4.3	0.2×0.2×0.2	—	—	
ST20-SP6	ⅢW区	C21	円形	4.2	0.2×0.2×0.1	—	—	
ST20-SP7	ⅢW区	C21	円形	4.2	0.4×0.4×0.2	—	—	
ST21	ⅢW区	B20・C20・C21	隅丸方形	4.7	3.5×3.7×0.3	無し	弥生末～古墳初頭	
ST21-SP1	ⅢW区	B20	円形	4.3	0.4×0.4×0.5	—	—	
ST21-SP2	ⅢW区	B20	楕円形	4.3	0.3×0.4×0.5	—	—	
ST21-SP3	ⅢW区	B20・C20	不整形円形	4.4	0.3×0.4×0.3	—	—	
ST21-SP4	ⅢW区	C20	楕円形	4.3	0.2×0.2×0.2	—	—	
ST21-中央P	ⅢW区	B20	楕円形	4.3	0.6×1.3×0.1	—	—	
ST22	ⅢE区	G22・G23・H22・H23	隅丸方形	4.6	4.0×-×0.2	無し	弥生末～古墳初頭	
ST22-SP1	ⅢE区	G22	円形	4.3	0.2×0.2×0.2	—	—	
ST22-SP2	ⅢE区	H23	円形	4.3	0.2×0.2×0.1	—	—	
ST22-SP3	ⅢE区	G23	円形	4.3	0.2×0.2×-	—	—	
ST22-中央P	ⅢE区	G23	楕円形	4.3	0.5×1.0×0.1	—	—	
ST23	Ⅳ区	H35・H36・I35・I36	不整形円形	5.0	6.6×7.0×0.2	0.2	弥生末～古墳初頭	
ST23-SP1	Ⅳ区	I36	不整形円形	4.6	0.3×0.3×0.2	—	—	
ST23-SP2	Ⅳ区	I35・I36	円形	4.6	0.3×0.2×0.2	—	—	
ST23-SP3	Ⅳ区	I35	円形	4.6	0.3×0.3×0.3	—	—	
ST23-SP4	Ⅳ区	H35	不整形円形	4.6	0.3×0.2×0.3	—	—	
ST23-SP5	Ⅳ区	H36	楕円形	4.6	0.4×0.3×0.2	—	—	
ST23-SK1	Ⅳ区	H35・H36	楕円形	4.6	0.5×0.8×0.1	—	—	
ST23-中央P	Ⅳ区	H36・I36	不整形楕円形	4.6	0.7×1.6×0.1	—	—	
ST23-SD45	Ⅳ区	H36・I36	—	5.0	3.9×0.4×0.1	—	—	
ST24	Ⅳ区	J37・J38・J39・K37・K38・K39・L37・L38	円形	5.1	7.0×7.3×0.5	0.1	弥生末～古墳初頭	
ST24-SP1	Ⅳ区	K38	円形	4.6	0.2×0.2×0.3	—	—	
ST24-SP2	Ⅳ区	K38	楕円形	4.6	0.4×0.3×0.1	—	—	
ST24-SP3	Ⅳ区	K37	不整形円形	4.6	0.3×0.3×0.2	—	—	
ST24-SP4	Ⅳ区	J38	円形	4.6	0.3×0.3×0.2	—	—	
ST24-SP5	Ⅳ区	K38	円形	4.7	0.3×0.3×0.3	—	—	
ST24-SP6	Ⅳ区	K38	不整形円形	4.6	0.5×0.4×0.1	—	—	
ST24-中央P	Ⅳ区	K38	不整形円形	4.6	1.0×1.5×0.3	—	—	
ST25	Ⅳ区	H34・I34	円形か	5.1	-×-×0.5	0.1	弥生末～古墳初頭	
ST25-SP1	Ⅳ区	I34	円形	4.6	0.3×0.3×0.3	—	—	
ST26	Ⅳ区	I34・J34	隅丸方形か	5.0	-×-×0.5	0.1	弥生末～古墳初頭	
ST26-SP1	Ⅳ区	J34	不整形円形	4.5	0.3×0.3×0.2	—	—	

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模	ベッド高	時期	備考
ST26-SK1	Ⅳ区	J34	円形	4.6	0.8×0.8×0.6	—	—	
SK74	ⅢE区	H29・H30・I29・I30	不整形円形	4.8	5.0×4.5×0.5	0.1	弥生末～古墳初頭	
SK74-SP1	ⅢE区	I29	不整形円形	4.5	0.2×0.2×0.3	—	—	
SK74-SP2	ⅢE区	I29	円形	4.2	0.2×0.2×0.1	—	—	
SK74-SP3	ⅢE区	H29	楕円形	4.2	0.1×0.2×0.1	—	—	
SK74-SP4	ⅢE区	H29	楕円形	4.2	0.2×0.1×0.1	—	—	
SK74-中央P	ⅢE区	H29・H30・I29・I30	長楕円形	4.2	0.7×1.5×0.1	—	—	
SK75	ⅢE区	H28・H29・G28・G29	隅丸方形	4.8	4.0×4.0×0.4	0.2	弥生末～古墳初頭	

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模	時期	出土遺物
SK1	I区	D9	不整形	4.7	- × 0.8 × 0.4	弥生末～古墳初頭	弥生土器194点
SK2	I区	F4・G4	不整形円形	4.7	1.3 × 0.9 × 0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器54点
SK3	I区	D9	長楕円形	4.7	0.6 × 0.3 × 0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器53点
SK4	I区	E4・E5	不整形長楕円形	4.7	0.5 × 1.0 × 0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器83点
SK5	I区	F3・F4	長楕円形	4.7	1.5 × 0.8 × 0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器229点
SK6	I区	F2	長楕円形	4.6	0.8 × 1.5 × 0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器28点
SK7	I区	E5・F5	長楕円形	4.7	0.4 × 1.1 × 0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器17点
SK8	I区	G2	長楕円形	4.6	0.7 × 1.3 × 0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器158点
SK9	I区	B5	不整形長楕円形	4.7	1.2 × 0.4 × 0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器8点
SK10	I区	B5	長楕円形	4.7	0.8 × 0.5 × 0.1	不明	弥生土器3点
SK11	I区	C5	不整形円形	4.6	1.0 × 0.7 × 0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器50点
SK12	I区	F4	不整形	4.7	0.5 × 1.3 × 0.1	不明	弥生土器6点
SK13	I区	B5・B6	不整形	4.7	1.8 × 2.5 × 0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器4点
SK14	I区	A6	長楕円形	4.7	1.5 × 0.7 × 0.4	弥生末～古墳初頭	弥生土器6点
SK15	I区	A5	長楕円形	4.7	0.8 × 0.4 × 0.1	不明	弥生土器6点
SK16	I区	C4	不整形円形	4.7	0.4 × 0.5 × 0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器10点
SK17	I区	D4	不整形	4.7	0.4 × 0.6 × 0.1	不明	弥生土器4点
SK18	I区	D2・D3	楕円形	4.7	0.6 × 0.8 × 0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器26点
SK19	I区	E3	円形	4.7	0.4 × 0.5 × 0.1	不明	出土遺物なし
SK20	I区	E3	楕円形	4.7	0.6 × 0.9 × 0.1	不明	弥生土器1点
SK21	I区	E3	楕円形	4.7	0.5 × 0.7 × 0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器1点
SK22	I区	E3・E4	楕円形	4.7	0.7 × 0.4 × 0.1	不明	出土遺物なし
SK23	I区	F4・F5・G4・G5	不整形	4.7	0.9 × 0.9 × 0.4	弥生末～古墳初頭	弥生土器127点
SK24	I区	G4	不整形	4.7	0.6 × 0.3 × 0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器28点
SK25	I区	F7・G7	長楕円形	4.7	0.5 × 1.3 × 0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器9点
SK26	I区	F8	不整形楕円形	4.7	0.7 × 0.7 × 0.1	不明	出土遺物なし
SK27	I区	D3	円形	4.6	0.6 × 0.6 × 0.1	不明	出土遺物なし
SK28	I区	E5・E6・F5・F6	楕円形	4.7	4.5 × 0.7 × 0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器3点
SK29	I区	A0	不整形楕円形	4.7	0.5 × 0.2 × 0.1	不明	弥生土器1点
SK30	I区	A1・A2	円形	4.7	0.6 × 0.6 × 0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器21点
SK31	I区	Z3・A3	楕円形	4.7	0.5 × 0.3 × 0.3	不明	弥生土器4点
SK32	I区	A7	楕円形	4.7	0.3 × 0.5 × 0.2	不明	出土遺物なし
SK33	I区	B4	長楕円形	4.7	1.3 × 0.4 × 1.5	不明	出土遺物なし
SK34	I区	C4	隅丸方形	4.7	1.0 × 1.3 × 0.1	不明	出土遺物なし
SK35	I区	C3	長方形	4.7	1.1 × 0.8 × 0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器145点
SK36	Ⅱ区	Z15・A15	隅丸長方形か	4.7	- × 2.2 × 0.2		
SK36-SP1	Ⅱ区	Z15・A15	円形	4.5	0.2 × 0.2 × 0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器339点
SK36-SP2	Ⅱ区	A15	円形	4.5	0.2 × 0.2 × 0.1		
SK36-SP3	Ⅱ区	A15	円形	4.5	0.3 × 0.3 × 0.1		
SK37	Ⅱ区	A15・A16・B15・B16	隅丸方形	4.8	3.0 × 3.0 × 0.3		
SK37-SP1	Ⅱ区	A16	不整形円形	4.5	0.5 × 0.6 × 0.2	弥生末～古墳初頭	表1参照。
SK37-SP2	Ⅱ区	A16	楕円形	4.5	0.6 × 0.6 × 0.3		
SK37-SP3	Ⅱ区	A15	不整形円形	4.4	0.6 × 0.6 × 0.2		
SK37-SK1	Ⅱ区	A15・A16	長楕円形	4.5	0.8 × 0.2 × 0.1		
SK38	Ⅱ区	E18	円形	4.8	0.6 × 0.7 × 0.2	不明	弥生土器3点
SK39	Ⅱ区	E11	楕円形	4.7	1.1 × 0.9 × 0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器16点
SK40	Ⅱ区	C12	不整形	4.7	1.3 × 1.0 × 0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器116点
SK41	Ⅱ区	D12	不整形楕円形	4.7	0.9 × 0.8 × 0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器23点
SK42	Ⅱ区	D13	不整形長楕円形	4.7	0.3 × 1.2 × 0.1	不明	出土遺物なし
SK43	Ⅱ区	D14	楕円形	4.7	0.3 × 0.2 × 0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器2点
SK44	Ⅱ区	D13・D14	不整形楕円形	4.7	0.2 × 0.6 × 0.2	不明	出土遺物なし
SK45	Ⅱ区	C13	楕円形	4.7	0.7 × 0.5 × 0.1	不明	出土遺物なし
SK46	Ⅱ区	E13・E14	不整形楕円形	4.7	1.0 × 1.5 × 0.5	弥生末～古墳初頭	弥生土器751点
SK47	Ⅱ区	A13	長楕円形	4.8	1.5 × 0.6 × 0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器136点
SK48	Ⅱ区	B11・C11	楕円形	4.7	0.7 × 1.1 × 0.5	弥生末～古墳初頭	弥生土器113点
SK49	Ⅱ区	B13	長楕円形	4.7	0.5 × 1.5 × 0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器100点
SK50	Ⅱ区	B10・B11	不整形	4.7	0.9 × 1.5 × 0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器9点
SK51	Ⅱ区	B10	不整形	4.7	0.7 × 0.9 × 0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器3点
SK52	Ⅱ区	B13	不整形楕円形	4.7	0.4 × 0.8 × 0.1	不明	出土遺物なし
SK53	Ⅱ区	B16・B17	楕円形	4.8	0.7 × 0.5 × 0.1	不明	出土遺物なし
SK54	Ⅱ区	B17	楕円形	4.8	0.7 × 0.5 × 0.1	不明	出土遺物なし

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模	時期	出土遺物
SK55	Ⅱ区	C11	不整楕円形	4.7	1.5×0.7×0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器158点
SK56	Ⅱ区	C11	不整長楕円形	4.7	0.5×1.1×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器16点
SK57	Ⅱ区	C11・D11	不整形	4.7	0.6×0.8×0.1	不明	弥生土器か2点
SK58	Ⅱ区	D11	不整楕円形	4.7	0.5×0.3×0.2	不明	出土遺物なし
SK59	Ⅱ区	C17	楕円形	4.8	0.5×0.2×0.1	不明	出土遺物なし
SK60	Ⅱ区	A16	楕円形	4.8	0.6×0.4×0.1	不明	出土遺物なし
SK61	Ⅱ区	A16・A17	楕円形	4.8	0.8×0.5×0.1	不明	出土遺物なし
SK62	Ⅱ区	D10	円形	4.7	0.5×0.6×0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器28点
SK63	Ⅱ区	B13	長楕円形	4.7	0.4×0.7×0.1	不明	出土遺物なし
SK64	Ⅱ区	D10	楕円形	4.7	0.7×0.9×0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器56点
SK65	Ⅱ区	A16	不整楕円形	4.8	0.4×0.6×0.3	不明	出土遺物なし
SK66	Ⅱ区	A16	不整形	4.8	0.5×0.5×0.2	不明	出土遺物なし
SK67	Ⅱ区	F13・F14	隅丸方形か	4.7	3.5×-×0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器69点
SK68	Ⅱ区	F13	不整長楕円形	4.7	1.7×0.5×0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器1点
SK69	Ⅱ区	A12・A13	不整形	4.7	0.8×0.5×0.1	不明	出土遺物なし
SK70	Ⅱ区	A14・A15	長楕円形	4.7	0.2×0.6×0.1	不明	出土遺物なし
SK71	ⅢE区	G29・G30	不明	4.7	2.5×-×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器9点
SK72	ⅢW区	C24	楕円形	5.9	0.4×-×0.5	不明	出土遺物なし
SK73	ⅢE区	G26・G27	溝状	4.7	0.5×-×0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器130点
SK76	ⅢN区	G18	楕円形	4.6	0.5×-×0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器7点
SK77	ⅢW区	D20	不整長楕円形	4.9	0.5×1.7×0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器93点
SK78	ⅢW区	B18・B19	長楕円形	4.7	0.8×1.4×0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器153点
SK79	ⅢW区	E19・E20	長楕円形	4.8	0.3×1.4×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器5点
SK80	ⅢW区	E21・E22	不整形	4.6	0.5×0.6×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器2点
SK81	ⅢM区	F25	長楕円形	4.8	0.9×0.4×0.1	不明	弥生土器か7点
SK82	ⅢM区	F24	不整長楕円形	4.8	1.3×0.7×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器18点
SK83	ⅢM区	F24	不整形	4.8	0.6×0.7×0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器25点
SK84	ⅢM区	F23	長楕円形	4.9	1.5×-×0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器2点、粘土塊か2点
SK85	Ⅳ区	G36	長楕円形	5.1	1.5×0.6×0.1	弥生前期前葉	弥生土器28点
SK86	Ⅳ区	G36・G37	不整楕円形	5.1	1.0×0.8×0.4	不明	弥生土器1点
SK87	Ⅳ区	G38・H38	楕円形	5.1	0.9×1.2×0.1	不明	弥生土器1点
SK88	—	—	—	—	—	—	欠番
SK89	Ⅳ区	I34・J34	楕円形	4.7	0.5×0.8×0.1	不明	出土遺物なし
SK90	Ⅰ区	E1・F1	不整形	4.6	1.1×0.7×0.4	不明	出土遺物なし

遺構名	調査区	グリッド	検出標高	規模	時期	出土遺物
SD1	Ⅰ区	Z4・Z5・Z6・Z7・A5・A6・A7・A8・A9・B6・B7・B8・B9	4.7	16.5×4.8×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器285点、陶磁器1点混入。
SD2	Ⅰ区・Ⅱ区	Z8・Z・A8・A9・A10・B9・B10・C9・C10・D9・D10・E10・F10・F11・G10・G11	4.7	1.3×27.0×0.4	弥生末～古墳初頭	弥生土器299点
SD3	Ⅰ区	Z2・A2・B2・C2・C3・C4	4.7	0.3×19.0×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器115点
SD4	Ⅰ区	E6・E7・E8・F6・F7・F8	4.7	7.5×0.3×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器106点、庄内式土器1点
SD5	Ⅰ区	E8・E9	4.7	49.0×0.3×0.5	弥生末～古墳初頭	弥生土器15点
SD6	Ⅰ区	Z4・A3・A4	4.7	6.2×0.3×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器61点、庄内式土器1点
SD7	Ⅰ区	A2・A3・A4	4.7	6.8×0.4×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器19点
SD8	Ⅰ区	Z2・Z3・A2	4.7	2.8×0.3×0.1	弥生末～古墳初頭か	弥生土器3点
SD9	Ⅰ区	A4・A5	4.7	2.8×0.5×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器39点
SD10・SD12	Ⅰ区	A5・B5	4.7	0.3×4.1×0.1	弥生末～古墳初頭	—
SD11	Ⅰ区	A5	4.7	2.4×0.5×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器138点
SD13	Ⅰ区	A4	4.7	1.6×0.5×0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器289点
SD14	Ⅰ区	A4	4.7	1.4×0.6×0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器20点
SD15	Ⅰ区	D5	4.7	2.2×0.4×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器4点
SD16	Ⅰ区	Z0	4.7	-×0.8×0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器89点
SD17	Ⅱ区・ⅢN区	A18・B18・C18・D18・E18・F18・G18・H18	4.8	0.5×20.3×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器89点
SD18	Ⅱ区	A18・B18	4.8	0.5×7.0×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器52点
SD19	Ⅱ区・ⅢW区	B18・B19	4.8	5.6×0.5×0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器35点、陶磁器1点混入。
SD20	Ⅱ区	Z9・A9・A10・B10・C10・C11・D11・E11・E12・F12	4.7	0.6×23.5×0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器156点
SD21	Ⅱ区	D17・D18・E16・E17・E18	4.8	7.0×0.4×0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器39点
SD22	Ⅱ区	E16・E17	4.7	3.8×0.3×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器66点
SD23	Ⅱ区	B17・B18	4.8	2.2×0.2×0.1	弥生末～古墳初頭か	弥生土器1点
SD24	Ⅱ区	E17	4.7	0.4×1.2×0.1	弥生末～古墳初頭か	弥生土器5点
SD25	Ⅱ区	E10・E11・E12・E13・E14・E15・F10・F11	4.7	18.0×0.5×0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器167点
SD26	Ⅱ区	D14・D15	4.8	2.0×0.2×0.1	弥生末～古墳初頭	—
SD27	Ⅱ区	D14	4.8	1.4×0.4×0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器2点
SD28	Ⅱ区	E12・E13	4.7	6.0×0.2×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器3点
SD29	Ⅱ区	A11	4.7	3.0×0.4×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器8点

遺構名	調査区	グリッド	検出標高	規模	時期	出土遺物
SD30	Ⅱ区	F13・F14	4.7	4.2×0.2×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器48点
SD31	Ⅱ区	A15・B15	4.7	0.4×1.3×0.1	不明	弥生土器か2点
SD32	Ⅱ区	A15・B15	4.8	0.4×2.6×0.1	不明	弥生土器か1点
SD33	Ⅱ区	欠番	—	—	—	—
SD34	Ⅱ区	F13・F14	4.7	3.5×0.2×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器3点
SD35・SD44	ⅢE・M区	G26・G27・F25・F26・H27・H28・I28	4.8	0.4×14.0×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器49点、陶磁器1点混入。
SD36・SD39	ⅢE・M・W区	C20・D20・E20・E21・F21・G2・H21	4.9	0.8×17.7×0.2	弥生末～古墳初頭か	弥生土器38点
SD37	ⅢE区	I29	4.8	0.3×0.9×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器2点
SD38	ⅢW区	C21・D21・E21・F21・G21・G22	4.9	0.5×14.0×0.2	弥生末～古墳初頭か	弥生土器3点
SD40	ⅢW区	D20・D21	4.9	6.0×0.4×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器81点
SD41	ⅢW区	E20	4.9	3.2×0.5×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器3点
SD42	ⅢM区	A19・B19	4.8	0.2×3.0×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器20点
SD43	ⅢM区	F20・F2・1F22	4.8	6.5×0.5×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器7点
SD45	Ⅳ区	H36・I36	5.1	0.5×7.5×0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器30点
SD46	Ⅳ区	G38・H38・I38	5.1	1.0×20.0×0.1	不明	弥生土器か2点
SD47	Ⅳ区	G38・G39・H38・H39・I38・I39・J39・K39・L39	5.0	1.0×14.5×0.4	古墳中期か、古代か	弥生土器65点、須恵器1点
SD48	Ⅳ区	H39・I38・I39・J38・K37・K38	5.0	1.0×9.5×0.2	古墳中期か、古代か	弥生土器85点、須恵器1点
SD49	Ⅳ区	I35・J35・K35・J36・K36・K37	5.0	1.3×5.2×0.4	弥生前期前葉	弥生土器1641点、うち3点混入。
SD50	Ⅳ区	欠番	—	—	—	—
SD51	Ⅳ区	H39	5.1	1.0×0.3×0.1	不明	弥生土器か1点
SD52	Ⅳ区	F35・F36・G35・G36・H35・J35・K35	5.1	—×1.0×0.4	弥生前期前葉	弥生土器54点
SD53	Ⅳ区	J35・K35	5.0	—×0.4×0.1	弥生前期前葉	弥生土器28点
SD54	ⅢM区	F20・F21・G20・G21	4.8	3.0×0.4×0.1	不明	出土遺物なし
SD55	ⅢM区	F24・G23・G24	4.8	4.6×0.3×0.1	不明	出土遺物なし

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模	時期	出土遺物
P1	—	—	—	—	—	—	—
P2	Ⅰ区	D5	円形	4.6	0.4×0.4×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器9点
P3	—	—	—	—	—	—	—
P4	Ⅰ区	C4	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	不明	出土遺物なし
P5	Ⅰ区	C4	円形	4.6	0.2×0.2×0.2	不明	弥生土器6点
P6	Ⅰ区	F4	円形	4.7	0.3×0.3×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器5点
P7	Ⅰ区	F4	円形	4.7	0.3×0.3×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器2点
P8	Ⅰ区	F4	円形	4.7	0.3×0.2×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器2点
P9	Ⅰ区	F4	円形	4.7	0.4×0.4×0.1	不明	弥生土器1点
P10	Ⅰ区	F4	円形	4.7	0.4×0.3×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器1点
P11	Ⅰ区	F4	楕円形	4.7	0.3×0.2×0.1	不明	出土遺物なし
P12	Ⅰ区	F4	円形	4.6	0.3×0.3×0.1	不明	出土遺物なし
P13	Ⅰ区	F4	円形	4.7	0.2×0.2×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器3点
P14	Ⅰ区	F4	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器11点
P15	Ⅰ区	F4	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器7点
P16	Ⅰ区	F4	円形	4.7	0.4×0.3×0.1	不明	弥生土器3点
P17	Ⅰ区	F3	円形	4.7	0.3×0.3×0.1	不明	弥生土器1点
P18	Ⅰ区	F3	円形	4.7	0.3×0.3×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器3点
P19	Ⅰ区	F3	円形	4.7	0.3×0.3×0.1	不明	弥生土器1点
P20	Ⅰ区	F2	円形	4.6	0.3×0.3×0.1	不明	出土遺物なし
P21	Ⅰ区	F3	円形	4.7	0.2×0.2×0.3	不明	弥生土器4点
P22	Ⅰ区	D4・E4	円形	4.7	0.2×0.2×0.1	不明	出土遺物なし
P23	Ⅰ区	D4	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	不明	出土遺物なし
P24	Ⅰ区	D4	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	不明	出土遺物なし
P25	Ⅰ区	E4	円形	4.7	0.2×0.2×0.1	不明	出土遺物なし
P26	Ⅰ区	E4	不整円形	4.7	0.2×0.3×0.1	不明	出土遺物なし
P27	Ⅰ区	E4	楕円形	4.7	0.3×0.4×0.1	不明	出土遺物なし
P28	Ⅰ区	E4	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	不明	出土遺物なし
P29	Ⅰ区	D4	円形	4.7	0.3×0.3×0.2	不明	出土遺物なし
P30	—	—	—	—	—	—	—
P31	—	—	—	—	—	—	—
P32	Ⅰ区	E4	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器3点
P33	Ⅰ区	E4	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	不明	弥生土器1点
P34	Ⅰ区	E4	不整円形	4.7	0.4×0.4×0.1	不明	出土遺物なし
P35	Ⅰ区	E5	不整円形	4.7	0.4×0.3×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器1点
P36	Ⅰ区	E5	不整円形	4.7	0.4×0.4×0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器15点

遺構名	調査区	グリッド	検出標高	規模	時期	出土遺物	出土遺物
P37	I区	E4	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	不明	出土遺物なし
P38	I区	E2	円形	4.6	0.3×0.3×0.1	不明	弥生土器4点
P39	I区	D1	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	不明	出土遺物なし
P40	I区	D1	隅丸方形	4.6	0.2×0.3×0.1	不明	弥生土器1点
P41	I区	C1	不整円形	4.7	0.5×0.4×0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器3点
P42	I区	E1	円形	4.6	0.4×0.4×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器5点
P43	I区	A1	円形	4.7	0.4×0.4×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器23点
P44	I区	A2・A3	円形	4.7	0.3×0.2×0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器5点
P45	I区	A7	円形	4.7	0.2×0.2×0.1	不明	弥生土器8点
P46	I区	Z8	不整円形	4.7	0.2×0.2×0.1	不明	弥生土器1点
P47	I区	E1	円形	4.6	0.4×0.4×0.1	不明	出土遺物なし
P48	I区	C4	円形	4.7	0.2×0.2×0.1	不明	出土遺物なし
P49	I区	D7	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	不明	弥生土器1点
P50	I区	C4	円形	4.6	0.2×0.2×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器3点
P51	II区	C12	楕円形	4.7	0.3×0.4×0.1	不明	弥生土器2点
P52	II区	C13・D13	楕円形	4.7	0.3×0.3×0.1	不明	出土遺物なし
P53	II区	D12	楕円形	4.7	0.3×0.5×0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器16点
P54	II区	D12	楕円形	4.7	0.3×0.4×0.4	弥生末～古墳初頭	弥生土器10点
P55	II区	B10	円形	4.7	0.2×0.2×0.1	不明	出土遺物なし
P56	II区	B10	円形	4.7	0.2×0.2×0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器10点
P57	II区	C11	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器1点
P58	II区	B11	円形	4.7	0.3×0.4×0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器1点
P59	II区	D18	円形	4.8	0.4×0.4×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器5点
P60	II区	A11	円形	4.7	0.4×0.4×0.1	不明	出土遺物なし
P61	II区	A12	不整円形	4.7	0.3×0.3×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器3点
P62	II区	A12	円形	4.7	0.3×0.3×0.1	不明	出土遺物なし
P63	II区	A12	円形	4.7	0.2×0.2×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器1点
P64	II区	B13	円形	4.7	0.4×0.4×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器10点
P65	II区	A12	円形	4.7	0.2×0.2×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器1点
P66	II区	A13	不整円形	4.8	0.3×0.3×0.1	不明	弥生土器1点
P67	II区	C11	不整円形	4.7	0.2×0.3×0.1	不明	出土遺物なし
P68	II区	D11	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	不明	弥生土器6点
P69	II区	D11	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	不明	弥生土器1点
P70	II区	D11	楕円形	4.7	0.2×0.3×0.3	不明	弥生土器28点
P71	II区	D11	円形	4.7	0.2×0.2×0.3	不明	出土遺物なし
P72	II区	D11・E11	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	不明	出土遺物なし
P73	II区	A17	円形	4.8	0.3×0.3×0.1	不明	出土遺物なし
P74	II区	A17・B17	円形	4.8	0.3×0.3×0.1	不明	出土遺物なし
P75	II区	B17	円形	4.8	0.2×0.2×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器1点
P76	II区	B17	円形	4.7	0.2×0.2×0.1	不明	出土遺物なし
P77	II区	A15	円形	4.7	0.2×0.3×0.1	不明	出土遺物なし
P78	II区	Z15	円形	4.7	0.3×0.3×0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器1点
P79	II区	A16	不整円形	4.8	0.5×0.5×0.2	不明	出土遺物なし
P80	II区	A13	円形	4.8	0.3×0.3×0.1	不明	出土遺物なし
P81	II区	A13・B13	楕円形	4.8	0.6×0.4×0.1	不明	出土遺物なし
P82	II区	B13	不整円形	4.8	0.3×0.3×0.1	不明	出土遺物なし
P83	II区	D10	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	不明	出土遺物なし
P84	II区	D10	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	不明	出土遺物なし
P85	II区	A16	円形	4.7	0.3×0.3×0.1	不明	出土遺物なし
P86	II区	A15	円形	4.7	0.2×0.2×0.4	不明	出土遺物なし
P87	II区	E18	円形	4.7	0.2×0.2×0.1	不明	出土遺物なし
P88	II区	C10・C11	不整円形	4.7	0.2×0.3×0.1	不明	出土遺物なし
P89	II区	F14	不整円形	4.7	0.4×0.4×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器56点
P90	II区	F18	不整円形	4.7	0.4×0.4×0.4	弥生末～古墳初頭	弥生土器31点
P91	II区	F18	不整円形	4.7	0.3×0.4×0.4	弥生末～古墳初頭	弥生土器12点
P92	II区	C11	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	不明	出土遺物なし
P93	II区	C11	不整楕円形	4.7	0.2×0.4×0.4	弥生末～古墳初頭	弥生土器5点
P94	II区	D12	楕円形	4.7	0.2×0.4×0.2	不明	弥生土器1点
P95	II区	A12・A13	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	不明	出土遺物なし
P96	II区	A13	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	不明	出土遺物なし
P97	II区	A12・A13	円形	4.7	0.2×0.2×0.1	不明	出土遺物なし
P98	II区	A12	不整楕円形	4.7	0.4×0.2×0.1	不明	出土遺物なし
P99	II区	D18	円形	4.7	0.4×0.4×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器27点
P100	II区	D17	円形	4.7	0.5×0.4×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器21点
P101	II区	F15	円形	-	-	不明	出土遺物なし
P102	II区	D11	円形	4.7	0.1×0.1×-	不明	出土遺物なし
P103	II区	E11	円形	4.7	0.1×0.1×-	不明	出土遺物なし
P104	III N区	G18・H18	楕円形	4.6	0.3×-×0.3	不明	出土遺物なし
P105	III E区	H24	円形	4.6	0.3×0.3×0.1	不明	出土遺物なし
P106	III M区	F25	不整円形	4.7	0.3×0.3×0.1	不明	弥生土器5点
P107	III M区	F24	円形	4.8	0.3×-×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器6点
P108	IV区	H38	円形	5.0	0.3×0.3×0.3	不明	弥生土器3点
P109	IV区	F36	楕円形	5.0	0.5×0.4×0.1	不明	弥生土器2点
P110	IV区	H37	楕円形	5.1	0.3×0.5×0.1	不明	出土遺物なし

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模	時期	出土遺物
P111	Ⅳ区	G37	円形	5.1	0.2×0.3×0.3	不明	弥生土器3点
P112	Ⅳ区	H37	円形	5.0	0.3×0.3×0.1	不明	弥生土器3点
P113	Ⅳ区	H37	円形	5.0	0.2×0.2×0.2	不明	出土遺物なし
P114	Ⅳ区	H37	円形	5.0	0.2×0.2×0.2	不明	出土遺物なし
P115	Ⅳ区	G38	円形	5.1	0.2×0.2×0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器3点
P116	Ⅳ区	H38	不整円形	5.0	0.2×0.2×0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器5点
P117	Ⅳ区	H38	円形	5.0	0.3×0.3×0.3	不明	弥生土器3点
P118	Ⅳ区	H37	円形	5.0	0.2×0.2×0.1	不明	出土遺物なし
P119	Ⅳ区	H37	楕円形	5.0	0.3×0.3×0.2	弥生末～古墳初頭	弥生土器8点
P120	Ⅳ区	H37	円形	5.1	0.3×0.3×0.2	不明	弥生土器1点
P121	Ⅳ区	I37	円形	5.0	0.2×0.2×0.2	不明	出土遺物なし
P122	Ⅳ区	I37	楕円形	5.0	0.2×0.3×0.1	不明	出土遺物なし
P123	Ⅳ区	H38・I38	楕円形	5.1	0.2×0.3×0.3	弥生末～古墳初頭	弥生土器3点
P124	Ⅳ区	H38	楕円形	5.0	0.2×0.3×0.4	不明	弥生土器2点
P125	Ⅳ区	H38	円形	5.1	0.2×0.2×0.3	不明	弥生土器1点
P126	Ⅳ区	G38	円形	5.0	0.2×0.2×0.2	不明	出土遺物なし
P127	Ⅳ区	J35	円形	5.0	0.2×0.2×0.2	不明	弥生土器4点
P128	Ⅳ区	J35	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	不明	弥生土器なし
P129	Ⅳ区	J36	円形	4.9	0.3×0.3×0.1	不明	出土遺物なし
P130	Ⅳ区	K35	楕円形	4.8	0.3×0.2×0.4	不明	弥生土器3点
P131	Ⅳ区	K36	円形	4.8	0.2×0.2×0.2	不明	出土遺物なし
P132	Ⅳ区	J37・K37	円形	5.0	0.4×0.4×0.1	不明	出土遺物なし
P133	Ⅳ区	J37	楕円形	5.1	0.4×0.6×0.1	不明	出土遺物なし
P134	Ⅳ区	I37・J37	円形	5.0	0.3×0.2×0.1	不明	出土遺物なし
P135	Ⅳ区	J37	隅丸方形	5.0	0.3×0.3×0.1	不明	出土遺物なし
P136	Ⅳ区	I37	円形	5.0	0.2×0.2×0.1	不明	出土遺物なし
P137	Ⅳ区	I37	不整円形	5.0	0.2×0.3×0.1	不明	出土遺物なし
P138	Ⅳ区	I38・J38	楕円形	5.0	0.4×0.3×0.1	不明	出土遺物なし
P139	Ⅳ区	I38	円形	5.0	0.2×0.2×0.2	不明	出土遺物なし
P140	Ⅳ区	J38	不整円形	5.0	0.4×0.4×0.1	不明	出土遺物なし
P141	Ⅳ区	K37	隅丸方形	4.9	0.2×0.2×0.4	不明	弥生土器2点
P142	Ⅳ区	K37	円形	4.8	0.4×0.4×0.1	不明	出土遺物なし
P143	Ⅳ区	K39	不整円形	4.9	0.4×0.4×0.1	弥生末～古墳初頭	弥生土器1点
P144	Ⅳ区	K36	円形	4.8	0.3×0.3×0.1	不明	弥生土器2点
P145	Ⅳ区	J36・K36	不整円形	4.8	0.2×0.2×0.1	不明	出土遺物なし
P146	Ⅳ区	J35	楕円形	4.6	0.2×0.4×0.1	不明	出土遺物なし
P147	Ⅳ区	J35	楕円形	4.6	0.2×0.3×0.1	不明	出土遺物なし
P148	Ⅳ区	J35	円形	4.7	0.2×0.2×0.2	不明	出土遺物なし
P149	Ⅳ区	J35	円形	4.7	0.2×0.2×0.1	不明	出土遺物なし
P150	Ⅳ区	L39	不整円形	4.8	0.3×0.2×0.1	不明	弥生土器1点
P151	Ⅳ区	K39	円形	4.8	0.2×0.2×0.1	不明	出土遺物なし
P152	I区	E1・F1	円形	4.2	0.2×0.2×0.1	不明	出土遺物なし

遺物觀察表

挿図 番号	図版 番号	遺構	調査区等	器種	器形	法量			色調			胎土	特徴	備考
						口径	器高	底径	内面	外面	断面			
2	1	P1	TP12 No.3	弥生土器	甕	(11.7)	22.3	3.1	5YR6/8橙色	7.5YR5/4に ぶい褐色	5YR6/8橙色	φ 3mm・ 少	外面、叩き後ハケ。内面、ナデ。丸味をおびた平底。	煤付着。試掘調査。
〃	2	P1	TP12	弥生土器	甕	14.3	19.7	-	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR7/4にぶ い橙色	φ 5mm・ 少	外面、叩き後ハケ。内面、ハケ・ナデ。丸底。	被熱変色。煤付着。焼成時破裂痕跡有り。試掘調査。
〃	3	黒褐色土	TP8	弥生土器	鉢	(11.7)	7.3	2.0	7.5YR7/8黄 橙色	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙色	φ 4mm・ 多	外面、叩き後ナデ。内面、磨耗。平底。	試掘調査。
〃	4	黒褐色土	TP8	弥生土器	鉢	(12.9)	7.7	0.8	10YR7/4に ぶい黄褐色	10YR7/3に ぶい黄褐色	10YR7/3にぶ い黄褐色	φ 5mm・ 多	外面、叩き後ナデ。内面、磨耗。丸底。	試掘調査。
〃	5	P1	TP12 No.4	弥生土器	鉢	14.3	10.3	-	5YR6/6橙色	10YR6/6明 黄褐色	5YR6/6橙色	φ 8mm・ 少	内外面、磨耗。内面、ハケ。外面、叩き後ハケ。丸底。	ほぼ完形。試掘調査。
〃	6	黒色土	TP13	土師質土器	鍋	-	-	-	2.5Y7/3浅黄 色	10YR6/3に ぶい黄褐色	2.5Y7/3浅黄 色	φ 1mm・ 少	内外面、ナデ。	煤付着。試掘調査。
〃	7	黒褐色土	TP17	土師質土器	杯	-	-	5.7	10YR7/3に ぶい黄褐色	10YR6/3に ぶい黄褐色	7.5YR7/3にぶ い橙色	精良	回転口クロナデ。底部、糸切り。	試掘調査。
12	9	ST1	B3/C3	弥生土器	壺	(19.0)	-	-	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙 色	10YR6/1褐灰 色	φ 8mm・ やや多	外面、ハケ後ミガキ。内面、ミガキ。口唇部、櫛描波状文。	10と接点はないが同一個体。
〃	10	ST1	C2/C2・3	弥生土器	複合口縁壺	(16.2)	-	-	2.5Y7/2灰黄 色	7.5YR7/4に ぶい橙色	2.5Y6/1黄灰 色	φ 4mm・ 少	内外面とも、ハケ・ナデ。	9と接点はないが同一個体。
〃	11	ST1	C2・3ベッド内ユカ	弥生土器	複合口縁壺	-	-	-	2.5Y6/1黄灰 色	10YR7/3に ぶい黄褐色	2.5Y5/1黄灰 色	φ 5mm・ 少	外面、ナデ。鋸歯文。内面、ミガキ。	
〃	12	ST1	C3ベッド内/B2・3/C2・3	弥生土器	壺	-	-	(4.2)	10YR7/2に ぶい黄褐色	7.5YR7/6橙 色	10YR5/1褐灰 色	φ 7mm・ 少	外面、ミガキ。内面、ハケ・ナデ。丸味をおびた平底。	
〃	13	ST1	C2 No.3	弥生土器	甕	11.5	17.5	1.6	7.5YR6/6橙 色	5YR6/6橙色	7.5YR7/6橙色	φ 5mm・ 少	外面、叩き。内面、ハケ。平底。	ほぼ完形。被熱変色。黒斑有り。
〃	14	ST1	C2・3ユカ	弥生土器	甕	(12.3)	15.6	4.6	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR7/4にぶ い橙色	φ 3mm・ 少	外面、叩き。内面、ハケ・ナデ。粘土帯接合痕跡有り。平底。	
〃	15	ST1	C2 No.1・2	弥生土器	甕	(10.8)	-	-	7.5YR7/6橙 色	5YR7/4にぶ い橙色	7.5YR7/4にぶ い橙色	φ 5mm・ 多	外面、叩き。「口縁叩き出し」内面、ハケ。	煤付着。
〃	16	ST1	ベッド内No.11・12	弥生土器	甕	(15.0)	-	-	2.5Y7/2灰黄 色	10YR7/3に ぶい黄褐色	10YR5/1褐灰 色	φ 5mm・ やや多	外面、叩き。「口縁叩き出し」内面、ナデ。	煤付着。
〃	17	ST1	C2・3ベッド内ユカ	弥生土器	甕	(17.0)	-	-	7.5YR6/6橙 色	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR7/4にぶ い橙色	φ 6mm・ 多	外面、叩き。「口縁叩き出し」内面、ハケ。	
〃	18	ST1	C2・3ベッド内	弥生土器	甕	(35.4)	-	-	2.5Y6/2灰黄 色	10YR7/4に ぶい黄褐色	2.5Y4/1黄灰 色	φ 5mm・ やや多	口縁部、ハケ。外面、叩き。内面、ナデ。	煤付着。
13	19	ST1	C7	弥生土器	鉢	10.4	5.7	-	7.5YR6/6橙 色	7.5YR6/6橙 色	5Y6/1灰色	φ 3mm・ 少	外面、ハケ。内面、ナデ。丸底。	黒斑有り。
〃	20	ST1	B3ベッド内No.5	弥生土器	鉢	(8.6)	5.9	2.6	5YR6/6橙色	10YR8/3浅 黄褐色	10YR6/1褐灰 色	φ 4mm・ 少	外面、叩き後ハケ。内面、ハケ。	
〃	21	ST1	B2・3	弥生土器	鉢	(9.2)	6.4	2.7	10YR7/2に ぶい黄褐色	10YR7/4に ぶい黄褐色	10YR6/1褐灰 色	φ 3mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、ハケ。	
〃	22	ST1	B2・3	弥生土器	鉢	(9.2)	6.4	0.9	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR7/4にぶ い橙色	φ 4mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、ハケ。	
〃	23	ST1	ベッド/ユカ	弥生土器	鉢	(10.8)	7.9	4.0	7.5YR7/4に ぶい橙色	10YR7/4に ぶい黄褐色	7.5YR7/4にぶ い橙色	φ 4mm・ 少	外面、ナデ。内面、ハケ。	煤付着。
〃	24	ST1-P6	C2	弥生土器	鉢	(10.5)	6.2	2.8	10YR7/2に ぶい黄褐色	10YR7/3に ぶい黄褐色	10YR7/2にぶ い黄褐色	φ 5mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、粗いハケ。平底。	
〃	25	ST1	No.13	弥生土器	鉢	(12.0)	-	-	7.5YR7/8黄 褐色	5YR7/8橙色	7.5YR7/8黄橙 色	φ 5mm・ 多	外面、叩き後ナデ。内面、摩耗。	
〃	26	ST1-P6	C2	弥生土器	鉢	(13.8)	5.1	3.0	10YR7/3に ぶい黄褐色	7.5YR7/4に ぶい橙色	10YR6/1褐灰 色	φ 3mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、ハケ。丸底。	
〃	27	ST1	C3ベッド内ユカ	弥生土器	鉢	14.4	5.6	5.8	10YR8/3浅 黄褐色	10YR8/3浅 黄褐色	10YR8/3浅黄 褐色	φ 4mm・ 少	外面、叩き後ハケ・ナデ。内面、ハケ。	
〃	28	ST1-中央P	C3	弥生土器	鉢	(15.0)	6.1	4.6	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙 色	10YR7/4にぶ い黄褐色	φ 3mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、ハケ。平底。葉脈痕跡有り。	
〃	29	ST1	B3/C2/C2・3	弥生土器	鉢	(20.6)	8.6	-	7.5YR7/4に ぶい橙色	10YR7/4に ぶい黄褐色	10YR6/1褐灰 色	φ 4mm・ 少	外面、叩き後ミガキ。内面、ミガキ。	黒斑有り。
〃	30	ST1	B3ベッド内No.6/C2・3ベッド内	弥生土器	鉢	(30.0)	-	-	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙色	φ 4mm・ 少	外面、叩き。口縁部・内面、ハケ。	
〃	31	ST1	C3ベッド内ユカ	弥生土器	底部	-	-	3.0	2.5Y7/1灰白 色	10YR7/3に ぶい黄褐色	2.5Y7/1灰白 色	φ 10mm・ 少	外面、叩き後ハケ。内面、ナデ。平底。	
〃	32	ST1	C2・3ベッド内	弥生土器	底部	-	-	4.7	7.5YR6/8橙 色	10YR7/3に ぶい黄褐色	2.5Y6/1黄灰 色	φ 5mm・ 少	外面、叩き。内面、ナデ。平底。	
〃	33	ST1	C2ベッド内	弥生土器	底部	-	-	2.8	10YR8/2灰 白色	7.5YR7/3に ぶい橙色	10YR7/2にぶ い黄褐色	φ 4mm・ 少	外面、叩き。内面、ナデ。平底。	
〃	34	ST1		弥生土器	底部	-	-	3.2	10YR7/2に ぶい黄褐色	7.5YR7/3に ぶい橙色	10YR6/1褐灰 色	φ 2mm・ 少	外面、ナデ。内面、ハケ。平底。外底面、葉脈痕跡有り。	
〃	35	ST1	B3/B3・4/C3/ユカ	弥生土器	底部	-	-	2.0	10YR8/4浅 黄褐色	10YR7/3に ぶい黄褐色	10YR7/3にぶ い黄褐色	φ 3mm・ ごく少	外面、叩き後ナデ。内面、工具ナデ。	

(復原値)

挿図 番号	図版 番号	遺構	調査区等	器種	器形	法量			色調			胎土	特徴	備考
13	36	ST1	B2・3ベッ ド内	弥生 土器	底部	-	-	1.6	25Y4/1黄灰 色	5YR6/6橙 色	25Y4/1黄灰 色	φ3mm・ 少	外面、叩き。底部、ナデ。 内面、ハケ後ナデ。	
〃	37	ST1内 SD1	B3/C3	弥生 土器	底部	-	-	-	7.5YR7/6橙 色	7.5YR8/4浅 黄橙色	10YR7/1灰白 色	φ2mm・ 少	外面、叩き。内面、ハケ。	
14	38	ST1	B3	弥生 土器	底部	-	-	3.2	5YR7/8橙 色	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙 色	φ5mm・ ごく少	外面、摩耗。内面、ハケ。	
〃	39	ST1	C2・3ベッ ド内ユカ/ C3ベッ ド内	弥生 土器	底部	-	-	2.0	5YR7/6橙 色	10YR7/3に ぶい黄橙色	5YR7/4にぶ い橙色	φ7mm・ 多	外面、叩き後ハケ。内面、 ハケ・ナデ。わずかに上 げ底。	
〃	40	ST1	C2・3ベッ ド内	弥生 土器	底部	-	-	(3.2)	5Y4/1灰 色	5YR7/6橙 色	5YR7/4にぶ い橙色	φ4mm・ 少	外面、叩き後ハケ。内面、 ハケ。平底。	
〃	41	ST1	B3ベッ ド内No.4	弥生 土器	底部	-	-	-	5YR6/8橙 色	5YR6/8橙 色	10YR4/1褐灰 色	φ3mm・ やや多	外面、ハケ。内面、摩耗。 丸底。	
〃	42	ST1	B3	弥生 土器	底部	-	-	-	2.5Y7/2灰黄 色	7.5YR7/6橙 色	2.5Y6/1黄灰 色	φ5mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ナデ・ハケ。	
〃	43	ST1	B3	土製 品	紡錘車			全厚 1.6	-	10YR7/2に ぶい黄橙色	7.5YR7/3にぶ い橙色	φ3mm・ 多	内外面、ナデ。中央部に 円孔の一部が残存。	
17	49	ST2	E1・2	弥生 土器	複合口 縁壺	(22.0)	-	-	10YR7/3に ぶい黄橙色	10YR8/3浅 黄橙色	10YR5/1褐灰 色	φ3mm・ 少	二次口縁部、ナデ。櫛描 波状文。それ以外、ハケ。	
〃	50	ST2	E2	弥生 土器	甕	(13.4)	-	-	10YR7/2に ぶい黄橙色	5YR7/2明褐 灰色	10YR2/1黒色	φ6mm・ 多	口縁部、ハケ。外面、叩 き。内面、ハケ。	被熱変色。
〃	51	ST2	F2	弥生 土器	鉢	(9.8)	7.0	(4.1)	10YR7/2に ぶい黄橙色	5YR7/4にぶ い橙色	10YR7/4にぶ い黄橙色	φ4mm・ ごく少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ。	
〃	52	ST2	E2	弥生 土器	鉢	(14.3)	-	-	7.5YR6/6橙 色	7.5YR7/4に ぶい橙色	10YR5/1褐灰 色	φ2mm・ 少	口縁部、ナデ。外面、叩 き後ナデ。内面、ハケ・ ナデ。	
〃	53	ST2	F2	ミニ チュ ア土 器	-	(6.9)	7.9	-	10YR8/3浅 黄橙色	10YR8/3浅 黄橙色	10YR8/3浅黄 橙色	φ4mm・ やや多	口縁部、ハケ。外面、叩 き後ナデ。内面、ナデ。 丸底。粘土帯接合痕跡 有り。	
〃	54	ST2	E2	弥生 土器	鉢	(18.0)	-	-	7.5YR7/4に ぶい橙色	10YR7/4に ぶい黄橙色	10YR6/1褐灰 色	φ4mm・ 少	外面、叩き。内面、ハケ。	
〃	55	ST2	E1No.3～9	弥生 土器	片口鉢	(28.0)	21.6	5.0	10YR7/2に ぶい黄橙色	5YR7/6橙 色	7.5YR6/1褐灰 色	φ5mm・ 少	外面、叩き。口縁部・内 面、ハケ。	煤附着。
〃	56	ST2	E2・F2	弥生 土器	底部	-	-	2.0	7.5YR8/4浅 黄橙色	5YR7/4にぶ い橙色	7.5YR8/4浅黄 橙色	φ3mm・ 少	外面、叩き。内面、摩耗。 丸底。	
〃	57	ST2	F2	弥生 土器	底部	-	-	3.2	10YR7/3に ぶい黄橙色	10YR7/2に ぶい黄橙色	10YR2/1黒色	φ3mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ナデ。	
〃	58	ST2	E2・3	弥生 土器	体部	-	-	-	7.5YR7/6橙 色	5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙 色	φ3mm・ やや多	外面、叩き後ハケ。内面、 ハケ。	
〃	59	ST2	E2・F2	弥生 土器	高杯	-	-	(12.6)	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR7/3に ぶい橙色	7.5YR7/4にぶ い橙色	φ1mm・ ごく少	外面、ミガキ。内面、ハ ケ。穿孔有り。	搬入品。
〃	60	ST2	E1・2/F1	弥生 土器	器台	(30.8)	-	-	7.5YR7/6橙 色	10YR7/2に ぶい黄橙色	10YR4/1褐灰 色	φ2mm・ 少	内外面、粗いハケ。口唇 部、浮文と鋸歯文。	
21	62	ST3	E6・F6	弥生 土器	壺	(20.4)	-	-	5YR6/6橙 色	5YR7/6橙 色	2.5Y7/2灰黄 色	φ4mm・ やや多	内外面、ハケ。	
〃	63	ST3	D6・E6ベッ ド内/E6・ F6/E7ベッ ド内	弥生 土器	壺	(22.2)	-	-	10YR8/4浅 黄橙色	5YR6/4にぶ い橙色	2.5Y6/2灰黄 色	φ4mm・ 少	内外面、ハケ。	
〃	64	ST3	E6・F6ユ カNo.115・ 117・130/ E6ベッ ド内	弥生 土器	壺	11.6	-	-	7.5YR6/6橙 色	10YR7/4に ぶい黄橙色	7.5YR7/6橙 色	φ4mm・ ごく少	口縁部、外面、ハケ・ミ ガキ。内面、ナデ。	煤附着。
〃	65	ST3	E6・F6ベッ ド内ユカ/ E7・F8ベッ ド内	弥生 土器	壺	(13.0)	20.4	2.4	7.5YR7/8黄 橙色	7.5YR6/4に ぶい橙色	5Y6/1灰 色	φ4mm・ 少	外面、ミガキ。内面、ハ ケ。丸底。	
〃	66	ST3	E7/E7・8/ F7・8	弥生 土器	壺	16.0	-	-	7.5Y3/1オ リーブ黒色	2.5Y5/2暗灰 黄色	2.5Y7/2灰黄 色	φ1mm・ ごく少	外面、叩き後ミガキ。口 縁部、ハケ・ナデ。内面、 ハケ。口縁部、ミガキ。粘 土帯接合痕跡有り。	
〃	67	ST3	D・E6	弥生 土器	複合口 縁壺	(14.0)	-	-	2.5Y6/1黄灰 色	2.5Y5/1黄灰 色	N4/0灰 色	φ3mm・ 少	内外面、ハケ。二次口縁 部にへら描鋸歯文。	赤色塗彩。
〃	68	ST3	D6・E6 I 層 パンク	弥生 土器	複合口 縁壺	-	-	-	10YR5/2灰 黄褐色	10YR5/2灰 黄褐色	10YR6/3にぶ い黄橙色	φ2mm・ 少	内外面、ナデ。二次口縁 部に櫛描波状文。	
〃	69	ST3	E7ユカ/ ST11ベッ ド内ユカ	弥生 土器	二重口 縁壺	(18.0)	-	-	10YR7/4に ぶい黄橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	10YR5/1褐灰 色	φ4mm・ 少	内外面、ナデ。	
〃	70	ST3	D7・E7	土師 器	壺	-	-	-	2.5Y6/1黄灰 色	7.5YR7/6橙 色	2.5Y6/1黄灰 色	φ3mm・ 少・雲母 ごく少	外面、ミガキ。内面、ナ デ。	
〃	71	ST3	ベッ ド内	弥生 土器	甕	(17.0)	-	-	2.5Y7/2灰黄 色	10YR7/3に ぶい黄橙色	10YR2/1黒色	φ3mm・ やや多	外面、やや細い叩き。内 面、ナデ・ハケ。	煤附着。

(復原値)

挿図 番号	図版 番号	遺構	調査区等	器種	器形	法量			色調			胎土	特徴	備考
21	72	ST3	ベッド内	弥生土器	甕	(16.3)	-	-	10YR7/4に ぶい黄橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR7/3にぶ い橙色	φ 5mm・ 少	外面、叩き後ハケ。内面、 やや粗いハケ。	煤付着。
22	73	ST3	ベッド内	弥生土器	甕	(16.8)	-	-	10YR8/3浅 黄橙色	10YR7/3に ぶい黄橙色	N2/0黒色	φ 5mm・ やや多/ 火山ガラ ス・ごく 少	外面、叩き。上半、叩き 後ハケ。内面、ナデ。上 半、ハケ。粘土帯接合痕 跡有り。	おこげ付着。
23	74	ST3	E6	弥生土器	甕	(14.4)	-	-	10YR7/4に ぶい黄橙色	10YR7/4に ぶい黄橙色	10YR8/3浅黄 橙色	φ 3mm・ 少	外面、叩き。下半、叩き 後ハケ。「口縁叩き出し」 内面、ナデ。粘土帯接合 痕跡有り。	
24	75	ST3	E6・F6	弥生土器	甕	(18.2)	-	-	10YR7/2に ぶい黄橙色	7.5YR8/4浅 黄橙色	10YR7/1灰白 色	φ 5mm・ 少	外面、叩き後ハケ。口縁 部・内面、ハケ。	
25	76	ST3	F7	弥生土器	甕	(19.6)	-	-	2.5Y7/1灰白 色	10YR8/2灰 白色	2.5Y7/1灰白 色	φ 4mm・ 少	外面、叩き後ナデ。口縁 部・内面、ナデ。	煤・おこげ付 着。
26	77	ST3	E7・8/F7/ E7・F7・8/ ST3-11 E7 No.4・8・9	弥生土器	甕	(15.4)	-	-	5YR5/4にぶ い赤褐色	7.5YR6/4に ぶい橙色	5YR7/3にぶ い橙色	φ 2mm・ ごく少	内外面、ハケ。	煤・おこげ付 着。
27	78	ST3	E7/F7/ E7・F7・8/ ST3-11 No.14	弥生土器	甕	-	-	-	7.5YR6/4に ぶい橙色	7.5YR5/4に ぶい褐色	7.5YR7/3にぶ い橙色	φ 6mm・ 少	外面、叩き。下半、叩き 後ハケ。内面、ナデ。	歪む。煤付着。 噴きこぼれ痕 跡有り。
28	79	ST3	D・E6	弥生土器	鉢	8.5	4.3	3.5	5YR7/6橙色	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙色	φ 2mm・ 少	外面、ナデ。内面、ハケ。	黒斑有り。ほ ぼ完形。歪む。
29	80	ST3	-	弥生土器	鉢	(8.0)	4.1	-	2.5Y7/2灰黄 色	2.5Y7/2灰黄 色	2.5Y7/2灰黄 色	φ 4mm・ ごく少	内外面ともナデ。	ミニチュア土 器か。
30	81	ST3	D7	弥生土器	鉢	(9.6)	5.2	2.6	5YR6/6橙色	10YR7/4に ぶい黄橙色	5Y7/8橙色	φ 4mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ナデ。平底。亀裂痕跡有 り。	ほぼ完形。
31	82	ST3	E7/E7・8/ F7・8	弥生土器	鉢	10.3	5.3	-	10YR7/3に ぶい黄橙色	10YR7/3に ぶい黄橙色	2.5Y5/1黄灰 色	φ 2mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ナデ。丸底。	黒斑有り。
32	83	ST3	ユカ No.103	弥生土器	鉢	(11.7)	6.8	-	5YR6/6橙色	7.5YR6/4に ぶい橙色	10YR4/1褐灰 色	φ 5mm・ やや多	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ・ナデ。丸底。	被熱変色。
33	84	ST3	No.32	弥生土器	鉢	(11.1)	6.0	-	7.5YR8/6浅 黄橙色	7.5YR8/6浅 黄橙色	7.5YR8/6浅黄 橙色	φ 5mm・ 多	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ。丸底。	
34	85	ST3	D7・E7	弥生土器	鉢	11.6	7.5	-	10YR7/4に ぶい黄橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR2/1黒色	φ 2mm・ ごく少	外面、叩き。上半、叩き 後ナデ。内面、ミガキ・ ハケ。丸底。	
35	86	ST3	E6・F6ユカ No.101・102	弥生土器	鉢	(12.6)	5.8	-	5YR7/6橙色	5YR7/6橙色	2.5Y7/1灰白 色	φ 4mm・ やや多	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ。丸底。	
36	87	ST3- ST11	土器集中	弥生土器	鉢	(12.4)	6.3	(3.4)	10YR7/2に ぶい黄橙色	10YR7/2に ぶい黄橙色	10YR7/1灰白 色	φ 3mm・ 少	外面、叩き後、ナデ。内 面、ハケ。平底。器壁、厚い。	黒斑有り。
37	88	ST3	E7・8	弥生土器	鉢	11.9	4.4	4.4	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR7/4にぶ い橙色	φ 2mm・ ごく少	外面、ナデ。内面、ミガ キ。	黒斑有り。
38	89	ST3	F7	弥生土器	鉢	13.0	5.6	2.5	7.5YR6/4に ぶい橙色	5YR7/4にぶ い橙色	7.5YR4/1褐灰 色	φ 5mm・ 少	外面、叩き。内面、ハケ。 丸底。	
39	90	ST3	E78/F78/ ST11ベッド 内ユカ	弥生土器	鉢	(14.4)	-	-	10YR7/4に ぶい黄橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR5/1褐灰 色	φ 1mm・ ごく少	外面、叩き後ナデ。内面、 ミガキ・ハケ。	
40	91	ST3	E6ユカ/ E6・F6	弥生土器	鉢	18.5	9.7	-	5YR7/4にぶ い橙色	5YR7/4にぶ い橙色	5YR7/4にぶ い橙色	φ 5mm・ 多	外面、ハケ後ミガキ。内 面、ハケ。丸底。	黒斑有り。
41	92	ST3	-	弥生土器	鉢	(18.8)	8.7	-	5YR6/4にぶ い橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR7/3にぶ い橙色	φ 3mm・ 少	外面、ナデ・ミガキ。底 部、ハケ。内面、ミガキ・ ナデ。丸底。	
42	93	ST3	D7	弥生土器	鉢	9.5	6.9	3.0	2.5Y8/2灰白 色	10YR7/4に ぶい黄橙色	5Y5/1灰色	φ 3mm・ 少	外面、叩き。内面、ナデ。 平底。内外面に粘土帯 接合痕跡有り。	
43	94	ST3	E7ベッド 内/E8	弥生土器	鉢	7.7	9.7	3.6	7.5YR8/4浅 黄橙色	10YR8/4浅 黄橙色	5Y6/1灰色	φ 2mm・ ごく少	内外面、ナデ。内面、粘 土帯接合痕跡有り。外 底面、葉脈痕跡有り。	
44	95	ST3	E7・F7・8/ F7・8	弥生土器	底部	-	-	3.9	10YR8/3浅 黄橙色	10YR8/3浅 黄橙色	10YR5/1褐灰 色	精良	外面、叩き。内面、ハケ。 平底。	煤付着。
45	96	ST3	D7・E7・E8	弥生土器	底部	-	-	2.8	10YR7/4に ぶい黄橙色	10YR3/1黒 褐色	10YR6/1褐灰 色	φ 3mm・ 少	外面、叩き後ハケ。内面、 ナデ。外底面、葉脈痕跡 有り。	
46	97	ST3	E6・F6/ E・F6ユカ No.115・119	弥生土器	底部	-	-	3.4	10YR7/4に ぶい黄橙色	10YR7/4に ぶい黄橙色	10YR7/3にぶ い黄橙色	φ 10mm・ やや多	外面、叩き。内面、ハケ。	不自然な割れ 方。
47	98	ST3	ベッド内	弥生土器	底部	-	-	3.0	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/4にぶ い橙色	φ 5mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ。丸底。	
48	99	ST3	E7/E7・8/ F7・8/ST11 ベッド内ユカ	弥生土器	高杯	-	-	(16.5)	7.5YR8/3浅 横橙色	7.5YR8/4浅 黄橙色	N4/0灰色	精良	外面、ミガキ・ハケ。内 面、ハケ。円孔。	
49	100	ST3	E6・E7ベッ ド内ユカ/ E7・F8ベッ ド	弥生土器	支脚	-	17.8	9.0	10YR7/4に ぶい黄橙色	10YR7/4に ぶい黄橙色	5Y7/2灰白色	φ 5mm・ 少	外面、叩き後ハケ。ナデ。 内面、ナデ・ハケ。中実。	煤付着。

(復原値)

挿図 番号	図版 番号	遺構	調査区等	器種	器形	法量			色調			胎土	特徴	備考
23	101	ST3	E6・F6	弥生土器	支脚				25Y7/2灰黄色	25Y7/2灰黄色	25Y7/2灰黄色	φ4mm・やや多	手捏ね成形。中実。	煤附着。
24	102	ST3-ST11	E7 No.2/ E7・F7・F8	弥生土器	壺	17.4	-	-	10YR6/2灰黄褐色	7.5YR7/6橙褐色	7.5YR7/4にぶい橙褐色	φ4mm・少	外面、叩き後ミガキ。口縁部、ナデ。内面、ナデ・ミガキ。粘土帯接合痕跡有り。	
〃	103	ST3-ST11	E7 No.5・6・10・12・24・28/E7・8/ F7・8	弥生土器	甕	(15.8)	-	-	10YR7/3にぶい黄褐色	10YR7/3にぶい黄褐色	10YR7/2にぶい黄褐色	φ4mm・少	外面、叩き。内面ハケ。粘土帯接合痕跡有り。	煤附着。
〃	104	ST3-ST11	E7 No.28～31	弥生土器	甕	13.0	-	-	10YR7/3にぶい黄褐色	10YR7/3にぶい黄褐色	10YR7/3にぶい黄褐色	φ2mm・少	外面、叩き。下半、叩き後ナデ。内面、ナデ。粘土帯接合痕跡有り。	煤附着。噴きこぼれ痕跡有り。
28	109	ST5	C7・8 No.1	弥生土器	鉢	9.3	4.7	-	5YR7/8橙褐色	5YR6/6橙褐色	-	φ3mm・少	内外面、磨耗。外面、叩きか。	
〃	110	ST5	C7	弥生土器	鉢	8.0	6.1	4.2	7.5YR6/6橙褐色	7.5YR6/6橙褐色	5Y5/1灰色	φ3mm・少	外面、叩き後ナデ。内面、ナデ・ハケ。平底。	ほぼ完形。黒斑有り。
〃	111	ST5	B7	弥生土器	鉢	(11.4)	6.2	(3.9)	7.5YR7/4にぶい橙褐色	7.5YR8/3浅黄褐色	7.5YR5/1褐灰色	φ4mm・やや多	外面、叩き後ナデ・ハケ。内面、ハケ。平底。	
〃	112	ST5	B8ベッド内	弥生土器	鉢	(11.8)	6.3	(1.8)	10YR6/3にぶい黄褐色	10YR6/3にぶい黄褐色	-	φ3mm・ごく少	外面、叩き後ナデ。内面、ハケ後ナデ。底部、丸みをおびた平底。	
〃	113	ST5	C7	弥生土器	鉢	(11.8)	7.6	-	10YR7/2にぶい黄褐色	7.5YR7/4にぶい橙褐色	5Y6/1灰色	φ3mm・少	外面、ハケ。内面、ハケ・ナデ。丸底。	
〃	114	ST5	C7・C8 No.8	弥生土器	鉢	(15.2)	-	-	10YR8/2灰白色	10YR8/3浅黄褐色	10YR6/1褐灰色	φ4mm・少	外面、叩き後ナデ。内面、ハケ。	違和感の有る土器。
〃	115	ST5	C8ベッド内	弥生土器	鉢	-	-	2.0	7.5YR7/4にぶい橙褐色	10YR6/4にぶい黄褐色	10YR7/2にぶい黄褐色	φ2mm・少	外面、叩き後、ナデ。内面、ナデ。底部、丸底。	黒斑有り。
30	118	ST6	D8 No.1/ D8・9・パンク	弥生土器	壺	(27.8)	-	-	5YR6/6橙褐色	5YR6/6橙褐色	5Y6/1灰色	φ3mm・少	外面、口縁部ハケ。体部、叩き後ハケ。内面、ハケ。	
〃	119	ST6	No.4/C8	弥生土器	甕	(11.2)	-	-	5YR6/8橙褐色	7.5YR6/3にぶい褐色	5YR6/8橙褐色	φ4mm・少	内面、ハケ・ナデ。外面、口縁部、叩き後ハケ。体部、叩き。	煤附着。
〃	120	ST6	D8・9	弥生土器	鉢	(9.6)	7.0	(2.6)	7.5YR7/4にぶい橙褐色	10YR7/4にぶい黄褐色	7.5YR7/4にぶい橙褐色	φ3mm・少	外面、叩き後ナデ。内面、ハケ。丸味をおびた平底。	
〃	121	ST6	No.6	弥生土器	鉢	(12.0)	5.3	(2.4)	5YR7/6橙褐色	7.5YR7/6橙褐色	2.5YR7/6橙褐色	φ5mm・少	外面、叩き後ナデ。内面、ハケ・ナデ。平底。	被熱か。
〃	122	ST6	C8・D8/ C9/D8 No.3	弥生土器	鉢	10.7	5.9	1.6	2.5Y8/4淡黄褐色	10YR8/6黄褐色	7.5G2/1緑黒色	φ5mm・やや多	外面、ナデ・叩き。内面、ハケ。丸味をおびた平底。	煤附着。
〃	123	ST6	C8/パンク/ C9ベッド内/ C8・9	弥生土器	鉢	12.8	8.2	1.8	7.5YR7/4にぶい橙褐色	10YR6/3にぶい黄褐色	7.5YR7/4にぶい橙褐色	φ2mm・少	外面、叩き。内面、ハケ。底部、丸みをおびた平底。	
〃	124	ST6	C9/D8・9	弥生土器	鉢	13.6	6.8	2.8	7.5YR6/6橙褐色	10YR6/4にぶい黄褐色	10YR7/4にぶい黄褐色	φ3mm・少	外面、叩き後ナデ。内面、ハケ・ナデ。	
〃	125	ST6	No.9	弥生土器	鉢	(15.0)	7.3	1.0	5YR6/8橙褐色	5YR7/8橙褐色	7.5YR8/8黄橙褐色	φ4mm・やや多	外面、叩き後、ナデ。内面、調整不明。丸底。	内外面、磨耗。
〃	126	ST6	ベッド内	弥生土器	鉢	(22.6)	-	-	7.5YR8/6浅黄褐色	7.5YR8/3浅黄褐色	10YR7/3にぶい黄褐色	φ3mm・少	外面、ハケ後ミガキ。内面、ハケ・ナデ。	
〃	127	ST6	No.11	弥生土器	鉢	(14.3)	7.3	-	7.5YR7/4にぶい橙褐色	7.5YR8/4浅黄褐色	7.5YR8/3浅黄褐色	φ4mm・少	外面、叩き後ハケ。内面、ハケ。丸底。	黒斑有り。
31	128	ST7	G5・6	弥生土器	鉢	11.7	5.8	2.4	5YR7/6橙褐色	5YR6/6橙褐色	5YR7/6橙褐色	φ4mm・少	外面、叩き後ナデ。内面、ナデ。平底。	黒斑有り。
〃	129	ST7	G6ベッド上 No.1	弥生土器	鉢	(12.0)	6.7	3.0	5YR6/8橙褐色	7.5YR6/6橙褐色	5YR6/8橙褐色	φ4mm・やや多	外面、叩き後ナデ。内面、ハケ・ナデ。丸味をおびた平底。	黒斑有り。
〃	130	ST7	G6ベッド上 No.1	弥生土器	鉢	(12.8)	6.7	-	5YR6/6橙褐色	7.5YR7/6橙褐色	-	φ2mm・ごく少	外面、叩き後ナデ。内面不明。丸底。	内外面、磨耗。
32	131	ST7	G1	弥生土器	甕	10.1	14.9	2.0	7.5YR7/6橙褐色	7.5YR7/4にぶい橙褐色	5Y5/1灰色	φ3mm・ごく少	外面、叩き後ハケ。内面、ハケ・ナデ。粘土帯接合痕跡有り。	黒斑有り。
〃	132	ST8	G1	弥生土器	鉢	(11.0)	7.8	-	10YR7/3にぶい黄褐色	10YR8/4浅黄褐色	10YR6/1褐灰色	φ5mm・少	外面、叩き後ナデ。内面、工具痕跡有り。丸底。	
〃	133	ST8	G1	弥生土器	鉢	(11.0)	8.9	-	10YR7/3にぶい黄褐色	10YR7/3にぶい黄褐色	10YR7/3にぶい黄褐色	φ3mm・少	外面、叩き後ナデ。内面、ハケ・ナデ。丸底。	黒斑有り。穿孔。
33	134	ST9	B0・1	弥生土器	鉢	(7.9)	9.9	3.1	10YR4/1褐灰色	10YR7/2にぶい黄褐色	10YR4/1褐灰色	φ2mm・少	外面、叩き後ナデ。内面、ナデ。平底。	
35	135	ST10	Z1	弥生土器	壺	-	-	-	7.5YR6/4にぶい橙褐色	7.5YR6/4にぶい橙褐色	2.5Y4/2暗灰黄色	φ2mm・ごく少	外面、ミガキ。内面、ハケ・ナデ。粘土帯接合痕跡有り。	
〃	136	ST10	Z1	弥生土器	甕	13.4	22.2	3.2	10YR8/4浅黄褐色	7.5YR8/4浅黄褐色	10YR8/4浅黄褐色	φ4mm・少	外面、叩き後ハケ。内面、ハケ・ナデ。粘土帯接合痕跡有り。	煤附着。
〃	137	ST10	Z1 No.7	弥生土器	甕	(13.6)	-	-	5YR7/8橙褐色	10YR6/4にぶい黄褐色	5Y6/1灰色	φ4mm・少	外面、叩き後ハケ。内面、ハケ。	煤附着。

(復原値)

挿図 番号	図版 番号	遺構	調査区等	器種	器形	法量			色調			胎土	特徴	備考	
35	138	ST10	Z0	弥生土器	甕	(13.6)	-	-	10YR7/4に ぶい黄橙色	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙 色	φ3mm・ 少	外面、叩き。内面、ハケ 後ナデ。	煤附着。	
36	139	ST10	Z1 No.5・8/ Z0	弥生土器	甕	(13.6)	-	-	7.5YR6/6橙 色	10YR6/4に ぶい黄橙色	5Y5/1灰色	φ5mm・ 少	外面、叩き後ハケ。「口 縁叩き出し」内面、ナデ。		
37	140	ST10	Z1	弥生土器	鉢	(7.4)	2.3	-	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙 色	5Y7/1灰白色	φ3mm・ 少	内外面、ナデ。	黒斑有り。	
38	141	ST10	Z1 No.22	弥生土器	鉢	9.8	5.9	1.7	10YR7/4に ぶい黄橙色	10YR7/4に ぶい黄橙色	10YR7/4にぶ い黄橙色	φ4mm・ やや多	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ。		
39	142	ST10	Z0/Z1 No.2・17	弥生土器	鉢	17.6	6.9	(4.8)	10YR7/4に ぶい黄橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR7/4にぶ い橙色	φ3mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ・ナデ。平底。	黒斑有り。	
40	143	ST10	Z10 No.26	弥生土器	鉢	12.2	9.1	1.9	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙 色	φ3mm・ ごく少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ。丸味をおびた平 底。		
41	144	ST10	Z0	弥生土器	鉢	(12.1)	6.3	-	7.5YR8/4浅 黄橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR7/4にぶ い橙色	φ2mm・ 少	外面、叩き後、ナデ。丸 底。内面、ハケ。		
42	145	ST10	Z1 No.21	弥生土器	鉢	20.0	9.2	3.9	5YR7/8橙 色	5YR7/8橙 色	5YR7/8橙 色	φ8mm・ 多	摩耗のため、調整不明。 平底。	黒斑有り。歪 む。	
43	146	ST11内 P1	-	弥生土器	鉢	6.6	4.6	2.7	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR7/3にぶ い橙色	φ2mm・ ごく少	内外面、ナデ。丸味をお びた平底。	ほぼ完形。	
44	148	ST12	No.4/C16	弥生土器	甕	15.7	24.9	3.0	2.5Y7/2灰黄 色	2.5Y7/2灰黄 色	2.5Y7/1灰白 色	φ3mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ナデ・ハケ。上げ底。	煤・おこげ付 着。	
45	149	ST12	B16 ベッド 内ユカ	弥生土器	甕	(13.0)	-	-	10YR5/1褐 灰色	10YR6/2灰 黄褐色	10YR6/1褐灰 色	φ4mm・ 少	外面、口縁部、粗いハケ。 体部、叩き。内面、ハケ・ ナデ。粘土帯接合痕跡 有り。	煤附着。	
46	150	ST12	B15/C14・ 15	弥生土器	甕	(13.7)	-	-	10YR7/3に ぶい黄橙色	10YR7/2に ぶい黄橙色	10YR5/1褐灰 色	φ5mm・ やや多	外面、叩き後、軽くナデ。 内面、ナデ。	煤附着。	
47	151	ST12	C12	弥生土器	鉢	12.8	5.0	-	10YR8/3浅 黄橙色	10YR8/3浅 黄橙色	10YR8/3浅黄 橙色	φ3mm・ 少	外面、叩き後ハケ・ナデ。 内面、ハケ。丸底。	黒斑有り。	
48	152	ST12	B15	弥生土器	鉢	11.6	6.4	2.9	10YR7/2に ぶい黄橙色	10YR7/3に ぶい黄橙色	10YR4/1褐灰 色	φ4mm・ 少	内外面、ナデ。平底。	歪む。	
49	153	ST12	B15 No.1	弥生土器	鉢	13.9	7.9	-	7.5YR6/6橙 色	7.5YR6/4に ぶい橙色	5Y5/1灰色	φ5mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ。丸底。	ほぼ完形。黒 斑有り。歪む。	
50	154	ST12	B16・C16	弥生土器	鉢	12.4	6.9	2.5	10YR7/4に ぶい黄橙色	10YR7/4に ぶい黄橙色	10YR7/4にぶ い黄橙色	φ2mm・ ごく少	外面、上半ハケ、下半叩 き。内面、ハケ。平底。	外底面、葉脈 痕跡有り。	
51	155	ST12	C16 No.6	弥生土器	鉢	16.8	6.8	4.5	10YR8/3浅 黄橙色	10YR7/3に ぶい黄橙色	10YR7/3にぶ い黄橙色	φ5mm・ やや多	内外面、ナデ。丸底。器 壁、厚い。	黒斑有り。	
52	156	ST12	B15 ユカ	弥生土器	鉢	(9.5)	-	-	10YR8/4浅 黄橙色	10YR8/4浅 黄橙色	10YR5/1褐灰 色	φ3mm・ 少	外面、ハケ・ナデ。内面、 ハケ。		
53	157	ST12	B15・16	土器	鉢	10.2	8.1	-	10YR8/4浅 黄橙色	10YR8/4浅 黄橙色	10YR8/2灰白 色	φ3mm・ ごく少	内外面、ハケ・ミガキ。		
54	158	ST12	C15	弥生土器	高杯	-	-	-	7.5YR8/4浅 黄橙色	7.5YR8/4浅 黄橙色	2.5Y1/6黄灰 色	φ1mm・ ごく少	内外面、ミガキ。	分割成形。	
55	159	ST12	No.5	弥生土器	支脚	5.5	3.8	(4.4)	5YR8/4淡橙 色	5YR7/8橙 色	2.5YR7/8橙 色	φ1mm・ ごく少	内外面、ナデ。		
56	42	165	ST13	-	弥生土器	壺	28.0	-	-	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙 色	5YR7/6橙 色	φ3mm・ 少	外面、ハケ。内面、ナデ。 口唇部、ハケ状原体に よる斜格子文。	
57	166	ST13	D・E16 ベッド内	弥生土器	壺	(13.6)	-	-	7.5YR6/6橙 色	10YR7/6に ぶい黄橙色	N2/0 黒色	φ2mm・ 少	内外面、ミガキ。		
58	167	ST13内 P4	E15	弥生土器	壺	(15.4)	-	-	10YR6/4に ぶい黄橙色	7.5YR6/4に ぶい橙色	10Y3/2オ リーブ黒色	φ2mm・ 少	内外面、磨耗。調整不明。		
59	168	ST13	-	土師器	小形丸 底壺	7.4	12.5	-	2.5Y5/2暗灰 黄色	7.5YR7/6橙 色	N4/0 灰色	φ3mm・ 少	外面、ミガキ。内面、口 縁部、ナデ後ミガキ。体 部、ナデ。		
60	169	ST13	E16 P2/ D15・16/ E15・16 ベッド内	弥生土器	壺	-	-	-	7.5YR6/4に ぶい橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	2.5Y5/1黄灰 色	φ3mm・ 少	外面、叩き後ハケ。内面、 ハケ・ナデ。外面、粘土 帯接合痕跡有り。	煤附着。	
61	170	ST13	-	弥生土器	鉢	(9.3)	3.0	-	10YR7/3に ぶい黄橙色	10YR7/4に ぶい黄橙色	10YR6/2灰黄 褐色	φ3mm・ 少	内外面、指頭圧痕。	黒斑有り。	
62	171	ST13	D・E15	弥生土器	鉢	(9.0)	4.5	3.4	7.5YR6/8橙 色	7.5YR7/6橙 色	7.5YR6/8橙 色	φ3mm・ やや多	内面、磨耗。調整不明。 外面、ナデ。平底。		
63	172	ST13	No.1	弥生土器	鉢	10.0	7.0	3.4	7.5YR8/8黄 橙色	7.5YR8/6浅 黄橙色	7.5YR7/6橙 色	φ2mm・ 少	外面、ナデ。内面、ハケ・ ナデ。丸味をおびた平 底。	ほぼ完形。黒 斑有り。	
64	173	ST13内 P1	F17	弥生土器	鉢	(15.6)	9.0	-	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙 色	7.5YR8/4浅黄 橙色	φ2mm・ 少	外面、叩き後ハケ・ナデ。 内面、ハケ。丸底。	黒斑有り。	
65	174	ST13	No.1	弥生土器	鉢	9.2	5.9	2.4	2.5YR8/3淡 黄色	10YR8/4浅 黄橙色	2.5YR4/1黄灰 色	φ3mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ・ナデ。丸味をお びた平底。	黒斑有り。	
66	175	ST13	E15	弥生土器	鉢	(13.0)	-	-	10YR8/3浅 黄橙色	10YR8/3浅 黄橙色	10YR8/3浅黄 橙色	φ3mm・ やや多	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ・ナデ。	黒斑有り。	
67	176	ST13	D15・16/ E15・16 ベッド内	弥生土器	鉢	(18.1)	-	-	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙 色	φ4mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ・ナデ。	煤附着。	

(復原値)

挿図 番号	図版 番号	遺構	調査区等	器種	器形	法量			色調			胎土	特徴	備考
						(13.2)	-	-	5YR7/6橙色	7.5YR6/6橙 色	5Y8/2灰白色			
45	181	ST14	B17	弥生 土器	壺	(13.2)	-	-	5YR7/6橙色	7.5YR6/6橙 色	5Y8/2灰白色	φ2mm・ 少	外面、ミガキ。内面、ナ デ。	
〃	182	ST14	B16/B17	土師 器	壺	-	-	-	5Y3/1オ リーブ黒色	10YR7/4に ぶい黄橙色	5Y6/1灰色	φ3mm・ 少	外面頸部、ミガキ。体部 上半、ハケ。下半、叩き 後ミガキ。丸底。内面、 ハケ。粘土帯接合痕跡 有り。	歪む。
〃	183	ST14	B17	弥生 土器	鉢	(8.4)	7.4	-	10YR7/3に ぶい黄橙色	10YR7/4に ぶい黄橙色	10YR7/3にぶ い黄橙色	φ4mm・ ごく少	外面、ハケ。内面、ハケ・ ナデ。丸底。	
〃	184	ST14	B17	弥生 土器	鉢	16.4	7.9	-	10YR8/2灰 白色	10YR8/3浅 黄橙色	2.5Y6/1黄灰 色	φ3mm・ ごく少	内外面、ナデ。丸底。	ほぼ完形。
〃	185	ST14	B17	弥生 土器	鉢	-	-	1.8	10YR8/3浅 黄橙色	10YR8/4浅 黄橙色	10YR8/4浅黄 橙色	φ5mm・ 少	外面、ナデ。内面、ミガ キ。丸みをおびた平底。	
47	187	ST15	A12/A12・ 13/A・ B12・13/ B12	弥生 土器	甕	(13.8)	29.5	2.0	2.5Y6/2灰黄 色	10YR7/3に ぶい黄橙色	N2/0黒色	φ4mm・ やや多	外面、叩き後ハケ。内面、 ハケ・ナデ。丸底。	煤附着。
〃	188	ST15	B12	弥生 土器	鉢	12.3	7.4	-	5YR7/6橙色	5YR8/4淡橙 色	5YR6/6橙色	φ3mm・ やや多	内外面、ナデ。丸底。	
〃	189	ST15	B12	弥生 土器	鉢	12.8	7.2	-	7.5YR8/6浅 黄褐色	7.5YR8/8黄 褐色	10YR8/4浅黄 褐色	φ3mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ・ナデ。丸底。	煤附着。歪む。
〃	190	ST15	B12 P2/ A12・13	弥生 土器	鉢	15.7	6.5	3.4	10YR6/3に ぶい黄橙色	10YR7/3に ぶい黄褐色	10YR6/2灰黄 褐色	φ3mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ・ナデ。平底。	煤附着。
〃	191	ST15	B12	弥生 土器	鉢	6.9	6.2	(3.3)	5YR7/6橙色	7.5YR8/6浅 黄褐色	5YR8/3淡橙 色	精良	内外面、ナデ。	
〃	192	ST15	B12	ミニ チュア	-	5.5	4.1	1.4	7.5YR8/4浅 黄褐色	7.5YR8/6浅 黄褐色	7.5YR8/4浅黄 褐色	精良	内外面、ナデ。	
〃	193	ST15	B12 ユカ	ミニ チュア	-	5.2	3.0	1.7	7.5YR6/6橙 色	5YR5/6明赤 褐色	5YR5/6明赤 褐色	φ3mm・ 少	内外面、ナデ。	
〃	194	ST15	A12 20cm～ユカ	ミニ チュア	-	(6.0)	4.9	(3.6)	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR6/4に ぶい橙色	7.5YR7/4にぶ い橙色	精良	内外面、ナデ。外面、工 具痕有り。	黒斑有り。
〃	195	ST15	B12 No.1	弥生 土器	鉢	7.1	5.0	2.0	10YR8/2灰 白色	10YR4/1褐 灰色	10YR8/2灰白 色	φ2mm・ ごく少	内外面、ナデ。	黒斑有り。歪 む。
〃	196	ST15	A12 20cm～ユカ	弥生 土器	脚付き 鉢	-	-	(5.8)	10YR6/2灰 黄褐色	10YR4/1褐 灰色	10YR7/3にぶ い黄褐色	φ3mm・ 少	内面、ハケ・ナデ。外面、 ナデ。	煤附着。
49	198	ST16	F11ベッ ド内ユカ/ F11	弥生 土器	大形壺	13.4	45.5	-	10YR8/2灰 白色	2.5Y8/3淡黄 色	N2/0黒色	φ3mm・ 多	内面、ハケ。外面、口縁 部、貼り付け突帯。	底部外面、黒 斑有り。煤付 着。
〃	199	ST16	F11ベッ ド内ユカ/ F11・12ユ カ	弥生 土器	甕	(14.4)	21.8	(2.8)	10YR6/3に ぶい黄褐色	7.5YR6/3に ぶい褐色	10YR7/3にぶ い黄褐色	φ7mm・ 少	外面、叩き。内面、ナデ。 丸みをおびた平底。	歪む。
〃	200	ST16	-	弥生 土器	甕	(15.3)	-	-	10YR7/1灰 白色	10YR8/2灰 白色	10YR7/2にぶ い黄褐色	φ2mm・ ごく少	外面、叩き。内面、ナデ。	煤附着。
〃	201	ST16	F11・12 ベッド内ユ カ	弥生 土器	甕	(14.8)	-	-	10YR6/4に ぶい黄褐色	10YR3/1黒 褐色	10YR7/3にぶ い黄褐色	φ3mm・ ごく少	外面、口縁部、叩き後ハ ケ。体部、叩き。内面、ハ ケ・ナデ。	煤附着。
50	202	ST16	F11ベッ ド内ユカ/ F11・12ベッ ド内ユカ	弥生 土器	大形壺				10YR6/3に ぶい黄褐色	2.5Y7/2灰黄 色	7.5Y6/1灰色	φ5mm・ 少	頸部内面、ヨコナデ。外 面、ミガキ。叩き後粗い ハケ。	全体に歪む。
51	203	ST16	-	弥生 土器	鉢	(15.2)	6.4	-	5YR7/8橙色	5YR7/8橙色	2.5Y7/4にぶ い橙色	φ4mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ後ミガキ。丸底。	煤附着。
〃	204	ST16	E・F12・13	弥生 土器	鉢	(16.6)	7.8	-	10YR8/3浅 黄褐色	10YR8/3浅 黄褐色	10YR8/3浅黄 褐色	φ4mm・ 少	外面、ミガキ。内面、ハ ケ後ミガキ。丸底。	
〃	205	ST16	F11ベッ ド内ユカ/ F11・12ベッ ド内ユカ	弥生 土器	鉢	(18.6)	8.6	-	10YR8/2灰 白色	10YR8/2灰 白色	10YR7/1灰白 色	φ2mm・ ごく少	内外面、ハケ後ミガキ。 丸底。	煤附着。
〃	206	ST16	-	弥生 土器	鉢	(18.0)	-	-	10YR7/6橙 色	5YR7/6橙色	10YR7/6褐色	φ5mm・ ごく少	外面、ハケ後ミガキ。内 面、ハケ・ナデ。	
〃	207	ST16	F11 ユカ	土師 器	鉢	14.6	8.7	-	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/4にぶ い橙色	φ1mm・ 少	外面、ハケ後、ミガキ。 内面、口縁部ハケ。体部、 ミガキナデ。丸底。	煤附着。黒斑 有り。
〃	208	ST16	-	弥生 土器	高杯	-	-	-	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	10YR7/4にぶ い黄褐色	精良	内面、裾部、ミガキ。脚 はナデ。絞り目有り。外 面、ミガキ。脚部、穿孔 有り。	
51	209	ST16	F11 ユカ	弥生 土器	甕	(15.8)	14.5	-	10YR7/3に ぶい黄褐色	10YR8/3浅 黄褐色	10YR6/2灰黄 褐色	φ3mm・ 少	外面、叩き。内面、ハケ・ ナデ。底部、穿孔有り。	
53	213	ST18	-	弥生 土器	壺	(18.3)	-	-	10YR8/4浅 黄褐色	10YR8/6黄 褐色	10YR3/1黒褐 色	φ4mm・ 少	外面、ハケ・ナデ。内面、 ハケ。口唇部、櫛描波状 文。	

(復原値)

挿図 番号	図版 番号	遺構	調査区等	器種	器形	法量			色調			胎土	特徴	備考
53	214	ST18	D20/ベッド内	弥生土器	壺	-	-	-	10Y2/1黒色	5YR7/6橙色	25Y5/1黄灰色	φ3mm・少	外面、叩き後ハケ。内面、ハケ・ナデ。粘土帯接合痕跡有り。	煤付着。
〃	215	ST18	C・D19	土師器	小形丸底壺	-	-	-	7.5YR8/8黄橙色	7.5YR8/6浅黄橙色	5YR4/4暗オリーブ	φ4mm・少	内面、ナデ。外面、ミガキ。	
〃	216	ST18	-	弥生土器	鉢	(10.4)	7.6	3.2	10YR8/4浅黄色	10YR8/4浅黄色	10YR8/4浅黄色	φ4mm・少	外面、叩き後ナデ。内面、ハケ。丸みをおびた平底。	
55	217	ST19	E22	土師器	壺	-	-	-	2.5Y5/1灰白色	10YR7/4にぶい黄橙色	2.5Y5/1灰白色	φ6mm・少	外面、ハケ後ミガキ。内面、ハケ。粘土帯接合痕跡有り。	
〃	218	ST19	-	弥生土器	甕	(13.8)	27.2	3.4	7.5YR7/6橙色	7.5YR6/6橙色	2.5Y7/2灰黄色	φ4mm・少	外面、叩き後ハケ。内面、ハケ・ナデ。平底。	煤・おこげ付着。
〃	219	ST19	ベッド内/E22/E23	弥生土器	甕	(15.7)	21.6	(3.0)	N5/0灰色	10YR7/2にぶい黄橙色	10YR7/1灰白色	φ3mm・少	外面、叩き後ハケ。内面、ハケ・ナデ。丸みをおびた平底。	煤・おこげ付着。
〃	220	ST19	-	弥生土器	鉢	(11.4)	6.5	3.0	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR5/1褐灰色	φ5mm・少	外面、ナデ。内面、ハケ。丸みをおびた平底。	黒斑有り。
〃	221	ST19	サブトレ/E・F22	弥生土器	鉢	(31.2)	-	-	2.5Y7/2灰黄色	2.5Y8/3淡黄色	2.5Y8/2灰白色	φ5mm・やや多	内面、ハケ。外面、口縁部、ヨコナデ。体部、叩き。	
〃	222	ST19	E22ベッド内ユカ/E・F21 SX5	弥生土器	甕	-	-	3.2	7.5YR7/6橙色	10YR7/3にぶい黄橙色	2.5Y6/1黄灰色	φ2mm・少	外面、叩き。内面、ハケ。平底。	内面、水銀朱付着。煤付着。
〃	223	ST19	-	土師器	高杯	-	-	(14.3)	7.5YR7/6橙色	7.5YR7/6橙色	10Y5/1灰色	φ3mm・ごく少	外面、ミガキ。内面、ナデ。脚部、穿孔有り。	
〃	224	ST19	E22/E23	弥生土器	高杯	(13.6)	-	-	2.5Y8/2灰白色	2.5Y8/2灰白色	2.5Y8/2灰白色	φ3mm・少	内外面、磨耗。調整不明。	
〃	225	ST19	ベッド内ユカ	土製品	紡錘車	全長5.1	全幅2.7	全厚0.8	5YR7/6橙色	5YR7/6橙色	5YR7/6橙色	精良	内外面、ナデ。	重量13.9g
56	227	ST20	C21	ミニチュア	-	(7.0)	-	-	7.5YR7/4にぶい橙色	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色	φ2mm・ごく少	内面、ナデ。外面、ハケ。	
〃	228	ST20	C20	弥生土器	鉢	(12.0)	7.5	-	5YR7/6橙色	5YR6/6橙色	5YR6/6橙色	φ3mm・少	外面、磨耗。調整不明。内面、ハケ。丸底。	
〃	229	ST20	C21	弥生土器	壺	-	-	4.8	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色	2.5Y6/1黄灰色	φ2mm・少	外面、叩き後ナデ。内面、ハケ。底部、丸みをおびた平底。	黒斑有り。
〃	230	ST20	B21・22/C22	ミニチュア	-	4.5	2.0	-	5YR6/6橙色	5YR7/8橙色	5YR7/6橙色	φ2mm・ごく少	内外面、ナデ。	ほぼ完形。
57	231	ST21	ユカ	弥生土器	壺	(11.6)	-	-	7.5YR6/4にぶい橙色	7.5YR6/3にぶい褐色	7.5YR6/2灰褐色	φ3mm・少	内外面、ナデ。	
〃	232	ST21	ユカ	弥生土器	底部	-	-	(7.0)	N4/0灰色	10YR7/4にぶい黄橙色	2.5Y6/1黄灰色	φ3mm・ごく少	外面、叩き後ナデ。内面、ナデ。平底。ナデ。	黒斑有り。
〃	233	ST21	ユカ	弥生土器	鉢	10.7	4.6	2.7	10YR8/4浅黄色	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR4/1褐灰色	φ6mm・少	外面、叩き後ナデ。内面、ナデ。底部、丸みをおびた平底。	
58	234	ST22	ユカ	弥生土器	底部	-	-	4.6	10YR6/2灰黄褐色	10YR5/1褐灰色	N5/0灰色	φ3mm・少	外面、叩き後ハケ。内面、ナデ。平底。	煤・おこげ付着。
〃	235	ST22	ユカ	弥生土器	高杯	-	-	-	10YR6/3にぶい黄橙色	10YR5/2灰黄褐色	10YR5/1褐灰色	φ4mm・少	外面、ハケ後ナデ。内面、ハケ。	
60	237	ST23	I36ベッド内	弥生土器	壺	(15.2)	-	-	7.5YR6/6橙色	7.5YR7/6橙色	7.5YR8/6浅黄橙色	φ9mm・少	外面、叩き・ハケ。内面、ハケ。	
〃	238	ST23	H36ベッド内/ベッド内ユカ	土師器	壺	(7.0)	-	-	7.5YR7/6橙色	7.5YR7/4にぶい橙色	2.5Y7/1灰白色	φ4mm・やや多	外面、ミガキ。内面口縁部、ナデ。体部、ハケ。	
〃	239	ST23	H36ベッド内ユカ	弥生土器	壺	-	(24.4)	5.0	2.5Y2/1黒色	10YR7/4にぶい黄橙色	N5/0灰色	φ3mm・少	外面、ハケ。下半、ハケ後、ミガキ。内面、ハケ・ナデ。丸みをおびた平底。	
〃	240	ST23	H35・36ベッド内/I35ベッド内/H35ベッド内ユカ	弥生土器	壺	(21.5)	-	-	7.5YR7/6橙色	7.5YR7/6橙色	7.5YR7/4にぶい橙色	φ4mm・少	内外面、ハケ。頸部、貼り付け突帯文。斜格子文。	
〃	241	ST23	H35・36ベッド内	弥生土器	甕	(13.6)	-	-	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR6/3にぶい黄橙色	5Y6/1灰色	φ5mm・やや多	外面、叩き後ハケ。内面、ハケ。	煤付着。
〃	242	ST23	H36ベッド内ユカ	弥生土器	甕	(14.8)	23.2	3.1	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR6/2灰黄褐色	10YR7/3にぶい黄橙色	φ10mm・少	外面、叩き後ハケ。内面、ハケ。平底。	煤・おこげ付着。
〃	243	ST23	H36ベッド内	弥生土器	鉢	(8.1)	6.1	3.1	5YR7/6橙色	5YR6/4にぶい橙色	5YR7/6橙色	φ2mm・少	内外面、ナデ。平底。	
〃	244	ST23	H36ユカ	弥生土器	鉢	(9.8)	5.8	(3.0)	10YR6/3にぶい黄橙色	7.5YR6/4にぶい橙色	5Y6/1灰色	φ2mm・やや多	外面、ナデ。内面、ハケ・ナデ。外面、ナデ。外底部、葉脈痕有り。	
〃	245	ST23	I36	弥生土器	鉢	(8.8)	8.0	(1.2)	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR6/3にぶい黄橙色	10YR6/4にぶい黄橙色	φ2mm・少	外面、叩き後ハケ。内面、ハケ・ナデ。平底。	黒斑有り。

(復原値)

挿図 番号	図版 番号	遺構	調査区等	器種	器形	法量			色調			胎土	特徴	備考
						(9.5)	8.2	(2.4)	2.5YR6/6橙 色	7.5YR7/4に ぶい橙色	5YR6/6橙色			
60	246	ST23	H36	弥生 土器	鉢	(9.5)	8.2	(2.4)	2.5YR6/6橙 色	7.5YR7/4に ぶい橙色	5YR6/6橙色	φ 3mm・ 少	内外面、磨耗。外面、叩 き後ナデ。内面、ハケ。 平底。	
〃	247	ST23	H35 ベッド 内/H35・36 ベッド内	弥生 土器	鉢	(18.3)	7.0	-	10YR7/4に ぶい黄橙色	10YR7/3に ぶい黄橙色	10YR7/3にぶ い黄橙色	φ 3mm・ 少	外面、叩き後ハケ・ナデ。 内面、ハケ。丸底。	
〃	248	ST23- 中央P	I36	弥生 土器	鉢	15.4	7.0	-	5YR6/6橙色	5YR7/6橙色	5YR6/6橙色	φ 3mm・ ごく少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ。丸底。	
〃	249	ST23	No.1 ユカ	弥生 土器	支脚	-	(8.6)	8.6	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙 色	5Y6/1灰色	φ 3mm・ 少	外面、ナデ。内面、ナデ。 絞り目有り。	煤付着。
63	251	ST24	K38 ベッ ド内/J38・ K38・39	弥生 土器	壺	(18.6)	-	-	10YR8/4浅 黄色	7.5YR7/4に ぶい橙色	N2/ 黒色	φ 3mm・ 少	内外面、ハケ。口唇部、 櫛描波状文。	
〃	252	ST24	J38・K38 ベッド内	弥生 土器	複合口 縁壺	-	-	-	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR5/1褐灰 色	φ 2mm・ ごく少	内外面、ナデ。擬口縁。 櫛描波状文。	
〃	253	ST24	J・K38ベッ ド内/J・ K38ベッ ド内ユカ/J38 ベッド直上	弥生 土器	壺	-	-	3.7	N4/0灰色	2.5Y7/3浅黄 色	N5/0灰色	φ 5mm・ 少	外面、上半、叩き後ナデ。 一部、ミガキ状。内面、 ケズリ・ナデ。ほぼ丸底。	黒斑有り。
〃	254	ST24	K37	弥生 土器	鉢	(11.2)	5.4	(1.5)	10YR8/3浅 黄橙色	7.5YR7/6橙 色	7.5YR8/6浅黄 橙色	φ 4mm・ やや多	外面、ナデ・ハケ。内面、 ナデ。丸底。	
〃	255	ST24	J38・K38・ 39/J・K38 ベッド内/ J・K38ベッ ド内ユカ	弥生 土器	鉢	(14.6)	8.2	(2.6)	5YR6/6橙色	2.5YR6/6橙 色	5Y4/1灰白色	φ 2mm・ 少	外面、叩き後ハケ。内面、 ハケ。平底。	黒斑有り。
〃	256	ST24	J37・38 ベッド内/ K38	弥生 土器	底部	-	-	3.0	10YR5/4に ぶい黄褐色	10YR6/4に ぶい黄褐色	5Y4/1灰色	φ 3mm・ 少	外面、叩き後ハケ。内面、 ナデ。平底。	煤・おこげ付 着。
64	258	ST25	I 34	弥生 土器	鉢	(19.6)	7.5	2.0	7.5YR8/4浅 黄橙色	7.5YR8/6浅 黄橙色	N4/0灰色	φ 4mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ後ナデ。丸底。	黒斑有り。
65	259	ST26	J34 No.4/ J34	弥生 土器	複合口 縁壺	(16.5)	-	-	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙 色	5Y5/1灰色	φ 2mm・ 少	内外面、ナデ。	
〃	260	ST26	J34	弥生 土器	大形壺	-	-	-	2.5Y4/1黄灰 色	7.5YR7/6橙 色	5Y6/1灰色	φ 5mm・ 少	内面、ハケ。底付近は、 ナデ。	
66	261	ST26	J34	弥生 土器	甕	12.5	20.6	4.0	10YR7/4に ぶい黄橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR7/4にぶ い橙色	φ 4mm・ やや多	外面、叩き後ハケ。内面、 ハケ・ナデ。丸みをおび た平底。	煤付着。
〃	262	ST26	J34	弥生 土器	甕	13.4	-	-	10YR7/3に ぶい黄橙色	10YR7/3に ぶい黄橙色	7.5Y2/1黒色	φ 2mm・ 少	外面、叩き後ハケ。「口 縁叩き出し」内面、ハケ・ ナデ。	煤付着。
〃	263	ST26	-	弥生 土器	甕	(14.4)	20.7	2.8	7.5YR6/4に ぶい橙色	10YR6/4に ぶい黄褐色	2.5Y4/1黄灰 色	φ 5mm・ やや多	外面、叩き後ハケ。内面、 ハケ。丸みをおびた平 底。	
〃	264	ST26	No.2	弥生 土器	甕	15.0	21.5	3.5	10YR6/4に ぶい黄橙色	10YR6/3に ぶい黄褐色	10YR6/3にぶ い黄褐色	φ 4mm・ 少	外面、叩き後ハケ。内面、 ハケ・ナデ。丸みをおび た平底。	煤付着。
〃	265	ST26	J34	弥生 土器	甕	(14.9)	25.7	3.4	7.5YR6/4に ぶい橙色	10YR4/2灰 黄褐色	5Y4/1灰色	φ 3mm・ 少	外面、叩き後ハケ。内面、 ナデ。丸みをおびた平 底。	煤付着。噴き こぼれ痕跡有 り。
〃	266	ST26	J34 No.1	弥生 土器	甕	(15.1)	-	-	10YR8/4浅 黄橙色	10YR8/4浅 黄褐色	10YR2/1黒色	φ 3mm・ 少	外面、叩き後ハケ。内面、 ハケ・ナデ。	
〃	267	ST26	J34 ユカ	弥生 土器	甕	(13.6)	-	-	2.5Y5/2暗灰 黄色	7.5YR5/4に ぶい褐色	5YR7/4にぶ い橙色	φ 5mm・ 少	外面、叩き後ハケ。「口 縁叩き出し」。内面、ハ ケ・ナデ。	
67	268	ST26内 SK1	J34	弥生 土器	鉢	9.9	6.8	1.8	2.5Y8/2灰白 色	10YR8/2灰 白色	10YR8/2灰白 色	精良	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ。	黒斑有り。
〃	269	ST26	J34	弥生 土器	鉢	12.7	7.4	-	5YR6/2灰褐 色	5YR7/6橙色	5Y4/1灰色	φ 2mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ。丸底。	
〃	270	ST26	J34 No.3	弥生 土器	鉢	15.0	8.6	-	5YR6/6橙色	5YR6/8橙色	5YR6/6橙色	φ 3mm・ やや多	外面、叩き。内面、摩耗、 調整不明。丸底。	ほぼ完形。
〃	271	ST26	-	弥生 土器	鉢	(15.6)	-	-	10YR6/3に ぶい黄褐色	7.5YR6/4に ぶい橙色	10YR4/1褐灰 色	φ 3mm・ 少	外面、叩き後ハケ。内面、 ハケ。	胎土形態が、 違和感有り。
〃	272	ST26	J34	弥生 土器	体部	-	-	-	7.5YR6/4に ぶい橙色	10YR6/4に ぶい黄褐色	7.5YR4/1褐灰 色	φ 3mm・ 少	外面、叩き後ハケ。内面、 ハケ・ナデ。	煤付着。
〃	273	ST26	J34	弥生 土器	底部	-	-	1.8	2.5Y8/3浅黄 色	10YR8/3浅 黄褐色	2.5Y3/1黒褐 色	φ 2mm・ ごく少	外面、叩き。内面、ハケ・ ナデ。平底。	煤付着。
69	275	SK74	H・I30 ユカ	弥生 土器	壺	10.8	15.9	2.0	2.5Y8/2灰白 色	10YR8/3浅 黄褐色	5Y5/1灰色	φ 4mm・ 少	外面、ハケ後ミガキ。内 面、ハケ・ナデ。底部、穿 孔。	
〃	276	SK74	H29 ユカ	弥生 土器	甕	(13.0)	-	-	10YR6/1褐 灰色	5Y2/1黒色	N5/0灰色	φ 4mm・ 少	外面、体部、叩き後ハケ。 「口縁叩き出し」内面、 ハケ・ナデ。粘土帯接合 痕跡有り。	煤付着。
〃	277	SK74	H29	弥生 土器	鉢	(10.2)	7.1	(3.3)	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/4に ぶい橙色	10YR7/3にぶ い黄褐色	φ 3mm・ 少	外面、叩き。内面、ナデ。 平底。	

(復原図)

挿図 番号	図版 番号	遺構	調査区等	器種	器形	法量			色調			胎土	特徴	備考
69	278	SK74	-	弥生土器	鉢	(16.3)	7.8	-	7.5YR7/6橙 色	5YR7/6橙 色	7.5YR7/4にぶ い橙 色	φ4mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ。丸底。	
〃	279	SK74	H・I30 ユカ	弥生土器	鉢	(17.3)	7.3	(1.5)	5YR6/8橙 色	7.5YR7/8黄 橙 色	-	φ4mm・ 多	外面、叩き後ナデ。内面、 磨耗。ハケ目有り。丸底。	
〃	280	SK74	-	弥生土器	支脚				2.5Y2/1黒 色	7.5YR6/6橙 色	N3/0暗灰 色	φ4mm・ 少	ナデ。中空。	煤付着。
〃	281	SK74	H28/H29 ユカ	弥生土器	支脚				7.5YR6/6橙 色	7.5YR6/6橙 色	-	φ3mm・ 少	ナデ。脚外面、叩き。脚 内面、ナデ。絞り目有り。 中空。	煤付着。
71	283	SK75	H29ベッド 上/ベッド 内	弥生土器	小形甕	(9.4)	14.6	-	5YR7/8橙 色	5YR6/6橙 色	10YR7/4にぶ い黄橙 色	φ3mm・ 少	外面、口縁部、ハケ。体 部、叩き後ナデ。内面、 ハケ。丸底。	黒斑有り。
〃	284	SK75	-	弥生土器	甕	(11.8)	-	-	10YR7/2に ぶい橙 色	10YR7/3に ぶい橙 色	2.5Y7/1灰白 色	φ5mm・ やや多	外面「口縁叩き出し」体 部、叩き。内面、ハケ。	煤付着。
〃	285	SK75	H28 ベッド 内ユカ	弥生土器	鉢	10.4	7.5	1.5	7.5YR8/6浅 黄橙 色	10YR8/6黄 橙 色	7.5YR5/1褐灰 色	φ3mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ。丸みをおびた平 底。	黒斑有り。
〃	286	SK75	H28・29	弥生土器	鉢	(11.6)	6.7	-	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙 色	φ3mm・ やや多	外面、叩き。内面、ナデ。 丸底。	
〃	287	SK75	-	弥生土器	鉢	13.3	7.25	2.5	7.5YR8/4浅 黄橙 色	7.5YR7/4に ぶい橙 色	7.5YR7/4にぶ い橙 色	φ3mm・ 少	外面、叩き後ナデ。ハケ。 内面、ハケ。丸みをおび た平底。	ほぼ完形。煤 付着。
〃	288	SK75	-	弥生土器	鉢	(15.0)	9.7	(4.1)	5YR6/8橙 色	5YR6/6橙 色	5YR6/8橙 色	φ7mm・ 少	外面、叩き後ハケ。内面、 ハケ。丸みをおびた平 底。	
73	292	SK1	D9	弥生土器	底部	-	-	2.0	7.5YR6/6橙 色	5YR7/3にぶ い橙 色	2.5Y6/1黄灰 色	φ3mm・ 少	外面、ハケ。内面、ナデ。 丸底。	
〃	293	SK2	G4 No.1	弥生土器	鉢	13.5	4.6	1.1	7.5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙 色	7.5YR6/8橙 色	φ4mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ナデ。丸みをおびた平 底。	
74	294	SK4	E4	弥生土器	甕	(15.0)	-	-	10YR6/2灰 黄褐 色	10YR7/3に ぶい黄橙 色	2.5Y5/1黄灰 色	φ5mm・ 少	外面、叩き後、軽いナデ。 内面、ハケ・ナデ。粘土 帯接合痕跡有り。	煤付着。
〃	295	SK5	F3	弥生土器	鉢	20.4	7.7	2.8	10YR8/4浅 黄橙 色	10YR8/4浅 黄橙 色	10YR3/1黒褐 色	φ5mm・ 少	外面、叩き後ハケ。内面、 ナデ。丸みをおびた平 底。	黒斑有り。
75	296	SK8	G2	弥生土器	鉢	(18.6)	9.3	-	5YR7/6橙 色	7.5YR7/6橙 色	7.5YR8/3浅黄 橙 色	φ4mm・ やや多	外面、叩き後ミガキ・ハ ケ。内面、ハケ後ミガキ。 丸底。	
77	297	SK11	C5	弥生土器	鉢	16.8	7.5	-	10YR7/4に ぶい黄橙 色	10YR7/4に ぶい黄橙 色	2.5Y3/1黒褐 色	φ4mm・ 少	外面、叩き後ナデ。ハケ。 内面、ハケ。丸底。	
78	298	SK36	A15	弥生土器	鉢	(12.6)	6.0	2.7	7.5YR6/4に ぶい橙 色	7.5YR6/4に ぶい橙 色	7.5YR7/4にぶ い橙 色	φ3mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ナデ。丸みをおびた平 底。	煤付着。
81	301	SK37	A15	弥生土器	壺	21.0	33.3	4.5	7.5Y4/1灰 色	10YR5/3に ぶい黄褐 色	10YR4/1褐灰 色	φ3mm・ 少	外面、叩き後ハケ。内面、 ナデ。丸底。	
〃	302	SK37	No.5	弥生土器	壺	-	-	-	2.5Y5/2暗灰 黄 色	5YR6/6橙 色	7.5YR5/3にぶ い褐 色	φ3mm・ 少	外面、ハケ後ミガキ。内 面、ハケ後ナデ。丸底。	歪む。
82	303	SK37	A1	弥生土器	壺	-	-	-	7.5YR7/6橙 色	10YR7/4に ぶい黄橙 色	5Y7/1灰白 色	φ1mm・ ごく少	内外面、ハケ。口唇部、 櫛描波状文。	
〃	304	SK37	A16 ユカ No.2	弥生土器	壺	(17.6)	-	-	10YR8/4浅 黄橙 色	5YR6/6橙 色	5Y4/1灰 色	φ4mm・ 少	外面、ミガキ。口唇部、 櫛描波状文。	
〃	305	SK37	A15	弥生土器	壺	(14.6)	-	-	2.5Y6/2灰黄 色	7.5YR7/4に ぶい橙 色	10YR7/2にぶ い黄橙 色	φ3mm・ 少	外面、口縁部、叩き後ナ デ。体部、叩き後ハケ。 内面、ハケ・ナデ。	
〃	306	SK37	A15	弥生土器	複合口 縁壺	(12.6)	-	-	10YR7/3に ぶい黄橙 色	7.5YR6/4に ぶい橙 色	5Y6/2灰オ リーブ	φ5mm・ 多	外面、叩き後ナデ。内面、 ナデ。	
〃	307	SK37	No.2	弥生土器	壺	(27.5)	-	-	10YR6/3に ぶい黄橙 色	10YR7/6明 黄褐 色	10YR7/1灰白 色	φ7mm・ 少	口縁部、ハケ。外面、叩 き。内面、ハケ後ナデ。	煤付着。黒斑 有り。
〃	308	SK37	A16 ユカ	弥生土器	壺	-	-	-	7.5YR8/6浅 黄橙 色	5YR7/8橙 色	5Y6/1灰 色	φ4mm・ 少	外面、叩き。内面、ハケ・ ナデ。	
83	309	SK37	A16	弥生土器	甕	(9.2)	10.2	(3.4)	10YR6/3に ぶい黄橙 色	10YR6/4に ぶい黄橙 色	10YR7/4にぶ い黄橙 色	φ4mm・ 少	外面、叩き。内面、口縁 部、ハケ。体部、ハケ後 ナデ。不安定な平底。	黒斑有り。
〃	310	SK37	A16 ユカ No.2	弥生土器	甕	10.0	13.4	2.2	10YR7/3に ぶい黄橙 色	10YR6/3に ぶい黄橙 色	10YR7/4にぶ い黄橙 色	φ5mm・ 少	外面、叩き後ハケ。内面、 ハケ目・ナデ。丸底。	煤付着。黒斑 有り。焼成時 破裂痕跡有 り。
83	311	SK37	A16 No.12	弥生土器	甕	10.2	12.4	-	5YR7/6橙 色	7.5YR7/4に ぶい橙 色	5YR7/6橙 色	精良	内面口縁部、ハケ。体部 ナデ。外面、口縁部から 上半、磨耗。下半ハケ。 丸底。	黒斑有り。
〃	312	SK37	A16 No.1	弥生土器	甕	(13.2)	21.1	2.6	7.5YR7/4に ぶい橙 色	7.5YR7/4に ぶい橙 色	5Y6/1灰 色	φ5mm・ 少	外面、叩き後ナデ。「口 縁叩き出し」内面、ナデ。 丸みをおびた平底。	黒斑有り。焼 成時破裂痕 跡有り。
〃	313	SK37	A16 No.2・ 3	弥生土器	甕	15.3	-	-	10YR6/4に ぶい黄橙 色	10YR7/4に ぶい黄橙 色	10YR7/4にぶ い黄橙 色	φ4mm・ 少	外面、叩き後ナデ。「口 縁叩き出し」内面、ナデ。	煤付着。

(復原値)

挿図 番号	図版 番号	遺構	調査区等	器種	器形	法量			色調			胎土	特徴	備考
83	314	SK37	A15	弥生 土器	甕	(11.8)	-	-	75YR6/4に ぶい橙色	75YR6/6橙 色	5Y6/1灰色	φ3mm・ 少	外面、叩き後ナデ。「口 縁叩き出し」内面、ハケ 後ナデ。	
〃	315	SK37	A15	弥生 土器	甕	(14.0)	-	-	10YR6/3に ぶい黄橙色	10YR7/4に ぶい黄橙色	5Y5/1灰色	φ3mm・ やや多	外面、叩き。内面、ハケ・ ナデ。	
〃	316	SK37	A15	弥生 土器	甕	16.0	-	-	75YR7/6橙 色	5YR6/6橙色	75Y6/1灰色	φ2mm・ 少	外面、叩き。「口縁部叩 き出し」内面、ハケ。	焼成時破裂痕 跡有り。
〃	317	SK37	No.8	弥生 土器	甕	-	-	3.8	10YR6/1褐 灰色	75YR7/6橙 色	10YR6/3にぶ い黄橙色	φ3mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ナデ。粘土帯接合痕跡有 り。丸みをおびた平底。	
84	318	SK37	No.1	ミニ チュア	-	4.4	6.8	0.7	75YR6/2灰 褐色	10YR6/2灰 黄褐色	10YR6/4にぶ い黄橙色	φ4mm・ ごく少	内外面、ナデ。	ほぼ完形。黒 斑有り。
〃	319	SK37	A15	ミニ チュア	-	4.3	6.6	1.5	75YR8/6浅 黄橙色	75YR8/6浅 黄橙色	75YR8/6浅黄 橙色	φ4mm・ ごく少	外面、叩き。上半、ナデ。 内面、ナデ。	ほぼ完形。
〃	320	SK37	A16 No.4	弥生 土器	鉢	7.9	6.9	-	5YR6/4にぶ い橙色	5YR6/4にぶ い橙色	75YR7/4にぶ い橙色	φ2mm・ ごく少	内外面、ナデ。丸底。	ほぼ完形。黒 斑有り。
〃	321	SK37	A15	弥生 土器	鉢	8.0	4.2	-	10YR7/4に ぶい黄橙色	75YR8/4浅 黄橙色	10YR7/3にぶ い黄橙色	φ5mm・ ごく少	内外面、ナデ。	
〃	322	SK37	A16 ヌカ	弥生 土器	鉢	10.3	6.6	3.7	75YR7/3に ぶい橙色	75YR7/4に ぶい橙色	75YR7/4にぶ い橙色	φ3mm・ ごく少	外面、叩き。内面、ハケ。	煤付着。歪む。
〃	323	SK37	A15/A16	弥生 土器	鉢	(10.5)	7.4	1.6	25Y6/1黄灰 色	10YR7/4に ぶい黄褐色	75YR6/4にぶ い橙色	φ2mm・ ごく少	外面、叩き後ナデ。内面、 ナデ。	煤付着。黒斑 有り。
〃	324	SK37	A15	弥生 土器	鉢	11.8	6.2	2.6	75YR6/6橙 色	75YR6/4に ぶい橙色	75YR6/4にぶ い橙色	φ3mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ。平底。	
〃	325	SK37	A16 No.11	弥生 土器	鉢	(11.8)	6.7	(2.5)	5YR6/8褐色	75YR6/8橙 色	75YR7/6褐色	φ3mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ・ナデ。平底。	
〃	326	SK37	A16 No.5	弥生 土器	鉢	12.2	6.25	1.5	75YR7/4に ぶい橙色	75YR6/3に ぶい褐色	75YR7/4にぶ い橙色	φ4mm・ 少	外面、ナデ。ハケ。内面、 ナデ。丸底。	
〃	327	SK37	A16 ヌカ	弥生 土器	鉢	(13.4)	7.1	(1.8)	75YR5/4に ぶい褐色	10YR7/4に ぶい黄褐色	5YR6/6褐色	φ6mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ・ナデ。丸底。	煤付着。黒斑 有り。焼成時 破裂痕跡有 り。
〃	328	SK37	A15	弥生 土器	鉢	(13.5)	8.0	(2.4)	10YR6/4に ぶい黄褐色	10YR7/6明 黄褐色	10YR5/1褐灰 色	φ4mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ。丸みをおびた平 底。	
〃	329	SK37	A16	弥生 土器	鉢	(12.4)	5.7	(2.8)	10YR7/3に ぶい黄褐色	10YR7/3に ぶい黄褐色	10YR6/3にぶ い黄褐色	φ3mm・ 少	外面、ミガキ・ハケ。内 面、ナデ。わずかに上げ 底。	黒斑有り。
〃	330	SK37	A16 No.6	弥生 土器	鉢	13.5	6.9	3.7	5YR7/6褐色	5YR7/6褐色	5YR7/6褐色	φ3mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ。平底。	煤付着。
〃	331	SK37	A15	弥生 土器	鉢	(14.5)	6.1	(1.0)	10YR7/4に ぶい黄褐色	75YR7/6橙 色	5Y4/1灰色	φ3mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ナデ。丸底。	黒斑有り。焼 成時破裂痕 跡有り。
〃	332	SK37	A15	弥生 土器	鉢	(18.0)	6.4	-	75YR7/4に ぶい橙色	75YR7/4に ぶい橙色	10YR8/3浅黄 褐色	φ2mm・ ごく少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ後ナデ。	
〃	333	SK37	A15 No.4	弥生 土器	鉢	(17.8)	9.8	(3.6)	75YR7/3に ぶい橙色	75YR7/4に ぶい橙色	75YR8/3浅黄 褐色	φ2mm・ 多	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ・ナデ。	
〃	334	SK37	No.3	弥生 土器	鉢	17.2	7.9	1.8	5YR6/4にぶ い橙色	5YR6/6褐色	5YR7/6褐色	φ5mm・ 少	外面、叩き後ナデ。内面、 ハケ後ナデ。丸底。	煤付着。
〃	335	SK37	A15	弥生 土器	鉢	(18.3)	7.45	4.0	75YR7/4に ぶい橙色	75YR7/4に ぶい橙色	5Y5/1灰色	φ4mm・ やや多	外面、叩き後ナデ。内面 ハケ。丸みをおびた平 底。	
〃	336	SK37	A15	土製 品	不明	1.5	1.1	0.2	-	10YR7/3に ぶい黄褐色	10YR8/3浅黄 褐色	精良	筒状。両端、欠損。穿孔 有り。	
86	337	SK39	E11	弥生 土器	鉢	(15.3)	8.5	5.6	75YR8/4浅 黄褐色	75YR8/6浅 黄褐色	10YR5/2オ リーブ灰色	φ3mm・ 少	外面、下半、強いナデ。 上半、ハケ。内面、ナデ。 底部、凸状。	製作途中か。
87	338	SK46・ SD25	E13・14	弥生 土器	-	-	-	4.0	10YR6/2灰 黄褐色	10YR7/3に ぶい黄褐色	10YR5/1褐灰 色	φ4mm・ 少	内面、ハケ、ミガキ、ナ デ。外面、基本的に、叩 き後、ミガキか。底部、 平底。	被熱変色。
〃	339	SK46	F14	弥生 土器	甕	14.5	20.3	1.9	10YR7/3に ぶい黄褐色	10YR7/4に ぶい黄褐色	10YR2/1黒色	φ4mm・ やや多	外面、口縁部、叩き後ハ ケ。内面、ハケ・ナデ。丸 みをおびた平底。	煤付着。
87	340	SK46/ SK46・ SD25	-	弥生 土器	甕	(11.4)	-	-	75YR7/4に ぶい橙色	10YR7/4に ぶい黄褐色	5Y4/1灰色	φ2mm・ やや多	外面、叩き。「口縁叩き 出し」内面、ナデ・ハケ。	
〃	341	SK46	-	弥生 土器	甕	(14.0)	-	-	10YR7/4に ぶい黄褐色	75YR7/4に ぶい橙色	10YR4/1褐灰 色	φ4mm・ やや多	外面、叩き後ハケ。内面、 ハケ・ナデ。	煤付着。
〃	342	SK46	F14	弥生 土器	甕	14.8	-	-	10YR7/3に ぶい黄褐色	10YR6/3に ぶい黄褐色	2.5Y5/1黄灰 色	φ4mm・ やや多	外面、叩き後ハケ。内面、 ハケ。粘土帯接合痕跡 有り。	346と同一個 体。
88	343	SK46・ SD25	-	弥生 土器	甕	-	-	3.5	10YR7/3に ぶい黄褐色	10YR7/4に ぶい黄褐色	10YR3/1黒褐 色	φ5mm・ やや多	外面、叩き後ハケ。内面、 ナデ・ハケ。粘土帯接合 痕跡有り。丸みをおび た平底。	黒斑有り。

(復原値)

挿図 番号	図版 番号	遺構	調査区等	器種	器形	法量			色調			胎土	特徴	備考
88	344	SK46	F14	弥生土器	甕	-	-	2.2	10YR5/1 褐灰色	10YR7/3に ぶい黄橙色	10YR5/1 褐灰色	φ 3mm・少	外面、叩き後ハケ。内面、ハケ・ナデ。平底。	煤付着。
〃	345	SK46	-	弥生土器	甕	-	-	3.8	10Y3/1 オリーブ黒色	10YR6/3に ぶい黄橙色	10Y3/1 オリーブ黒色	φ 8mm・やや多	外面、叩き後ハケ。内面、ハケ・ナデ。丸みをおびた平底。	
〃	346	SK46	F14	弥生土器	甕	-	-	3.2	10YR7/3に ぶい黄橙色	2.5Y6/2 灰黄色	5Y4/1 灰色	φ 4mm・やや多	外面、叩き後ハケ。内面、ナデ・ハケ。平底。	煤付着。342と同一個体。
〃	347	SK46	F14	弥生土器	鉢	(19.0)	9.2	2.9	7.5YR7/4に ぶい橙色	10YR8/4 浅黄橙色	5Y4/1 灰色	φ 3mm・やや多	外面、叩き後ハケ・ナデ。内面、ハケ。丸みをおびた平底。	
〃	348	SK46	No.1	弥生土器	甌	14.0	16.0	1.7	7.5YR6/6 橙色	10YR7/3に ぶい黄橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	φ 4mm・多	外面、叩き後ハケ。内面、ハケ・ナデ。底部、焼成前穿孔有り。	
89	349	SK47	No.7	弥生土器	甕	14.2	25.0	2.1	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	10YR2/1 黒色	φ 4mm・多	外面、叩き後ハケ。内面、ハケ・ナデ。丸みをおびた平底。	煤付着。被熱変色。
〃	350	SK47	A13 No.3	弥生土器	鉢	(7.6)	8.2	-	10YR7/4に ぶい黄橙色	10YR6/4に ぶい黄橙色	2.5Y3/1 黒褐色	φ 4mm・やや多	外面、ミガキ・ハケ。内面、ナデ。丸底。	
〃	351	SK47	A13	弥生土器	鉢	11.8	7.1	1.4	2.5Y8/4 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y2/1 黒色	φ 3mm・やや多	外面、叩き後ナデ。内面、ハケ。丸みをおびた平底。	煤付着。
〃	352	SK47	A13 No.4	弥生土器	鉢	17.9	9.1	1.3	2.5YR6/4に ぶい橙色	2.5YR6/4に ぶい橙色	2.5YR2/1 赤黒色	φ 7mm・やや多	外面、摩耗。調整不明。内面、ミガキ。丸底。	
90	353	SK49	B13	弥生土器	鉢	8.9	2.4	1.7	7.5YR6/6 橙色	10YR6/4に ぶい黄橙色	10YR6/4に ぶい黄橙色	φ 4mm・ごく少	内外面、ナデ。	黒斑有り。
92	354	SK72	-	弥生土器	壺	(13.5)	-	-	5YR7/8 橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	5Y6/1 灰色	φ 5mm・少	内外面、ハケ。	355と同一個体の可能性有り。
〃	355	SK72	-	弥生土器	壺	14.8	40.1	7.2	2.5Y5/2 暗灰黄色	7.5YR6/4に ぶい橙色	10Y4/1 灰色	φ 12mm・やや多	内面、ハケ・ナデ。粘土帯接合痕跡明瞭。外面、ナデ・叩き後ハケ。平底。	黒斑有り。354と同一個体の可能性有り。
93	356	SK78	B19	弥生土器	鉢	(6.8)	7.7	1.6	7.5YR7/6 橙色	5YR6/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	φ 4mm・やや多	内面、ナデ。外面、叩き後ハケ。丸みをおびた平底。	黒斑有り。
95	357	SD13	A4	弥生土器	壺	11.7	-	-	7.5YR6/4に ぶい橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	φ 2mm・少	内外面、ハケ。	煤付着。
96	358	SD16	Z0	弥生土器	複合口縁壺	(14.4)	-	-	5YR7/6 橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	5Y5/1 灰色	φ 4mm・少	内外面、ハケ・ナデ。外面、櫛描波状文。	
〃	359	SD16	Z0	弥生土器	甕	(17.4)	21.6	(2.6)	2.5Y7/4 浅黄色	10YR7/6 明黄褐色	10YR4/1 褐灰色	φ 4mm・少	外面、口縁部、叩き後ハケ。内面、ハケ。丸みをおびた平底。	煤付着。
〃	360	SD16	Z0	弥生土器	鉢	14.0	7.2	2.4	10YR7/4に ぶい黄橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	5Y4/1 灰色	φ 3mm・少	外面、叩き後ナデ。内面、ハケ。丸みをおびた平底。	黒斑有り。
〃	361	SD18	B18	弥生土器	甕	(16.2)	-	-	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	φ 1mm・少	内外面、ナデ。	讃岐からの搬入品の可能性有り。
98	362	SD49	J35 No.10	弥生土器	壺	(24.4)	-	-	7.5YR6/4に ぶい橙色	7.5YR7/6 橙色	5Y6/1 灰色	φ 3mm・やや多	外面、ミガキ。内面、ナデ。	
〃	363	SD49	I35・J35	弥生土器	壺	(33.1)	-	-	7.5YR8/6 浅黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	5Y4/1 灰色	φ 3mm・多	内外面、磨耗。調整不明。	
〃	364	SD49	J35 No.12	弥生土器	壺	-	-	(12.8)	7.5YR7/4に ぶい橙色	10YR6/4に ぶい黄橙色	2.5Y7/4 浅黄色	φ 2mm・少	内外面、ナデ。	
〃	365	SD49	J・K35	弥生土器	壺	-	-	(8.4)	7.5YR6/6 橙色	10YR6/4に ぶい黄橙色	7.5YR6/6 橙色	φ 3mm・少	外面、ミガキ。内面、ナデ。	黒斑有り。
〃	366	SD49	J・K35/ J35/J35 No.11	弥生土器	甕	(20.3)	24.8	8.1	10YR7/4に ぶい黄橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	10YR7/4に ぶい黄橙色	φ 3mm・やや多	内外面とも、ナデ。口唇部、全面刻目。	
〃	367	SD49	J35 No.29	弥生土器	甕	(19.4)	-	-	10YR6/4に ぶい黄橙色	10YR6/4に ぶい黄橙色	10YR6/4に ぶい黄橙色	φ 3mm・やや多	内外面、ナデ。口唇部、下端に刻目。	煤付着。
〃	368	SD49	J35 No.28	弥生土器	甕	(18.4)	-	-	7.5YR7/4に ぶい橙色	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/3に ぶい黄橙色	φ 2mm・少	内外面、ナデ。口唇部、下端に刻目。	
98	369	SD49	J・K35	弥生土器	甕	(18.8)	-	-	7.5YR6/6 橙色	10YR6/3に ぶい黄橙色	7.5YR7/4に ぶい橙色	φ 3mm・多	内面、ナデ。外面、ハケ。口唇部、全面刻目。	煤付着。
99	370	SD49	I35 No.17/ J35	弥生土器	甕	(25.1)	-	-	7.5YR7/6 橙色	10YR7/6 明黄褐色	10YR7/6 明黄褐色	φ 2mm・多	内外面、ナデ。口唇部、全面から下端に刻目。段部、刻目。	
〃	371	SD49	J35/J・K35	弥生土器	甕	23.0	(28.0)	5.5	10YR6/4に ぶい黄橙色	10YR6/4に ぶい黄橙色	10YR6/4に ぶい黄橙色	φ 4mm・やや多	口唇部下端、刻目。段部、刻目。外面、ハケ。内面、ナデ。	黒斑有り。
〃	372	SD49	I35 No.15	弥生土器	甕	(29.5)	-	-	10YR6/4に ぶい黄橙色	10YR6/4に ぶい黄橙色	10YR5/1 褐灰色	φ 2mm・少	内外面、ナデ。外面、口唇部上・下端に刻目。段部に刻目。	
100	373	SD49	J35	弥生土器	甕	(27.1)	-	-	10YR6/3に ぶい黄橙色	10YR7/4に ぶい黄橙色	10YR5/1 褐灰色	φ 3mm・やや多	内面、ナデ。外面、磨耗。口唇部下端に刻目。	
〃	374	SD49	J35	弥生土器	甕	(27.0)	-	-	5Y5/1 灰色	2.5Y6/2 灰黄色	5Y5/1 灰色	φ 3mm・やや多	外面、ハケ。内面、ナデ。口唇部、全面刻目。	

(復原值)

挿図 番号	図版 番号	遺構	調査区等	器種	器形	法量			色調			胎土	特徴	備考
100	375	SD49	J・K35	弥生土器	甕	-	-	(7.2)	N4/0 灰色	10YR6/3に ぶい黄橙色	5Y5/1 灰色	φ 2mm・ 多	内外面、ナデ。	煤付着。
〃	376	SD49	J35 No.2/ I 35・J35	弥生土器	甕	-	-	9.4	10YR8/4 浅 黄橙色	10YR8/4 浅 黄橙色	10YR4/1 褐灰 色	φ 3mm・ 多	内外面、磨耗。調整不明。	
〃	377	SD49	J35	弥生土器	鉢	(19.5)	14.8	(7.1)	10YR6/2 灰 黄褐色	10YR5/2 灰 黄褐色	10YR5/1 褐灰 色	φ 3mm・ やや多	内外面、ミガキか。	煤付着。
〃	378	SD49	J35 No.3～ 6	弥生土器	高杯	23.0	-	-	10YR6/4に ぶい黄橙色	7.5YR6/4に ぶい橙色	2.5Y7/3 浅黄 色	φ 7mm・ 多	内外面、ミガキ。口縁部 内面、段部。脚部、刻目 突帯。	黒斑有り。
102	380	SD52	G35 No.2	弥生	大形壺	-	-	(16.0)	7.5YR6/4に ぶい橙色	7.5YR6/6 橙 色	2.5Y6/2 灰黄 色	φ 3mm・ 多	内面、ナデ。外面、磨耗、 ナデか。	
103	381	V層	M42	須恵器	甕	(9.9)	-	-	2.5Y5/1 黄灰 色	2.5Y6/1 黄灰 色	2.5Y6/1 黄灰 色	φ 1mm・ ごく少	内外面、ヨコナデ。口縁 部、波状文。	
〃	382	V層	L42	須恵器	甕	(15.7)	-	-	N7/0 灰白色	N7/0 灰白色	N6/0 灰色	φ 2mm・ ごく少	内外面、ヨコナデ。やや 磨耗。	
〃	383	V層	L42	須恵器	甕	(17.4)	-	-	7.5Y6/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	5RP6/1 紫灰 色	φ 1mm・ ごく少	内外面、ヨコナデ。	
〃	384	V層	K42	須恵器	甕	-	-	-	N7/0 灰白色	N7/0 灰白色	N7/0 灰白色	φ 1mm・ ごく少	内外面、ヨコナデ。外面、 波状文。	
〃	385	V層	M42	須恵器	甕	(15.2)	-	-	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	5R6/1 赤灰色	φ 1mm・ 少	内外面、ヨコナデ。	
〃	386	V層	M42	須恵器	体部	-	-	-	N6/0 灰色	7.5Y6/1 灰色	N6/0 灰色	φ 1mm・ 少	内面、ナデ。外面、格子 目状の叩き。	
〃	387	V層	K42	須恵器	壺か 甕?	-	-	-	7.5Y5/1 灰色	7.5Y5/1 灰色	5R5/1 赤灰色	φ 1mm・ ごく少	内外面、ナデ。	
〃	388	VI層	M43	土師器	高杯	-	-	(11.6)	5YR7/6 橙色	5YR7/6 橙色	7.5Y6/1 灰色	φ 2mm・ 少	内外面、磨耗。調整不明。	分割成形。
104	389	攪乱	Ⅲ E 区	磁器	杯	6.9	2.9	2.7	8/0 灰白色	8/0 灰白色	N8/0 灰白色	精良	全面に施釉。内面に日 本国の国旗等を描く。	

挿図 番号	図版 番号	遺構	調査区等	器種	法量 (cm・g)				石材	特徴	備考
					全長	全幅	全厚	重量			
2	8	-	TP17	勾玉	3.8	1.6	0.6	8.3	滑石	頭部、穿孔。両面、三日月状の線刻。	試掘調査。
14	45	ST1-P1	C3 No.14	砥石	11.1	8.7	3.3	410.0	流紋岩	四面とも使用。	
〃	46	ST1	-	擦り石	19.8	7.4	5.7	1370.0	砂岩	両端に使用痕跡。ベンガラが付着。	
15	47	ST1	-	砥石	18.7	15.6	5.7	2450.0	緑色片岩	深い線状の使用痕跡あり。	
〃	48	ST1	B2 ベッド内 No.7	砥石	39.0	12.2	11.0	7000.0	砂岩	全面に使用痕跡。	
18	61	ST2	No.12	擦り石	12.4	8.9	7.7	1220.0	砂岩	両端に使用痕跡。水銀朱が付着。	
25	106	ST3	D7・8	叩き石	14.0	5.8	5.4	660.0	砂岩	先端部に敲打痕跡。	
〃	107	ST3	E7・8	擦り石	9.4	4.7	2.8	187.4	砂岩	先端部は使用により平滑となる。	
〃	108	ST3	E6 ユカ	砥石	15.2	12.5	2.6	880.0	砂岩	三面、使用。	
28	116	ST5	-	台石	33.5	28.5	9.8	16000.0	砂岩	使用により平滑になる部分有り。	
〃	117	ST5	C7・8	擦り石	10.6	8.1	6.5	780.0	砂岩	両端、使用により平滑となる。	
36	147	ST11	No.34	砥石	21.0	10.7	3.0	1140.0	砂岩	三面、使用。中央部に断面凹状の使用痕跡有り。	
40	161	ST12	No.3	砥石	10.8	7.8	5.8	760.0	流紋岩	四面とも使用。	
〃	162	ST12	C16	叩き石	15.9	9.4	7.4	1690.0	砂岩	両端に使用痕跡。ベンガラが付着。	
〃	163	ST12	C16	叩き石	12.2	6.8	2.5	325.0	砂岩	両面、先端部の一方に使用痕跡。	
〃	164	ST12	C16	擦り石	13.8	8.3	5.6	940.0	砂岩	一端を使用。	
44	179	ST13	No.2	叩き石	14.3	9.5	5.5	1100.0	砂岩	両端にわずかな使用痕跡。	被熱痕跡。
〃	180	ST13	No.3	焼石	26.6	12.3	8.3	3600.0	砂岩	自然石?	被熱痕跡。
45	186	ST14	No.2	石臼	34.9	29.5	8.4	12000.0	砂岩	中央部は使用により大きく凹む。	
47	197	ST15	A13	台石	30.0	24.2	7.6	8000.0	砂岩	特に使用痕跡なし。	
51	211	ST16	F1	叩き石	11.1	6.3	3.8	428.0	砂岩	先端部、中央部に敲打痕跡。	
〃	212	ST16	F11	打製石包丁	7.7	5.2	1.0	56.9	頁岩	両面とも主要剥離面を残す。両端に抉り。片刃。	
55	226	ST19	D22	叩き石	12.2	5.1	4.9	401.6	砂岩	先端部に使用痕跡。水銀朱付着。	
58	236	ST22	-	台石	39.7	33.3	12.4	24000.0	砂岩	特に使用痕跡なし。	
63	257	ST24	J37・38	砥石か	13.8	13.1	4.6	1240.0	砂岩	砥石として使用した明瞭な痕跡なし。	被熱痕跡。
69	282	SK74	-	打製石包丁	9.8	4.8	1.3	77.6	砂岩	自然面、主要剥離面を残す。両端に抉り。片刃。	
72	289	SK75	ユカ	砥石	8.8	3.4	2.3	115.3	砂岩	四面とも使用。	
〃	290	SK75	H28 No.1 ベッド内	台石か	30.6	21.7	15.8	16800.0	砂岩	敲打により、自然面が剥離している部分有り。	
〃	291	SK75	-	砥石	33.0	19.7	8.2	8500.0	砂岩	砥石として使用。	
78	299	SK36	ユカ	砥石	11.8	10.0	2.4	378.0	砂岩	大部分が欠損。	
〃	300	SK36	-	台石	25.7	28.0	10.6	13600.0	礫岩	特に使用痕跡なし。	
101	379	SD49	J35 ユカ	磨製石鏃	3.7	1.0	0.3	1.5	頁岩	先端部と基部は欠損。両面とも鏝有り。	

(復原値)

挿図 番号	図版 番号	遺構	調査区等	器形	法量 (cm・g)				特徴	備考
					残存長	全幅	全厚	重量		
14	44	ST1-中央P	-	鉄鏝	4.0	0.7	0.3	2.5	茎部。	
25	105	ST3-ST11	-	鉄鏝	6.1	2.3	0.2	7.9	柳葉形。鏝身は左右非対称。	
39	160	ST12	ベッド内	鉄鏝	4.8	1.2	0.5	3.4	柳葉形。鏝身は左右非対称。	
43	177	ST13	D・E15	鉄鏝	7.2	0.8	0.2	5.2	先端部、欠損。柳葉形か。	
ク	178	ST13	ユカ	鉄鏝	3.2	0.6	0.3	1.2	茎部。	
51	210	ST16	G11	鉄鏝	5.0	0.5	0.5	3.1	茎部。	
61	250	ST23	H35・36 ベッド内	鉄鏝	5.9	1.6	0.9	4.7	柳葉形。鏝身は左右非対称。	
67	274	ST26	J34	鉄鏝	4.9	1.3	0.5	4.4	圭頭形。木質が付着。	

付 編

付編1. 介良野遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

辻 康男・田中義文・馬場健司・松元美由紀・高橋 敦

はじめに

介良野遺跡は、物部川流域の氾濫原上に位置する(図1・2)。今回の自然科学分析では、調査区やその周辺の環境変遷と人間活動の関わりについて検討するための基礎的情報の獲得を目的として、花粉・植物珪酸体分析、出土木材(微細遺物分析で検出された炭化材を含む)の樹種同定、住居跡を埋積する堆積物の洗い出しによる微細遺物分析および放射性炭素年代測定を実施する。さらに、今回の自然科学分析では、遺跡断面の記載とその解釈に基づく、遺跡形成過程の考察についても、大きな目的の一つとされた。そのため、本分析に係わる委託業務では、上記した分析業務とともに現地調査を発掘調査の進捗に併せて実施し、調査区内に累重する堆積層や遺構埋土の記載に努めた。

1. 試料

試料採取層準を図3に示す。現地調査は、述べ日数において2日間実施し、調査区に累重する堆積層の記載と分析試料の採取を行った。

花粉・植物珪酸体分析では、図3に示す土壌試料7点(試料番号1~7)の分析を実施した。このうち花粉分析は、2、4、5、6、7の5点、植物珪酸体分析は、1~5の5点を分析する。放射性炭素年代測定は、V区において試料採取を行った。年代試料は、V-4地点から採取した放棄流路中心部最下層にみられる植物遺体(C14-1)、V-4地点の試料番号6に相当する放棄流路内の腐植(C14-2)、V-4地点の試料番号4に相当する放棄流路内の腐植(C14-3)、放棄流路の基盤をなす砂泥層~砂礫層に相当する層準であるV-1地点で採取された木片(14C-4)の4点である。

微細物分析用試料は、I区のST1床直上中央ピット周辺堆積物、I区のST1中央ピット内焼土、I区のST11埋土、III区のST18埋土、III区のSK75埋土の5点である。

樹種同定用試料は、試料番号5相当から検出された木片1点と遺構埋土から検出された炭化材3点(I区ST1床直上中央ピット周辺堆積物、I区ST1中央ピット内焼土、II区SK37埋土)である。このうち、I区ST1床直上中央ピット周辺堆積物には、比較的大きな炭化材片が複数認められたため2片を選択して同定する。また、微細物分析を実施した試料についても、炭化材が出土したため同定を実施する。いずれも複数片であるが、I区のST11床直上は炭化材が3片のみ認められ、全点同定する。III区のST18、III区のSK75、I区(B3-C3)のST1中央ピット焼土は、1cm角以下の炭化材が多数あり、それぞれ5点を選択して同定する。したがって、合計の点数は、生木1点、炭化材22点となる。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

試料にHCを加え炭酸塩等酸可溶成分を除去、次にNaOHを加え腐植酸等アルカリ可溶成分を除

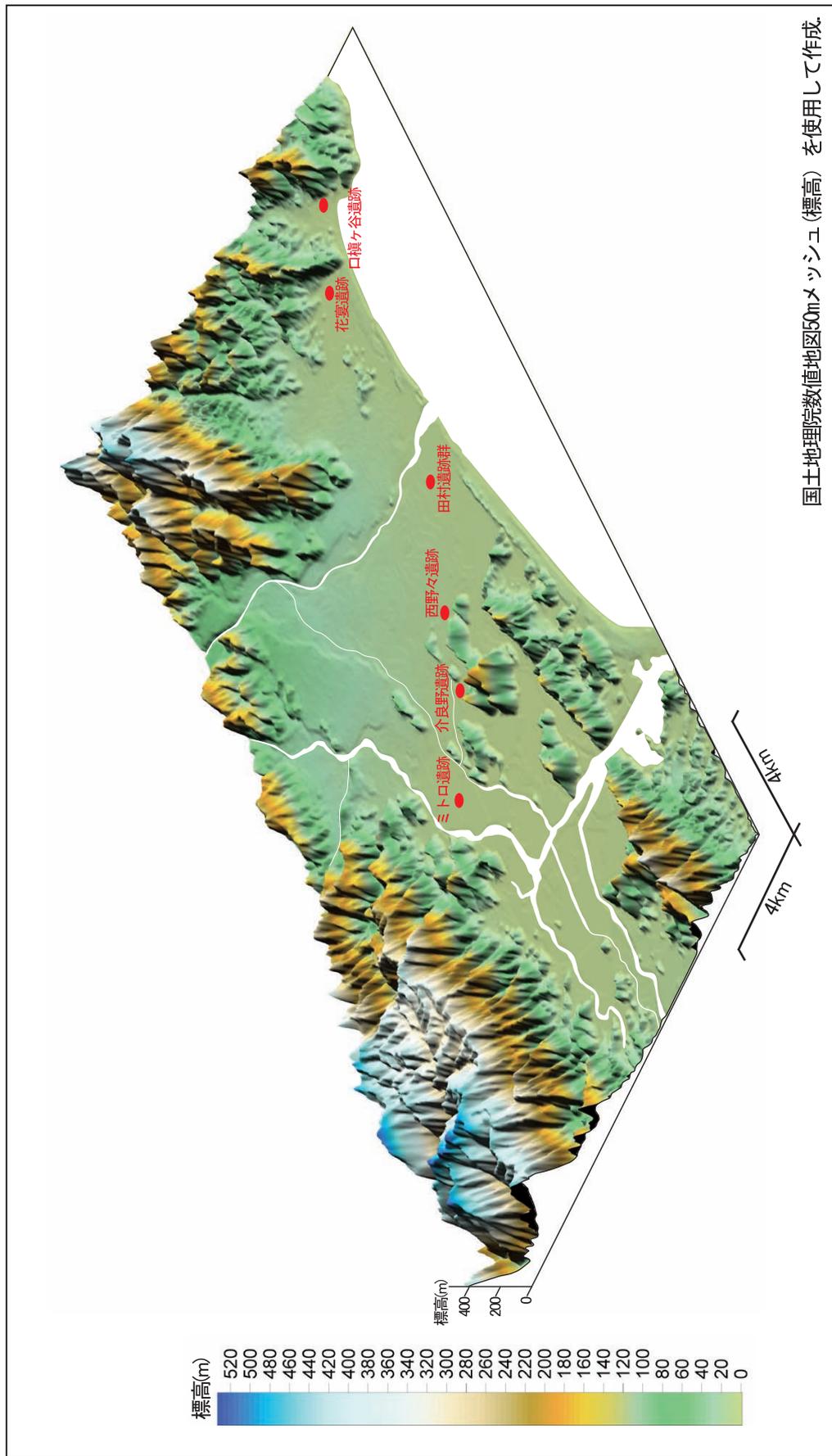


図1. 調査地点位置図

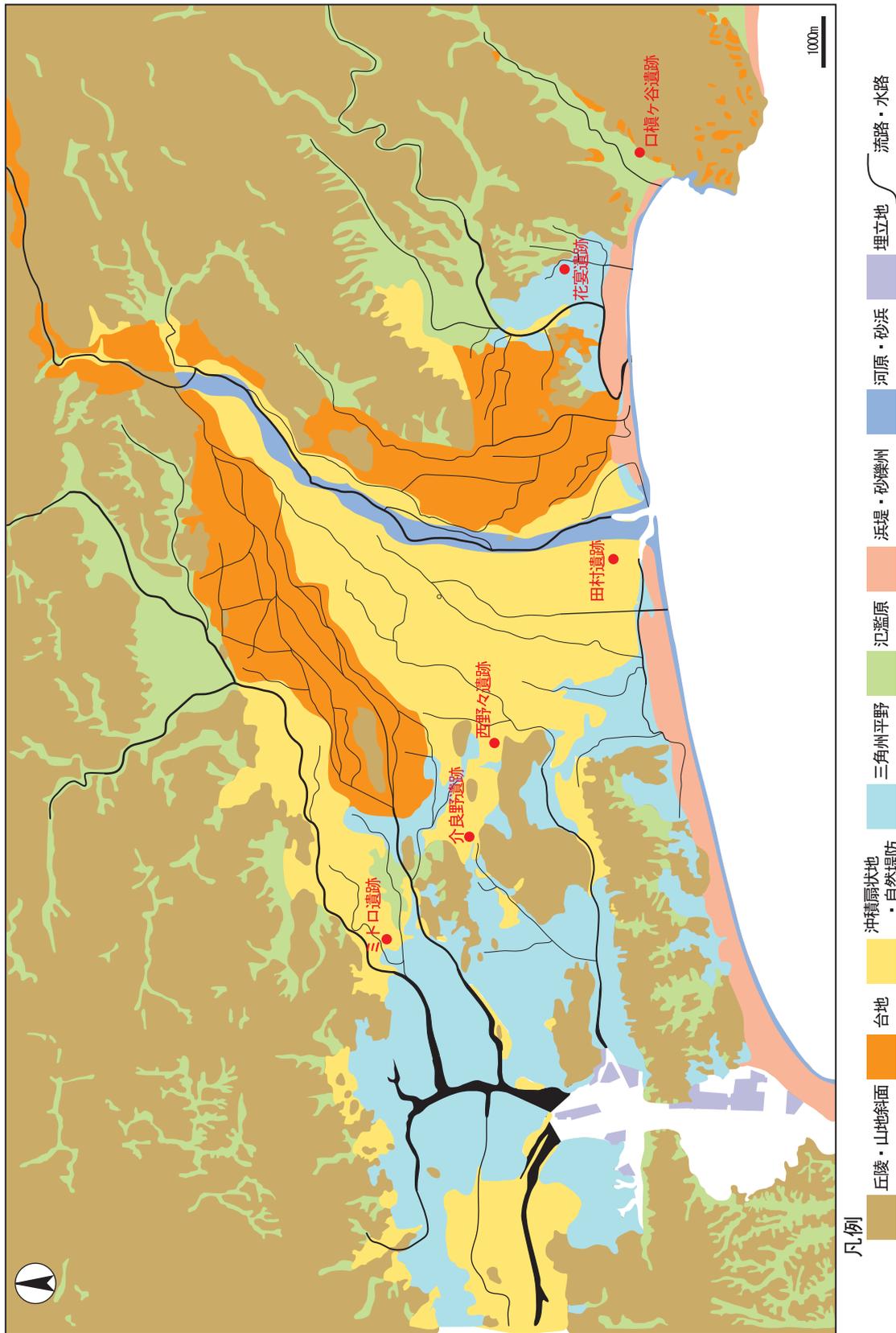


図2. 介良野遺跡周辺の地形（高知県，1966を一部改変して作成）

去、再度HC 1を加えアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去をそれぞれ行う(酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(II)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃(30分)850℃(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に¹³C/¹²Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}C$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

(2) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛：比重2.3)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉍物質の除去、アセトリシス(無水酢酸9：濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表、および主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

(3) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム、

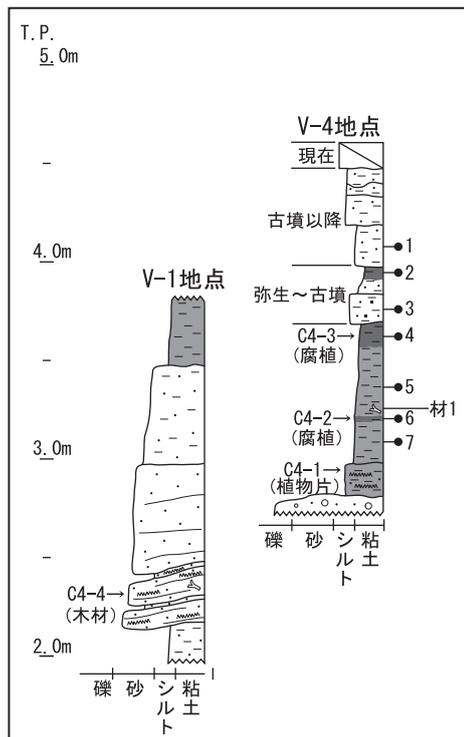


図3. 分析試料採取層準位置図

比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、近藤(2004)の分類に基づいて同定・計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量(同定した数を堆積物1gあたりの個数に換算)を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。また、各種類の植物珪酸体含量とその層位的変化から稲作の様態や古植生について検討するために、植物珪酸体含量の層位的変化を図示する。なお、結果は、100の位で丸めて表示する。

(4) 微細物分析

試料0.5kg(I-B3-C3のみ1kg)を常温で3昼夜連続乾燥後、肉眼および双眼実体顕微鏡下で観察し、炭化物や土器等の遺物を抽出する。水を満たした容器に試料を投入し、容器を傾斜させて浮いた炭化物を0.5mm目の篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く攪拌した後、傾斜回収作業を20回程度繰り返す。容器内の残土を0.5mm目の篩を通して水洗し、篩内の残渣および回収物を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、種実や炭化材などの植物遺体を抽出する。検出された種実を、現生標本および原色日本植物種子写真図鑑(石川,1994)、日本植物種子図鑑(中山ほか,2000)等との対照から種類と部位を同定し、個数を求めて表に示す。

分析後の種実遺体等は、種類毎に瓶に入れ、70%エタノール溶液による液浸保存処理を施して保管する。炭化材、土器、分析残渣は、48時間70℃乾燥後の重量を求めた後、袋に入れて保管する。

(5) 樹種同定

生木は、剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール(抱水クロラール, アラビアゴム粉末, グリセリン, 蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

炭化材は、自然乾燥させた後、3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東(1982)およびWheeler他(1998)を参考にする。また、各樹種の木材組織の配列の特徴については、林(1991)、伊東(1995,1996,1997,1998,1999)や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

表1. 放射性炭素年代測定結果

調査区	出土地点	補正年代	$\delta^{13}\text{C}$	測定年代	Code No.
		BP	(‰)	BP	
14C-1	流路中央部底の植物遺体	4790 ± 40	-28.53 ± 0.65	4850 ± 30	IAAA-61126
14C-2	流路内の腐植層	3070 ± 30	-30.37 ± 0.85	3150 ± 30	IAAA-61127
14C-3	流路内の腐植層	2090 ± 30	-26.09 ± 0.81	2110 ± 30	IAAA-61128
14C-4	流路地山の木材	5110 ± 40	-31.90 ± 0.87	5220 ± 40	IAAA-61129

- 1)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
 2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であることを示す。
 3)付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

表2. 暦年較正結果

番号	補正年代 (BP)		暦年較正年代 (cal)								相対比	Code No.			
14C-1	4791 ± 34	σ	cal	BC	3,639	-	cal	BC	3,628	cal	BP	5,589	-	5,578	IAAA-61126
			cal	BC	3,585	-	cal	BC	3,530	cal	BP	5,535	-	5,480	
		2σ	cal	BC	3,648	-	cal	BC	3,519	cal	BP	5,598	-	5,469	
14C-2	3065 ± 33	σ	cal	BC	1,394	-	cal	BC	1,306	cal	BP	3,344	-	3,256	IAAA-61127
			cal	BC	1,417	-	cal	BC	1,260	cal	BP	3,367	-	3,210	
		2σ	cal	BC	1,227	-	cal	BC	1,224	cal	BP	3,177	-	3,174	
14C-3	2091 ± 31	σ	cal	BC	164	-	cal	BC	128	cal	BP	2,114	-	2,078	IAAA-61128
			cal	BC	121	-	cal	BC	88	cal	BP	2,071	-	2,038	
		2σ	cal	BC	77	-	cal	BC	55	cal	BP	2,027	-	2,005	
14C-4	5109 ± 38	σ	cal	BC	197	-	cal	BC	42	cal	BP	2,147	-	1,992	IAAA-61129
			cal	BC	3,965	-	cal	BC	3,936	cal	BP	5,915	-	5,886	
		2σ	cal	BC	3,872	-	cal	BC	3,810	cal	BP	5,822	-	5,760	
			cal	BC	3,977	-	cal	BC	3,892	cal	BP	5,927	-	5,842	0.446
			cal	BC	3,884	-	cal	BC	3,798	cal	BP	5,834	-	5,748	0.554

- 1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を使用
 2)計算には表に示した丸める前の値を使用している。
 3)1桁目を丸めるのが慣例だが、較正曲線やプログラムが改定された場合の再検討がしやすいように、1桁目を丸めていない。
 4)統計的に真の値が入る確率は σ は68%、 2σ は95%である。
 5)相対比は、 σ 、 2σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果を表1に示す。14C-4は5110 ± 40BP、14C-1は4790 ± 40BP、14C-2は3070 ± 30BP、14C-3は2090 ± 30BPであり、層序関係と矛盾はない。暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い(14Cの半減期5,730 ± 40年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表するのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表す。暦年較正は、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。測定誤差を 2σ として計算させた結果、14C-4は、5927-5748calBP、14C-1は5598-5469BP、14C-2は3344-3256calBP、14C-3は2147-1992calBPである。

(2) 花粉分析

結果を表3、図4に示す。図表中で複数の種類をハイフオンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。いずれの試料からも花粉化石が多量に産出し、保存状態も比較的良い。群集組成を見ると、いずれも草本花粉の割合が高い。

木本花粉についてみると、いずれの試料に置いても産出する群集は類似する。コナラ属アカガシ

表3. V区のV-4地点の花粉分析結果

種類	試料番号	2	4	5	6	7
木本花粉						
マキ属		1	1	1	3	2
モミ属		7	10	23	25	14
ツガ属		45	40	34	28	18
マツ属単維管束亜属		-	-	-	2	-
マツ属複維管束亜属		10	2	5	1	3
マツ属(不明)		19	20	9	7	13
コウヤマキ属		2	7	3	9	3
スギ属		16	22	23	25	27
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科		8	6	16	11	28
ヤマモモ属		13	3	2	2	3
サワグルミ属		1	2	1	-	-
クルミ属		-	-	1	-	1
クマシデ属-アサダ属		8	1	3	2	5
カバノキ属		1	7	5	2	-
ハンノキ属		6	1	5	5	2
ブナ属		1	1	4	-	1
コナラ属コナラ亜属		5	9	10	29	9
コナラ属アカガシ亜属		77	52	42	39	49
クリ属		4	8	1	1	-
シノキ属		12	19	33	18	27
ニレ属-ケヤキ属		-	2	5	1	4
エノキ属-ムクノキ属		-	-	1	-	-
シキミ属		-	-	-	1	-
カラスザンショウ属		-	-	-	1	1
キハダ属		-	1	-	-	-
ブドウ属		1	-	-	-	-
ウコギ科		-	-	-	1	-
ツツジ科		-	1	-	1	-
エゴノキ属		-	1	-	1	-
イボタノキ属		-	-	-	1	-
草本花粉						
ガマ属		11	27	19	3	12
ミクリ属		-	-	-	1	-
オモダカ属		1	1	4	-	-
スブタ属		2	1	-	-	-
ミズオオバコ属		1	-	-	-	-
イネ科		229	56	334	43	46
カヤツリグサ科		135	122	81	258	137
ホシクサ属		-	1	-	-	-
イボクサ属		-	-	3	2	-
ミズアオイ属		5	2	2	1	-
クワ科		-	-	1	-	1
ギシギシ属		-	1	-	-	-
サナエタデ節-ウナギツカミ節		6	8	13	26	9
タデ属		2	2	1	-	-
ナデシコ科		-	-	2	-	-
カラマツソウ属		1	-	-	1	-
キンボウゲ属		2	1	-	-	1
キンボウゲ科		-	-	1	-	-
ワレモコウ属		1	1	1	-	1
バラ科		-	-	-	1	-
マメ科		-	3	1	2	1
キカシグサ属		-	-	1	-	-
アリノトウグサ属		-	8	1	3	-
セリ科		12	39	6	22	24
ヤエムグラ属-アカネ属		-	-	-	2	-
オミナエシ属		2	1	4	-	1
ゴキツル属		1	15	4	1	-
ヨモギ属		30	16	26	15	18
オナモミ属		-	1	-	-	-
キク亜科		5	2	5	2	2
タンポポ科		5	1	3	1	-
不明花粉		21	10	42	27	13
シダ類孢子						
ヒカゲノカズラ属		-	-	-	-	1
ゼンマイ属		5	1	-	-	-
イノモトソウ属		4	-	1	1	1
ミズワラビ属		-	1	31	-	-
サンショウモ		-	6	13	1	2
ミズニラ属		1	-	1	-	-
他のシダ類孢子		43	41	180	74	113
合計						
木本花粉		237	216	227	216	210
草本花粉		451	309	513	384	253
不明花粉		21	10	42	27	13
シダ類孢子		53	49	226	76	117
総計(不明を除く)		741	574	966	676	580

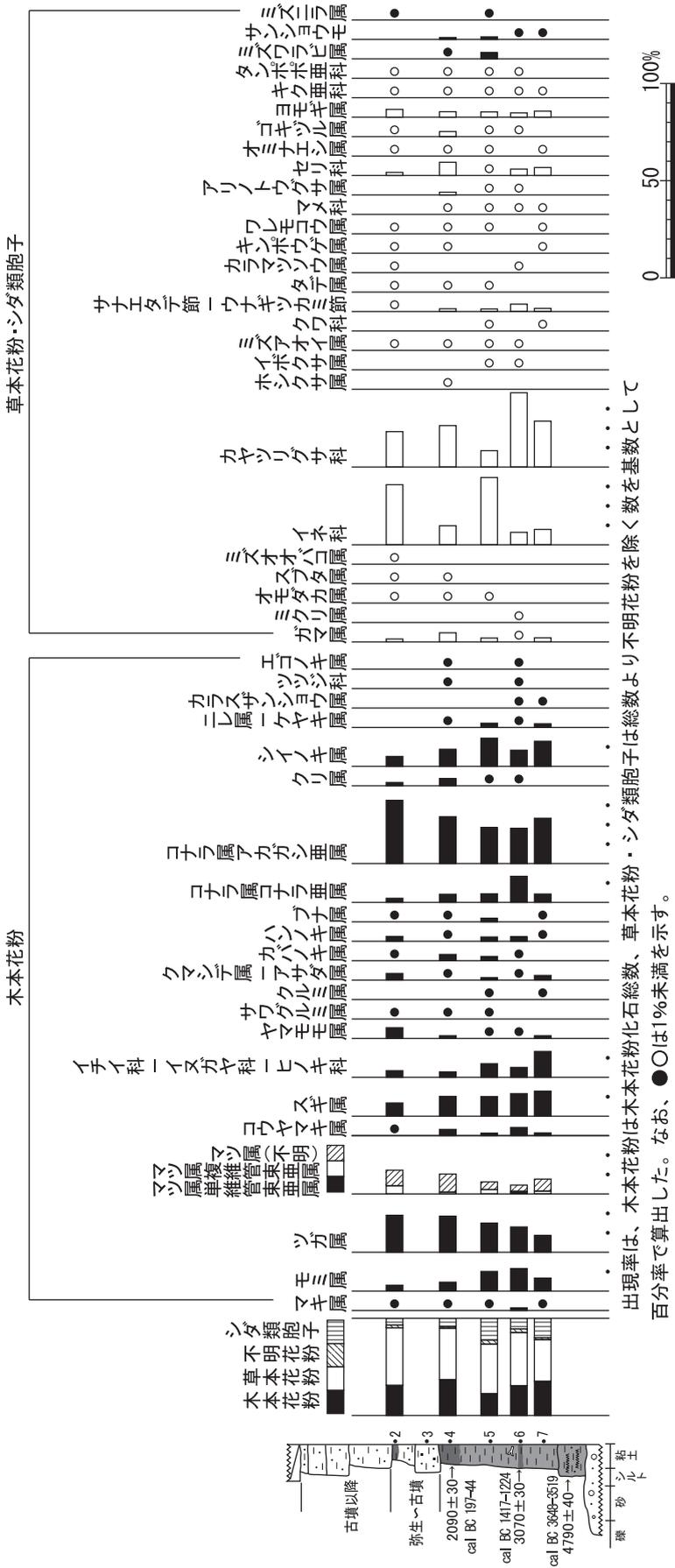


図4. V区V-4地点の花粉化石群集の層位分布

亜属、ツガ属がやや多く、モミ属、マツ属、スギ属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、コナラ属コナラ亜属、シイノキ属などを伴うが、際だって多い種類は認められない。層位的な変化を見ると、上位に向かってスギ属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科などが減少し、ツガ属、マツ属、アカガシ亜属などが増加する傾向がある。

草本花粉についてみると、試料により優占種が異なるもののイネ科、カヤツリグサ科が多産し、サナエタデ節－ウナギツカミ節、セリ科、ヨモギ属などを伴う。また、ガマ属をはじめ、ミクリ属、オモダカ属、スブタ属、ミズオオバコ属、ホシクサ属、イボクサ属、ミズアオイ属、ゴキヅル属、ミズワラビ属、サンショウモ、ミズニラ属といった水湿地生植物に由来する花粉・胞子も種類数多く認められる。

(3) 植物珪酸体分析

結果を表4、図5に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。

放棄流路を埋積した泥層の試料のうち、試料番号5では植物珪酸体含量が10万個/gを超える。その多くがネザサ節を含むタケ亜科であり、ヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが認められる。また、栽培植物であるイネ属も検出される。その含量は、短細胞珪酸体が約3,900個/g、機動細胞珪酸体が約4,100個/gであり、調査した試料で最も多い。その上位の試料番号4では植物珪酸体含量が約4万個/gに減少する。イネ属は、検出されない。また、タケ亜科よりもヨシ属の産出が目立つ。

弥生～古墳時代の試料番号3と2、古墳時代以降の試料番号1では産状が似ており、ネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立ち、イネ属、ヨシ属、ススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが認められる。イネ属の含量は数百個/g、試料番号1の機動細胞珪酸体が約1,100個/gである。

(4) 微細物分析

栽培植物のイネ、アワ－ヒエ、マメ類の種実や、炭化材、土器が確認された(表5)。

種実遺体は全て炭化している。イネは、穎の破片がⅢ区のST18から10個、アワ－ヒエは、胚乳がⅠ区のST11床直上と、Ⅲ区のSK75から各1個、マメ類は種子がⅠ区のST1中央ピット焼土から1個検出された。なお、Ⅰ区のST1床直上中央ピット周辺堆積物からは炭化材が検出されたのみで、同定可能な種実の確認されなかった。

以下に、本分析にて同定された種実の形態的特徴などを記す。

・イネ(*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

穎(果)の破片が検出された。炭化しており黒色、完形ならば長さ6-7mm、幅4mm、厚さ2mm程度の長楕円形でやや偏平。破片は基部の斜切円柱形の特徴的な果実序柄部分で、大きさ1mm程度。果皮は薄く、表面には微細な顆粒状突起が縦列する。

・アワ－ヒエ(*Setaria itarica* (L.) P.Beauv.- *Echinochloa utilis* Ohwi et Yabuno) イネ科エノコログサ属－ヒエ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色、径1.5mm程度の広楕円体でやや偏平。背面は丸みがあり、

表4. V区のV-4地点の植物珪酸体含量

種類	試料番号	1	2	3	4	5
イネ科葉部短細胞珪酸体						
	イネ族イネ属	400	100	500	0	3,900
	タケ亜科ネザサ節	1,100	2,100	600	<100	15,100
	タケ亜科	2,700	5,000	3,600	3,500	22,600
	ヨシ属	400	1,400	900	7,400	7,700
	ウシクサ族コブナグサ属	200	100	200	0	0
	ウシクサ族ススキ属	400	400	0	<100	0
	イチゴツナギ亜科	100	0	<100	<100	300
	不明キビ型	1,400	1,400	1,600	300	6,100
	不明ヒゲシバ型	400	800	800	<100	4,100
	不明ダンチク型	900	900	200	300	4,100
イネ科葉身機動細胞珪酸体						
	イネ族イネ属	1,100	500	400	0	4,100
	タケ亜科ネザサ節	5,100	7,000	<100	300	23,700
	タケ亜科	800	1,000	500	700	3,000
	ヨシ属	400	300	400	5,300	3,900
	ウシクサ族	1,200	500	<100	300	1,100
	シバ属	100	100	<100	0	0
	不明	800	1,200	400	3,300	2,800
珪化組織片						
	イネ属類珪酸体	500	100	0	0	0
合計						
	イネ科葉部短細胞珪酸体	8,100	12,300	8,600	11,900	63,800
	イネ科葉身機動細胞珪酸体	9,400	10,800	1,900	9,900	38,500
	珪化組織片	500	100	0	0	0
	総計	18,000	23,200	10,500	21,800	102,300

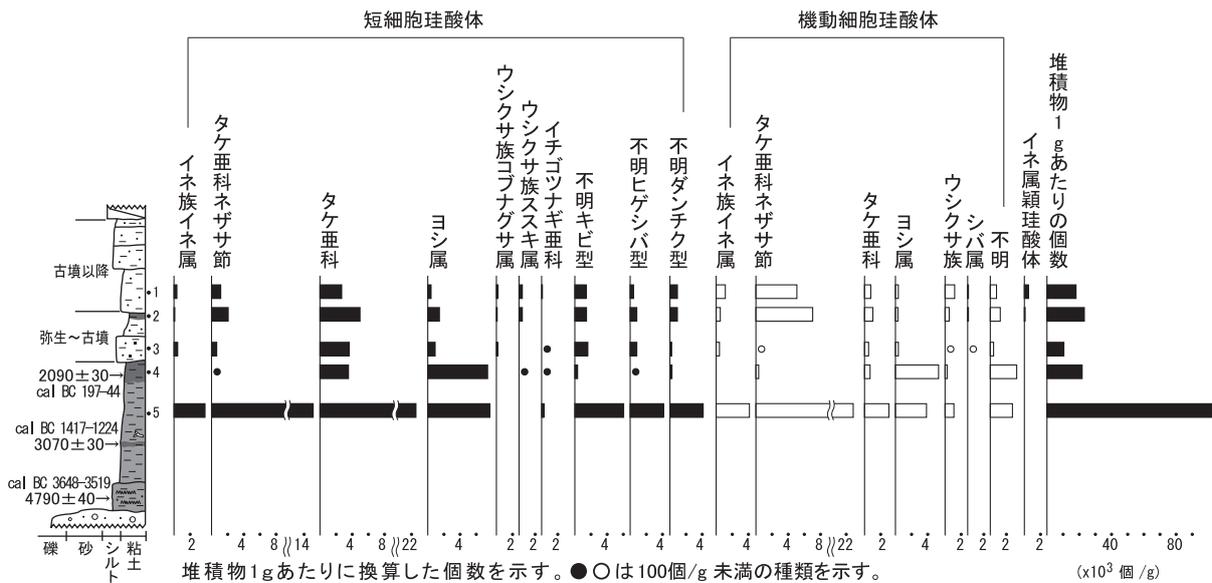


図5. V区V-4地点の植物珪酸体含量の層位分布

表5. 微細植物片分析結果

調査区	グリッド	遺構	層位	時代	イネ	アワ-ヒエ	マメ類	炭化材		土器	残渣
					穎	胚乳	種子	>1mm	>0.5mm		
I区	B3-C3	ST1	中央ピット焼土	弥生終末期～古墳初頭	-	-	1個	4.89 g	1.12 g	-	225.74 g
I区		ST1	床直上 中央ピット周辺	弥生終末期～古墳初頭	-	-	-	48.78 g	3.98 g	-	66.07 g
I区	F7	ST11	床直上	弥生終末期～古墳初頭	-	1個	-	41.63 g	2.65 g	1個(7.7g)	58.46 g
Ⅲ-W区	D-19	ST18	床直上	弥生終末期～古墳初頭	10個	-	-	12.90 g	1.87 g	7個(13.93g)	43.98 g
Ⅲ-E区	H-28	SK75		弥生終末期～古墳初頭	-	1個	-	17.30 g	3.50 g	-	27.28 g

分析量：I-B3-C3は1kg、その他は0.5kg

腹面は平ら。基部正中線上に溝状の胚の凹みがある。表面はやや平滑。

アワ、ヒエの区別は、走査型電子顕微鏡下による内外穎の観察により可能であるが(松谷,1980;2000など)、今回検出された胚乳には、表面に穎の付着は確認されなかった。

・マメ類(Leguminosae) マメ科

種子が検出された。炭化しており黒色。長さ4mm、径2.5mm程度の長楕円体。子葉の合わせ目上にある長楕円形で縁が隆起する細長い臍を欠損する。種皮表面はやや平滑で、焼け膨れ、崩れている。

(5) 樹種同定

樹種同定結果を表6に示す。生木は常緑広葉樹のツブラジイに同定された。炭化材は、全て広葉樹で、4種類(ハンノキ属ハンノキ亜属・コナラ属アカガシ亜属・スダジイ・アワブキ属)に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

・ハンノキ属ハンノキ亜属(*Alnus* subgen. *Alnus*) カバノキ科

散孔材で、道管は単独または2-4個が放射方向に複合して散在し、年輪界付近で径を減少させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1-30細胞高のものと集合放射組織とがある。

・コナラ属アカガシ亜属(*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高のものと複合放射組織とがある。

・ツブラジイ(*Castanopsis cuspidata* (Thunberg) Schottky) ブナ科シノキ属

環孔性放射孔材で、道管は接線方向に1-3個幅で放射方向に配列する。孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと集合～複合放射組織とがある。

・スダジイ(*Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii* (Makino) Nakai) ブナ科シノキ属

環孔性放射孔材で、道管は接線方向に1-2個幅で放射方向に配列する。孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高。

スダジイとツブラジイは、集合～複合放射組織の有無で識別するが、ツブラジイの集合～複合放射組織の出現頻度は個体によって異なっており、現生標本の観察ではほとんど現われない個体もあ

表6. 樹種同定結果

調査区	グリッド・地点	遺構	層位	時代	状態	点数	樹種	備考
I区	B3-C3	ST1	中央ピット焼土	弥生終末期～古墳初頭	炭化材	1	コナラ属アカガシ亜属	
I区	B3-C3	ST1	中央ピット焼土	弥生終末期～古墳初頭	炭化材	5	コナラ属アカガシ亜属	(微細物分析より)
							コナラ属アカガシ亜属	(微細物分析より)
							コナラ属アカガシ亜属	(微細物分析より)
							コナラ属アカガシ亜属	(微細物分析より)
I区		ST1	床直上中央ピット周辺	弥生終末期～古墳初頭	炭化材	2	コナラ属アカガシ亜属	
							コナラ属アカガシ亜属	
I区	F7	ST11	床直上	弥生終末期～古墳初頭	炭化材	3	アワブキ属	(微細物分析より)
							アワブキ属	(微細物分析より)
							アワブキ属	(微細物分析より)
II区		SK37		弥生終末期～古墳初頭	炭化材	1	ハンノキ属ハンノキ亜属	
III-W区	D-19	ST18	床直上	弥生終末期～古墳初頭	炭化材	5	コナラ属アカガシ亜属	(微細物分析より)
							コナラ属アカガシ亜属	(微細物分析より)
							コナラ属アカガシ亜属	(微細物分析より)
							コナラ属アカガシ亜属	(微細物分析より)
							コナラ属アカガシ亜属	(微細物分析より)
III-E区	H28	SK75		弥生終末期～古墳初頭	炭化材	5	スダジイ	(微細物分析より)
							スダジイ	(微細物分析より)
							スダジイ	(微細物分析より)
							スダジイ	(微細物分析より)
							スダジイ	(微細物分析より)
V区	V-4地点		堆積ユニット3	縄文晩期以降～弥生中後期	生木	1	ツブラジイ	

る。また、例え有していたとしても小片では含まれない可能性もある。そのため、今回スダジイとした中にも集合～複合放射組織の出現頻度が低いツブラジイが含まれている可能性があるが、本報告では確認できたものをツブラジイ、確認できなかったものをスダジイとした。

・アワブキ属(Meliosma) アワブキ科

散孔材で、道管は単独または2-4個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔または階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は大型で、異性、1-3細胞幅、1-50細胞高。

4. 考察

(1) 介良野遺跡の遺跡形成過程

1) 調査区を構成する堆積層の記載方法

III区とV区では、発掘調査終了後に深掘トレンチの掘削を行い、遺跡断面の記載と試料採取を行った。本節では、深掘トレンチの断面記載結果と放射性炭素年代測定および発掘調査結果をふまえた調査区の堆積環境変遷について述べる。以下の記述では、侵食面や再侵食面によって境され、河川地形や堆積的外形をなすと考えられるコセット(coset)のまとまりからなる堆積ユニットを基本単位として考察を行う。堆積ユニットとは、側方への同時異相を含むいくつかの堆積相からなる、より大きなスケールでの堆積相や流路形態や河川地形の特徴を示すとされる(松田,2000)。なお、遺跡断面の記載にあたっては、堆積相についてMiall(1992,1996)の河成堆積相コードや松田(1999,2000)と中嶋ほか(2004)、人為的な擾乱堆積物の層相については、松田・パリノ・サーヴェイ(1996)の記載を参考とした。さらに土壌については、日本ペトロロジー学会編「土壌調査ハンドブック 改訂版」に準じて記載を行った。また、堆積相の形状を示すアーキテクチャー(architecture)については、中嶋ほか(2004)に従い「外形」と表現する。

2) 調査区内で認められた堆積層の累重状況

・Ⅲ区

I～Ⅲ区では、弥生時代終末期～古墳時代初頭の竪穴建物跡が多数検出されている。これらの建物跡は、現地表面下20～40cm前後と非常に浅い深度でその最上面が確認されている。遺構が確認された堆積層上面には、耕作土をなす古墳時代以降の遺物を含む包含層と現在の耕作土が存在する。Ⅲ区の深掘調査では、弥生時代終末期～古墳時代初頭およびそれ以降の遺構確認面より下位、100～150cmについて、バックホーによるトレンチの掘削を行い、その壁面観察を実施した。断面観察の結果、深掘トレンチでは、上下に大きく堆積ユニット1と2の2つのユニットに区分されることが判明した(図6)。上部の堆積ユニット1では泥混じり砂層、下部の堆積ユニット2では砂礫層ないし砂層の累重が認められた。

堆積ユニット2では、砂層を挟在して、南側へ傾斜する2つの礫層が確認された(写真1～3)。堆積ユニット2は、再侵食面から堆積ユニット2-1と2-2に区分される。それぞれの堆積ユニットを構成する礫層は、トラフ型斜交層理をなす細礫～中礫で基質が粗粒砂～極粗粒砂からなり、上方細粒化を示す(写真4,5)。層相から、礫層は掃流による一方向流によって堆積したと判断される。掘削深度の制約上、完全な外形を確認することができなかったが、堆積ユニット2-2は、流路状の外形を充填していると考えられる。この堆積ユニット2-2の礫層は、北側に向かって側方への細粒化が認められる(写真6)。堆積ユニット2-2で認められた礫層は、堆積構造および外形から、流路を充填した堆積物によって構成されていると考えられる。堆積ユニット2-1の礫層についても、堆積構造および外形から、流路充填堆積物と推測される。側方への細粒化が観察される堆積ユニット2-2では、Ⅲ-1地点が相対的に流路の滞筋側に、Ⅲ-2、Ⅲ-3地点が流路縁に相当すると推定される。流路充填堆積物である堆積ユニット2-1、2-2の礫層の古流向は、葉理の傾きから概ね南西方向を示すと考えられる。また堆積ユニット2-2では、最上部に洪水時に調査区内へ流入してきたと考えられるレンズ状の外形をなす砂礫層の堆積が認められた(写真7)。この砂礫層には、北から南への明瞭な覆瓦構造が存在する(写真8)。

堆積ユニット2-1と2-2を覆う上部の層準では、水平葉理をなす泥混じりの極細粒砂～粗粒砂層が層状に累重する(写真9,10)。層相および外形から、これらの泥混じり砂層は、洪水流によって調査区に運搬されてきた氾濫原堆積物と判断される。この泥混じり砂層の最上部には、古土壌をなす腐植に富む層準が形成されている。弥生時代終末期～古墳時代初頭およびそれ以降の遺構確認面は、この古土壌の最上部に相当する。但し、後世の削平が著しい場所では、古土壌が存在せず、泥混じり砂層が遺構確認面となっている場所も存在していた。

以上のような深掘トレンチの観察結果から、Ⅲ区の基盤層では、流路から氾濫原へと堆積場を変化させ、最終的に土壌が発達するような安定した堆積環境が形成されたことが確認される。堆積ユニット2では、南側へ傾斜する流路堆積物からなる礫層のセットから、流路が北側から南側へ移動しながら調査区を埋積していったことがうかがえる。流路埋没後、調査区およびその付近では、洪水時に周囲の流路から泥混じり砂が供給されるような氾濫原と堆積環境を変化させる。Ⅲ区を構成する氾濫原堆積物は、非常に砂がちである。このことから、調査区付近では、後背湿地よりもむしろ、自

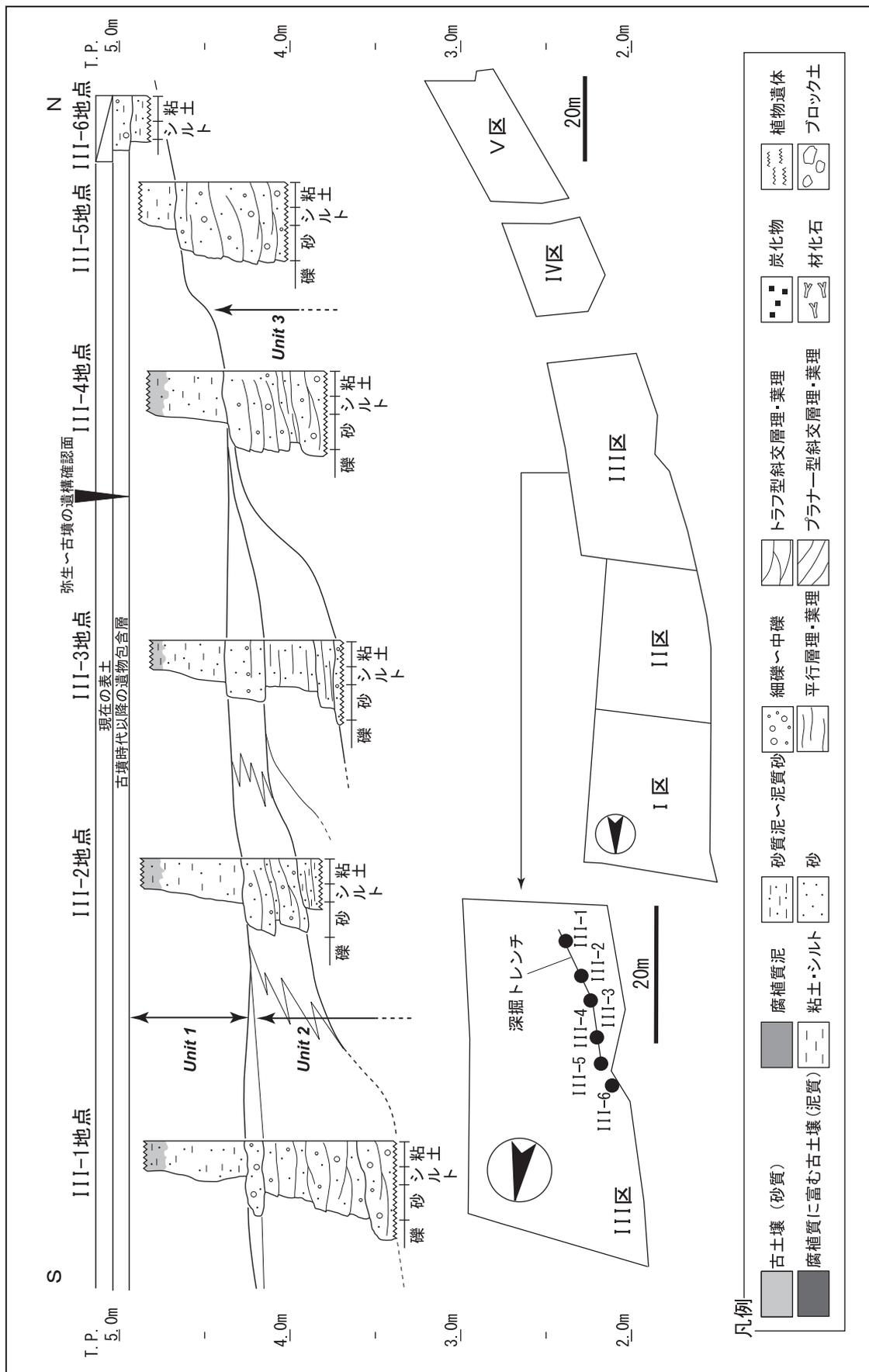


図6. III区の深掘トレンチ柱状断面図



写真1 Ⅲ区深掘断面堆積状況
Ⅲ-2～4地点付近（南から）



写真2 Ⅲ区深掘断面堆積状況
Ⅲ-2～3地点付近（南から）



写真3 Ⅲ区深掘断面堆積状況
Ⅲ-3, 4点付近（北から）



写真4 Ⅲ区Ⅲ-1地点の礫層堆積状況（東から）



写真5 Ⅲ区Ⅲ-5地点の礫層堆積状況（南から）



写真6 Ⅲ区Ⅲ-2～3地点の堆積状況（北から）

然堤防などの氾濫原において微高地をなす地形が形成されていたと推定される。調査区付近を構成していた氾濫原では、ある時期以降、堆積物の供給が非常に少なくなり、非常に安定した環境となったことが堆積ユニット1最上部の古土壌の存在から示唆される。本遺跡で確認された遺構・遺物は、この古土壌最上部ないし上面から検出されている。このことから、人間活動が本格的に展開する弥生時代終末期～古墳時代初頭にI～III区では、洪水の影響がほとんどなく、かつ乾燥し安定した土地条件であったと考えられる。弥生時代終末期～古墳時代初頭およびそれ以降の遺構確認面の上部にもほとんど堆積物が累重していないことから、安定した土地条件は、古墳時代初頭以降も継続したことをうかがい知ることができる。

・V区

V区は現在でも、周囲の地形面よりも流路状に一段低くなった場所に相当する調査区である(写真11,12)。V区では、周囲の調査区と異なり、連続的な泥層の累重が確認された(写真13)。V区では、南北方向の深掘トレンチをバックホーにより掘削し、発掘調査最終深度の下位、100～200cmについて断面観察を行った。深掘トレンチ掘削の結果、V区で特徴的に認められた泥層は、流路状をなす外形を埋積していることが明らかとなった(図7)。これらの泥層は、砂層ないし砂礫層を基盤としている。V区を構成する堆積層は、基盤層を含め4つの堆積ユニットに区分される。泥層については、暗色帯および放射性炭素年代値、出土遺物の包含状況から、3つの堆積ユニットに細分される。

泥層の基盤となる堆積ユニット4は、全体的な傾向として細礫～中礫混じりの極粗粒砂層から中粒砂～粗粒砂層へと上方細粒化を示す(写真14)。著しい地下水の湧出のために十分に観察することができなかったが、基盤層の下半部は、トラフ型斜交層理をなす砂礫層からなる。堆積層は、北から南へ傾斜するとともに、南に向かって側方への細粒化が観察される。南側への側方細粒化する調査区南端に位置するV-1地点では、植物遺体を多く含み、泥の葉理を挟在する中粒砂～粗粒砂層が累重する(写真15)。

堆積ユニット4の上半部は、水平ないしプラナー型斜交葉理をなす中粒砂～粗粒砂層からなり泥層の葉理を挟在する。本層準の傾斜方向は、基盤層の下半部と同様にほとんどの堆積層で、北から南へ傾斜している。但し、V-3地点の最上部のプラナー型斜交葉理をなす粗粒砂層では、葉理の傾きが南から北への傾斜をなす。側方への細粒化の傾向は、下半部と同様である。上記のような堆積ユニット4の層相からは、下半部が流路内、上半部が近傍の流路から供給された洪水砂であることが推定される。

V区で特徴的に認められる泥層は、基盤をなす堆積ユニット4の砂礫層および砂層が形作った流路状の凹地内を埋積する。下半部に相当する堆積ユニット3では、流路状の凹地の中心部付近で、植物遺体を多量に含む泥炭質をなす砂質粘土質シルト層が分布する(写真16)。この直上では、腐植を多く含むシルト質粘土層が、層厚80cm前後累重する(写真17)。これらの泥層やその上部の層準には、特に腐植の含有量が高い3つの暗色帯が挟在する。これらの暗色帯は、堆積層の層厚の薄く、相対的に高い位置にある肩部で1本に収斂している。暗色帯を挟在するシルト質粘土層は、層相から湿地の堆積環境下で累重したと考えられる。挟在する暗色帯は、流路状の凹地内の水位が降したり、堆積速度が低下した際に形成された古土壌と考えられる。最下部の泥炭質の砂質粘土質シルト層は、凹地

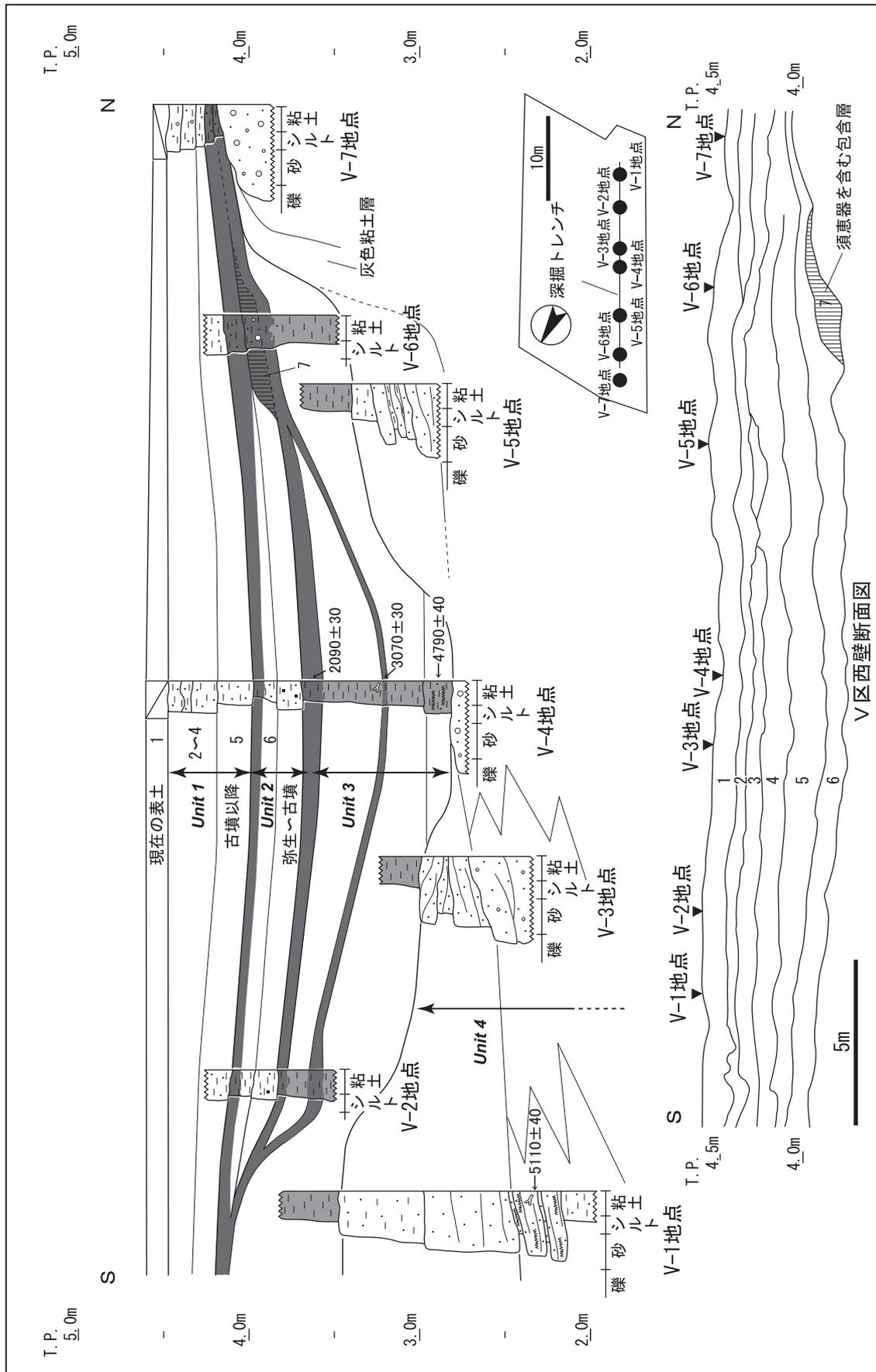


図7. V区の深掘トレンチ柱状断面図



写真7 Ⅲ区Ⅲ-1地点のレンズ状の砂礫層の堆積状況
(南東から)



写真8 Ⅲ区Ⅲ-1地点のレンズ状の砂礫層の覆瓦構造
(東から)



写真9 Ⅲ区Ⅲ-1地点の堆積ユニット1堆積状況
(東から)



写真10 Ⅲ区の堆積ユニット1堆積状況(東から)



写真11 V区が位置する流路状の低地(北東から)



写真12 V区が位置する流路状の低地の段差(西から)



写真13 V区の堆積状況（南東から）



写真14 V区V-3地点の堆積状況（東から）



写真15 V区V-1地点の堆積状況（東から）



写真16 V区V-4地点の堆積ユニット3最下部の泥炭質泥とその上部の腐植質泥の堆積状況（東から）



写真17 V区V-4地点の堆積ユニット3の堆積状況（東から）



写真18 V区V-4地点の堆積ユニット2の堆積状況（東から）

内に泥層が堆積し始めた時期に周囲から中心部に掃き寄せられた植物遺体が集積したものと考えられる。

堆積ユニット2は、砂質粘土質シルトからなり、下位の堆積ユニットに比べ砂分を多く含むことが特徴である。堆積層内には、土器の細片や中礫などが含まれる(写真18)。調査区の北端部では、堆積ユニット2に相当すると考えられる肩部において、須恵器などの遺物が多く含まれる層準が確認されている。本ユニットでは、管状の酸化鉄の斑紋が非常に発達する。堆積ユニット1は、現在の耕作土直下に累重する塊状をなす砂質粘土質シルトである。層相から、人為的に攪拌を受けていると判断され、耕作土と考えられる。堆積ユニット1と2は、Ⅲ区に比べ洪水時などに滞水し易い環境下で形成されたことが層相からうかがえる。但し、これらの堆積ユニットは、下位に比べ砂分を多く含んでいる。このことから、堆積ユニット1・2の累重時期には、周囲に存在する地表面物質となる遺構基盤層の砂層や砂礫層が再移動して、相対的に低所となるV区へ流入するような環境下にあったことが推測される。このような堆積環境変遷は、V区周辺での居住域などの人間活動領域化に伴う、地表面での裸地の増大に関連する可能性が考えられる。また、縄文時代晩期およびそれ以前から弥生時代中期～後期の堆積ユニット3から弥生～古墳時代のユニット2にかけては、植物珪酸体含量の急減が確認され、この堆積ユニットを境に土壌や水文環境が大きく変化したことが推定されている。このような植物珪酸体化石群集とそれに伴うと推定される土壌や水文環境の変遷についても、V区周辺での人間活動に起因する堆積環境変遷がその要因となっているのではないと思われる。一般的には、人間活動による土地利用頻度が増すにつれ、その場所での燃焼イベントが増大すると考えられており、近年、堆積物中に含まれる炭の含量変化を定量化する微粒炭分析を実施して、人間活動との関係を捉えようとする研究が行われてきている。今回、V区で認められた縄文時代晩期およびそれ以前から弥生時代中期～後期から弥生～古墳時代の堆積・土壌・水文環境変遷については、微粒炭分析を実施していくことによって、さらに詳細な議論が可能になるものと予想される。

3) 介良野遺跡における地形発達と遺跡形成過程

V区の泥層によって埋積される流路状の凹地の基盤をなす砂礫層ないし砂層からなる堆積ユニット4は、その上面高度およびI～V区までの発掘調査から、これらの調査区において弥生時代終末期～古墳時代初頭以降の遺構の基盤をなす砂層ないし砂礫層と一連の堆積層とみなすことができる(図8)。よって、V区の堆積ユニット4は、Ⅲ区の深掘トレンチで確認した堆積ユニット1・2に対比される。Ⅲ区では、堆積ユニット1・2から年代試料を得ることができなかった。しかしながら、Ⅲ区の堆積ユニット1・2に対比されるV区の堆積ユニット4において、調査区南端に位置するV-1地点の下部の砂層中から、木材片の放射性炭素年代測定用の試料を得ることができた。この材の年代値は、 5110 ± 40 yrs BPを示した。流路状の凹地を埋積する泥層であるV区の堆積ユニット2・3は、基盤をなす堆積ユニット4を覆って累重している。このことから、V区の堆積ユニット2・3は、堆積ユニット4を構成する砂層や砂礫層の形成後に累重を開始し始めたと判断される。V区の堆積ユニット3の最深部に存在する泥炭質の砂質粘土質シルト層に挟在する植物遺体からは、 4790 ± 40 yrs BPの年代値が得られた。このようなV区における堆積ユニット3と4から得られた年代値から、今回の

調査区およびその付近では、遺跡の基盤層をなす砂礫層、砂層が5110 ± 40 yrs BP頃まで累重を続けていたことが推測される。そしてこれらの砂礫層、砂層は、これらを覆う泥層最下部から得られた年代値である4790 ± 40 yrs BP頃に、既にその累重が停止していたことがうかがえる。

ところで、介良野遺跡の東方約2kmには、西野々遺跡が位置している。西野々遺跡は、空中写真判読から沖積扇状地末端部に位置すると考えられる考古遺跡である。西野々遺跡では、当社のこれまでの自然科学分析において、遺跡の縁辺部の微高地端部を構成する基盤の砂礫層ないし砂層～泥層からなる堆積層最上部に形成された古土壌の腐植から、5230 ± 40 yrs BPの年代値が得られている。西野々遺跡では、介良野遺跡と同様に、基盤をなす層準の上部で堆積物の累重が非常に少ない。このような堆積状況と年代値をふまえると、介良野遺跡、西野々遺跡周辺では、放射性炭素年代値で5000～4800年前前後までに河川堆積物の顕著な供給があったことが示唆される。

以上のような層序および年代値および谷口(2001)の縄文土器と放射性炭素年代値の集成から、介良野遺跡では、遺跡の基盤をなす流路および微高地を形成していたと推測される氾濫原の形成が縄文時代前期後半～縄文時代中期初頭頃まで続いたことが推定される。その後、縄文時代中期初頭ないし前半頃には、遺跡周辺での河川堆積物の供給が停止し、地形的に低いV区で湿地の環境下での泥層の累重、地形的に高いI～IV区で、土壤発達が続くような環境となったと考えられる。

調査区周辺の踏査で容易に確認されるように、V区は流路状に一段低くなった場所に存在している。この流路状の低地は、空中写真でも容易に判読され、高知県(1966)の土地分類図や国土地理院(2006)の土地条件図でも連続する旧河道として記載されている。筆者の米軍撮影の空中写真による判読によれば、この流路状の低地沿いには、帯状の微高地(沖積リッジ)が連続することが読みとれる(図9)。今回のⅢ区における深掘トレンチの掘削によって、帯状の微高地は、流路堆積物とそれを覆う氾濫原堆積物によって構成されることが判明した。これらの河川堆積物は、その堆積層の傾斜方向から、北から南へ側方移動しながら埋積していったと捉えられる。また、全体的な傾向としては、基盤層において南方向への細粒化の傾向も認められる。さらにV区では、それより北側の調査区と異なり、流路状の低所となる地形に対応するような連続的な泥層が累重することが、発掘および地質・地形調査から確認された。この泥層は、基盤の砂層ないし砂礫層が形作った凹地を中心にして分布していることが深掘調査によって明らかとなった。

上記した空中写真の判読結果、基盤層の堆積過程をふまえると、V区で認められた連続性の良い旧河道として判読されてきた流路状の低地は、流路および氾濫原堆積物が北から南へのトレンドを持って累重する過程において、上流側での急激な流路変更ないし、突然の堆積物供給の停止などによって形成された放棄流路に起因する地形と考えられる。堆積層のサクセッションと放射性炭素年代値から、介良野遺跡およびその周辺では、縄文時代中期初頭ないし前半頃以降に、遺跡全域において上方および側方への新たな堆積物の累重はほとんど認められなくなり、かなり安定した堆積環境が維持されたことをうかがい知ることができる。なお、放射性炭素年代値から、放棄流路内を埋積する泥層については、層厚80cm程度の累重に2700年前後を経ていることが読みとれる。放射性炭素年代測定値から推測される放棄流路内の埋積時間から、縄文時代中期初頭ないし前半頃以降に介良野遺跡およびその周辺では、非常に静穏で安定した環境が継続して維持されるような場所であった

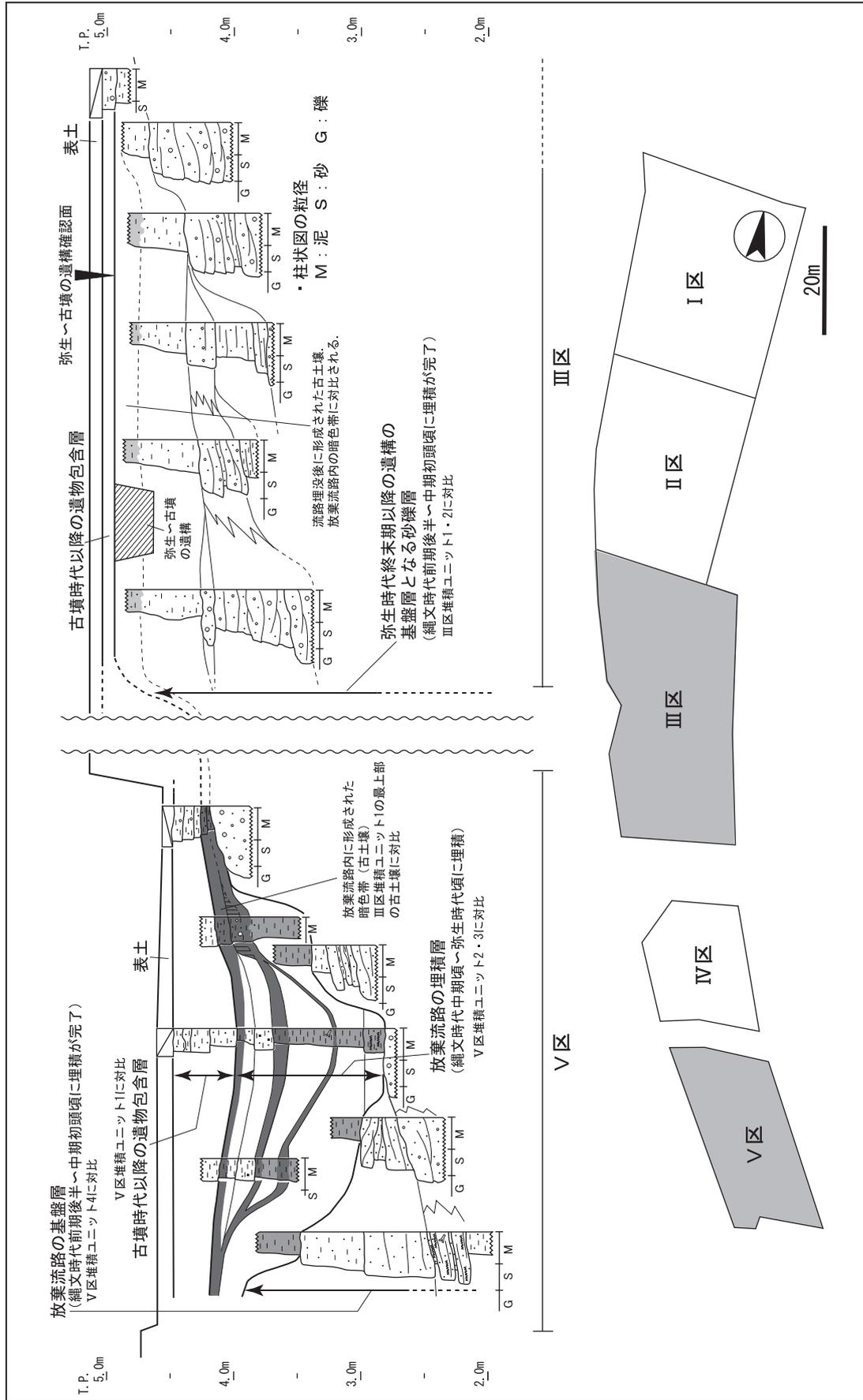


図8. Ⅲ区およびⅤ区の層序対比図

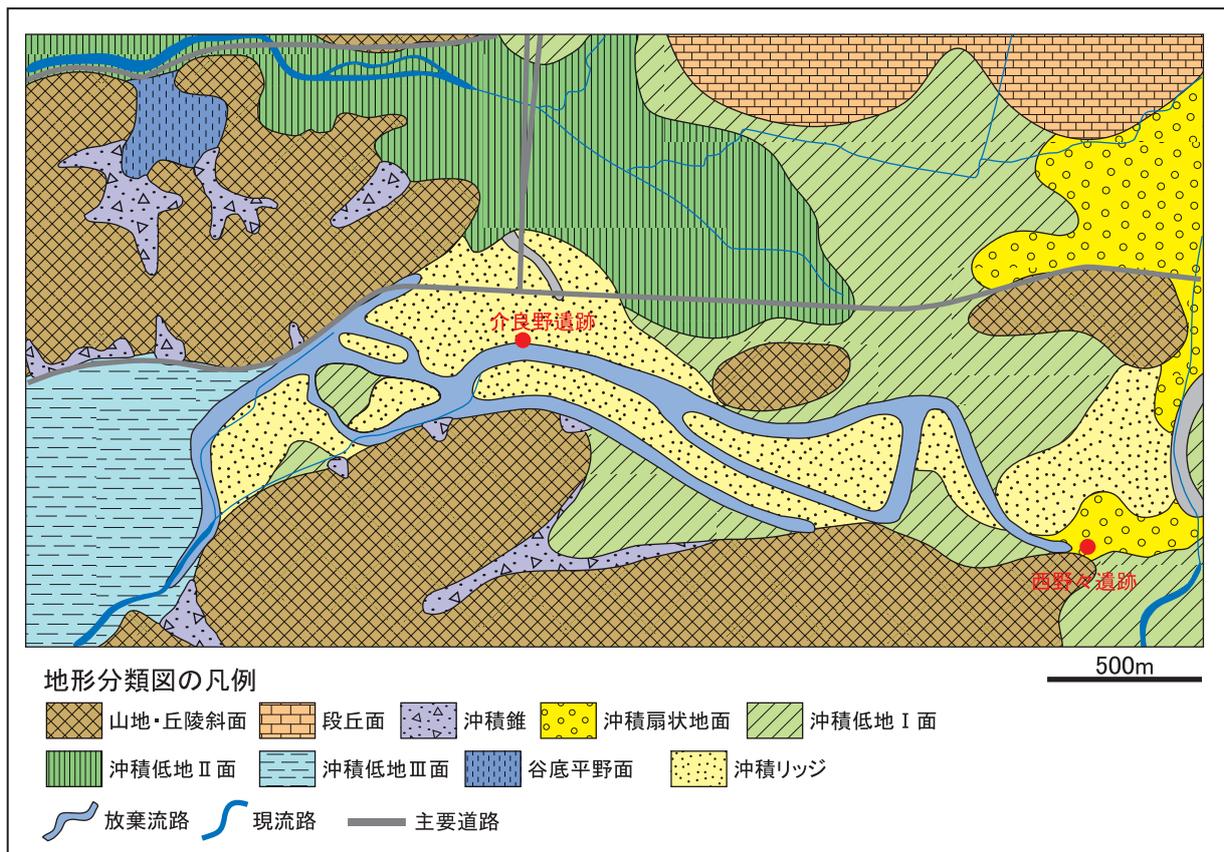


図9. 介良野遺跡周辺の地形分類図

ことが示唆される。このような堆積・土壌環境が形成される縄文時代中期初頭ないし前半頃以降に、Ⅰ～Ⅳ区では乾燥した土壌環境となる氾濫原上の微高地上(沖積リッジ)、放棄流路内やその周辺では安定した湿地の環境となっていたものと考えられる。

なおⅠ～Ⅳ区では、本遺跡で本格的な人間活動が展開する弥生時代終末期～古墳時代初頭以前に、居住域に適した土地条件が既に形成されていたことが、上記してきた基盤層の地質・地形学的な検討から指摘される。今回の発掘調査区では、弥生時代終末期～古墳時代初頭の建物跡が多数検出されている。空中写真判読結果からは、居住域に適した高燥地の領域が、本遺跡周辺に限らず、連続する放棄流路沿いの帯状の微高地(沖積リッジ)の広い範囲に求められるようにも解釈される。介良野遺跡の今回の発掘調査区で多数の建物跡が検出されたこの立地要因については、氾濫原上の微高地上のより細かな微地形と関連するものか、それよりも社会的に生産、再生産された空間的現象によるものか、このどちらが決定的なのかについては現段階で不明である。今回の発掘調査区の弥生時代終末期から古墳時代初頭の人間活動に係わる立地要因については、周辺の考古遺跡での遺跡形成過程の分析およびその比較検討を通して、さらに考えていくことが今後の課題と思われる。

4) 小結

・Ⅰ～Ⅳ区の遺構検出面の基盤となる堆積層は、下半部の砂礫層が流路堆積物、上半部の泥混じり砂層が洪水砂である。

- ・V区の泥層の基盤をなす砂礫層、砂層は、I～IV区の遺構基盤層に対比される。
- ・I～IV区とV区の砂礫層、砂層ないし泥混じり砂層からなる遺構検出面の基盤となる層準は、放射性炭素年代測定結果、5110 ± 40 yrs BP頃まで累重したことが推定された。
- ・I～IV区とV区の砂礫層、砂層ないし泥混じり砂層からなる遺構検出面の基盤となる層準は、これらを覆う泥層最下部の放射性炭素年代測定値から、4790 ± 40 yrs BP頃には、既にその累重が停止していたと考えられた。
- ・上記の年代値から、I～IV区とV区の砂礫層、砂層ないし泥混じり砂層は、縄文時代前期後半～縄文時代中期初頭頃までに形成されたと推定される。
- ・V区は、周囲の地形面よりも流路状に一段低くなった場所に相当する。この調査区では、地形的に高い位置に存在する調査区で認められなかった泥層の連続的な累重が確認された。
- ・V区は土地分類図や土地条件図でも記載されている連続性の良い、旧河道と認識されてきた流路状の低所に位置している。
- ・V区の泥層は、I～IV区の遺構検出面の基盤となる堆積層に対比される砂礫層、砂層が形作った流路状の凹地内を埋積する。
- ・V区の泥層は、放射性炭素年代値および発掘結果から、縄文時代中期初頭ないし前半頃から古墳時代にかけて累重した。
- ・V区の泥層は、層相と年代値から、非常に安定した湿地の堆積環境下で形成されたと考えられた。また、この泥層には、3つの古土壌をなす暗色帯が挟在する。
- ・深掘断面の観察と分析結果から、今回の調査区およびその周辺では、縄文時代中期初頭ないし前半頃以降に、河川堆積物の供給が非常に少なくなり、安定した堆積・土壌環境が形成されたと考えられた。
- ・現地調査と分析結果、空中写真の判読結果から、今回の調査区では、I～IV区が氾濫原上の微高地上(沖積リッジ)に、V区が放棄流路上に位置していると判断された。
- ・安定した堆積・土壌環境となる縄文時代中期初頭ないし前半頃以降から弥生～古墳時代頃に、I～IV区では乾燥し、土壌が連続的に生成されるような環境、V区では安定した湿地の環境であったと推定された。
- ・V区の放棄流路内の湿地では、ガマ属をはじめ、ミクリ属、オモダカ属、スブタ属、ミズオオバコ属、ホシクサ属、イボクサ属、ミズアオイ属、ゴキヅル属、ミズワラビ属、サンショウモ、ミズニラ属、植物珪酸体分析においてヨシ属といった水湿地生植物からなる草地の植生景観であったことが後述する古植生分析から明らかにされた。
- ・介良野遺跡において本格的な人間活動が展開する弥生時代終末期～古墳時代初頭には、それ以前の早い段階で居住域に適した土地条件が形成されていたことが指摘された。
- ・介良野遺跡が人間活動領域となる弥生時代頃以降に、相対的に低所となるV区には、周囲に存在する地表面物質となる遺構基盤層を構成する砂層や砂礫層が再移動して、流入するような状況が形成されたことが推測された。
- ・縄文時代晩期およびそれ以前から弥生時代中期～後期の堆積ユニット3から弥生～古墳時代のユ

ニット2にかけては、植物珪酸体含量の急減が確認され、この堆積ユニットを境に土壌や水文環境が大きく変化したことが推定された。

・縄文時代晩期およびそれ以前～弥生時代中後期から弥生～古墳時代に認められた堆積・土壌・水文環境変遷は、V区周辺での居住域などの人間活動領域化に伴う、地表面の裸地の増大に関連する可能性が考えられた。

(2) 介良野遺跡およびその周辺の古植生

1) 花粉分析結果を中心とした古植生変遷

・遺跡をとりまく古植生

今回の自然科学分析では、V区の放棄流路内を埋積する泥層について、花粉・植物珪酸体分析を実施し、遺跡およびその周辺の古植生についての検討を試みた。放射性炭素年代測定値および発掘結果をふまえると、V区では、縄文時代晩期頃以前から弥生～古墳時代頃までの古植生変遷を捉えることができたと考えられる。

放棄流路の中心部に相当するV区のV-4地点で得られた花粉化石群集では、アカガシ亜属、シイノキ属をはじめ、ヤマモモ属、シキミ属等、常緑広葉樹林を構成する種類が認められる。その他、モミ属、ツガ属、スギ属、マツ属、ヒノキ類など針葉樹の花粉化石の産出も目立つ。そのため、常緑広葉樹花粉は、相対的に割合が低くなり、全体として優勢な種類がみられない。このような花粉化石群集は、近年、当社が実施した土佐市の北ノ丸遺跡、高知市のミトロ遺跡、南国市の西野々遺跡、香南市の花宴遺跡で実施した縄文期～弥生期の花粉分析結果と比較すると、本遺跡で固有な傾向であることがうかがえる。

上記した当社の分析結果およびこれまでに実施された高知県南部の花粉分析結果(三宅・石川,2004;三宅ほか,2005;山中ほか,1992;中村,1965)をみると、縄文海進最盛期以降、高知平野や土佐湾沿岸域では、アカガシ亜属やシイノキ属の花粉化石が優勢となることが読みとれる。今回の分析結果もこれらと類似するが、常緑広葉樹が優勢といえるほど高率ではない。分析地点は、遺跡形成過程の検討で述べたように、物部川の沖積扇状地へと連続する放棄流路と考えられる旧河道内に位置している。このような分析地点の立地から、旧河道内の堆積および古水文環境については、比較的広範囲の集水域の影響を受けていることが予想される。さらに、花粉化石群集の比較検討を試みた花宴遺跡、北ノ丸遺跡は、その立地環境から、介良野遺跡に比べ確実に、分析地点の集水域が狭かったと判断される。以上のことから、介良野遺跡の放棄流路内から得られた花粉化石群集の特徴は、広範囲の集水域の影響を受けた結果である可能性が示唆される。よって、V-4地点の縄文時代晩期頃以前から弥生～古墳時代頃の花粉化石群集は、かなり広範囲の植生を反映していることが推測される。

なお、現在、介良野遺跡周辺の植生は、人為的な伐採や植林などが繰り返された結果生じたものがほとんどであるが、高知県下において自然度の高い場所では、沿岸地域にシイ・カシ類やタブノキなどの常緑広葉樹林、山地上部付近にモミ属、ツガ属、スギ属、ヒノキ類などの温帯針葉樹林が分布するとされる(宮脇編著 1982)。今回得られた花粉化石群集は、上記したように流域の広範囲の植生を反映していると思われる。このことをふまえると、縄文時代晩期頃およびそれ以前から弥生～古墳

時代頃にかけて遺跡をとりまく山地斜面では、現在本地域でみられるようなシイ・カシ類やタブノキなどの常緑広葉樹林やモミ属、ツガ属、スギ属、ヒノキ類などの温帯針葉樹林からなる自然度の高い森林景観が存在していたと考えられる。

近年の当社が実施した花粉分析結果では、弥生時代の層準での保存状態の良い花粉化石群集が土佐湾沿岸に位置する西野々遺跡、花宴遺跡、ミトロ遺跡、北ノ丸遺跡において得られてきている。今回の介良野遺跡でも、放射性炭素年代測定および発掘結果から、縄文時代晩期頃から弥生～古墳時代の層準の連続的な分析結果が得られた。高知平野におけるこれまでの研究では、2000年以降、伐採などの影響でマツ属花粉が増加するとされてきた(山中ほか,1992)。しかしながら、上記した考古遺跡および介良野遺跡における今回の分析結果では、すべての遺跡において弥生時代にマツ属の増加が認められない。マツ属の増加や急増時期については、残念ながら、高知平野や土佐湾沿岸域の考古遺跡において、弥生時代以降の花粉分析結果があまり得られておらず、その詳細は現段階で不明であると言える。但し、断片的な分析結果からは、北ノ丸遺跡で10世紀代頃にマツ属花粉の増加が認められる。また、マツ属花粉が優占する時期は、一点のみのデータであるが、夜須町の口槇ヶ谷遺跡から16世紀代の層準から得られている。このような考古遺跡での絶対年代および相対年代を軸としたより細かな層序に基づく分析結果をふまえると、高知平野や土佐湾沿岸のマツ属増加開始時期については、今後の分析結果の蓄積を行いながら、再検討していく段階にあるものと考えられる。

・調査区周辺の古植生

花粉化石のタフオノミーをふまえると、草本花粉は、調査区およびその周辺の古植生をより強く反映している可能性が示唆される。検出された草本花粉についてみると、V区ではイネ科、カヤツリグサ科が多産し、サナエタデ節ーウナギツカミ節、ヨモギ属などを伴っている。また、草本類の大きな特徴としては、ガマ属をはじめ、ミクリ属、オモダカ属、スブタ属、ミズオオバコ属、ホシクサ属、イボクサ属、ミズアオイ属、ゴキヅル属、ミズワラビ属、サンショウモ、ミズニラ属、植物珪酸体分析においてヨシ属といった多くの水湿地生植物が確認されたことにある。分析地点は、層相から非常に安定した湿地の堆積環境下にあった放棄流路内に位置する。このことから、上記の水湿地生植物は、放棄流路内を中心として分布していたものと考えられる。

一方、弥生時代終末期～古墳時代初頭の居住域や、弥生時代前期の遺構・遺物が検出された微高地上に位置するI～IV区では、縄文時代晩期頃以前から弥生～古墳時代頃に、V区に比べより乾燥した土壌環境が形成されていたと考えられる。I～IV区では、このような地形・土壌環境に対応した古植生が成立していたものと予測される。但し、I～IV区では、調査区周辺の古植生をより強く反映すると考えられる古植生分析に適した試料を得ることができなかった。そのため、具体的なデータに基づいて議論することができないが、V区の花分析では、氾濫原上に分布が見込まれるハンノキ属やトネリコ属、ニレ属ーケヤキ属の木本花粉が低率であることが読みとれる。このような花粉化石群集からは、縄文時代晩期頃およびそれ以前から弥生～古墳時代頃に、調査区およびその周辺で草本類を主体とする草地が広がり、林分がそれほど発達していなかったことが推測される。以上のような花粉分析結果と遺跡の地形・土壌環境をふまえると、縄文時代晩期頃およびそれ以前から弥生～古墳時代頃には、微高地上のI～IV区でイネ科(ネザサ属などのタケ亜科を含む)、ヨモギ属、サ

ナエタデ節－ウナギツカミ節、湿地のV区で上述した水湿地生植物からなる草本が分布していたことが推定される。

なお、国分川流域に所在する高燥の自然堤防上に立地するとされるミトロ遺跡では、局地性が高いと判断される弥生時代中期～後期の遺構堆積物の花粉・植物珪酸体分析結果が得られており、放棄流路内のV区とかなり異なった人里などの開けた明るい草地を示唆する草本花粉化石群集が得られている。介良野遺跡の微高地に相当する領域においても、今後、化石の保存が見込まれる遺構堆積物などの局地性が高いと考えられる試料について古植生分析を行い、低地および微高地双方での詳細な古植生復元を試みていくことが必要であろう。

上記してきたV区の花分析結果からは、調査区およびその周辺において、縄文時代晩期頃およびそれ以前から弥生～古墳時代頃に、草地を中心とする植生景観が示唆された。次に建物跡を中心とした樹種同定の結果について着目してみたい。樹種同定結果では、ハンノキ属など低湿地に由来するものや、シイ・カシ類など常緑樹のものが多く、針葉樹は検出されていないことが読みとれる。これらは、V区の放棄流路内の縄文時代晩期頃以降から弥生時代中期～後期頃以前頃と思われる層準から採取されたツブラジイ以外、弥生時代終末期～古墳時代初頭に属するものである。分析試料は、建物跡に伴う住居構築材や燃料材と考えられることから、遺跡周辺に生育していた木材に由来する可能性が考えられる。このような樹種同定結果は、針葉樹が遺跡から比較的離れた山地域にも分布していた可能性を示唆した花粉分析結果の解釈を指示するものであると捉えられる。しかしながら、木製品や今回のような建物跡などの遺構に伴うような木材同定の結果は、現段階において未だ乏しい状況である。そのため、上記したような弥生～古墳時代の古植生と木材利用およびその地域性の解明のためには、今後もデータの蓄積が望まれる。

なお、弥生時代の遺構堆積物の花粉分析結果が得られたミトロ遺跡では、本遺跡で検出されたV区の放棄流路埋積層の弥生時代頃の層準に比べ、アカガシ亜属やシイノキ属の割合が圧倒的に高いことが確認される。このような弥生時代およびその前後の時期における木本花粉化石群集の特徴は、集水面積が小さいと考えられる西野々遺跡で得られた流路状の落ち込み内でも同様の分析結果が得られている。以上のような集水面積が小さいと思われた地点の分析結果が得られたミトロ遺跡、西野々遺跡の花分析結果と、本遺跡で得られた弥生時代終末期～古墳時代初頭の建物跡に伴う木材同定結果から、弥生時代頃の介良野遺跡やミトロ遺跡、西野々遺跡の周辺の丘陵や台地では、シイ・カシ類からなる照葉樹を中心とした森林植生が広がっていた可能性が示唆される。

但し、高知平野や土佐湾沿岸に分布する暖温帯林を構成する代表的な樹木については、タブノキやクスノキなどクスノキ科の植物の存在についても注目する必要がある。クスノキ科の花粉化石は、膜が弱く化石としてはほとんど残らないため、花粉化石からクスノキ科が生育していたかどうかを推測することは難しいとされる(Feagri and Iversen,1989)。よって、上述した弥生時代頃の介良野遺跡周辺における周辺の丘陵や台地に広がる森林植生では、花粉化石で検出しづらいクスノキ科についても無視できないものと考えられる。

2) 植物珪酸体分析から見た古植生と人間活動

今回の植物珪酸体分析で最も注目される結果は、 3070 ± 30 yrs BP(Cal BC 1417-1224)の年代値を

示した試料番号6と2090 ± 30 yrs BP(Cal BC 197-44)の年代値を示した試料番号4に挟まれた試料番号5において、イネ属珪酸体が短細胞珪酸体約3,900個/g、機動細胞珪酸体約4,100個/gと多量に検出されたことである。放射性炭素年代測定値をふまえると、試料番号5は、縄文時代晩期頃以降から弥生時代中期～後期頃以前の時期と判断される。分析層準については、肉眼観察において、耕作に伴うような擾乱構造が認められなかった。よって、試料番号5の層準の形成時期には、V-4地点や放棄流路の近辺において、水田などの稲作地または多量にイネが持ち込まれるような場所が存在していたと考えられる。試料番号5での多量のイネ属珪酸体の検出は、IV区において弥生時代前期の遺構・遺物が検出されたことをふまえると、非常に興味深い分析結果であると考えられる。今回、古植生分析とともに行った地質・地形調査からは、V区の放棄流路内で排水不良に陥り易い水文環境、居住域が展開するI～IV区の微高地上で地下水位がかなり低く乾燥した土壌環境が形成されていたことが推定され、これらどちらの調査区も稲作に不適な環境であったと考えられる。よって、もし弥生期の水田が今回の調査区の近隣にあるとしたら、その候補地としては、V区よりも一段やや高くなったさらに南側の領域が想定される。

試料番号5の上位に位置する試料番号4では、イネ属がまったく検出されなくなる。そしてその上部、弥生～古墳時代(試料番号2)、古墳時代以降の層準(試料番号1)では、イネ属が再び認められるようになる。但し、その含量は、400～1,000個/g程度と試料番号5に比べ著しく減少する。このようにイネ属の含量は上位ほど減少する傾向を示すが、植物珪酸体の総量も数分の一以下に減少するため、相対的にみると顕著に減少したとは言いきれない。植物珪酸体量の減少に関しては、堆積状況の変化により微化石が取り込まれにくい環境となったか、堆積後の土壌化作用によって珪酸体が風化する場合がある。堆積層の層相から後者の可能性が高いが、当社の分析例では、温暖で乾湿を繰り返すような場所においては、珪酸分の風化が起こりやすい傾向がある。このような植物珪酸体化石群集および層相と年代値から、縄文時代晩期およびそれ以前～弥生時代中後期から弥生～古墳時代にかけて、V区の放棄流路内では、堆積・土壌・水文環境に大きな変化が生じていた可能性が指摘される。

発掘結果、分析層準の層相をふまえると、弥生～古墳時代頃の試料番号2で確認されたイネ属は、放棄流路周辺の稲作か当該期に展開した居住域に持ち込まれたイネを起源とするものと推定される。古墳時代以降の試料番号1は、肉眼観察において、堆積物がよく攪拌されている塊状の層相を示すことが確認された。このような層相は、耕作に伴う人為的な擾乱によって形成されたものと推定される。上記の層相および植物珪酸体分析結果と立地環境をふまえると、古墳時代以降の試料番号1では、V区内で水田による稲作が行われていたことが示唆される。

(3) 弥生時代終末期～古墳時代初頭の住居跡から得られた炭化物

イネ、アワ・ヒエ、マメ類は、古くから植物質食糧として利用される栽培植物である。今回の弥生時代終末期～古墳時代初頭の建物跡埋土を始めとした堆積物の水洗別によって、これらの穀類の可食部である種実を確認することができた。このような種実は、人間が利用するために居住域内へ持ち込んだ栽培植物に由来するものと判断される。検出されたイネ、アワ・ヒエ、マメ類は、すべて炭化しており、火を受けたことが推定される。

介良野遺跡周辺では、田村遺跡で弥生時代前期の水田跡、西野々遺跡で弥生時代の水路群、ミトロ遺跡で弥生時代中期に植物珪酸体分析結果から周辺での稲作が示唆されている。このような状況をふまえると、弥生時代終末期～古墳時代初頭に介良野遺跡周辺では、水田などの稲作地が存在しており、今回確認されたイネはそのような生産地から居住域内へ持ち込まれたものであることが推測される。また、雑穀類であるアワーヒエについては、これまで高知県下であまり確認事例がないものと判断される。今回の分析によって、弥生時代終末期～古墳時代初頭に確実に利用されていたことが明らかになった点は、意義があるものと考えられる。

次に建物跡埋土を始めとした堆積物から取り上げられた炭化材について述べていく。これらの炭化材は、建物跡埋土に含まれていたものであることから、住居構築材や燃料材等の用途が考えられよう。同定を実施した炭化材には、アカガシ亜属、スダジイ、アワブキ属、ハンノキ亜属の4種類が認められた。遺構によって種類が異なるが、破片を複数片同定しているため、同定結果が種類構成の違いを反映しているとはいえない。アカガシ亜属とスダジイは、暖温帯常緑広葉樹林の主構成種である。アワブキ属にもアカガシ亜属などと共に森林を形成する常緑樹のヤマビワなどが含まれる。いずれも比較的強度が高い材質を有する。これらの樹木は、花粉分析の結果とも調和的であり、周辺に生育していた樹木を利用したことが推定される。一方、ハンノキ亜属は落葉広葉樹であり、後背湿地等に生育するハンノキ等が含まれる。木材は比較的重硬で強度が高い。花粉分析でも認められており、周囲の河道沿いの低地等に生育していた樹木を利用したことが推定される。

以上、介良野遺跡で実施した自然科学分析結果について述べてきた。高知平野や土佐湾沿岸域では、近年の発掘調査に伴う自然科学分析によって、遺跡やその周辺の古植生の推定に大きな役割を果たす、基本土層などの花粉・植物珪酸体や種実分析結果が、弥生期を中心としてデータが蓄積されつつあると言える。一方、人間が直接消費した古植物情報を反映する居住域内の遺構埋土の分析結果については、田村遺跡で炭化種実の分析結果などが存在するものの(古環境研究所,2004;パリーノ・サーヴェイ,2004)、未だ類例に乏しい状況である。今回の古植生の検討において確認されたように、居住域から検出される炭化材については、調査区周囲の森林域の古植生を考えるうえにおいて、一定の役割を果たすものと判断される。また、アワーヒエ、その他の穀類などは、種実化石の同定によってその存在が確認される。そのため、人間が利用し消費した植物についての詳しい情報を得ようとする場合には、今回のような遺構埋土の水洗別分析を行っていくことが必要である。

遺跡において有効な古環境復元のデータを蓄積していく場合には、遺跡周辺の地域的な古植生復元を中心とする基本土層と、調査区周辺の古植生やそこでの人間活動に伴う植物利用と密接に関わる遺構埋土の分析をバランス良く実施していくことが重要と認識される。このような調査分析により、実施地域では、発掘調査結果や考古学研究により有益な自然科学的な生業データの蓄積とその歴史のおよび空間的情報を得ていけるものと考えられる。今回、介良野遺跡で実施した自然科学分析は、そのような分析事例の一つとして位置づけられるものと認識される。今後もこのような分析事例の蓄積と、それを基にした縄文期～弥生・古墳期における高知平野や土佐湾沿岸の生業に関する考古学や生態人類学的な研究が進展していくことに期待したい。

(4) 小結

・縄文時代晩期頃およびそれ以前から弥生～古墳時代頃にかけて、介良野遺跡をとりまく山地斜面では、シイ・カシ類やタブノキなどの常緑広葉樹林やモミ属、ツガ属、スギ属、ヒノキ類などの温帯針葉樹林からなる自然度の高い森林景観が存在していたと考えられる。

・V区の放棄流路内では、安定した湿地の堆積環境下で、縄文時代晩期頃およびそれ以前から弥生～古墳時代頃にかけて、ガマ属をはじめ、ミクリ属、オモダカ属、スブタ属、ミズオオバコ属、ホシクサ属、イボクサ属、ミズアオイ属、ゴキヅル属、ミズワラビ属、サンショウモ、ミズニラ属、植物珪酸体分析においてヨシ属といった多くの水湿地生植物が生育していたと考えられた。

・調査区およびその近辺では、縄文時代晩期頃およびそれ以前から弥生～古墳時代頃に、草本類を主体とする草場が広がり、林分がそれほど発達していなかったことが推測された。

・弥生時代およびその前後の時期に、介良野遺跡周辺の丘陵や台地では、シイ・カシ類からなる照葉樹を中心とした森林植生が広がっていた可能性が示唆された。

・放棄流路内を埋積する泥層では、縄文時代晩期頃以降から弥生時代中期～後期頃以前と考えられる層準で、栽培種であるイネ属が多量に検出され、近隣に水田などの稲作地またはイネが多く持ち込まれるような場所が存在していたと考えられた。

・縄文時代晩期およびそれ以前～弥生時代中後期から弥生～古墳時代には、植物珪酸体含量の急減が確認される。このような含量の急減からは、当該期を境に、放棄流路内の堆積・土壌・水文環境に大きな変化が生じていた可能性が指摘された。

・上記の環境変化は、調査区およびその周辺での人間活動の展開と関係していることが推測された。

・弥生～古墳時代頃には、放棄流路周辺で稲作が展開したか、もしくは当該期に展開した居住域に持ち込まれたイネが相対的に低いV区へ運搬されるような環境が推定された。

・古墳時代以降には、V区において水田による稲作が行われていたことが推定された。

・弥生時代終末期～古墳時代初頭の建物跡埋土からは、炭化したイネ、アワヒエ、マメ類が確認された。これらは、人間が利用するために居住域内へ持ち込んだ栽培植物に由来するものと判断された。

・弥生時代終末期～古墳時代初頭の建物跡埋土から検出された炭化材の樹種には、アカガシ亜属、スダジイ、アワブキ属、ハンノキ亜属の4種類が認められた。

引用文献

Feagri K. and Iversen J.,1989,Textbook of Pollen Analysis. The Blackburn Press,328p.

林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.

石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑.石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.

伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.

伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.

伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.

- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載V.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- 古環境研究所,2004,高知県、田村遺跡群における自然科学分析.「田村遺跡群II 高知空港再拡張整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」第8分冊 自然科学編,高知県教育委員会・財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター,283-315.
- 国土地理院,2006,1:25000 土地条件図 高知.
- 近藤錬三,2004,植物ケイ酸体研究.ペドロジスト,48,46-64.
- 高知県,1966,土地分類基本調査 高知 5万分の1 国土調査,経済企画庁.
- 松田順一郎,1999,瓜生堂第40次調査地における河川堆積作用の変化.「瓜生堂・若江北・山賀遺跡発掘報告書－電気工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の調査報告－」,(財)東大阪市文化財協会,93-105.
- 松田順一郎,2000,八尾市小阪合遺跡における弥生時代～古代の河川堆積作用と地形発達.「小阪合遺跡－都市基盤整備公団八尾団地建替えに伴う発掘調査報告書－」,(財)大阪府文化財調査研究センター,259-276.
- 松田順一郎・パリノ・サーヴェイ,1996,「北島遺跡の耕作地と古環境－寝屋川南部流域植付ポンプ場土木工事に伴う北島遺跡第1次発掘調査報告書－」,(財)東大阪市文化財協会,157p.
- 宮脇 昭編著,1982,日本植生誌 四国. 539p., 至文堂.
- Miall,A.D.,1992,Alluvial Deposits,in Walker,R.G. and James,N.P.(ed) Facies Models.Geological Association of Canada,119-142.
- Miall,A.D.,1996,The Geology of fluvial deposits:Sedimentary facies,basin analysis,and petroleum Geology. Springer,582p.
- 三宅 尚・石川慎吾,2004,高知県中村市具同低湿地周辺における完新世の植生変遷.日本花粉学会誌,50,83-94.
- 三宅 尚・中村 純・山中三男・三宅三賀・石川慎吾,2005,高知平野伊達野低地周辺における最終氷期以降の植生史.第四紀研究,44,275-288.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2000,日本植物種子図鑑.東北大学出版会,642p.
- 中嶋雅宏・中山勝博・百原 新・塚腰 実,2004,中新統土岐口陶土層の堆積過程と産出する大型植物化石の水理的挙動－岐阜県多治見市大洞地区の例－.地質学雑誌,110,204-221.
- 中村 純,1965,高知県低地部における晩氷期以降の植生変遷,第四紀研究,4,200-207.
- 日本ペトロロジー学会編,1997,土壤調査ハンドブック 改訂版.博友社,169p.
- パリノ・サーヴェイ,2004,田村遺跡群の自然科学分析.「田村遺跡群II 高知空港再拡張整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」第8分冊 自然科学編,高知県教育委員会・財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター,260-277.
- 島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
- 杉山真二,2000,植物珪酸体(プラント・オパール).辻 誠一郎編著 考古学と自然科学3 考古学と植物学,同成社,189-213.
- 谷口康浩,2001,縄文時代遺跡の年代.季刊考古学,77,17-21.

山中三男・伊藤由美子・石川真吾,1992,高知平野の岡豊低湿地完新世堆積物の花粉分析.日本生態学会誌,42,21-30.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

付編2. 介良野遺跡出土土器の胎土分析 ーヒビノキ式土器の胎土比較ー

岡山理科大学自然科学研究所

白石 純

1. はじめに

この胎土分析では介良野遺跡より出土している「ヒビノキ式土器」(1)の自然科学的な胎土分析を実施し、以下の事柄について検討した。

(1)介良野遺跡とミトロ遺跡から出土したヒビノキ式土器の胎土を比較することで、この型式土器の生産地を推定する。

(2)徳島県海部郡海陽町芝遺跡出土のヒビノキ式土器と介良野遺跡およびミトロ遺跡出土のヒビノキ式土器の胎土比較。

以上の課題についての各遺跡におけるヒビノキ式土器の胎土の特徴・類似・相違などを検討し、今後のヒビノキ式土器の生産地と流通に向けての基礎データの蓄積を行うことを目的とした。

2. 分析方法と試料

分析方法は、蛍光X線分析法と実体顕微鏡による土器表面の胎土観察の2つの方法で検討した。

蛍光X線分析法では、胎土の成分(元素)量を測定し、その分量から分析試料の違いについて調べた。測定した成分(酸化物)は、SiO₂、TiO₂、Al₂O₃、Fe₂O₃、MnO、MgO、CaO、Na₂O、K₂O、P₂O₅の10成分である。測定装置はエネルギー分散型蛍光X線分析計(セイコーインスツルメンツ社製SEA2010L)を使用した。分析試料は、乳鉢で粉末にしたものを加圧成形機で約15トンの圧力をかけ、コイン状に成形したものを測定試料とした。従って、一部破壊分析である。

実体顕微鏡による土器表面の観察では、土器の胎土中に含まれる砂粒(岩石・鉱物)の種類、大きさなどの大まかな含有量を調べた。なお、砂粒の含有量は、やや曖昧な表現であるが、多量・中量・少量・まれに、の4段階で表した。

分析試料は、第1表に示した73点である。試料の時期は介良野遺跡、ミトロ遺跡とも「ヒビノキⅢ式」で、器種はすべて甕である。また、搬入品試料として徳島県海部郡海陽町芝遺跡出土(2)のヒビノキ式土器2点とも比較した。

3. 分析結果

(1)蛍光X線分析結果について

この分析では測定した10成分のうち、分析試料に顕著な差が見られたのは、TiO₂、CaO、K₂Oの3成分であった。この3成分を用いて散布図を作成し、胎土の違いを検討した。

第1図K₂O-CaO散布図、第2図K₂O-TiO₂散布図では、介良野遺跡とミトロ遺跡の両遺跡から出土したヒビノキ式土器の比較を行った。また、第3図K₂O-CaO散布図、第4図K₂O-TiO₂散布図では、

介良野遺跡、ミトロ遺跡と搬入品と考えられる徳島県芝遺跡出土ヒビノキ式土器2点との比較を行った。

その結果、第1図、第2図では大きく2つのグループに分類が可能である。それは、K₂O量が1.45%付近を境として、多いところに介良野遺跡が、またそれより少ないところにミトロ遺跡の土器がそれぞれ分布した。なお、介良野遺跡の試料番号1・2・3・6・34・35は、ミトロ遺跡出土土器が分布する領域に入っている。

第3図、第4図では、介良野遺跡、ミトロ遺跡、芝遺跡出土のヒビノキ式土器の比較を行った。その結果、第4図の散布図で、介良野(ヒビノキ式土器)、ミトロ(ヒビノキ式土器)、芝(在地産)の各遺跡出土土器がほぼ識別が可能であった。また、芝遺跡のヒビノキ式土器は介良野およびミトロの分布域に分布した。

(2)実体顕微鏡観察結果について

介良野遺跡、ミトロ遺跡、芝遺跡出土土器の胎土を観察した結果、3つの胎土に分類される。

1類 …… 0.5mm以下の石英・長石・雲母を多量に含み、3mm以下のチャート、砂岩を少量含む。0.5mm以下の火山ガラスも含む。素地土には精製された粘土が使用されている(第5図、写真1・2)。

2類 …… 3mm以下の石英を多量～中量程度含み、3mm以下のチャート、砂岩、片岩を少量含む。0.5mm以下の火山ガラスも含む。素地土には0.5mm以下の石英を含む粘土が使用され、1類の素地土に比べると粗い(第5図、写真3・4)。

3類 …… 2mm以下の石英を多量に含み、2mm以下の砂岩を少量含んでいる(第5図、写真5・6)。2類の素地土とよく類似している。

以上の観察結果から、介良野遺跡(1類)とミトロ遺跡(2類)の胎土を比較すると介良野遺跡の素地土には、精製されたきめの細かな粘土が使用されていることがわかった。また両遺跡が所在する地域の沖積層には、地質的に古生代末～中生代の秩父帯および中生代末～新第三紀の四万十帯に含まれる砂岩・泥岩の砂礫や粘土が堆積している。従って、砂粒構成と地質的には齟齬はなく、遺跡周辺で採取した粘土で土器生産が行われていたと推定される。3類は芝遺跡出土のヒビノキ式土器であるが、混入している砂礫がやや異なるが、素地土は2類のミトロに類似している。

4. 考 察

蛍光X線分析と実体顕微鏡観察による介良野遺跡、ミトロ遺跡出土土器の胎土分析では、以下のことが推定された。

(1)蛍光X線分析では、介良野遺跡とミトロ遺跡から出土したヒビノキ式土器が両遺跡ごとにまとまる傾向にあり、2つの胎土に分類された。ただ介良野遺跡の土器は、2つの胎土に分類された。なお、ミトロ遺跡と分布域が重なる土器(試料番号1・2・3・6・34・35)は胎土(素地土)が類似していた。また、芝遺跡出土のヒビノキ式土器2点(2)うち、試料番号6は介良野およびミトロ遺跡出土のヒビノキ式土器の分布域に入った。しかし、試料番号14は入らなかったが、芝遺跡の在地産土器の分布域にも入らないことから今回の胎土比較では、生産地がはっきりしなかった。

(2) 実体顕微鏡による砂粒観察では、介良野遺跡、ミトロ遺跡の両遺跡出土のヒビノキ式土器はそれぞれ、胎土に特徴がみられた。特に、胎土の素地土に違いがあった。それは、介良野遺跡の素地土は精製した粘土で、ミトロ遺跡の素地土は、やや粗く石英や火山ガラスを多く含む胎土であった。なお、この介良野遺跡の素地土に使用されている粘土は、0.5mm以下の微細な片岩が多量に入った片岩起源の粘土と推測される。

以上のように、介良野とミトロの遺跡間が直線距離で約2kmと近接しているにもかかわらず、蛍光X線分析、実体顕微鏡による砂粒観察では、両遺跡出土ヒビノキ式土器の胎土が異なっておりそれぞれの遺跡で生産されたことが想定された。

(3) 徳島県芝遺跡出土のヒビノキ式土器2点のうち1点は、蛍光X線分析では高知からの搬入品と推定されたが、もう1点は生産地が明確にできなかった。また実体顕微鏡観察では、ミトロ遺跡の素地土に類似していることがわかった。

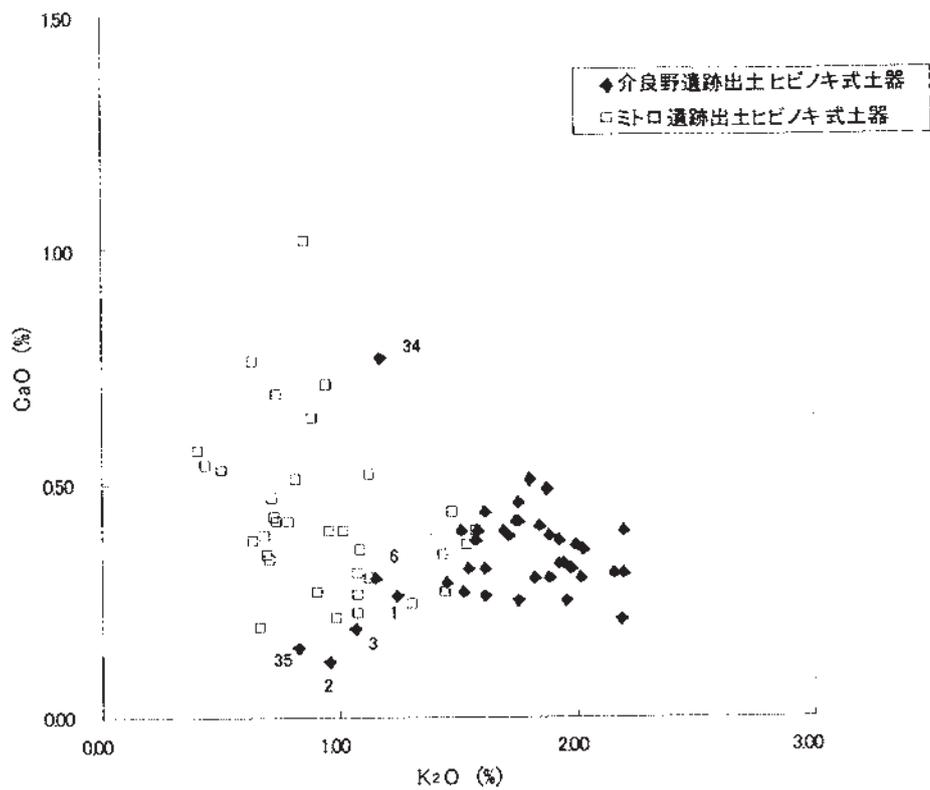
以上のように今回の分析では、近接した遺跡にもかかわらず「ヒビノキ式土器」の胎土が異なることがわかった。今後、他の遺跡出土ヒビノキ式土器の分析データを蓄積し、胎土の特徴を明らかにすることで、胎土分析による土器の生産・流通の解明が可能と考えられる。

この分析の機会を与えていただいた久家隆芳氏をはじめ、高知県埋蔵文化財センターの職員の方々には、いろいろとお世話になった。末筆ではありますが記して感謝いたします。

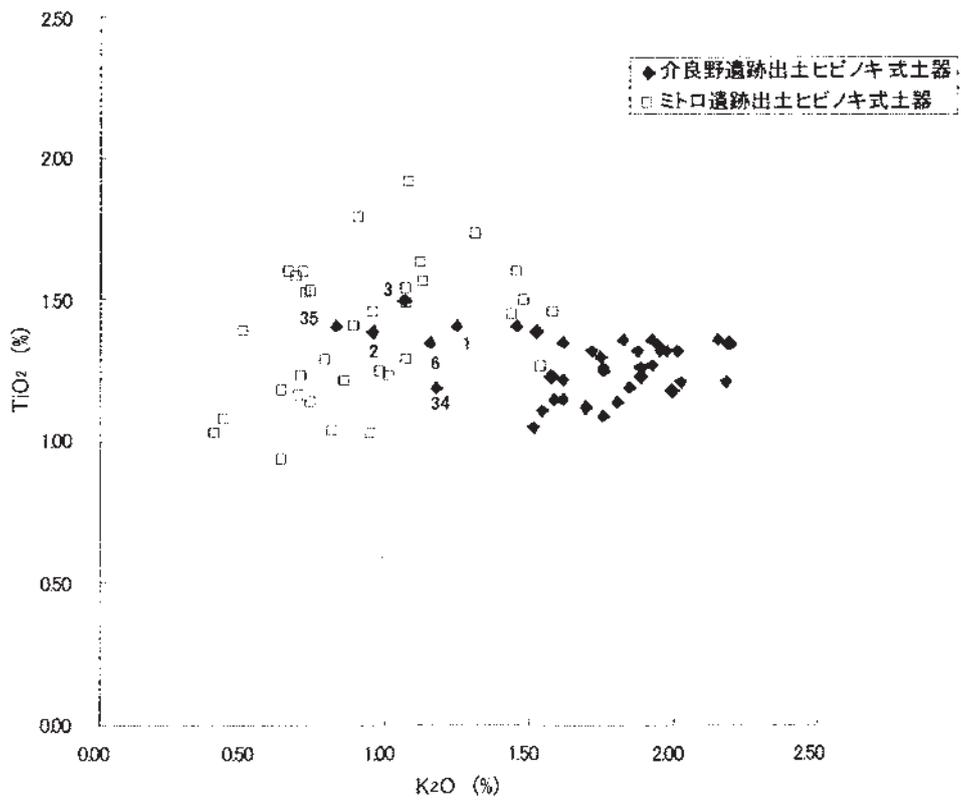
註

(1) 出原恵三「土佐地域」『弥生土器の様式と編年』四国編 木耳社 2000

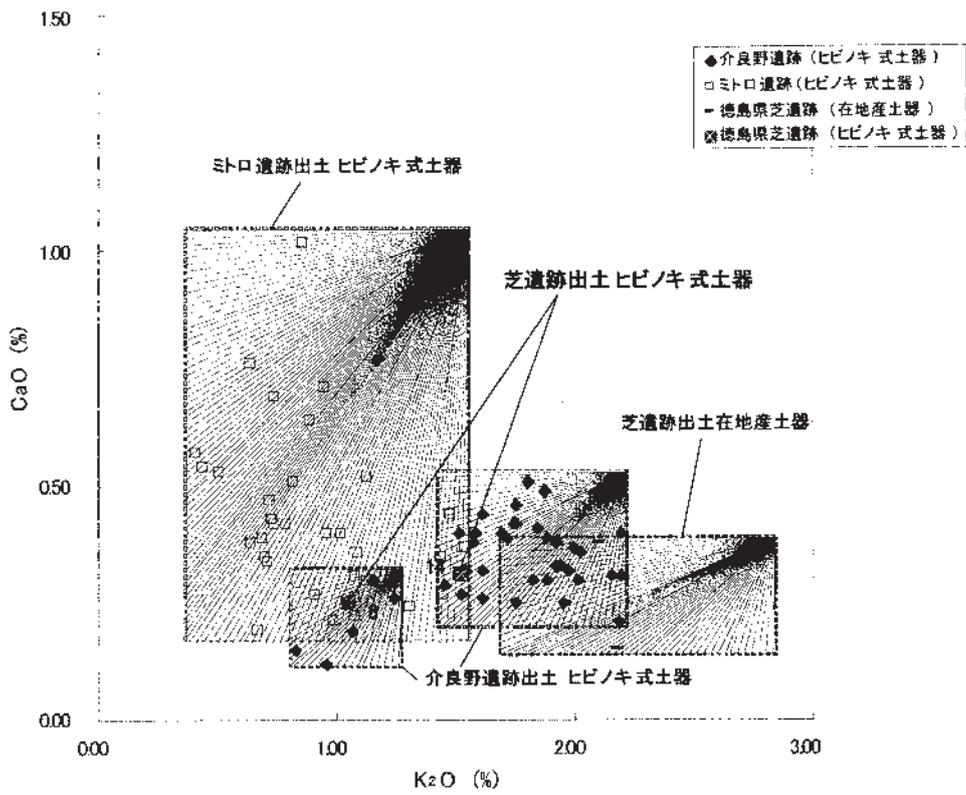
(2) 徳島県海部郡海陽町教育委員会 『芝遺跡』2006



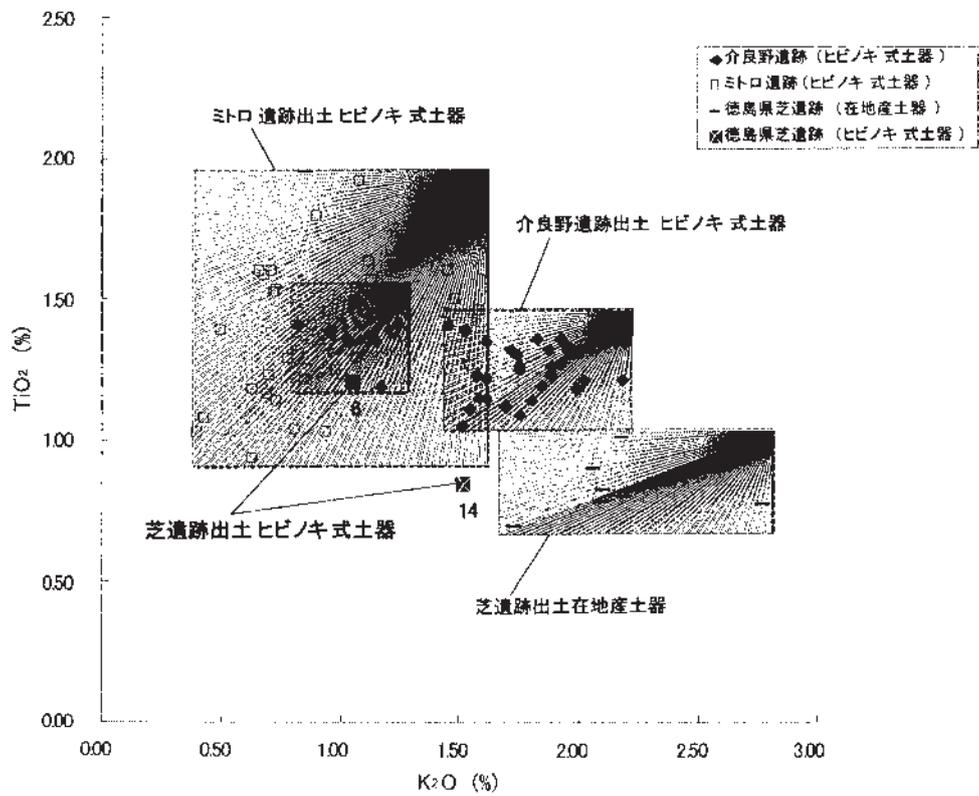
第1図 介良野・ミトロ遺跡出土のヒビノキ式土器の比較(K₂O-Ca散布図)



第2図 介良野・ミトロ遺跡出土のヒビノキ式土器の比較(K₂O-TiO₂散布図)



第3図 各遺跡出土土器の比較 (K2O-Ca 散布図)



第4図 各遺跡出土土器の比較 (K2O-TiO2 散布図)



写真 1. 介良野遺跡 (試料番号 11)



写真 2. 介良野遺跡 (試料番号 34)



写真 3. ミトロ遺跡 (試料番号 2)



写真 4. ミトロ遺跡 (試料番号 6)

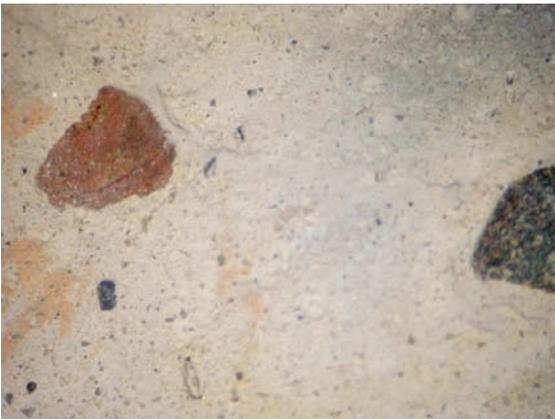


写真 5. 芝遺跡 (試料番号 6)



写真 6. 芝遺跡 (試料番号 14)



第5図 ヒビノキ式土器の実体顕微鏡写真(介良野遺跡、ミトロ遺跡、芝遺跡)

写真図版



空中写真(北西方向から)

図版 2



空中写真(Ⅳ区東方向から)



空中写真(V区西方向から)

図版 4



空中写真(北東方向から)



空中写真(I区西方向から)



空中写真(Ⅱ区南方向から)



空中写真(Ⅳ区)

図版 6



調査前 (I～Ⅲ区北東方向から)



調査前 (I～Ⅲ区北方向から)



調査前(Ⅳ・Ⅴ区北方向から)



調査前(Ⅳ・Ⅴ区北西方向から)

図版 8



I 区北東部完掘状況



I 区南西部深掘トレンチ



I 区ST1完掘状況



I 区ST5完掘状況



I 区ST3-11 遺物出土狀況



I 区ST3完掘狀況



I 区ST7セクション東壁



I 区ST7セクション東壁

図版 12



I 区ST1 遺物出土状況



I 区ST1 中央P 遺物出土状況



I 区ST1 床直遺物出土状況炭化物



I 区ST1 床直遺物・炭化物出土状況



I 区ST2 東西セクション東半



I 区ST10 遺物出土状況



I 区ST3-11 南北セクション南半



I 区ST3-11 南北セクション南半



I 区ST6 遺物出土状況



I 区ST6 床直遺物出土状況



I 区ST11 ベッド床直上遺物出土状況



I 区SK11 セクション



I 区SK5 遺物出土状況



I 区SK5 セクション



I 区SD13 遺物出土状況



I 区SD14 セクション



Ⅱ区完掘状況



Ⅱ区完掘状況



Ⅱ区完掘状況



Ⅱ区完掘状況



I・II区SD2完掘状況



II区ST15完掘状況



II区SK37 遺物出土狀況



II区SK37 遺物出土狀況



ST16完掘状況



II区南壁深掘トレンチ



II区ST12・14・17完掘状況



II区ST12南東部遺物出土状況



II区ST12北東部遺物出土状況



II区ST12東西セクション東半



II区ST12南北セクション



II区ST14南東部遺物出土状況



Ⅱ区ST17床直遺物出土状況



Ⅱ区ST17-SK1床直遺物出土状況



Ⅱ区ST13南東部小丸出土状況



Ⅱ区ST13北東部焼石出土状況



Ⅱ区ST13北西部遺物出土状況



Ⅱ区ST13南北セクション南半



Ⅱ区ST13完掘状況



Ⅱ区SK47 遺物出土状況



II区SK37南北セクション南遺物出土状況



II区SK37南北セクション南半遺物出土状況



II区SK37東西セクション東半遺物出土状況



II区SK37南北セクション南半



II区SK46床直遺物出土状況



II区SK46セクション



II区SD20完掘状況



II区SD27セクション



Ⅲ E 区 SK75 炭化物出土状況



Ⅲ M 区東壁



Ⅲ W 区ST19完掘状况



Ⅲ W 区ST20完掘状况



Ⅲ N区完掘状況



Ⅲ W区ST18南北セクション北半



Ⅲ W区ST18-SP1セクション



Ⅲ W区ST18完掘状況



Ⅲ W区ST19内中央Pセクション



Ⅲ W区ST19朱付き石出土状況



Ⅲ W区ST20南北セクション南半



Ⅲ E区ST22遺物出土状況



Ⅲ E 区 SK74 東西セクション



Ⅲ E 区 SK74 完掘状況



Ⅲ E 区 SK74 南半遺物出土状況



Ⅲ E 区 SK74 遺物出土状況



Ⅲ E 区 SK74 内中央Pセクション



Ⅲ W 区 SK72 遺物出土状況



Ⅲ E 区 SK75 完掘状況



Ⅲ W 区 SK77・SD39 セクション



V区西壁



IV区南東完掘状況



IV区西完掘状况



IV区ST23・24完掘状况



IV区ST25・26完掘状況



IV区ST23東西セクション西半遺物出土状況



IV区SD49 遺物出土状況



IV区SD49 遺物出土状況



調査風景



IV区西壁深掘



IV区ST23北西部ベッド内鉄製品出土状況



IV区ST23南東部遺物出土状況



IV区ST23遺物出土状況



IV区ST23東西セクション東半



IV区ST23東西セクション東半



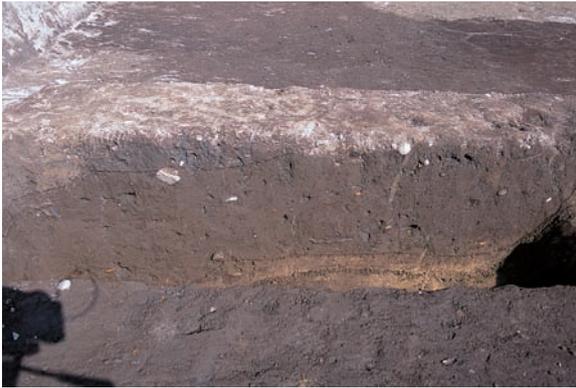
IV区ST26遺物出土状況



IV区ST26床直遺物出土状況



IV区ST26内SK1遺物出土状況



IV区ST25南北セクション



IV区ST25南北セクション



IV区SD47セクション



IV区SD49サブトレ底遺物出土状況



IV区SD49磨製石鏃出土状況



IV区SD52近辺完掘状況



IV区SD52遺物出土状況



IV区西壁深掘





































376



377



378



朱付き土器



380



380

图版 50









图版 54













图版 60











報告書抄録

ふりがな	けらのいせき							
書名	介良野遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第100集							
編著者名	坂本幸繁・久家隆芳							
編集機関	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター							
所在地	高知県南国市篠原1437-1							
発行年月日	2007年12月19日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
けらのいせき 介良野遺跡	こうちけんこうちし 高知県高知市 けらこう 介良甲	39201	010147	133° 37' 19"	33° 34' 00"	(試掘) 2005.8.5～ 10.3 (本調査) 2006.4.17～ 10.31	(試掘) 405 m ² (本調査) 3,657 m ²	県道高知東 インター線 改築工事
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
介良野遺跡	集落跡	弥生時代 前期 弥生時代 後期末～ 古墳時代 初頭 古墳時代 中期	土坑1基、溝跡1条 竪穴住居跡、土坑、溝跡 包含層		弥生土器、 磨製石鏃 弥生土器、 石器、鉄族 土師器、 須恵器、 勾玉	北緯、東経は世界測地 系による。		
要約	<p>自然堤防上に立地している遺跡である。弥生時代前期前葉(西見当Ⅰ式併行)の土坑、溝跡が検出されており、壺・甕・鉢・高杯がセットで出土している。また、磨製石鏃も出土している。弥生時代後期末～古墳時代初頭では、竪穴住居跡28棟をはじめ、土坑・溝跡を検出した。当調査区では最盛期となる時期であり、遺構密度等から拠点的な集落であったと推定される。また、土器焼成に関連する遺物が出土している。古墳時代中期では須恵器、土師器が出土している。</p>							

本書作成データ

ハード：PowerMacG5/2.0GHz DualCore

システム：MacOS X (10.4.10)

ソフト：Adobe Photoshop®9.0.2, Adobe Illustrator®12.0.1, Adobe Indesign®4.0.5

フォント：モリサワOTF, Times Italic

プリンタ：XeroxDocuPrint C3530, EPSON LP - 8800C (原稿・図面・写真校正)

データ：

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第100集

介良野遺跡

県道高知東インター線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2007年12月19日

発行 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原南泉1437-1

Tel. 088-864-0671

印刷 共和印刷株式会社

付 図

62940.0

62920.0

62900.0

62880.0

62860.0

62840.0

11320.0

11340.0

11360.0

62940.0

62920.0

62900.0

62880.0

62860.0

62840.0



上層遺構

付図1 遺構配置図1

